

岩垣内遺跡

(本文編)

2000

財団法人 岐阜県文化財保護センター

序

丹生川村の東にそびえたつ乗鞍岳。その優美な姿は太古から人々の心をとらえてきました。今回発掘調査しました同村板殿の岩垣内遺跡は乗鞍岳が目前に迫る高台に位置し、いにしえの人々が畏敬の念を持って眺めたであろうことを彷彿とさせる景色の中にあります。

岩垣内遺跡の調査は岐阜県基盤整備部飛驒土地改良事業所から岐阜県教育委員会に委託され、財団法人岐阜県文化財保護センターが担当しました。

今回の調査では、縄文時代中期から後期にかけての45軒の住居跡が確認されました。また、縄文時代中期の住居跡からは12基の埋甕が発見されました。遺物量は約30万点に及び、質・量とともにこの地方の縄文文化を探る上で貴重な資料を得ることができたと言えます。

最後になりましたが、発掘調査および出土品の整理・報告書の作成にあたりましては、関係諸機関各位の温かい御理解や御協力を賜り感謝申し上げます。また、現地における調査に際しましては、地元の方々の多大なる御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

平成12年3月

財団法人 岐阜県文化財保護センター

理事長 村木 光男

例　　言

1. 本書は岐阜県大野郡丹生川村板殿に所在する岩垣内遺跡（遺跡番号21601-09019）の発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査は県営中山間地域農村活性化総合事業に伴うもので、岐阜県基盤整備部飛騨土地改良事業所から岐阜県教育委員会が委託を受け、財団法人岐阜県文化財保護センターが実施した。
3. 発掘調査は、平成10年度に実施し、渡辺誠名古屋大学文学部教授の指導のもとに上原真昭と谷口陽一が担当した。
4. 本書の執筆は、上原真昭・伊藤秀雄・上出巳吉・谷口陽一・下畠五夫（高山高等学校定時制教頭）渡辺誠（名古屋大学文学部教授）が分担して行った。目次にそれぞれの執筆者名を明記した。編集は上原が行った。
5. 事前地形測量は、(株)興栄コンサルタントに委託して行った。
6. 空中写真撮影と空中写真測量は、(株)イビンクに委託して行った。
7. 遺物の写真撮影は、フォトスタジオ サトウに委託して行った。
8. 自然科学分析は、(株)バレオ・ラボに委託して行った。
9. 発掘調査及び報告書の作成にあたって次の方々や諸機関から御助言・御指導をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。(敬称略・五十音順)
伊藤正人 岩田 修 岩田 崇 大石崇史 狩野 瞳 木下哲夫 小島俊彰 酒井重洋
下畠五夫 上嶋善治 田中 彰 谷口和人 千葉 豊 富井 真 西田泰民 野村宗作
早川正一 林 直樹 桶口昇一 藤田富士夫 藤本健三 本永義博 百瀬長秀 吉朝則富
綿田弘実 丹生川村教育委員会
10. 本文中の方位は、国土座標（第Ⅶ系）の座標北を示している。
11. 土層及び遺物の色調観察は、小山正忠・竹原秀雄（1993）『新版標準土色帖』を参照した。
12. 調査記録及び出土品は、財団法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

目 次

序

例言

第1章 発掘調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	(伊藤秀雄) 1
第2節 発掘調査の経過	(上原真昭) 2
第2章 遺跡の環境	4
第1節 地形・地質環境	(下畠五夫) 4
第2節 歴史環境	(谷口陽一) 7
第3章 遺構と遺物	9
第1節 基本的層序	(上原) 9
第2節 遺構と出土遺物	(上原) 10
第3節 遺構外出土の縄文土器	(伊藤・上原) 110
第4節 土偶・土製品	(伊藤) 123
第5節 遺構外出土の石器	(上出巳吉) 126
第6節 自然遺物	(渡辺 誠) 130
第4章 自然科学分析	(パレオ・ラボ) 137
第5章 まとめ	(上原) 147
主要参考文献	

挿図目次

第1図 遺跡の位置	1
第2図 地区設定図	3
第3図 小八賀川を中心とした鳥瞰図	4
第4図 板殿周辺の地質	5
第5図 板殿地区・根方地区における縄文時代の遺跡	7
第6図 岩垣内遺跡基本層序図	9
第7図 遺構配置図(1)	11
第8図 遺構配置図(2) A	13
第9図 遺構配置図(3) B	14
第10図 遺構配置図(4) C	15
第11図 S B1	16
第12図 S B2・S B8・S B12・S B15・S B18・S B47・S K1	17
第13図 S B3	18
第14図 S B4・S B45	18
第15図 S B5	19
第16図 S B6・S B16・S B17	21
第17図 S B7	22
第18図 S B9・S B19・S B20・S B29	24
第19図 S B10	25
第20図 S B11・S B13・S B14	27
第21図 S B21・S B22・S B23	29
第22図 S B24	31
第23図 S B27	31
第24図 S B28	31
第25図 S B30	31
第26図 S B25・S B26・S B46	33
第27図 S B31・S B33	35
第28図 S B32・S B38・S B39	37
第29図 S B34・S B35・S B37・S B44	38
第30図 S B36・S B42	39
第31図 S B40・S B43	41
第32図 S B41	41
第33図 S X2	44
第34図 S X3	45
第35図 S X4	46

第36図 石錐の分類	126
第37図 石錐の分類	127
第38図 動物遺体と植物遺体の分布図	130
第39図 岩垣内遺跡出土中期土器（SB16-3948）付着赤色顔料の蛍光X線スペクトル図	139
第40図 岩垣内遺跡出土後期土器（SX3-4933）付着赤色顔料の蛍光X線スペクトル図	139
第41図 岩垣内遺跡出土縄文土器変遷図（1）【中期後葉1】	148
第42図 岩垣内遺跡出土縄文土器変遷図（2）【中期後葉2】	150
第43図 岩垣内遺跡出土縄文土器変遷図（3）【後期前半】	152
第44図 時期別住居跡変遷図	157
第45～280図	図版編

付表目次

第1表 板殿地区・根方地区における縄文時代の遺跡の概要	8
第2表 住居跡（SB）内ピット（P）等一覧表	49
第3表 SK・P一覧表	54
第4表 遺構出土縄文土器観察表	62
第5表 遺構別出土石器一覧表	84
第6表 SB・SX出土石器観察表	88
第7表 SK・P出土石器観察表	105
第8表 スクレイバーの分類別出土点数	127
第9表 石核に残る打痕数	128
第10表 磨製石斧の分類別出土点数	129
第11表 磨石類の分類別出土点数	129
第12表 動物遺体一覧表	131
第13表 植物遺体一覧表	132
第14表 植物遺体種別一覧表	132
第15表 骨角製品一覧表	133
第16表 動物遺体種別一覧表	133
第17表 クリ計測値一覧表	134
第18表 放射性炭素年代測定結果	137
第19表 岩垣内遺跡出土炭化材樹種同定結果	143

図版目次

図版 1	骨角製品・動物遺体	135
図版 2	植物遺体	136
図版 3	岩垣内遺跡出土炭化材樹種（1）	144
図版 4	岩垣内遺跡出土炭化材樹種（2）	145
図版 5	岩垣内遺跡出土炭化材樹種（3）	146
図版 6 ~71	図版編	

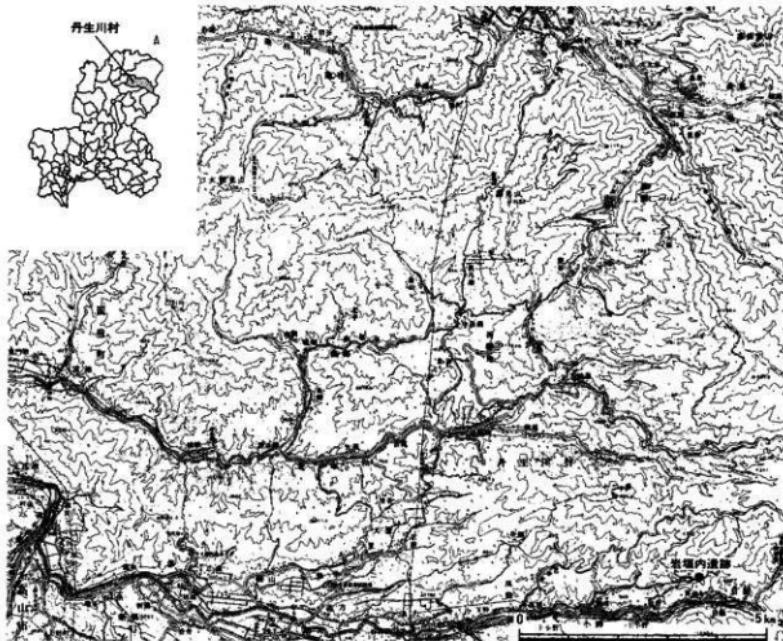
第1章 発掘調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

今回の発掘調査で岩垣内遺跡が対象となったのは、岐阜県基盤整備部飛騨土地改良事業所による県営中山間地域農村活性化総合事業の一環として丹生川村根方地区と同村芦谷地区を結ぶ道路建設工事が計画されたからである。この工事によって遺跡が滅失するので、記録保存のため緊急発掘調査を実施することとなった。

本遺跡は岩垣内遺跡として『丹生川村史』にも紹介され、縄文時代中期を主体とする遺跡として知られていた。しかしながら、昭和40年代に大規模な土地改良が行われていたので、遺跡がすでに滅失している可能性も考えられた。そこで、平成9年7月に県文化課が試掘調査を実施し、土地改良が行われた水田部分にも遺物包含層が残されていることや、土坑状の遺構を確認した。

さらに平成9年11月に再度遺跡の広がりを確認するための試掘確認調査を実施し、遺跡が工事予定地内に広がっていることを確認し、調査面積を確定した。



第1図 遺跡の位置 (国土地理院発行5万分の1地形図「船津」より)

2 第1章 発掘調査の経緯

第2節 発掘調査の経過

発掘調査は、平成10年度に行った。5月中旬までに現場事務所設置等の準備や、地形測量及び重機による表土剥ぎを行い、5月19日より現地での調査を開始した。

発掘調査にあたっての地区設定は、国土座標に合わせて10×10mの区画を設け、北から南へ1～11、西から東へA～Nと区分けしてグリッド名を表すことにした。遺物取り上げ等の座標原点は、国土座標第VII系のX=19790、同Y=21710とした（第2図）。調査区の一部に農道及び水路が含まれていたので、その部分については切り替え工事完了後の調査となつた。以下、調査経過を記述する。

第1・2週（5.19～5.28） 北東区の平坦面から掘削を開始した。開墾により削りとられた部分が目立つたが、炉跡のみのものを含めて住居跡を第13号まで設定した（S B1～S B13）。

第3・4週（6.1～6.12） S B1の埋甕を検出した。西側斜面の掘削を開始し、8H区では縄文後期の遺物が集中して出土した（S X3）。不明遺構のS X1は後期の住居跡、S X2は後期中葉の大型土坑と判明した。

第5～7週（6.15～7.3） 新たにS B14～18までを設定した。9G区では4ヶ所の焼土跡を検出した（S F1～4）。S B1及びS B8等の床面精査を完了した。

第8～10週（7.6～7.24） S X3の下層で縄文中期の遺物集中区を検出した（S X4）。住居跡の炉跡やピット及び埋甕周辺の精査を行い、遺構実測を開始した。

第11・12週（7.27～8.7） S B17の埋甕の精査を行った。西側斜面でさらに焼土跡を検出した（S F6・7）。8月1日に地元住民対象の現地説明会を実施した。北側部分の調査を完了し、8月3日に第1回目の空中撮影を行った。

第13～15週（8.17～9.4） 雨天が続き南東区が浸水したためポンプで排水をしながら作業を継続した。調査区の北側で切り替え道路の工事が始まったため、南東区での調査が中心となった。南東区では、多数のピット及び土坑群を検出した。

第16～18週（9.7～9.25） 重機により農道部分の表土剥ぎを行い、新たにS B31までを設定し精査を進めた。9月22日に台風22号が通過した。

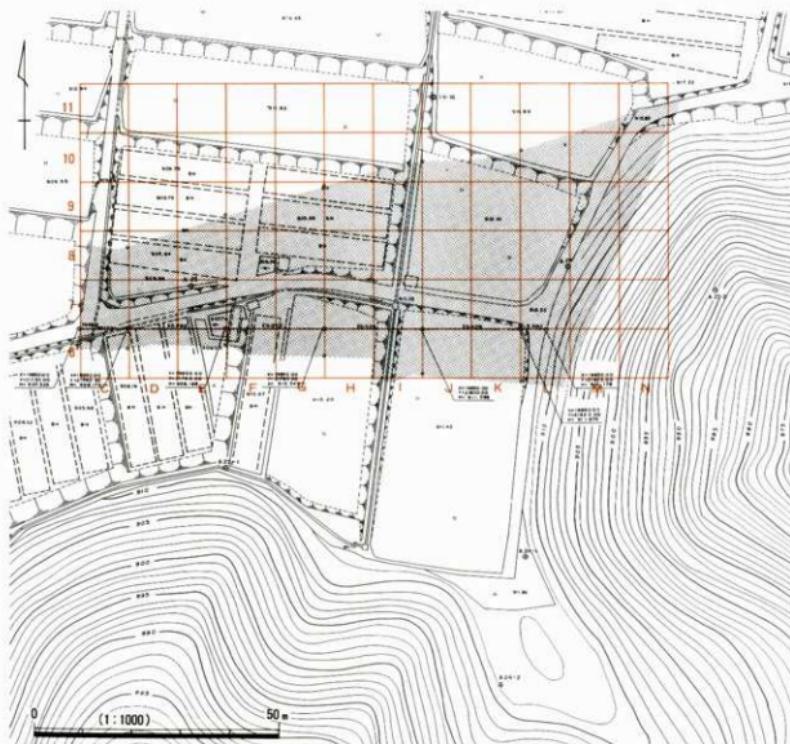
第19～20週（9.28～10.9） さらにS B38までを追加設定した。西側の農道下及び水路下では縄文中期と後期の遺構の複数が複雑なため作業は難航した。8G区でS X3の広がりを確認した。

第21・22週（10.12～10.23） S B36及びS B39で埋甕を検出した。9I区で新たにS B40のプランを確認し、掘削を開始した。7I区周辺では多数の土坑群を検出した。

第23～25週（10.26～11.14） S B26の炉跡内から多数の縄文中期の土器が出土した。さらにS B47までを追加設定した。11月14日に現地説明会を実施した（約220名が参加）。

第26・27週（11.16～11.27） 11月19日に第2回目の空中撮影を行った。26日の現地調査最終日に、6E区の南壁際より縄文後期の壺形土器が出土した。翌27日に遺物等の引越しを行い、現地での作業を終了した。

以後、財團法人岐阜県文化財保護センター飛騨出張所内の国府整理所にて整理作業に入った。



第2図 地区設定図

なお、発掘調査作業ならびに調査記録及び出土品の整理等には次の者が携わった。

青木 茂	飯塚八十子	池畠明夫	岩佐 勇	牛丸富士子	瓜田英明	大西和子
奥田有基	垣添教子	河合美智子	川上 正	神田明美	近藤信夫	清水佐市
清水 武	白川良平	清田由美子	瀬戸幸子	田井孝子	高橋公芳	田口慶子
玉田忠男	所 洋子	西田正三	前畠裕美	苅田利光	三村昇子	矢薙和子
山田博子	山本良秋	柚村幸子	横井さだ子	脇潤純子		

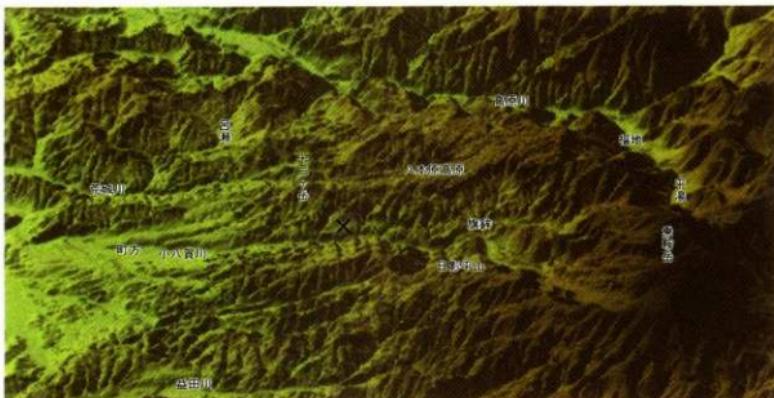
第2章 遺跡の環境

第1節 地形・地質環境

【地形】

本遺跡は、丹生川村のほぼ中央に位置する板殿地区にある。丹生川村は、大きく北半分の荒城川流域と南半分の小八賀川流域からなる。荒城川、小八賀川両河川とも飛驒山脈の西側斜面を東から西に流れている。本遺跡のある板殿は、南の小八賀川流域にあたる。乗鞍岳の西麓の水を集める沢之上谷川、池之保川、久手川は、板殿の東約5kmの旗鉾付近で小八賀川に合流する。小八賀川は、流域にごく狭い平坦面をつくりながら深い谷を刻んで西流するが、板殿の西約5kmの法力付近からは何段かの段丘をつくり開けてくる。乗鞍岳は、3026mの剣ヶ峰を最高峰とする3000m級の高山である。ここから海拔およそ900mの旗鉾まで直線距離でわずか12kmしか離れていない。急斜面を反映してか布引滝、青垂滝、御越滝など滝が多い。谷が開ける法力付近は、海拔600mで旗鉾との高低差は約300mである。その間の直線距離は、約10kmである。

板殿は、この小八賀川沿いを走る国道158号線からは見ることができない。板殿へは根方から入る。入り口は狭く、この奥に比較的開けた空間があることが予想しにくい。北へ300m程入ってから道は、東に向かい約1.5kmで板殿に達する。ほぼ東西に細長くひらけた南向きの緩斜面地である。海拔はおよそ870m前後である。『斐太後風土記』によると板殿の北側には、城の腰山という山があり、そこに板殿の名の由来になったという井戸殿の城があったという。板殿の南側には、堰堤状の細長い尾根（海拔約900m）が、ほぼ東西に伸びている。そして、聞いた谷の東端に遺跡がある。谷の東端は、八本原高原（海拔1250～1600m、西傾斜の平坦面をなしている）から流れ下る深い谷にいきなり面している。

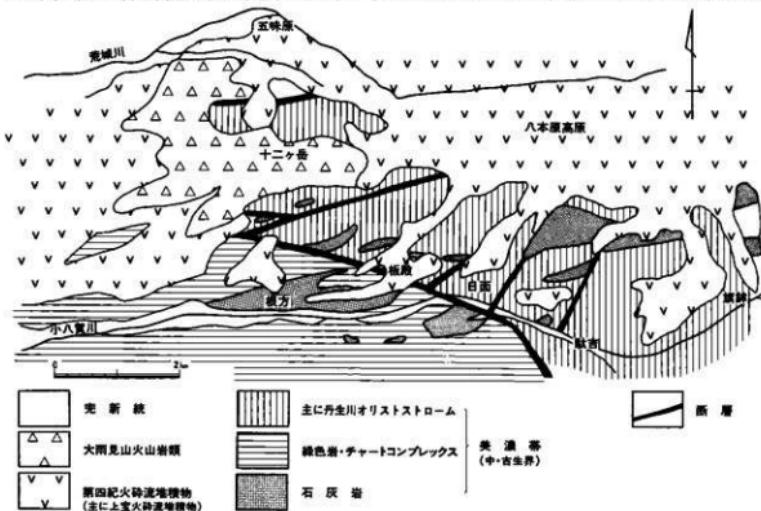


第3図 小八賀川を中心とした鳥瞰図

風谷を思わせる不自然な谷の頭の切れ方や、板殿の広い谷をつくるような河川が流れていないことなどから、この地形の形成には、断層が関与していると考えられる。岐阜県活断層図には、両面窟の西から根方（板殿への入り口付近）まで確実度Ⅲ（活断層の確実度は、高い方からⅠ、Ⅱ、Ⅲと段階化してある）の活断層が描かれている。丹生川村の小八賀川流域には、この他にも3本の活断層が、板殿より西側に推定されている。これらの活断層の走向は、いずれも小八賀川とほぼ平行で東北東～西南西で、確実度はⅢである。

【地質】

小八賀川流域は、基盤岩として西部（国府町三川から丹生川村下保付近）に古生代石炭紀から二疊紀に形成された飛騨外縁帯が、また中・東部には美濃帯と呼ばれる中・古生層が広く分布している。これら地層は、丹生川村の北に広がっていた飛騨大陸に付加したものである。したがってその堆積物の起源は、赤道付近のサンゴ礁があった火山島であったり、大洋底堆積物あるいは海底が日本付近まで移動してきた時に大陸からもたらされたシルト・砂・礫など様々である。なお小規模ではあるが、細越付近に中生代ジュラ紀から白亜紀にかけて堆積した手取層がみられる。十二ヶ岳（900～1200m以上の部分）および恵比須峰をはさんで千光寺に連なる山々（700～800m以上の部分）には、中生代白亜紀末の火山活動によって形成された（約7000万年前頃）大雨見山火山岩類が分布している。また、八本原高原一帯には、新生代第四紀に噴出した（約65万年前頃）上宝火碎流堆積物が分布している。なお、上宝火碎流堆積物の下位には新生代第三紀に噴出した（約250万年前頃）丹生川火碎流堆積物があり、十二ヶ岳の西や小八賀川の南側に分布している。東側の飛騨山脈側は、基盤が高くなってしまい、そこに新生代第四紀に乘鞍岳が活動し（約30万年から始まった）噴出した火山岩が優美な火



第4図 板殿周辺の地質（岐阜県地質鉱山図（昭和56）・中部地方Ⅱ（1988）をもとに編図）

山体を形成している。

板殿付近の地質について述べる。遺跡のあった場所も含め、板殿付近は、上宝火碎流堆積物が分布している。遺跡付近の凹地部分は、風化が激しく黄褐色の砂・シルトあるいは粘土になっている。風化し金色の箔状になった黒雲母や風化に強い石英の粒が目立つ。住居を建てるにあたって地面を掘り起こすのはそんなに困難ではなかったと思われる。板殿の南にはほど東西に伸びる堰堤状の尾根の中腹には、風化していない部分がブロック状に残されている所もある。これら、上宝火碎流の噴出口は、上宝村福地の南の貝塚あたりと考えられている。基盤岩からなる当時の起伏に富んだ地形を埋めたと思われる。特に八本原は、この火碎流が堆積してつくった平坦面を今も残している。この平坦面は、火碎流の流れた方向すなわち西に緩やかに傾いている。この八本原から小八賀川や北の荒城川方向に伸びるいくつかの尾根には上宝火碎流堆積物が分布している。おそらく噴出当時は谷で、この谷を火碎流が埋めたため、新たに別の所に谷が刻まれ、現在見られるような分布になったのではないかと思われる。ここ板殿もその一例であろう。さて、岩質は、斜長石・石英・黒雲母の結晶片を主とし、かんらん石・輝石・角閃石などの有色鉱物をわずかに含む。紋状岩質である。全体で一枚の冷却単位をなし、下部には数m～10数mの非溶結部を伴う。溶結部は多孔質で節理がある。上宝村双六には、柱状節理の発達した本岩が、材木を重ねたようになっており材木岩として昔から名高い。高山市数河の東には、垂直変化がよく観察できる好露頭がある。多孔質で細工がしやすいため石材として採取され利用されている。

次に板殿付近の基盤地質について触れる。ここ板殿付近は、駄吉衝上断層の西の端になる。この断層の走向は、西北西～東南東方向である。この断層の北には上宝火碎流堆積物の基盤として、美濃帯の中・古生層に属する丹生川オリストストローム（坂本岬ユニットに相当）が分布している。泥質のオリストストロームの中に砂岩・チャート・緑色岩・石灰岩などの岩塊を含んでいる。この板殿の東にある両面窓や飛騨大鍾乳洞は、このような石灰岩中に形成されたものである。なお、チャートには、二疊紀～三疊紀の放散虫の化石が、石灰岩には炭酸紀～二疊紀のフズリナの化石が含まれる。

また、駄吉衝上断層の南側には基盤として、緑色岩～チャートコンプレックス（舟伏山ニット）が分布している。チャートと緑色岩が帶状に分布し、石灰岩や砂岩を夾む。板殿の南西から根方にかけて比較的大きな石灰岩体がある。根方の岩陰遺跡は、この石灰岩の露頭の所にある。断層に沿って溶蝕された跡がある。その一部は、浅い洞窟状になっている。当時の人々によって利用された可能性がある。緑色岩は、塊状もしくは枕状の玄武岩質溶岩からなる。根方の北の谷には、枕状溶岩がみられる。チャートには、二疊紀～三疊紀の放散虫やコノドントの化石が、また石灰岩には二疊紀のフズリナの化石が含まれている。

【参考文献】

- 山下昇他編（1988）『日本の地質5 中部地方』
- 山田直利他（1985）『高山地域の地質』
- 佐々木嘉三・小井土由光（1995）『岐阜県の活断層』
- 岐阜県高等学校地学教育研究会編（1995）『アース ウオッチング イン 岐阜』
- 飛騨地学研究会編（1988）『飛騨の大地を探る』

第2節 歴史的環境

『改訂版 岐阜県遺跡地図』(1990)では、丹生川村内に縄文時代の遺跡を38ヶ所確認している。その分布は、小八賀川やその支流の段丘上を中心として広範囲にわたっている。そのうち、板殿地区を流れる小八賀川支流の千谷川周辺には、板殿地区に「板殿遺跡」、小八賀川との合流地点あたりの根方地区に「根方岩陰遺跡」が紹介されている。

その後『丹生川村史 資料編1』(1997)の縮纂にあたって確認調査が行われた。その結果、縄文時代の遺跡は、村内に84ヶ所、上記の2地区では7ヶ所となった。板殿地区では、東方の「板殿遺跡」にあたる場所に「岩垣内遺跡(第5図ア)」「西畠遺跡(イ)」、地区の西方で新たに「白山遺跡(ウ)」「柄下遺跡(エ)」が確認された。根方地区では、「根方岩陰遺跡」にあたる場所に「馬ツギ岩陰遺跡(オ)」、すぐ西に「根方第二岩陰遺跡(カ)」、さらに西に「下畠遺跡(キ)」が確認された。これら縄文時代の遺跡について、場所を第5図に示し、出土遺物などの概要を第1表にまとめた。

板殿地区的縄文遺跡

岩垣内遺跡は、宮川の支流小八賀川右岸の根方から谷間を登った丘陵、板殿地区的集落の東端以東に位置する。標高は約910m。根方との標高差は百数十mある。すぐ西には西畠遺跡がある。聞き取り調査によると、岩垣内遺跡から西畠遺跡にかけて連続的に遺物の表面採取がなされている。採取された遺物には、石棒などの様々な石器や早期から晩期の縄文土器がある。

岩垣内遺跡・西畠遺跡から干谷川ぞいに600m西へ下ったあたり、北側丘陵の尾根と尾根の間に白山遺跡である。この遺跡では土地改良のときに炉跡や土器がみつかっており、そのあたりには昭和初期まで神社があった。白山遺跡から南へ下り、干谷川の右岸に達したあたりが柄下遺跡である。開墾のときに前期から晩期の縄文土器や磨製石斧などの石器が出土した。

根方地区的縄文遺跡

根方岩陰遺跡(馬ツギ岩陰遺跡)と根方第二岩陰遺跡は、小八賀川からの比高十数mの段丘上、干谷橋西方に切り立つ石灰岩南壁の岩陰にある。この遺跡からは縄文時代前期の人骨や、早期から晩期の縄文土器が出土している。1963年の発掘調査では、早期から前期の土器を層序にもとづいて検出している。このほか多様な石器、骨角器、貝輪なども出土している。

下畠遺跡はこれらの遺跡より西方の河岸段丘上にあり、後期の縄文土器が出土している。



第5図 板殿地区・根方地区における縄文時代の遺跡(国土地理院発行2万5千分の1地形図「旗津」より)

第1表 板殿地区・根方地区における縄文時代の遺跡の概要

地区 区分	記号	遺跡名	縄文時代					遺跡の位置・標高	遺構・遺物	備考
			草創期	早期	中期	後期	晩期			
板殿：岐阜県大野郡丹生川村板殿	☆ア	岩垣内遺跡		○	○	○		板殿地区集落の東端、南寄りの東西道路周辺に東方へと広がる。西に西畠遺跡が隣接。標高910m。	土器（北陸系、関西系、信州系、信州唐草文系）系裏、後期ミニチュア、他）／石器（石鏃、石錐、磨製石斧、打製石斧、石冠、他）	「丹生川村史 資料編1」丹生川村 1997P7
	☆イ	西畠遺跡		○	○	○	○	板殿地区東方、北側山よりの東西道路と南よりの東西道路の間。東に岩垣内遺跡が隣接。標高900m。	土器片17点（早期細久保式、中期後兼加曾利E式、後期沈文、晚期浮線網状文土器、無文ミニチュアなど）／石器（石鏃31、磨製石斧15、打製石斧8、石錐3、石棒、石剣、石刀、石匙、異形部分磨製石器）	未発掘／「丹生川村史 資料編1」丹生川村 1997P79
	ウ	白山遺跡						板殿地区の集落の西端近く、北側丘陵の上の方、尾根と尾根の間。陥没状の田の上から2~3番目あたりか。字白山。標高910m。	炉跡／[出土した遺物のうち、以下の物が現存] 石器20（石鏃15、石錐1、磨製石斧2、打製石斧、すり石）／小玉1点／	未発掘／土地改良により滅失か／「丹生川村史 資料編1」丹生川村 1997P79
	エ	柄下遺跡		○	○	○	○	板殿地区的集落の西端、東西道路の南で千谷川の右岸。白山遺跡の南南西約200m。標高850m。	土器50点（鍋屋町系、藤内II系、曾利II系、曾利III系、加曾利B系、北陸系、他）／石器（磨製石斧5、凹石1、スリ石）	未発掘／開田により滅失か／「丹生川村史 資料編1」丹生川村 1997P78
根方：岐阜県大野郡丹生川村根方	☆オ	根方岩陰遺跡Ⅱ馬ツギ岩陰遺跡		○	○	○		板殿地区から流れれる干谷川が根方地区で小八賀川と合流するあたりに干谷橋がある。その西、県道が板殿地区へ上る道と分岐する地点のすぐ西側、南向きの石灰岩壁の岩陰にある。標高730m。	ヒトの歯牙2本／土器片290点（押型文、貝殻沈文、茅山式上層類似、柏原式、上ノ山式、人海I式、入海II式、石山式、木島式、石塚式、神ノ木式、他）／石器（石鏃76、搔器53、石匙21、凹石10、石錐4、磨製石斧4、印石2、有孔円盤1、他）／骨角器10点（骨製装飾品1、骨製尖頭器3、加工度のある鹿角片2、牙製勾玉1、貝輪3）／哺乳類骨（イノシシ10以上、シカ6以上、ツキノワグマ4以上、テン1~2、ニホンザル・ムササビ・タヌキ各1）／貝類47点（海産5種点、他）／植物4点（炭化したオニグルミの果実）	「日本の洞穴遺跡」日本考古学協会洞穴遺跡調査委員会別委員会 平凡社 1967P 175-188／「根方第二岩陰遺跡発掘調査報告書」京都大学農業生物研究所 1986 P 17-25
	カ	根方第二岩陰遺跡		○	○			根方岩陰遺跡の数十m西側、南向きの石灰岩壁が小八賀川にそって西へと続き、その岩陰にある。標高730m。	土壤状遺構／土器32点（山形押型文1、貝殻状沈文8、柏原式完形1、他）／石器17点（石鏃2、削器1、石錐1、打製石斧1、黒曜石片12）／骨・齒の破片13点（イノシシ5、シカ1、カモシカ1、不明6）	「根方第二岩陰遺跡発掘調査報告書」京都大学農業生物研究所1986／「飛騨・考古学」飛騨考古学会 1995 P 275-
	キ	下畠遺跡				○		根方地区的西端より東に広がる河岸段丘上。標高720m。	土器片10点（後期輪之内式類似土器片）	未発掘、耕地整理により滅失／「丹生川村史 資料編1」丹生川村 1997 P 70

☆は、「改訂版 岐阜県遺跡図」1990 岐阜県教育委員会に掲載してある遺跡

第3章 遺構と遺物

第1節 基本層序

岩垣内遺跡は、標高910m前後の舌状に張り出す尾根の先端部付近を中心西に広がっている。水田が数段にわたって造成され、傾斜地が削平と埋土により耕地化されたため、地形は大きく改変されていた。調査範囲は、階段状の6枚の水田部分と農道部分であった。東側の3枚の水田は造成時に大型ブルドーザーによって遺構面まで削り取られていた。一方、西側は埋土によって水田化された部分が多く、縄文時代の良好な遺物包含層が残っていた。

第I層は、耕作土である。水田造成時の埋土はI'層とした。第II層は、無遺物層である。北側斜面からの崩落堆積物と考えられる砂礫層がサンドイッチ状に混在していた。東側の旧耕作土はII'層とした。第III層は礫をほとんど含まない黒褐色土で遺物は少ない。第IV層が縄文時代の遺物包含層で、自然礫の混入が非常に少ないので特徴である。土色および出土遺物等から以下の4つに細分した。

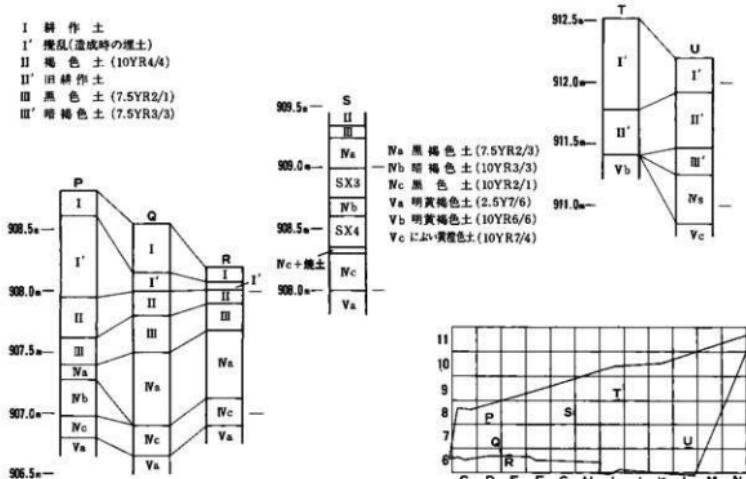
IV a (7.5Y R2/3 黒褐色土) 縄文中期と後期の遺物が混在。斜面の二次堆積によるものと推定。

IV b (10Y R3/3 暗褐色土) 縄文中期後葉を主体とする遺物包含層である。

IV c (10Y R2/1 黒色土) 縄文中期後葉以前の遺物包含層である。

IV s (10Y R4/2 灰黄褐色土) V層の土がブロック状に混入する砂質土である。

第V層は、地山と判断した層で上宝火碎流堆積物が風化した砂質土およびシルト質土で、礫をほとんど含んでいない。縄文時代の遺構の大半はこの層を掘り込んでいる。



第5図 岩垣内遺跡基本層序図

第2節 遺構と出土遺物

今回の発掘調査で確認した遺構は、そのほとんどが縄文時代のものである。調査区内は、居住区と考えられる東側の平坦面と、「捨て場」として繰り返し利用された西側斜面とで構成されている。遺構番号はすべて検出順で、検出時に判断不明の遺構についてはすべてSXで処理し、その後所属時期や性格等について検討を加えた。おもな遺構は竪穴住居跡（SB）45軒・不明遺構（SX）5基・掘立柱建物跡1軒・土坑（SK）130基・住居跡に含まれないピット（P）等432基・焼土跡（SF）10基である（第7～10図）。住居跡については、縄文時代中期から後期にかけての遺構が複雑に重複している上に、水田造成等で削り取られているものが目立ち、その検出は困難を窮めた。45軒の中には、炉跡だけのものや壁面および床面の一部というものも含んでいる。発掘調査ではSB47までを設定したが、SB6およびSB16についてはSB17の埋土扱いとし、45軒として報告することにした。住居跡内の柱穴（ピット）や炉跡および焼土跡などは409基を数えた。検出時の所属等が不適切であったものについては可能な限り付け替えを行ったが、重複が著しいためその所属が不明確なものも多い（第2表）。不明遺構はSX10までを設定したが、SX7とSX8については遺構外、SX10は風倒木痕と判断した。縄文後期の住居跡と考えられるSX1についてはSB41とし、3基の土坑から成るSX9はSK129～SK131とした。残る5基の不明遺構は、大型土坑・「捨て場」の遺物集中出土地点・竪穴状遺構などで、SXの略号のまま報告する。

出土した遺物の総数は、約30万点で、そのうちの約8割は西側斜面のIV層より出土した。遺構出土の縄文土器および石器については各遺構毎にその概略を記述し、観察表をまとめて添付した（第4～7表）。遺構外出土の縄文土器と石器類および遺構出土分を含む土偶・土製品と自然遺物については節を改めて報告することとする。

1 竪穴住居跡

S B1（第11・45・147図、図版7・17・25）

S B1は調査区の北東10L区に位置している。すでに水田造成時に遺構面まで大きく削り取られたため、かなり床面に近い部分での検出となった。浅い覆土は砂質のぶい黄褐色土（10YR5/3）で、地山の明黄褐色土（10YR7/6）がブロック状に混じり、さらに細かい炭化物や炭化材の破片が多く含んでいた。平面プランは隅丸方形で、長軸約4.2m、短軸約3.2mであった。中央やや北寄りに炉跡があり、石圓いを抜き取った痕跡がみられた。炉跡の南方約1.2mの床面で埋甕を検出した（第45図2）。柱穴は主柱穴と考えられる3基を確認した。東側および南側の壁際には深さ6cmの周溝がみられたが、西側は風倒木痕と擾乱層であった。主軸は炉跡-埋甕間でN-18°-Eであった。

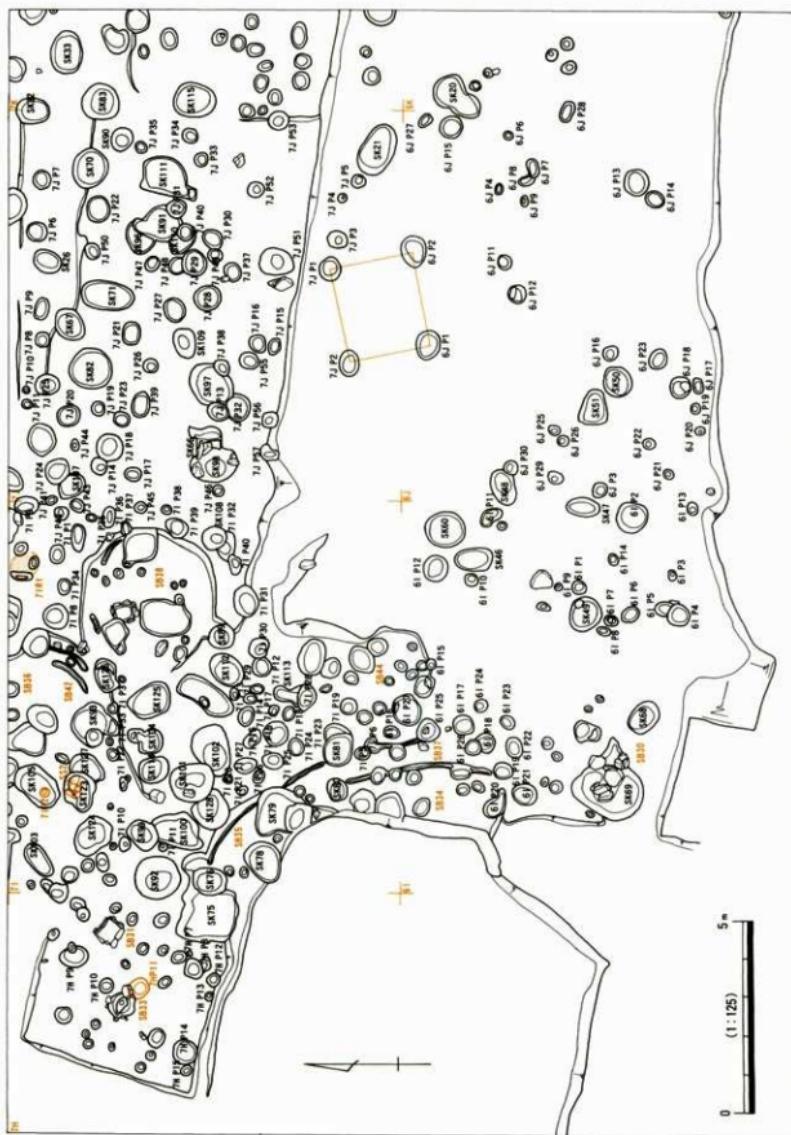
出土遺物は、縄文土器251点、石器類27点である。縄文土器はそのほとんどが中期後葉のものであった。おもな出土石器は、石錐1点、石錐2点、磨石類2点などである（第45・147図）。

S B2（第12・46・148図、図版7）

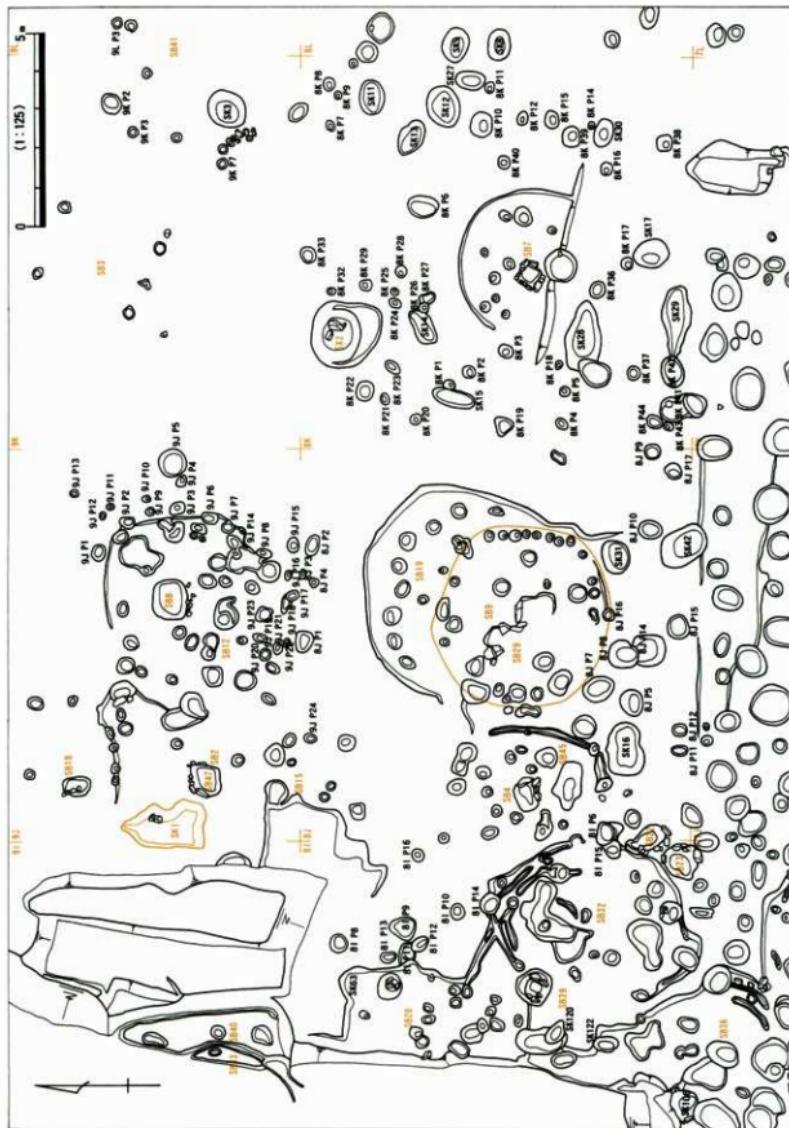
S B2は9J区に位置している。水田造成時の削平のため石圓炉と柱穴の一部を残すのみであった。



第7図 造構配図(1)



第8図 遺構配置図 (2) A

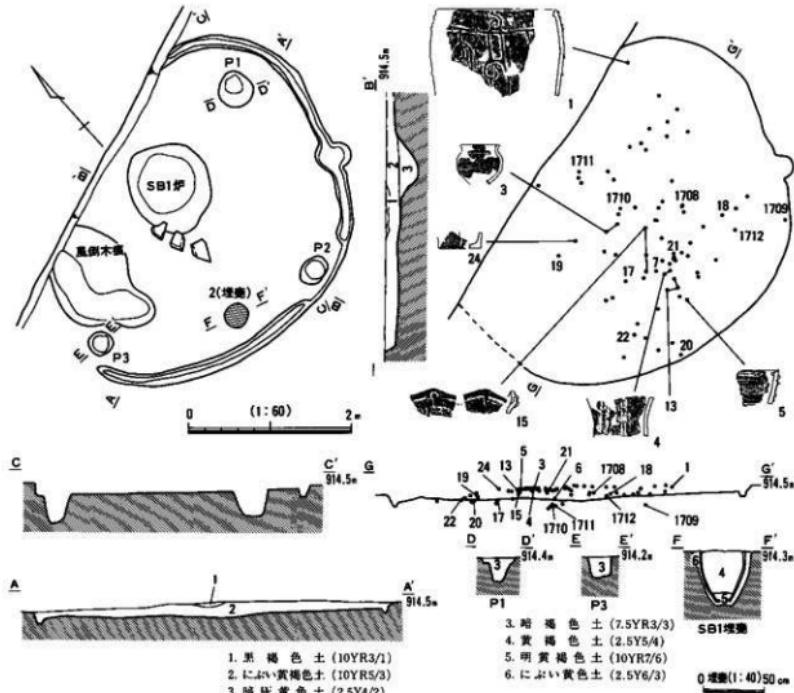


第9図 遺構配置図(3)B

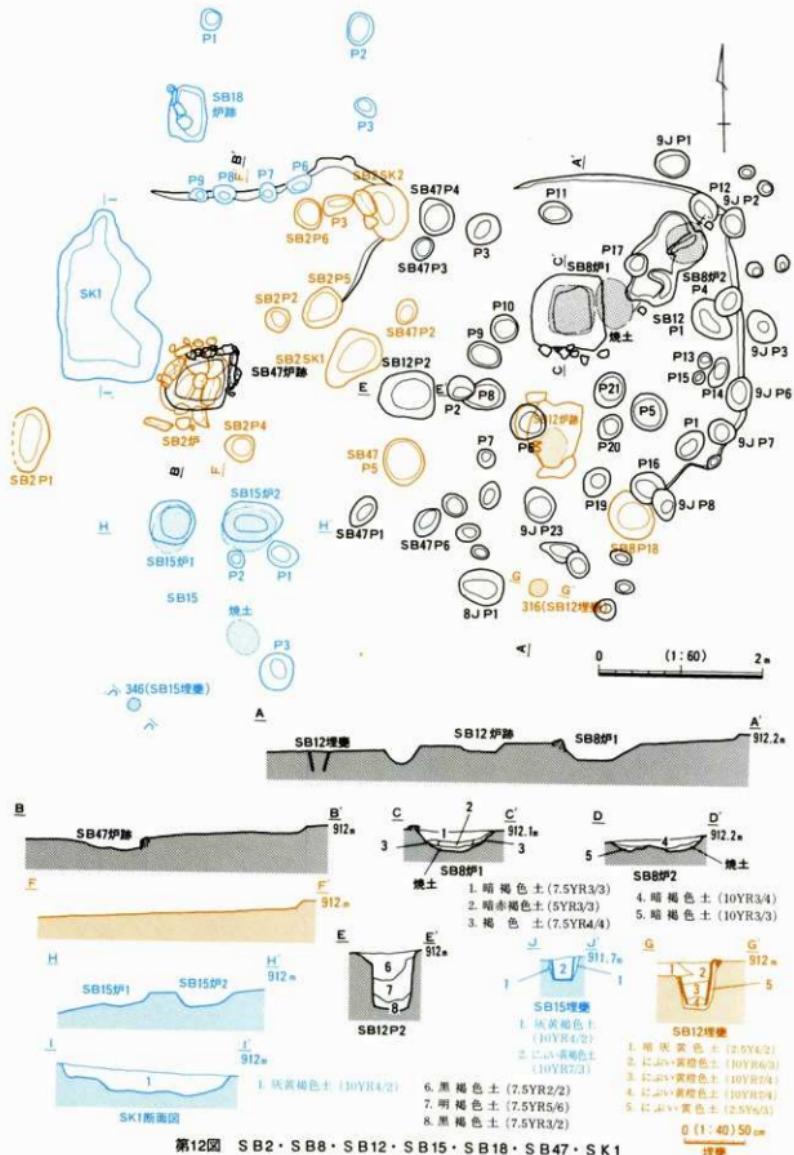


また、遺構の重複が著しく、炉跡の1m南方にS B15の炉跡が、炉跡の2.4m北方にS B18の炉跡がそれぞれ存在する。さらに、炉跡の下層よりS B47の炉跡を検出した。扁平の川原石状の炉石はヒビ割れ、石圓炉全体は押しつぶされて変形していた。石圓炉の大きさは長軸72cm、短軸44cm、深さ30cmで、長軸方向はN-29°-Eであった。炉内より後期前葉の縄文土器片（第46図34・35・38~40・42・44）と有溝石錐の破片（第148図1721）が出土した。ピットはP1からP6までを確認したが、すべてが本住居跡に伴うものであるとは断定できない。炉跡の北方に壁面の一部を検出したが、軸方向等から下層のS B47に伴うものと考えられる。また、そこに重複する4基のピットはS B18に属すると判断した。炉跡の北西に後世の土坑（S K1）を、東側に2基の土坑をそれぞれ検出した。東側のS B2 S K1と名付けた土坑内からは、縄文後期前葉の土器を主体に多くの遺物が出土した。

出土遺物は、縄文土器片468点、石器類252点である。重複遺構の遺物を多く含んでいると考えられるが、縄文土器片の主体は後期前葉である。おもな出土石器は、石鎌11点、石錐6点、クサビ形石器2点、磨製石斧1点、打製石斧3点、横刃形石器1点、磨石類2点、石皿1点、砥石1点、石錐3点などである（第46・148図）。



第11図 SB1



第12図 SB2・SB8・SB12・SB15・SB18・SB47・SK1

SB3 (第13・47図、図版7)

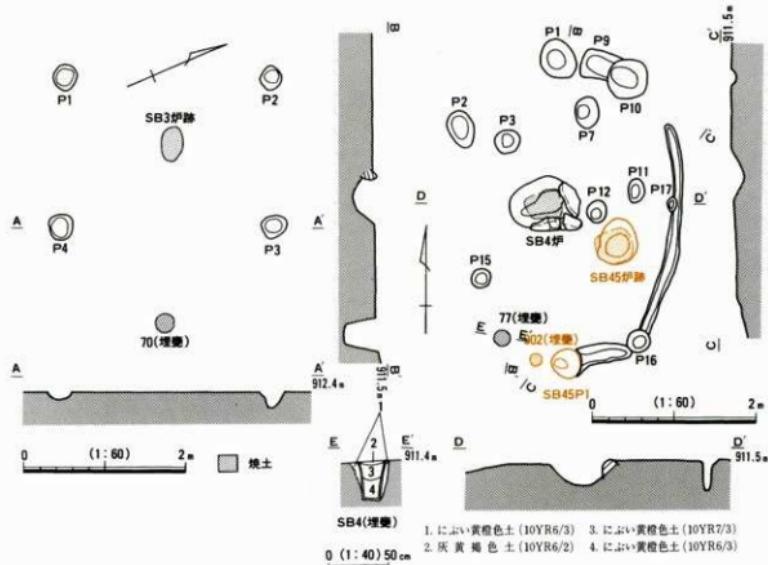
SB3は9K区に位置している。水田造成時に大きく削り取られていたため、検出面は床面よりも下層である。もともと北東部から緩斜面が続いており、そこに竪穴住居があったと考えられる。上部を削り取られた埋甕の北西に44×24cmの大きさの焼土跡があり、炉跡底部と判断した。ピットはP1からP4までをその配置から主柱穴と推定した。主軸は、炉跡—埋甕間でN-60°-Wであった。

出土遺物は、縄文土器20点、石器類15点である。埋甕をはじめとする縄文土器は中期後葉のものである。出土石器類は、石鎚1点、UF1点、フレーク13点である(第47図)。

SB4 (第14・48・149図、図版7・18)

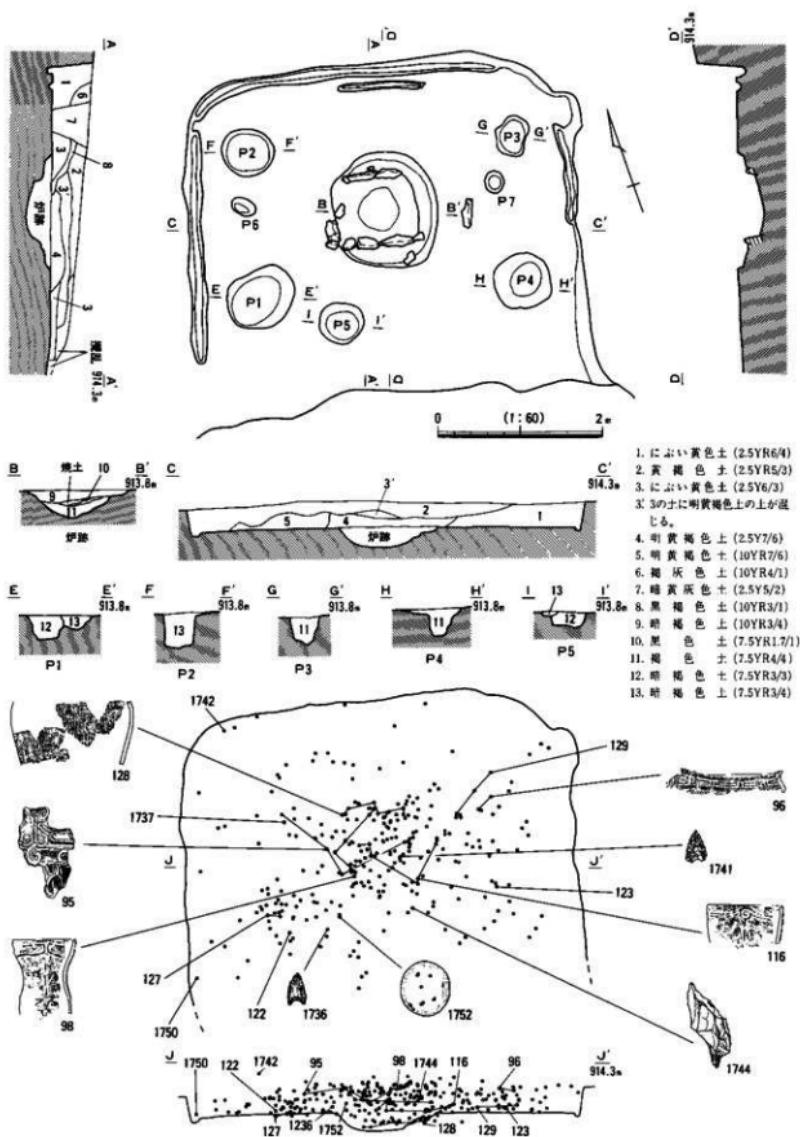
SB4は8J区に位置している。水田造成時の削平により壁面は失われていた。南方にはSB21～23、下層にはSB45が重複している。方形の石開炉は、東側と南側に細長い炉石を残し、大きさは長軸84cm、短軸64cm、深さ26cmであった。炉跡の1.3m南方で、上部を欠いた埋甕(第48図7)を検出した。さらに、炉跡の1.2m東方に深さ8cmの周溝を確認した。ピットは当初P1からP17までを設定したが、そのうち6基については出土遺物等から南西方向で重複するSB21所属と変更した。重複と削平が著しいため柱穴の所属も曖昧で、主柱穴を明確にすることは困難であった(第2表-1)。主軸は炉跡—埋甕間でN-18°-Wであった。

出土遺物は、縄文土器204点、石器類58点である。縄文土器の主体は中期後葉であった。おもな出土石器は、石鎚2点、石錐2点、クサビ形石器2点、磨製石斧1点などである(第48・149図)。



第13図 SB3

第14図 SB4・SB45



第15図 SB5

S B5 (第15・49~51・150~151図、図版7・18・25・41)

S B5は調査区北東10L区内にあり、S B1の南に位置している。住居の平面プランは隅丸方形で、東西4.7m、南北方向は約4mのところで水田造成時に削りとられている。もともと南側に傾斜する緩斜面のV層を掘り込んで整穴住居が建てられたと考えられ、検出時の北壁の深さは50cmであった。覆土の堆積状況はやや複雑で北側の上層に他の遺構が重複していた可能性がある。遺物は覆土中の広範囲から出土し、S B10の覆土出土のものと接合する土器片もあった（第50図110・128）。中央やや北寄りに石壠炉がある。周囲の炉石は抜き取られていたが、内側の板状の石が一部残っていた。炉の内側の大きさは80×72×32cmである。炉内よりオニゲルミの殻（約4g）と縄文土器片（第51図125）および黒曜石のUFが出土した。炉内で検出した炭化材（クリ）の¹⁴C年代測定値は、4,300±110yrBPであった。西および北側の壁際と東側の一部に深さ6~10cmの周溝を確認した。ピットはP1からP7までを検出し、その位置や深さ等からP1~P4を主柱穴と推定した（第2表-1）。南北方向の軸線はN-15°-Eであった。

出土遺物は、縄文土器706点、石器類209点である。縄文土器は復元できる個体は少なかった。主体は中期後葉で、第51図116~129が床面出土の縄文土器である。おもな出土石器は、石鎌16点、石錐3点、スクレイバー4点、クサビ形石器1点、磨製石斧6点、打製石斧1点、横刃形石器1点、磨石類3点などである（第49~51・150~151図）。

S B6 (第16・52~53・152図、図版8・15・26・42)

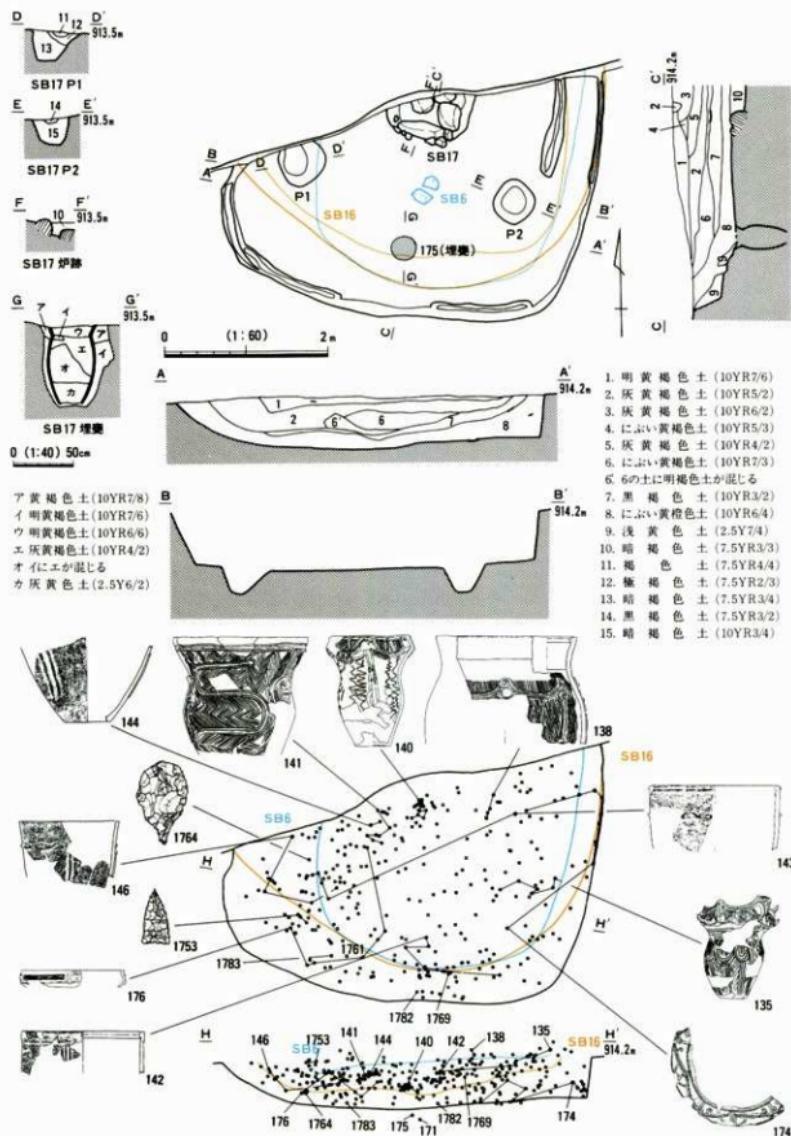
S B6は調査区の北東10L区の西側に位置し、その範囲は部分的に10K区に及んでいる。水田造成時に地山面まで削平されていたので、耕作土を除去した時点ですぐに方形のプランを確認した。4分割してはじめに北東区の掘削を行い、最上層と中層に遺物の集中する平坦面を確認したので、それぞれS B6とS B16とした。検出面の最上層では、幅約3mの範囲で明褐色土（10Y R7/6）の硬化面があり、中央で角ばった削石を検出した。当初住居跡の床面を想定したが、明確な柱穴や炉跡を確認できなかつたので、S B6はS B17の埋土上層という位置付けにしておく。

出土遺物は、中期後葉の縄文土器189点、石器類114点である。おもな出土石器は、石鎌5点、石錐1点、石匙1点、スクレイバー1点、打製石斧1点などである（第52~53・152図）。

S B16 (第16・54~56・153図、図版8・15・26・42)

S B16はS B6の下層で検出した遺構である。炭化物を多く含む灰黄褐色土（10Y R5/2）中より多くの遺物が出土し、下層のにぶい黄褐色土（10Y R7/3）層には、一部硬化面がみられたので、当初住居の床面と判断した。さらに下層には黒褐色土（10Y R3/2）層があり、その下がS B17の覆土であった。住居跡を想定して床面と考えた層の精査を行ったが、S B6と同様に明確な柱穴や炉跡を検出することは出来なかつた。S B16については工事区の境界付近ということで調査範囲が限定されており、住居跡の可能性も否定できないが、住居廃絶後の窪地に遺物の一括投棄が行われた可能性を考えたい。

出土遺物は、中期後葉の縄文土器443点、石器類338点で、そのほとんどはS B17廃絶後の遺物で一括性が高いと考えられる。縄文土器は、大型の破片が多く、第54図の141と144はほぼ同位置から出土



第16図 SB6・16・17

している(図版8)。なお、144の土器の赤色付着物については、分析の結果は酸化鉄からなるベンガラであった(第4章)。おもな出土石器類は、石鎚13点、石錐3点、スクレイバー4点、磨製石斧2点、打製石斧3点、磨石類2点、石皿1点、フレーク292点などである(第54~56・153図)。

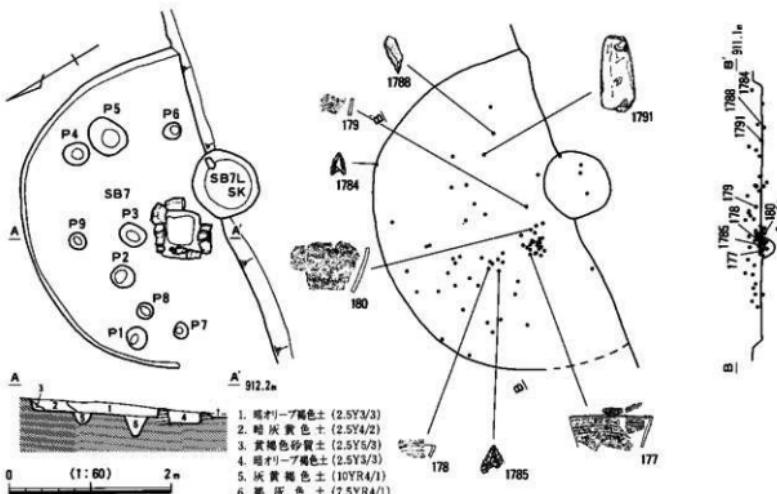
S B17(第16・57・154図、図版8・17・27・42)

S B17はS B6およびS B16の下層で検出した堅穴住居跡である。平面プランは隅丸方形で東西は4.3m、北側は範囲外のため未検出である。深さは70cmで北東区の住居跡群の中では最も深い堅穴住居跡である。覆土は砂質のにぶい黄褐色土(10YR 6/4)で、細かい炭化物や炭化材の破片を含んでいた。北側に石窯があり、炉の1.2m南方の床面で埋甕(第57図175)を検出した。周溝は南側の壁際と東側の2条が確認できた。ピット2基を検出し、主柱穴と推定した。石窯の形状や柱穴の位置および埋甕等から、入口は南側と推定される。なお、主軸は炉跡-埋甕間でN-16°-Eであった。

出土遺物は、縄文土器128点、石器類38点である。中期後葉の信州系や東海系および北陸系の縄文土器が混在している(第57図)。おもな出土石器は、石鎚3点、石錐3点、スクレイバー1点、赤色付着物のみられる磨石類2点などである(第154図)。

S B7(第17・58・155図、図版8)

S B7は8K区に位置している。水田造成時の削平により南側は消失していた。覆土の大半は暗オリーブ褐色砂質土(2.5Y R3/3)で、直径5mm前後の炭化材の破片を多く含んでいた。平面プランは直径約3.9mの円形で、中央やや北西寄りに方形に組まれた石窯がある。四辺に細長い川原石が据



第17図 S B7

えられていたと考えられるが、大半がヒビ割れその一部は散逸している。炉の内側の大きさは40×40×16cmである。炉内より後期前葉の縄文土器が出土した（第58図177・180）。ピットはP1からP9までを確認した（第2表-1）。その大半が本住居跡に伴う柱穴と考えられるが、配列は不規則である。なお、中軸線はW-28°-Nであった。

出土遺物は、後期前葉主体の縄文土器片480点、石器類186点である。おもな出土石器は、石鎌10点、石錐2点、クサビ形石器7点、磨製石斧2点などである（第58・155図）。

S B8（第12・59～60・156～157図、図版9・18・27・41）

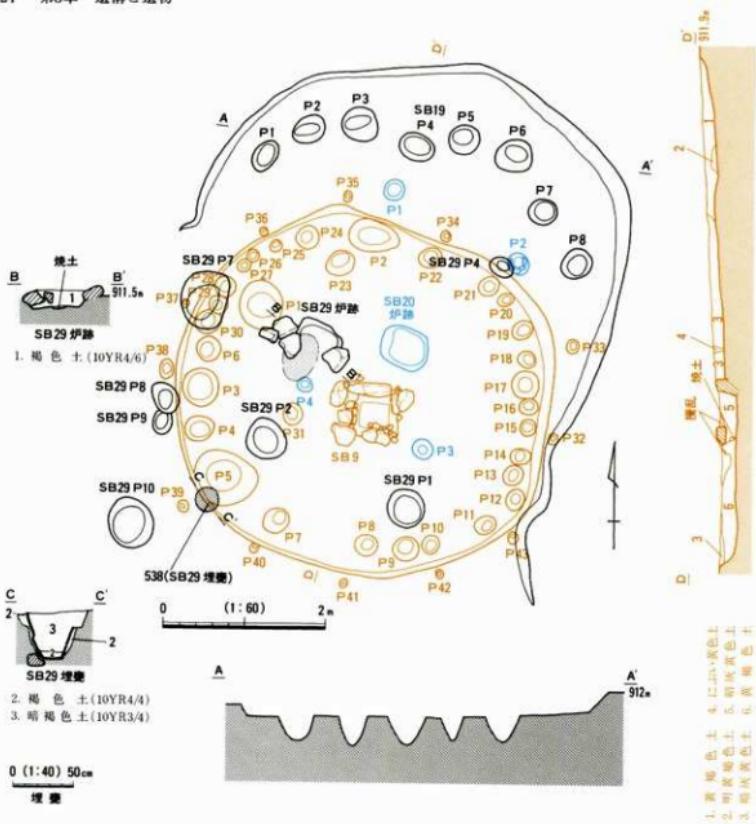
S B8は9J区の東側に位置している。水田造成時に削平されたため、西側および南側の壁面は失われていた。平面プランは隅丸方形で、南北は約3.6mである。本住居の範囲内に4ヶ所の焼土跡があり、周囲にも多数のピットがあることから住居跡の重複が推定される。南側の焼土跡はその南方の埋甕に対応したS B12の炉跡である。S B8炉跡2と名付けた北東部の炉跡については、P5・P11・9J P1・9J P3を主柱穴と見なせば、本住居に先行した住居跡の可能性がある。本住居の炉跡は、中央北寄りの炉1である。大きさは104×92×28cmで、炉石の一部が南側に残っていた（図版9）。炉内より縄文後期前葉の土器片（第60図217～222）や石器類（第156図1798・1808）およびオニグルミ等が出土した。ピットはP1からP21までを確認したが、本住居跡に伴う柱穴を特定するのは困難であった（第2表-1）。なお、炉1を通る中軸線はN-3°-Eであった。

出土遺物は、後期前葉を主体とする縄文土器1,116点、石器類434点である。炉2からは縄帯文系の縄文土器片が出土している（第60図223～225）。出土石器類は、石鎌28点、石錐11点、石匙1点、スクリイバー2点、R F5点、U F20点、石核1点、磨製石斧3点、打製石斧5点、磨石類2点、石製品1点、フレーク355点である（第156～157図）。

S B9（第13・61・159図、図版9）

S B9はS B8の南にあり、8J区に位置している。遺構の重複が著しく、上層にS B20、北側にS B19、西側下層にS B29と時期の異なる4つの住居跡が集中していた。平面プランは梢円形で、大きさは南北4.2m、東西4.6mである。中央やや南寄りに方形の石圓炉がある。炉石は割れて散らし原形を留めていない部分が多いが、北側には扁平な川原石が壁をつくるように埋められていた。炉内より第61図234の縄文土器片と第159図1823の磨製石斧等が出土している。覆土中の炭化材の¹⁴C年代測定値は3,430±100yrBPであった。ピットはP1からP43までを確認した（第2表-2）。壁沿いに小振りの柱穴が南側に空間を残しほぼ一周している。P5は下層のS B29の埋甕を壊す形で掘り込まれていたが、検出時にこの埋甕の存在は確認できなかった。住居跡の外側にも12基の小柱穴を確認した。中軸線はN-12°-Eであった。

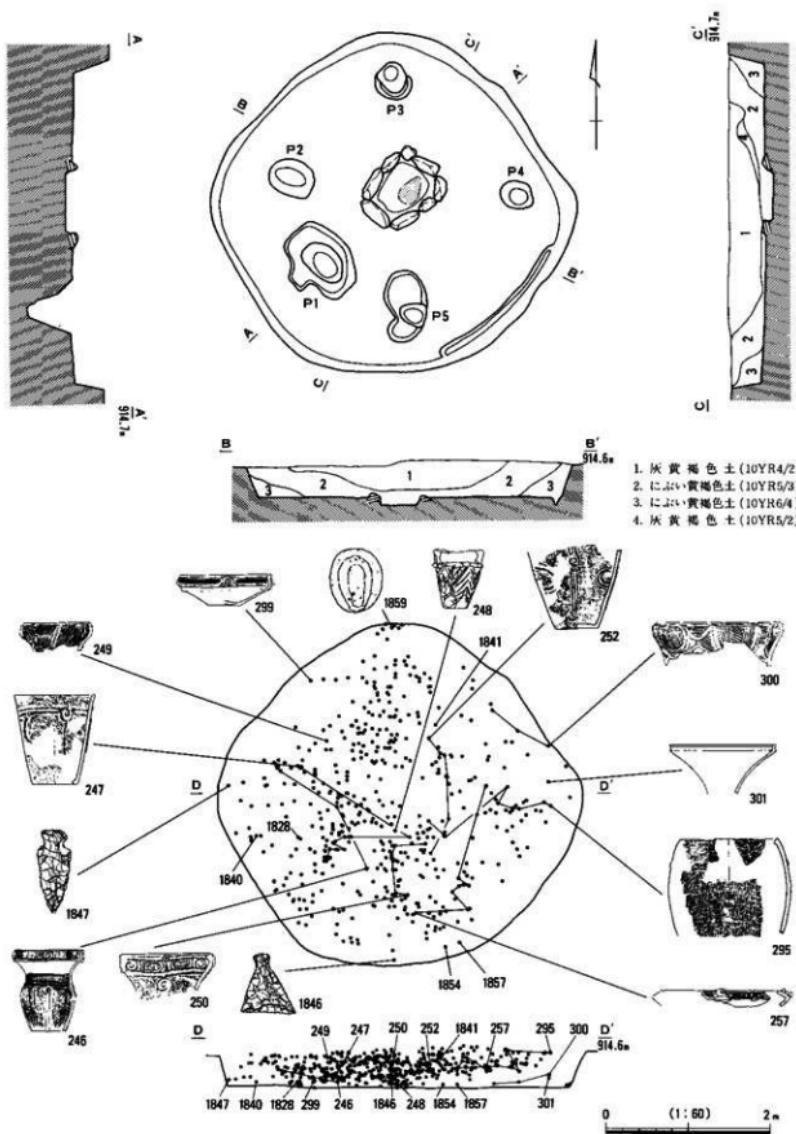
出土遺物は、縄文土器片482点、石器類677点である。縄文土器片はほとんどが小破片で中期のものと後期のものが混在していたが、主体は後期中葉である。おもな出土石器は、石鎌36点、石錐13点、異形石器1点、クサビ形石器7点、磨製石斧1点、打製石斧1点、磨石類8点などである。小型の石鎌や棒状の石錐が多いのが特徴的である（第159図）。また、覆土中よりイノシシ等の骨片やオニグルミ等の植物遺体などの自然遺物も出土している（第6節）。



第18図 SB9・SB19・SB20・SB29

SB10 (第19・63~66・160~161図、図版9・15・28・42)

SB10は調査区の北東10M区に位置している。水田造成時に削平されていたため、遺構検出面は耕作土直下の第V層である。平面プランは4×4mの隅方形で、深さは44cmであった。中央やや北東よりも石窯炉がある。細長いものを主体に8個の川原石を並べた炉の中央には、焼土跡がみられた。炉の内側の大きさは70×60×15cmである。覆土は上層の灰黄褐色土(10YR4/2)と下層のにぶい黄褐色土(10YR5/3)に大きく二分されるが、ともに炭化物や炭化材の小破片が多く含み、小ブロック状の明黄褐色土(V層)の混入が目立った。覆土中から出土した土器には、SB5やSB16およびSB17出土の繩文土器と同一個体のものも含まれていた。第66図299の浅鉢は北西の壁際床面から、301の台付鉢は北東の壁際床面よりそれぞれ出土した。なお、1846と1847の石匙や1859の石皿もそれぞれ壁際より出土している。ピットはP1からP5まで確認した(第2表-2)。その位置や埋土および深さ



第19図 SB 10

等から、P2～P5を主柱穴と推定した。入り口方向と推定される位置にあるP1は、柱穴ではなく長方形の土坑と考えられ、隣接するSB13とよく似た配置となっている。周溝は南東の壁際のみで確認した。主軸はP1-炉跡間でN-46°-Eであった。

出土遺物量は今回調査した住居跡の中では最多で、中期後葉の縄文土器1,451点、土製品1点、石器類1,039点が出土した。第66図の299～306は床面より出土した縄文土器である。出土石器類は、石鎌36点、石錐16点、石匙2点、スクレイパー1点、RF9点、UF32点、石核2点、磨製石斧4点、打製石斧1点、横刃形石器2点、磨石類7点、石皿1点、フレーク926点である（第160～161図）。

SB11（第20・67図、図版10）

SB11は調査区の北東11M区に位置している。主体部は水田造成時に削平されたと考えられるが、壁面の一部と柱穴を確認した。中央部には2基の土坑（SK2・SK5）が存在し、そこから中期後葉の縄文土器片が出土している（第67図916～920）。SK5の北壁に焼土がみられ、この土坑が本住居跡の炉跡を壊した可能性がある。その北東部でSB14が重複している。ピットはP1からP5までを確認したが、配列は不規則である（第2表-2）。

出土遺物は、縄文土器片20点、石器類4点である。中期後葉と考えられる縄文土器片はほとんどが小破片であった。出土石器類は、打製石斧1点、フレーク3点である。

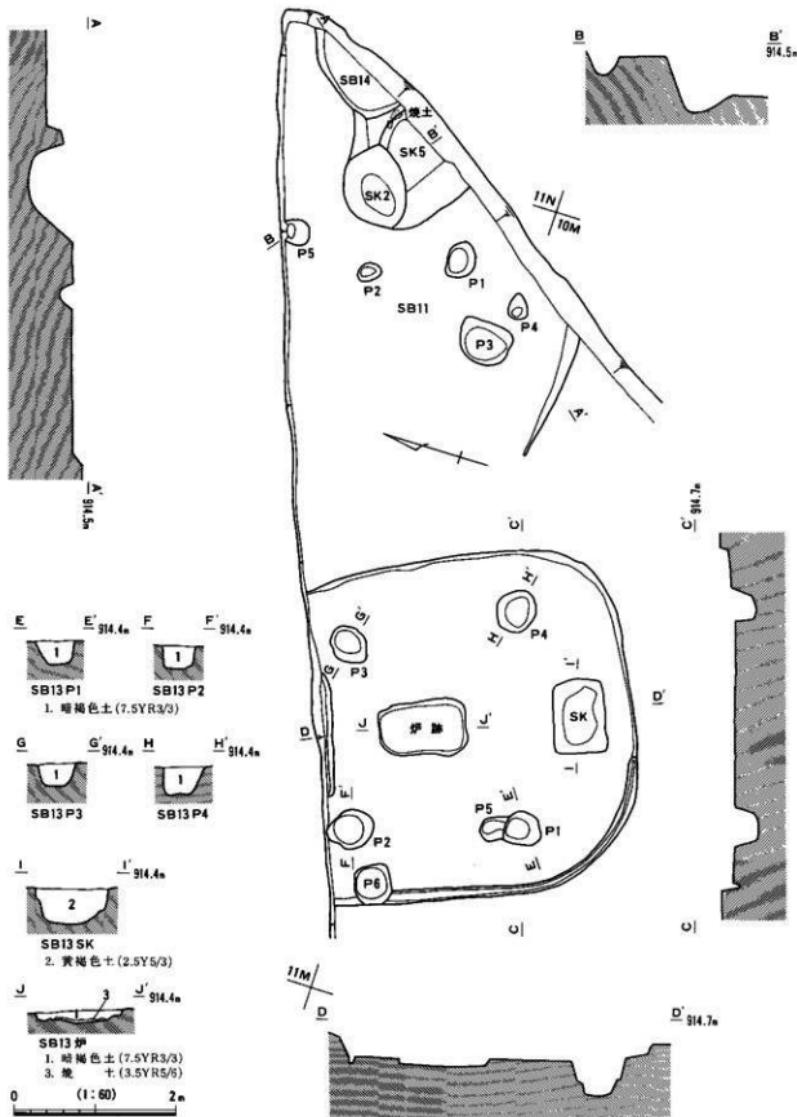
SB12（第12・68・162図、図版10・18）

SB12は9J区に位置している。SB8炉1の2.8m南方で上部を欠く埋甕（第68図316）を検出し、その位置関係からSB8両側の床面に残る焼土跡を本住居跡の炉跡と判断した。この埋甕の上部破片はその約2m南方にあるSB19の覆土中からも出土している（313）。炉跡は82×64×9cmで、北西側と南側に炉石の抜き取り痕を残している。中期後葉の本住居跡はSB8の構築時、あるいはそれ以前に削りとられた可能性が大きい。ピットはP1およびP2を設定したが、その出土遺物は後期前葉の縄文土器が主体で本住居跡に直接伴うものであるとは考えられない。その位置や出土遺物等からSB8P18とSB47P5を主柱穴の一部と推定しておく。主軸は炉跡-埋甕間でN-12°-Eであった。

出土遺物は、縄文土器83点、石器類120点である。埋甕内よりチャートのRFが出土している（第162図1863）。深さ80cmのP2からは石鎌1点と、磨製石斧がその上層より1点、下層から2点出土している（第162図）。

SB13（第20・69・163図、図版10・18）

SB13は調査区の北東10M区に位置し、その範囲は部分的に11M区に及んでいる。北東区の他の住居跡と同様に水田造成時に削平を受け、辛うじて床面付近を残している状態であった。覆土の堆積は浅く、遺物のほとんどは硬化した床面に近い部分から出土したものである。平面プランは隅九方形で、東西方向は4.2m、北側の一部は範囲外のため未検出である。中央北よりに長方形の炉跡があつたが、炉石の存在は確認できなかった。炉跡の1m南方に88×64×45cmの長方形の土坑（SK）を検出した。深い穴であったが、遺物はみられなかった。北側の一部と西方の壁際では周溝を確認した。ピットはP1からP6までを確認し、その位置等からP1～P4までを主柱穴と推定した（第2表-2）。



第20図 SB11・SB13・SB14

主軸は炉跡－土坑間でN-20°-Wであった。

出土遺物は、北東区の他の住居跡に比べて少なく、中期後葉の縄文土器17点、石器類20点である。おもな出土石器は、黒曜石のR F 1点、打製石斧1点などである（第69・163図）。

S B14（第20・70図）

S B14は調査区の北東11N区に位置している。S B11の北東に深さ38cmの壁面と、床面と推定されるフラットな面を検出した。境界部分での小範囲の調査では不明な点が多いが、覆土等が北東区の他の住居跡と酷似していたので竪穴住居跡の一部と判断した。

出土遺物は、中期後葉主体とみられる縄文土器片17点である（第70図）。

S B15（第12・71～72・164図、図版10・18・29）

S B15は8J区に位置している。耕作土を除去した時点で、S B2の炉跡の3.6m南方に上部を欠く埋甕（第72図346）を検出した。周辺の精査を行った結果、埋甕の北方に3ヶ所の焼土跡と3基のピットを確認した。水田造成時の削平によりいずれも検出面は、床面よりも下層である。遺構の重複が考えられるが、判断材料が少なく適切に分離できないため、すべて同一遺構番号内の処理に留めた。中期後葉の土器片が出土した2ヶ所の焼土跡については、西側を炉1、その36cm東方を炉2とした。第71図330～333は炉1出土、336～345は炉2出土の縄文土器である。また、図示した石匙については、1867が埋甕内より、1868がP1よりそれぞれ出土したものである。

出土遺物は、中期後葉が主体の縄文土器80点、石器類11点である。おもな出土石器は、石鎌1点、石匙2点などである（第71～72・164図）。

S B18（第12・73図、図版10・19）

S B18は9J区に位置している。S B2の炉跡の2.4m北方で68×45×12cmの長方形の炉跡を検出し、周辺のピット群と関連させて設定した住居跡である。水田造成時に削平を受けていたので、検出面は当時の床面よりも下層である。炉跡内および炉壁より、二次焼成を受けたと考えられる多数の縄文土器片が出土した（第73図347～355、図版10）。ピットは7基確認したが（P4・5は欠番）、すべてが本住居跡に伴うものであるとは断定できない。炉跡の長軸方向はN-3°-Eであった。

出土遺物は、後期前葉主体と考えられる縄文土器片267点、石器類11点である。縄文土器片ほとんどが文様帶を持たない土器で、住居の時期を特定する上で重要な有文土器の出土は少なかった。おもな出土石器は、打製石斧片1点、磨石類片1点などである（第73図）。

S B19（第18・74・165図、図版10）

S B19は8J区に位置している。北側の壁面および床面を確認したが、中央部から南側にかけてはS B9によって削りとられたと推測される。覆土は、黄褐色土（2.5Y R5/3）で、直径5mm前後の炭化材の破片を多く含み明黄褐色土（V層）がブロック状に混在していた。平面プランは円形を呈し、直径は約5.3mである。北側に壁に沿って巡る柱穴を8基確認した（第2表-3）。

出土遺物は、後期前葉主体の縄文土器片317点、石器類431点である。おもな出土石器は、石鎌11

点、石錐2点、クサビ形石器4点、磨製石斧3点、打製石斧1点などである（第74・165図）。

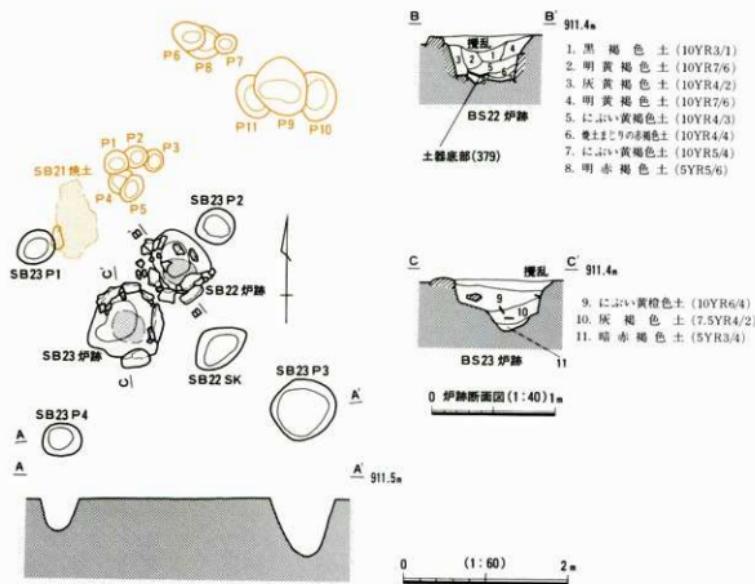
S B20（第18図）

S B20は8J区に位置している。S B9の上層で検出したが、水田造成時に削平を受けていたので、検出面は当時の床面より下層である。炉跡底部と推定される60×48×9cmの方形の土坑と4基の柱穴を確認した。P1からP4についてはその埋土はともに黒褐色土（7.5Y R3/1）で、その位置関係から主柱穴と推定した（第2表-3）。炉跡は中央やや南寄りに位置している。P2の内部には環状に石が配置されていた。炉跡を通る南北方向の軸線はN-24°-Eであった。

出土遺物は、縄文土器片3点、フレーク4点である。縄文土器片は小破片で、住居の時期を特定できる土器の出土はなかった。

S B21（第21・75・166図、図版10）

S B21は8I区に位置し、その範囲は部分的に8J区に及んでいる。S B20と同様に水田造成時に削平を受けていたので、検出面は当時の床面より下層である。炉跡底部と推定される100×50cmの焼土跡に周辺のピット群を含めてS B21とした。周辺は住居跡の重複が著しく、ほぼ同一面の北東部にSB4・S B45、南東部にS B22・S B23があり、西側下層にS B32が位置している。ピットはS B4からの変更分を含めてP1からP11までを確認したが、重複遺構のものを含む可能性が大きい。



第21図 S B21・S B22・S B23

出土遺物の大半はピット出土で、後期前葉主体の縄文土器片295点、石器類15点である。おもな出土石器は、石鏃1点、石錐1点、横刃形石器1点である（第75・166図）。

S B22（第21・76・167図、図版10）

S B22は8J区に位置し、その範囲は8I・7I・7J区に及ぶと考えられる。水田造成時に削平を受けており、石圓炉とその南東の小土坑（S K）を確認しただけである。両者が同一遺構内のものであるという確証はない。炉跡の南西に隣接する石圓炉はほぼ同一面に位置するが、軸方向等の違いから異なる住居のものと判断した（S B23）。炉跡は70×50×38cmの大きさで、底部に焼土跡がみられた。炉石は割れて散乱し、東側の炉石は失われていた。南北の内壁には扁平の石が用いられていた。炉内より縄文土器片と石錐や石皿片が出土している（第76図・167図）。炉跡手前の焼土混じりの土坑内からは、底部穿孔の深鉢胴下部が出土した（第76図378）。柱穴の特定はできなかったが、炉跡北東のS B21P4およびS B21P10-11が対応する位置関係にある。石圓炉の長軸方向はN-37°-Wであった。

出土遺物は、後期前葉主体の縄文土器107点、石器類18点である。おもな出土石器は、石鏃2点、石錐2点、石皿1点などである（第76・167図）。

S B23（第21・77~78・168図、図版10）

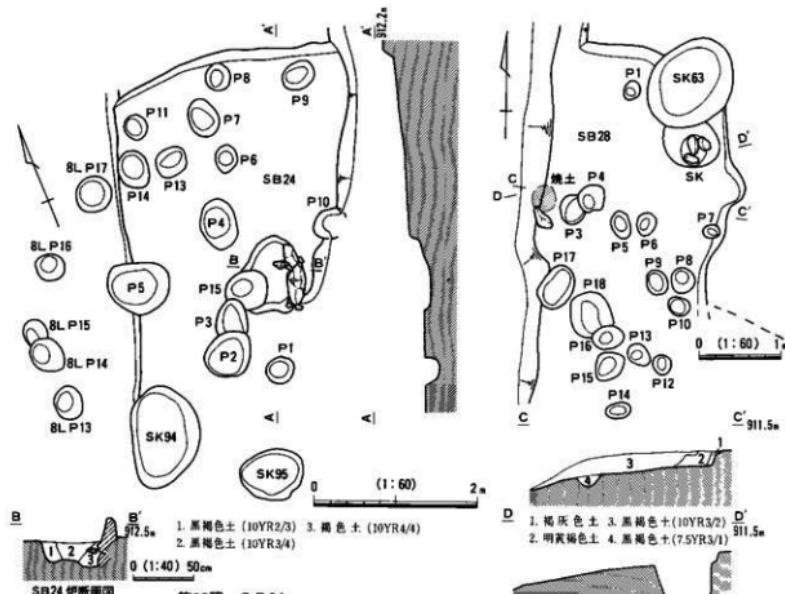
S B23は8I区に位置し、その範囲は8J・7I・7J区に及んでいる。石圓炉とそれに対応する4基の柱穴からなり、遺構の重複や水田造成時の削平により壁面は消失したと推定した。炉跡の北東にS B22の石圓炉が隣接する。炉跡の大きさは74×56×42cmで、底部に焼土跡がみられた。炉石は南側に丸みのある転石を用い、他はやや角張った石を用いている。東側の炉石は失われていた。炉内より縄文土器片と磨製石斧片や被熱した下呂石フレーク等が出土している。ピットはP1からP4までを想定したが、整理段階でその配置や出土遺物等から本住居跡の主柱穴と判断したものである（第2表-3）。石圓炉の長軸方向はN-8°-Wであった。

出土遺物は、縄文土器片375点、石器類35点である。炉内出土の縄文土器片は、中期と後期のものが混在していた。ピット出土の縄文土器は後期前葉のものが主体である（第78図389~395）。おもな出土石器は、石鏃2点、クサビ形石器2点、磨製石斧2点、打製石斧1点、横刃形石器1点、磨石類1点などである（第77~78・168図）。

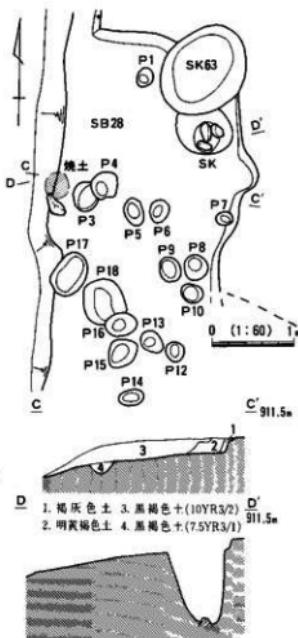
S B24（第22・79・169~170図、図版11）

S B24は8L区に位置している。農道の下層を掘削中に北側の壁面の一部と石圓炉および柱穴を確認した。西側は水田造成時に削平され、東側も開墾時に削り取られたと考えられる。石圓炉は80×60×24cmの大きさで、東側に垂直に立てられた扁平の川原石を残していた。第79図419は炉跡内より出土した縄文土器である。ピットはほぼ同一面で14基を確認したが（P12は欠番）、その配置は不規則である（第2表-3）。削平を受けている西側の8L P13~17と本住居跡北側で検出したP6・P13・P14が円形の配列を示している。石圓炉を通る東西方向の軸線はE-17°-Sであった。

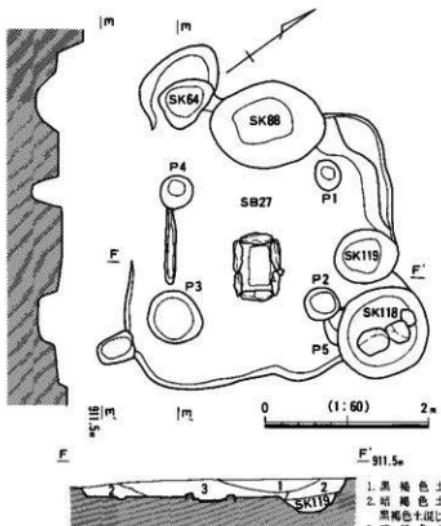
出土遺物は、後期前葉主体の縄文土器207点、石器類84点である。おもな出土石器類は、石鏃3点、石錐4点、スクレイバー1点、打製石斧3点、玉類1点などである（第79・169~170図）。



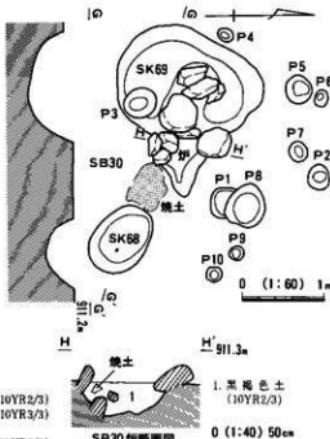
第22図 SB24



第24図 SB28



第23図 SB27



第25図 SB30

S B25 (第26・80~81・171図、図版11・29)

S B25は調査区の南東の7L区に位置している。開墾時に削平を受けており、確認できたのは石圓炉と北側のピット群である。南側は、縄文後期の土坑群により消失している。北側下層にS B26、南側下層にS B27が存在した。方形の石圓炉の大きさは48×38×26cmで、板状の石を垂直に立てて壁を形成している。ピットはP1からP8までを確認したが、すべてが本住居跡に伴う柱穴と特定はできない（第2表-3）。特にP3とP4は北東部上層のS B46との関連が推測される。炉跡を通る東西方向の軸線はE-13°-Sであった。

出土遺物は、縄文中期末主体と考えられる縄文土器片520点、土偶片1点、石器類119点である。出土した縄文土器片はそのほとんどが小破片であった。おもな出土石器は、石鎚4点、石錐1点、磨製石斧1点、打製石斧2点、横刃形石器3点などである（第80~81・171図）。

S B26 (第26・84・172図、図版11・16・30)

S B26は7L区に位置している。上層は擾乱層で、プランの検出は難航した。平面プランは隅丸方形で、大きさは東西4.2m、南北4.3mである。ほぼ中央に80×68cmの炉跡を検出したが、炉石は抜き取られていた。炉内より大量の縄文土器片が出土した。土器片は折り重なって出土し、最下層のものは文様のある表面を上にして敷き詰められていた（図版11）。炉内出土の破片から復元できた縄文土器は4個体である（第82図439~442）。なお、第84図468~475は炉内出土の土器片の一部である。ピットは15基を確認した（第2表-3）。その位置や埋土等から、P4・P8・P9・P12を主要な柱穴と推定した。炉跡を通る東西方向の軸線はE-12°-Sであった。

出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器901点、石器類199点である。おもな出土石器は、石鎚7点、石錐3点、磨製石斧1点、打製石斧2点、横刃形石器1点、磨石類3点などである（第172図）。

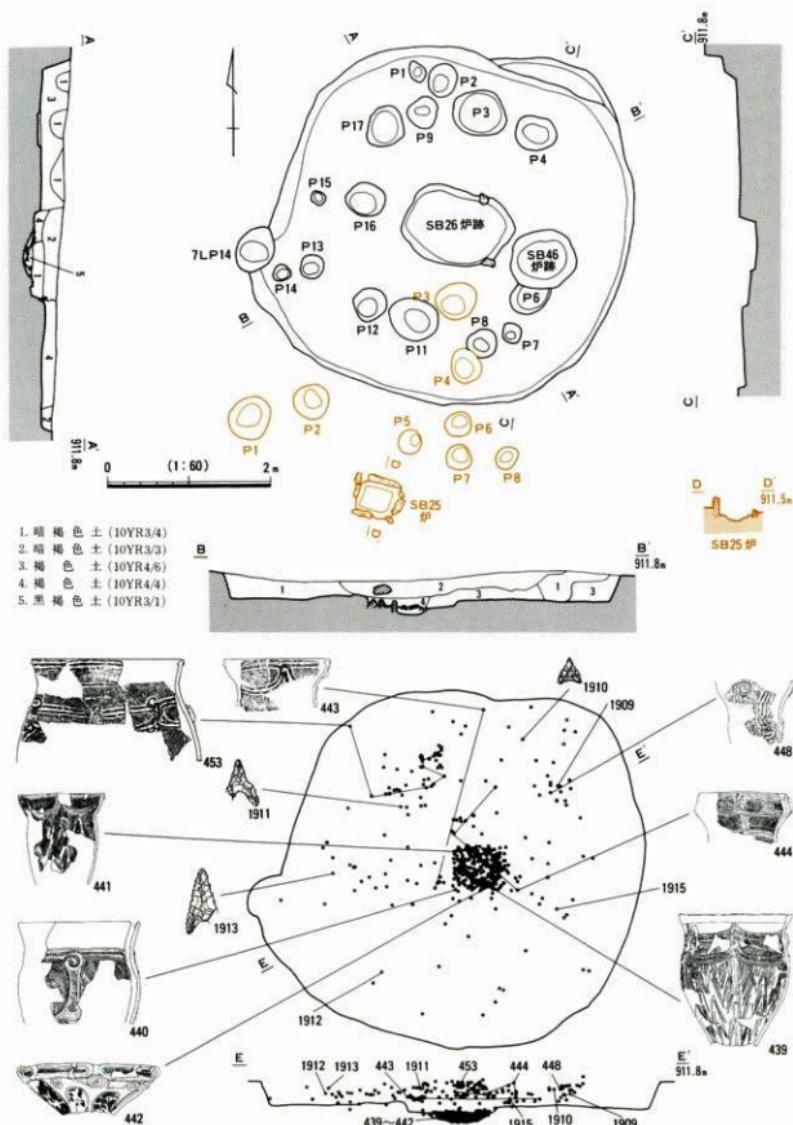
S B27 (第23・85~86・173図、図版11・16)

S B27は7L区に位置している。S B25の南側下層で検出した竪穴住居跡である。西から北にかけての壁際には縄文後期の土坑群が重複している（SK64・88・118・119）。平面プランは隅丸方形で、大きさは東西3.1m、南北3.3mである。中央やや南東寄りに64×36×8cmの長方形の石圓炉を検出した。周囲に細長い川原石を6個配した炉内には、全面に縄文土器片がその内面側を上にして敷き詰めてあった（第85図485）。ピットはP1からP5までを検出し、P1・P3~5を主柱穴と推定した。また、P3とP4の間に溝跡を確認した。炉跡を通る東西方向の軸線はE-32°-Sであった。

出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器333点、石器類57点である。おもな出土石器は、石鎚5点、石錐1点、石匙1点、横刃形石器2点、磨石類1点などである（第85~86・173図）。

S B28 (第24・87・174~175図、図版11・43)

S B28は8I区に位置している。耕作土直下より壁面の一部と床面のピット群を検出した。西側の大半は水田造成時に大きく削り取られていたが、炉跡痕と考えられる焼土跡を確認した。北東部隅にSK63、南側にS B39が重複している。床面東端で64×62cmの土坑を検出した。深さ90cmの底部付近に3個の石が置かれ、そこから第175図1941の石皿が出土した。また、東側の壁際からは、第175図



1938の完形の大型磨製石斧が出土している。ピットは16基を確認したが、重複遺構のものを含む可能性が大きい（第2表-3）。南北方向の壁面はN-7°-Eであった。

出土遺物は、後期前葉主体の縄文土器片559点、石器類141点である。ピットの配置等からも遺構の重複が考えられ、出土した縄文土器片にもやや時期幅があると考えられる。おもな出土石器は、石鎌5点、石錐6点、石匙2点、スクレイバー1点、クサビ形石器3点、磨製石斧4点、横刃形石器1点、磨石類2点、石皿1点、石錘2点などである（第87・174～175図）。

S B29（第18・88・176図、図版10・19）

S B29は8J区に位置している。炉跡および上部を欠く埋甕（第88図538）をS B9の下層で検出した。埋甕の1.6m北方で石圓炉と考えられる焼土跡と炉石の一部を確認したが、損壊が著しかった。ピットは8基を確認したが、重複遺構のものを含む可能性が大きい（第2表-4）。主軸は炉跡-埋甕間にN-26°-Eであった。

出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器209点、石器類95点である。おもな出土石器は、石鎌6点、石錐2点、スクレイバー1点、異形石器2点、磨製石斧2点などである（第88・176図）。

S B30（第25・89・177図、図版11）

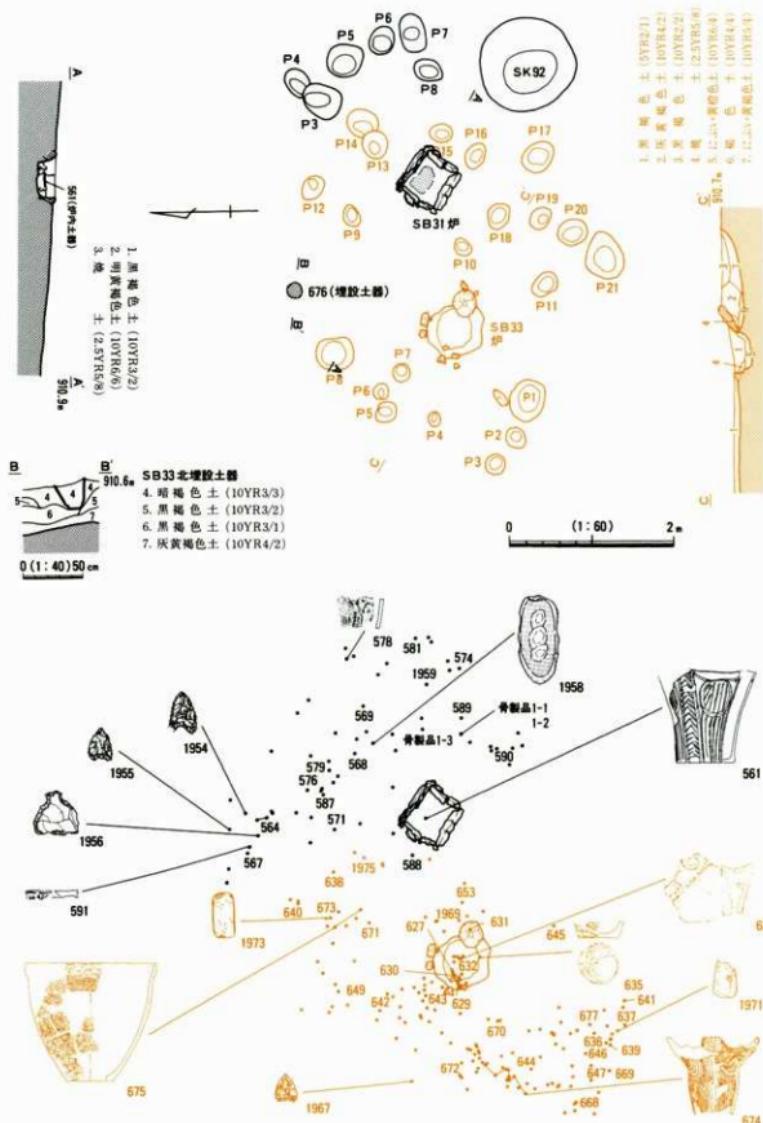
S B30は6I区に位置している。耕作土直下より炉跡と周辺の柱穴を検出し、周辺の状況から水田造成時の削平等で壁面が失われた可能性が高いと判断した。炉石の一部を残すと考えられる炉跡の大きさは80×54×30cmである。炉跡の東側に焼土跡を確認した。さらに、炉跡の両脇には縄文後期の土坑の重複がみられた（SK68・69）。ピットはP1からP10までを確認した。重複遺構のものを含んでいると考えられるが、北から西に小柱穴が環状に巡る配列が想定できる（第2表-4）。

出土遺物は、後期前葉主体の縄文土器片225点、石器類33点である。おもな出土石器は、石鎌2点、スクレイバー1点、磨製石斧1点、磨石類3点などである（第89・177図）。

S B31（第27・90・178図、図版12・19・31）

S B31は7H区に位置し、その範囲は部分的に7I区に及んでいる。石圓炉と周辺のピット群を確認したが、遺構密集地帯のため壁面の検出はできなかった。炉跡の東側には後期の土坑群があり、西側はS B33によって削られていた。方形の石圓炉の大きさは48×42×22cmである。炉の三方には板状の石を壁状に、南東方向にはやや丸みのある細長い石をそれぞれ配している。炉内より第90図561の縄文土器が出土した。また、炉の南東部から3点の骨角製品が出土した（図版1）。ピットは6基を確認したが、重複遺構のものを含む可能性が大きい（第2表-4）。なお、炉跡の東西方向の中軸線はE-33°-Sであった。

出土遺物は、中期末主体の縄文土器747点、石器類124点、動物遺体4件である。おもな出土石器は、石鎌3点、石錐2点、石匙1点、クサビ形石器2点、磨製石斧3点、打製石斧2点、磨石類2点、砥石2点、石錘1点などである（第90・178図）。



第27回 SB31・SB33

S B32（第28・91～92・179図、図版12）

S B32は7I区に位置している。本住居跡とS B38については、用水路の直下であったため水田造成時の削平を免れていた。S B4の西側で深さ28cmの壁面と炉跡や周溝の一部を確認した。本住居跡の東側上層にはS B21が存在し、住居内には2基の後期の土坑が、北西側の下層ではS B39がそれぞれ重複していた。平面プランは隅丸方形で、大きさは東西4.6m、南北4.4mである。中央北寄りにある炉跡は、その東側を後期の土坑（SK2）によって削り取られている。ピットはP1からP10までを確認したが、重複遺構のものを含む可能性がある（第2表-4）。なお、炉跡を通る南北方向の軸線はN-34°-Eであった。

出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器796点、石器類149点である。おもな出土石器は、石鎌4点、石錐3点、スクレイバー6点、磨製石斧3点、打製石斧2点などである（第91～92・179図）。

S B33（第27・93～94・180～181図、図版12・19・20・31）

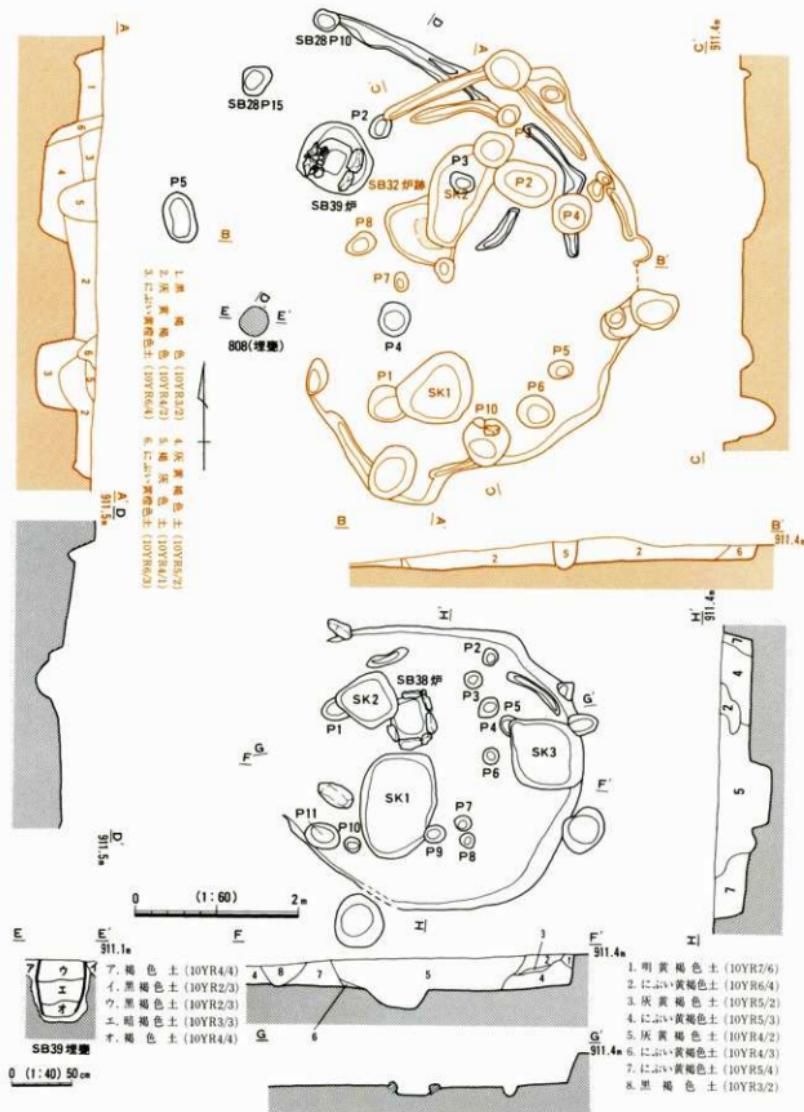
S B33は7H区に位置している。検出面は第IVc層である。1.2m東方にS B31の石圓炉があり、西側は「捨て場」斜面へと続いている。炉石の一部を残す炉跡と周辺のピット群を確認したが、床面の特定は出来なかった。炉跡の大きさは約60×約60×28cmで、東側にはヒビ割れた扁平の川原石が残っていた。周囲には被熱により変色し割れた石が散乱していた。炉内より後期前葉の縄文土器片が出土した（第93図626～635）。炉跡の東側に隣接して焼土を伴う小土坑（7H P11）があり、第94図674の縄文土器等の出土から中期後葉の住居跡の重複も考えられる。ピットはP1からP21までを確認した。柱穴については重複遺構のものを含む可能性があるが、環状の配置が想定できる（第2表-4）。なお、炉跡の南北方向の中軸線はN-26°-Eであった。また、炉跡の1.5m東方で埋設土器（第94図676）を検出したが、本住居やS B31の範囲外にある屋外遺構と判断した。

出土遺物は、中期から後期の縄文土器片1,166点、土偶片2点、石器類114点である。おもな出土石器は、石鎌3点、石錐1点、スクレイバー1点、クサビ形石器1点、磨製石斧5点、打製石斧1点、横刃形石器1点、磨石類5点などである（第93～94・180～181図）。

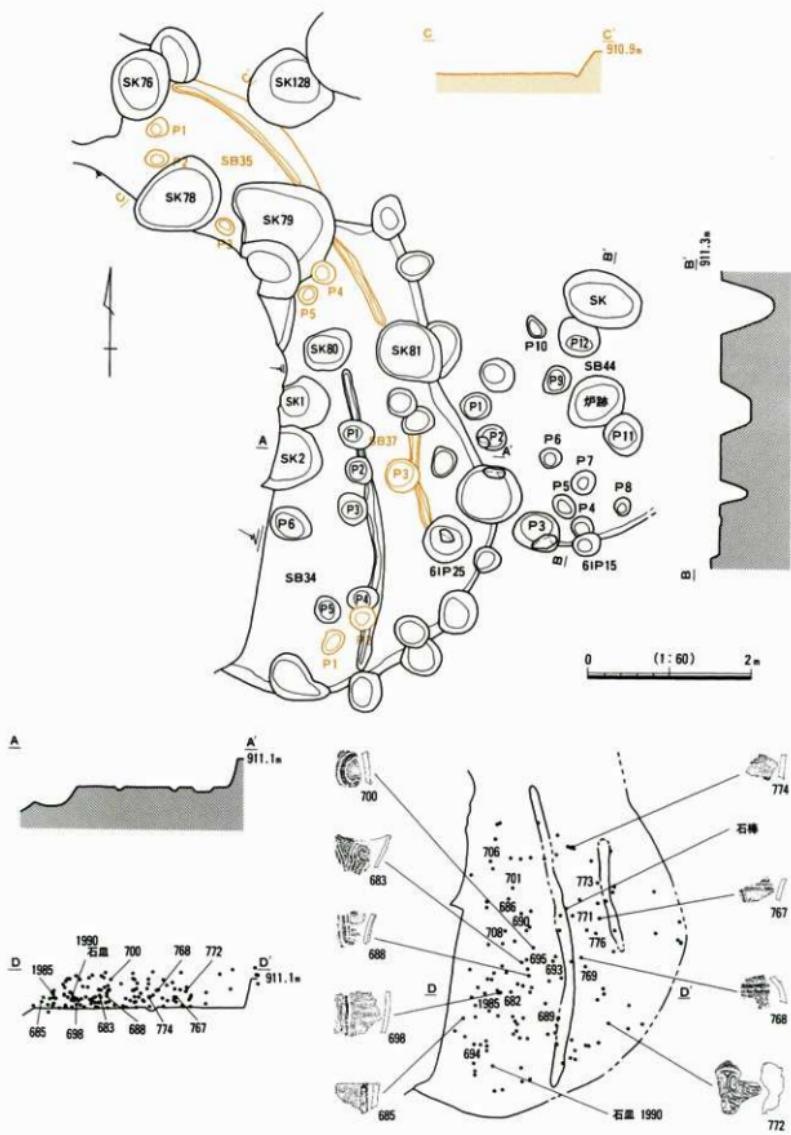
S B34（第29・95～96・182図、図版12・32・43）

S B34は6I区に位置し、その範囲は部分的に7I区に及んでいる。水田造成時に西側を大きく削り取られていたので、検出範囲は狭い。北側にS B35、東側にS B37が重複している。東側上層にピットが密集しており、確認できた壁面は南側の一部だけである。第V層を36cm掘り込んだ部分で、東側に周溝をもつ硬化した床面とピットを確認した。覆土は炭化材が混じる暗褐色土（10Y R3/3）で、床面付近からは半隆起線文をもつ縄文土器片とともに石皿や石棒等が出土した（図版12）。また、やまとまって出土した炭化材についての樹種同定結果は、クリ、サクランボ属、コナラ節であった（第4章）。ピットはP1からP6まで確認したが、重複遺構のものを含む可能性が大きい（第2表-4）。

出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器283点、石器類72点である。北側の土坑（SK1-2）出土の縄文土器片は後期主体であった。おもな出土石器は、石鎌9点、石錐5点、スクレイバー4点、クサビ形石器1点、打製石斧3点、横刃形石器1点、磨石類2点、石皿2点、大型石棒1点などである（第95～96・182図）。



第28図 S B32・S B38・S B39



第29図 S B34・S B35・S B37・S B44

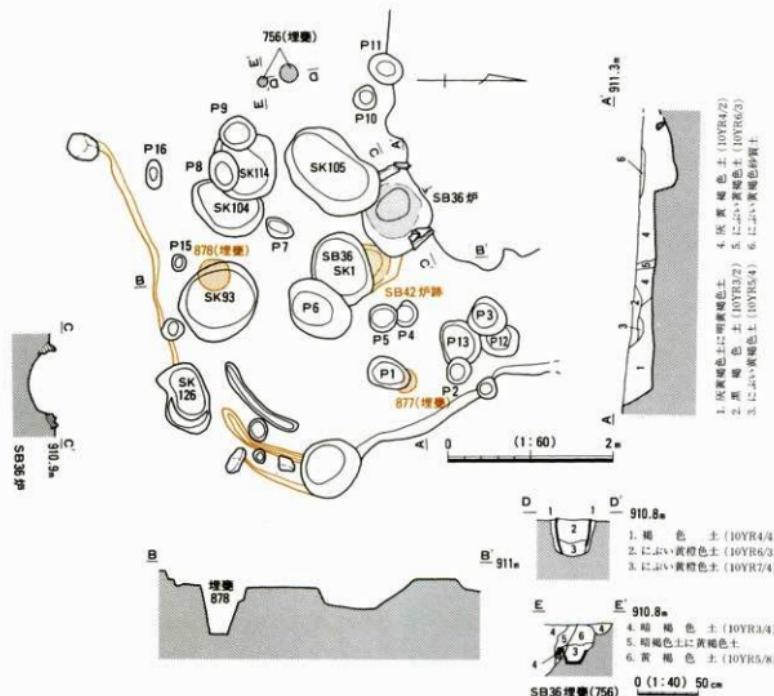
S B35 (第29・97・183図、図版12・19)

S B35は7I区に位置している。南側は水田造成時に削りとられている。北側の壁面の一部と周溝および床面を確認した。西側から中央には大型の土坑群が、南東側ではS B34・37がそれぞれ重複している。南東側については周溝のつながり具合から本住居跡の範囲内に含めたが、S B37との関連について再考の余地がある。ピットはP1からP5までを確認したが、小型でその配置は不規則である。

出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器片521点、石器類69点である。北側の壁際からは第97図709～712の縄文土器片が、南東側からは726～728の深鉢や浅鉢が出土している。おもな出土石器は、石鍬6点、石錐2点、磨製石斧1点、打製石斧1点、磨石類4点などである（第97・183図）。

S B36 (第30・98～99・184～185図、図版12・20)

S B36は7I区の北側に位置し、その範囲は部分的に8I区に及んでいる。農道下のこの辺りは水田造成時の削平を免れた場所であったが、後期の土坑群等の遺構が密集し個々の遺構プランの検出が難しい地点であった。本住居跡の上層では3本の打製石斧を伴う7I P2や、石皿を含む人頭大の石が環



第30図 S B36・S B42

状に配置されたS S2等の遺構を検出した。第185図2003の石剣片も覆土上層より出土したものである。本住居跡については、東側の壁面と硬化した床面および炉跡を確認した。炉跡の1.6m南西に埋甕（第98図756）を、炉跡の2.2m南東では周溝の一部をそれぞれ検出した。範囲内では他に2基の埋甕を検出したが、上部を壊されており本住居跡以前のものと判断した（S B42）。

756の埋甕は、検出時は底部を欠いた状態で埋まっていた。約20cm南方で検出した縄文土器底部については、発掘時には他の遺構によって上部を壊された別の埋甕として処理をしたが、整理段階で両者が接合することが判明した。類例としては、秋田県「虫内I遺跡」で断層によりずれた埋設土器遺構についての縄文晩期の報告例（秋田県教育委員会1998）があり、本住居跡の埋甕についても地すべり等によりそれが生じた可能性を指摘できる。石窯炉の大きさは84×64×28cmで、炉石の一部を残していた。東側の炉石には全面に滑らかな磨痕があり、砥石等の転用が考えられる。なお、炉跡の北側は水田造成時に削り取られていた。ピットは15基を確認（P14は欠番）したが、重複遺構のものを含む可能性が大きい（第2表-5）。なお、主軸は炉跡-埋甕間でE-33°-Nであった。

出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器899点、石器類67点である。おもな出土石器は、石鎌6点、石錐1点、スクレイバー1点、磨製石斧2点、打製石斧2点、横刃形石器1点、磨石類1点、石剣1点などである（第98~99・184~185図）。

S B37（第29・100・186図、図版12）

S B37は6 I区に位置し、その範囲は部分的に7 I区に及んでいる。西側でS B34が重複し、北西にS B35が位置している。当初S K79とS K81の間の部分をS B37と設定し掘削を進めたが、その床面と周溝がS B35の方向に連続していたので、この部分はS B35に含まれると判断した。従って、S B37として明確にできた部分は、S B34の周溝の外側（東）と、S B35の南東部周溝の外側部分のみである。S K79の東側に残る方形の壁面については、本住居跡の壁面である可能性が大きい。なお、S K81より南方は上層の連続するピットにより壁面が失われたと推測した。ピットはP1からP3までを確認したが、重複遺構のものを含むと考えられる（第2表-5）。

出土遺物は、中期中葉主体の縄文土器片19点、石器類4点である。出土石器類は、U F1点、フレーク3点である（第100・186図）。

S B38（第28・101~102・187図、図版13・32）

S B38は7 I区に位置している。平面プランは直径約3.6mの円形である。壁高は東側で36cm、西側の壁は遺構の重複により失われていた。中央北寄りに方形に組まれた石窯炉がある。その大きさは54×43×16cmで、北西端がS K2によって壊されている。小型の川原石を炉石に用いている。ピットはP1からP11まで確認したが、遺構の重複がみられるので主柱穴の特定は難しい（第2表-5）。炉跡を通る南北方向の軸線はN-10°-Wであった。

出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器654点、土偶片1点、石器類141点である。土偶片の部位は腕部で、覆土上層より出土した。おもな出土石器は、石鎌6点、石錐4点、スクレイバー2点、クサビ形石器1点、磨製石斧2点、打製石斧1点、石皿1点などである（第101~102・187図）。

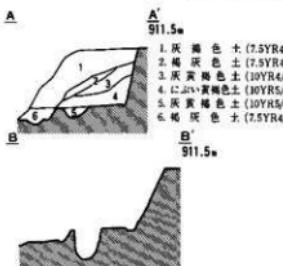
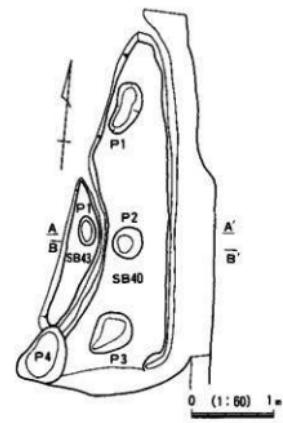
S B39 (第28・103・188図、図版13・17)

S B39は8Ⅰ区に位置している。北西部にS B28、北東部にS B32がそれぞれ重複している。重複遺構によって削り取られた部分が多かったが、北側の壁の一部と炉跡を確認した。さらに、炉跡の1.6m南西の床面で第103図808の埋甕を検出した。S B32によって切り取られた周溝が南東方向に統いており、平面プランは隅丸方形と推定される。炉石の一部を残す炉跡は60×45×13cmの大きさで、南端から第188図2016の磨製石斧が出土した。ピットは4基を確認した（P1は欠番）が、P3～P5とS B28 P 15が主柱穴と想定できる位置にある。主軸は炉跡-埋甕間でN-27°-Eであった。

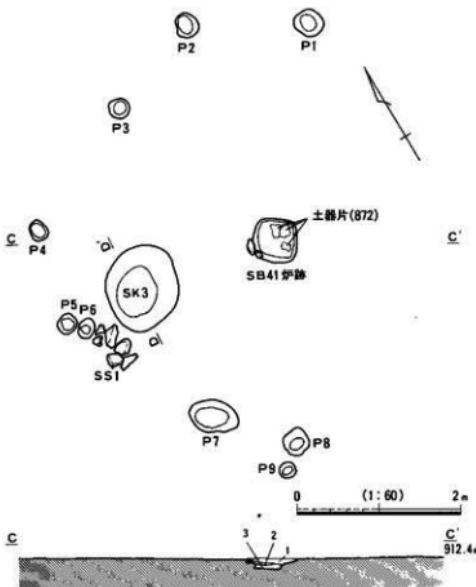
出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器175点、石器類32点である。おもな出土石器は、石鏃3点、石錐1点、クサビ形石器1点、磨製石斧2点などである（第103・188図）。

S B40 (第31・104~105・189図、図版13・20・33)

S B40は9Ⅰ区に位置している。水田造成時に西側を大きく削り取られていたので、検出できたのは東壁と床面の一部である。南西部下層でS B43が重複している。大きさは南北約4m、壁高は北側



第31図 S B40・S B43



第32図 S B41

で約1mあり、全住居跡中最も深い竪穴住居跡である。壁際に深さ4cmの周溝を確認した。第104図814が床面出土の縄文土器である。ほぼ完形の830は覆土上層の灰褐色土（7.5Y R4/2）中より出土した。ピットはP1からP4まで確認したが、P4は重複遺構のものと考えられる。その位置や深さ等から、P1とP3は主柱穴と推定される。なお、東壁の方向はN-7°-Wであった。

出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器583点、石器類98点である。おもな出土石器は、石錐2点、石錐4点、石匙1点、スクレイバー1点、磨製石斧2点、打製石斧4点などである（第189図）。

S B41（第32・106～107・190図、図版13・33）

S B41は9L区に位置し、その範囲は部分的に9K区に及んでいる。当初S X1で設定した区域内に炉跡を確認し、周辺のピット等の位置関係からS B41とした。水田造成時に削平されており、検出面の大半は床面より下層である。炉跡の約1m西方に後期前葉の土坑S K3と配石状の遺構S S1を検出している。炉跡は50×50×14cmの大きさで、炉内には第107図872の縄文土器片が内面を上にして敷かれていた。ピットはP1からP9まで確認し、小柱穴が環状に巡る配列が想定される（第2表-5）。炉跡の東西方向の中軸線はW-30°-Nであった。

出土遺物は、後期前葉主体の縄文土器片377点、石器類124点、イノシシ等の骨片8点である。おもな出土石器は、石錐5点、U F7点、磨石類2点などである（第106～107・190図）。

S B42（第30・108～109・192図、図版12）

S B42は7I区に位置している。主要部分をS B36によって削り取られているので、確認できたのは炉跡の一部と南東部の壁面および周溝である。範囲内で上部を欠く2基の埋甕を確認したが、両者が同一住居内のものと断定はできない。第108図877の埋甕は炉跡の約1m東方に位置し、その南側はS B36 P1により消失したと考えられる。第109図878の埋甕は炉跡の1.6m南方に位置し、その東側上部はS K93によって削られたと考えられる。この埋甕の底部より約10cm上の部分で東西方向に数cmのずれが生じており、S B36の埋甕（756）と同様に地すべり等の影響が推測される。

炉跡はS B36の炉跡とS K1により大きく削り取られており、第V層の明褐色土によって埋め戻された形跡がみられた。なお、主軸は炉跡-埋甕（南側）間でN-14°-Wであった。

出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器51点、石器類21点である。南東方向に位置するS B36の周溝の外側から出土した遺物を本住居跡の遺物としたが、重複遺構の遺物を含んでいると考えられる。おもな出土石器は、磨製石斧3点、打製石斧3点、磨石類1点などである（第108～109・192図）。

S B43（第31・110・193図、図版13）

S B43は9I区に位置している。S B40の西側床面下層で壁際の周溝と硬化した床面を確認した。覆土は褐灰色土（7.5Y R4/1）で、S B40の床面を掘り込んでつくられた竪穴住居跡である。壁際でピット1基を確認した。なお、東壁の方向はN-20°-Eであった。

出土遺物は、中期後葉の縄文土器片52点、石器類10点である。縄文土器片はほとんどが小破片であった。おもな出土石器は、石錐3点、石錐1点、スクレイバー1点、U F2点などである（第110・193図）。

S B44（第29・111・194図、図版11）

S B44は6I区に位置し、その範囲は7I区に及んでいる。南側の壁の一部と炉跡およびピットを確認した。東側は水田造成時に削平され消失している。北側はピットが密集する場所にあたり、西側下層にはS B34・37が存在している。72×72×38cmの大きさの炉跡については、炉石の存在は確認できなかったが内部で焼土跡を検出した。第111図の887～891は炉跡の60cm北方の土坑（深さ64cm）から出土した縄文土器片である。ピットはP1からP12まで確認したが、重複遺構のものを含む可能性が大きい（第2表-5）。

出土遺物は、後期前葉主体の縄文土器片166点、石器類44点である。おもな出土石器は、石錐3点、石錐1点、クサビ形石器3点、打製石斧1点、石皿1点などである（第111・194図）。

S B45（第14・112・191図、図版7・20）

S B45は8J区に位置している。S B4の周溝を精査中に底部付近のみを残す埋甕（第112図902）を検出し、その1.2m北方に炉跡を確認した。炉跡の上部は失われ、底部の焼土跡を残しているだけであった。検出状況からS B45はS B4によって削り取られた竪穴住居跡と判断した。なお、S B4の周溝の下層で検出したピットをP1とした。P1からは第112図900・901の縄文土器片が出土している。主軸は埋甕—炉跡間でN-35°-Wであった。

出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器片14点、石器類10点である。出土石器類は、クサビ形石器1点、チャートフレーク6点、黒曜石フレーク3点である（第112・191図）。

S B46（第26・113・195図、図版20）

S B46は7L区に位置している。S B26の東側床面付近で80×68×19cmの方形の土坑を検出した。一部焼土混じりの灰黄褐色土（10Y R4/2）中より第113図908の縄文土器と第195図2034の凹石が出土した。2.1m北方に対応する壁面の一部が残っていたので、この土坑を住居内の炉の底部跡と推定した。上層は攪乱層で床面および柱穴は確認できなかった。周辺は水田造成前に畑として利用されており、本住居跡については開墾時に消失した可能性が大である。なお、炉跡の東西方向の中軸線はE-4°-Sであった。

出土遺物は、後期前葉主体の縄文土器片162点、石器類4点である。縄文土器についてはS B26の覆土中から出土した後期の縄文土器片の大半を含んでいる。出土石器類は、磨石類1点、フレーク3点である（第113・195図）。

S B47（第12・114図、図版13）

S B47は9J区に位置している。S B2の炉石を取り除いたところ、その下層にS B2の炉跡とは軸方向を異なる炉石の並びを確認した。S B2の炉内焼土跡の北東に別の焼土跡があり、板状の石が北側と東側に壁状に配置されていた。この炉跡とS B2で検出した北壁の軸方向がほぼ一致したので、S B2に先行する竪穴住居跡と判断しS B47とした。炉跡の東方でピット6基を確認したが、重複遺構のものを含んでいる可能性が大きい（第2表-1）。第114図912はP1から、913はP6からそれぞれ出土した縄文土器片である。

出土遺物は、中期末主体の縄文土器片47点、石器類18点である。縄文土器については一部SB2で検出したものを含めた。おもな出土石器は、石錐1点、クサビ形石器1点、RF1点、UF1点、磨石類2点などである（第114図）。

2 不明遺構（SX）

S X1（第32図）

9L区で検出し、SB41（後期前葉の堅穴住居跡）に含まれる。

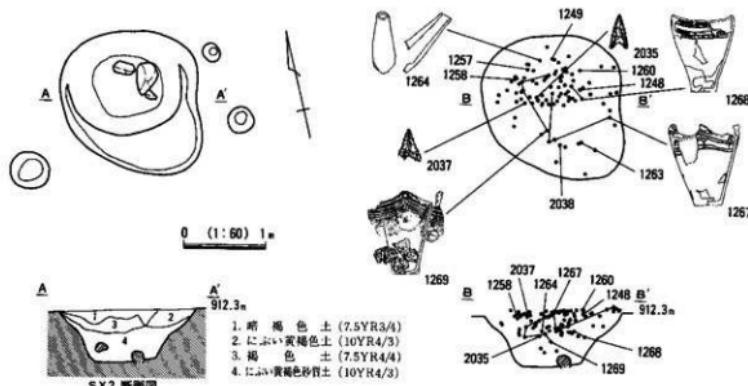
S X2（第33・125～126・196図、図版13・23・35）

S X2は8K区に位置している。水田造成時に削平を受けている第V層で暗黄褐色土（7.5YR3/4）による2×1.7mの楕円形のプランを検出した。縄文土器片や石器類の出土が目立ったので、当初その主体部を削り取られた不明遺構としてSX2とした。2分割して北側を掘り進めたところ、深さ63cmの土坑状の遺構であることが判明した。遺物は、中層より上に集中し、復元可能な土器が3個体出土した（第126図1267～1269）。また、第126図1264の注口土器の注口部破片は、北側壁際の深さ20cmの地点から出土した（図版13）。

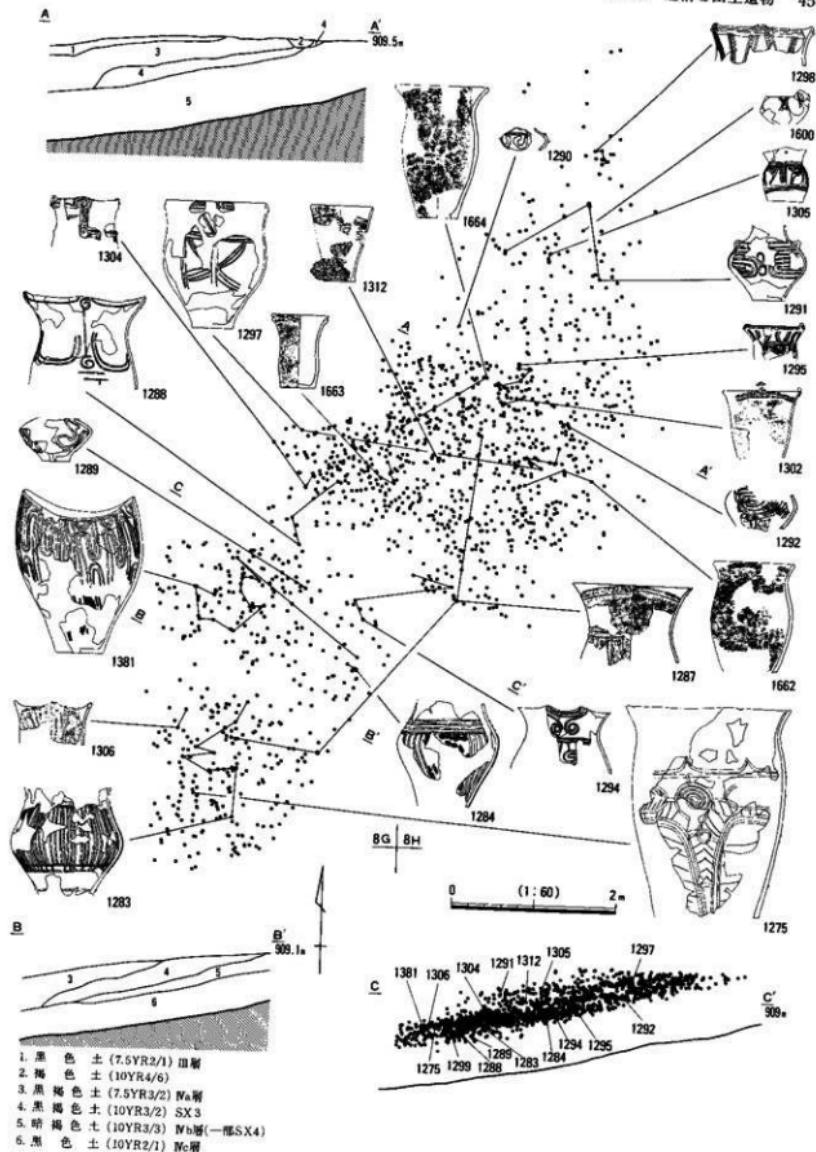
出土遺物は、縄文土器495点、石器類239点である。縄文土器は後期中葉の加曾利B1式系が主体である。出土石器類は、石錐9点、石錐4点、クサビ形石器1点、UF10点、打製石斧1点、横刃形石器1点、フレーク214点である（第125～126・196図）。

S X3（第34・127～144・197～202図、図版14・21～23・35～40・44）

S X3は西側斜面の8G区および8H区に位置し、その範囲は部分的に7G区にも及んでいる。縄文中期と後期の遺物が混在する黒褐色土（IVa層）の下層に、縄文後期主体の遺物包含層を確認した。炭



第33図 SX2

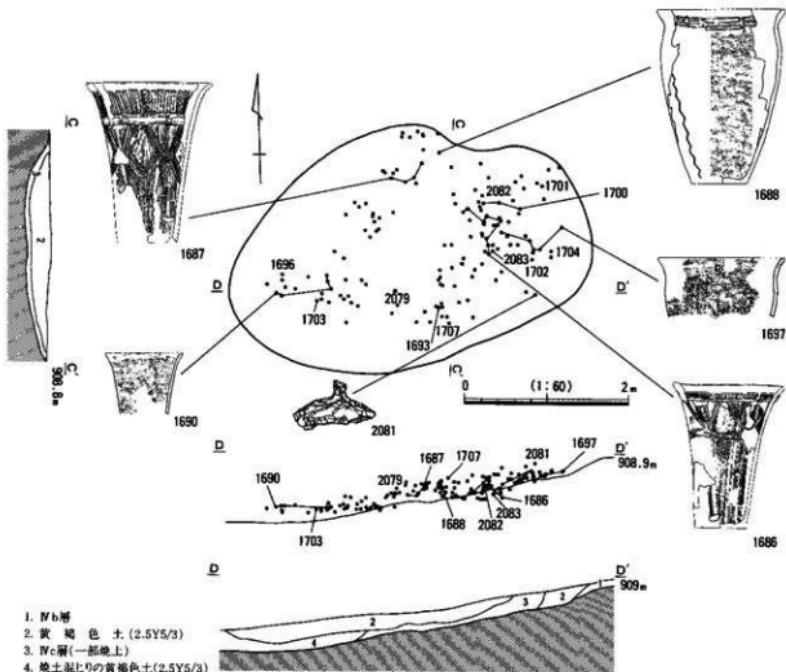


第34図 S X3

1. 黒色土 (7SYR2/1) Ng層
2. 棕褐色土 (10YR4/6)
3. 黑褐色土 (7.5YR3/2) Na層
4. 黑褐色土 (10YR3/2) SX3
5. 棕褐色土 (10YR3/3) Nb層(一部SX4)
6. 黒色土 (10YR2/1) Ng層

化物を多く含む砂質の黒褐色土(10Y R3/2)中より、非常に多くの遺物が出土した。その範囲は11.5×3.9mの不定形で、北西方向に傾斜する斜面に対して南北方向に帯状に広がっていた。最深部は26cm、土器塚というような表現が想定されるような「捨て場」の遺物集中区である。人為的な掘り込みの跡は確認できなかったので、窪地状の自然地形が「捨て場」として繰り返し利用されたことが推測される。

出土遺物は、縄文土器15,527点、土偶片8点、石器類907点、骨片145点である。縄文土器の主体は後期前葉で復元可能なものも多かったが、後期初頭から中葉までのやや広い時期幅の資料を含んでいる。多くの資料についてその出土地点や層序を追った追究が可能である。出土石器類は、石鎌42点、石錐13点、石匙4点、スクレイバー12点、クサビ形石器21点、R F5点、U F29点、石核10点、磨製石斧10点、打製石斧27点、横刃形石器3点、磨石類27点、石皿4点、砥石1点、石錐10点、石剣1点、フレーク等688点である（第127～144・197～202図）。



第35図 SX4

S X4 (第35・145~146・199図、図版14・24・40)

S X4は西側斜面8H区のS X3下層で確認した遺物集中出土地点である。始めに、第145図の1687と1688の縄文土器が重なって出土し（図版14）、さらに周辺の黄褐色土（2.5Y5/3）中から一括性の高いと考えられる遺物が出土したのでS X4とした。その範囲は4.4×2.9mの楕円形で、深さは24cmであったが、振り込みが人為的なものであるかどうかは判断できなかった。

出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器727点、石器類40点である。第145図1686の縄文土器はその破片の9割近くを残していた。1687の縄文土器は底部付近および縦方向に約3分の1が欠損、1688の縄文土器は底部を残すが約3分の1程度の破片は未検出である。出土石器類は、石鏃1点、石錐1点、石匙1点、クサビ形石器1点、R F3点、U F3点、石核2点、磨製石斧6点、横刃形石器1点、磨石類1点、フレーク20点である（第145~146・199図）。

S X5 (第10図)

S X5は6K区で検出した2.8×1.5mの不定形の豎穴状遺構で、その性格は不明である。出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器片65点、石器類10点である。

S X6 (第7図)

S X6は9M区で検出した2.5×2.2mの方形の豎穴状遺構である。遺構内にピットを3基確認したが、住居跡とは様相が異なるようであった。出土遺物は、中期後葉主体の縄文土器片42点、石器類12点である。

3 堀立柱建物跡（図版13）

7J区のP1とP2および6J区のP1とP2から成る。水田造成時に削平されているため、検出面は当時の生活面よりも下層である。4基のピットの長軸は56~75cm、深さは31~52cmで、このうち3基からは後期前葉の縄文土器片が出土している（第121図1159~1163）。その出土遺物からほぼ同時期のものと考えられるやや大型の柱穴が方形に並び、その中央に炉跡がみられないで堀立柱建物跡と推定した。柱穴間は東西2.4m、南北2.1mである。なお、6JP2より第201図2145~2164、第202図2170の石器類が出土している。

4 土坑・ピット（SK・P）（第7~10・115~123・200~202図、第3表、図版14・20・34・44）

径70cm以上の比較的大きい穴をSK、小さい穴をPとした。ピット（P）の中に7HP1のようにSKとすべきであった大きい穴が約6%程含まれているが、検出時の遺構名をそのまま用いてある。なお、住居跡内で検出したSKおよびPについては、それぞれにその住居跡名を冠し、その位置や概要および出土遺物等について各住居跡に準じて報告している。住居跡名のつかないSK130基とピット等432基については、第3表にその概要をまとめ、出土遺物の主なものを図示した。Pについては、重複や混乱を避けるためにグリッド名が冠してある。一覧表中の7IR1（第3表3-No40）は7I区のSB38北方で検出した炉跡底部と考えられる焼土跡である。周辺の状況から住居跡に伴うものとは断定できなかつたのでここに含めてある。

居住区の平坦面を中心に検出した土坑とピットは縄文土器片等の遺物を伴うものが多く、SKではその主体が中期前半のものが1基（0.8%）、中期後半が13基（10%）、後期前半が70基（54%）、後期中葉が5基（4%）であった。Pについては、約23%（100基）が後期前半の縄文土器片を主体としていたが、時期的に混在するものや、小破片のため特定できないものが大半であった。

土坑は居住区の南側を中心に広い範囲に分布している。特に南東部と西側のSB36周辺では、その平面プランは長軸1m前後の楕円形で、深さが60cmを超えるものが目立った。後期前葉の縄文土器片を主体に非常に多くの遺物を伴う土坑も少なくなかったが、縄文中期から後期の遺構の密集する7I区などでは、その出土遺物が意図的に埋められたものなのか、あるいは混入物なのか早急に判断できない状況であった。なお、クリ等の植物遺体の出土もみられたが、大量に貯蔵した痕跡を残すものはなかった（第6節）。以下、図示した遺物を中心に特徴的なものについて記しておく。

7L区のSK64では、扁平な石の下から第116図993と994の土器が入れ子状になって横位で出土した。7H～7I区のSK92からは、1,067点の縄文土器片と70点の石器類等が出土した（第117図1037～1050、第200図2096～2099・2124・2130・2135・2153）。7I区のSK100の底部（V層）からは縄文草創期のものと考えられる珪質頁岩製のスクレイバーが出土した（第200図2137）。7I区のSK114からは第201図2147、SK127からは第201図2148のそれぞれ装身具と推定される石製品が出土している。SB36上層の7IP2からは、3本の打製石斧がまとまって出土した（第202図2167～2169）。第118図の1157と1158は、SB22周辺の7IP9と8IP6からそれぞれ出土した。同一個体の後期前葉の鉢形土器である。第201図2165・2166・2177は、SB26の西南壁に接する7LP14から出土した。被熱により破損した磨製石斧と磨石である。石鎌がまとまって出土したのは、SK52（第200図2090～2092）、SK92（2096～2099）、SK93（2100～2102）、8KP29（2116・2117）等である。また、石錐を伴う穴も多く、第201図2149～2155の石錐は、それぞれSK17・SK32・SK53・SK92・SK108・7KP17・7KP63・7KP68・6LP25・7LP8より出土したものである。

平坦面の南側は水田造成時に大きく削り取られていたので、その遺構検出についてはすべてが当時の生活面よりも下層で行ったものである。推測の域を出ないが6IP2周辺等に住居跡を想定させるようなピット配置がみられることを付しておく。

5 焼土跡群（第7・124図）

西側斜面で10基の焼土跡（SF）を確認した。検出面はすべて黒色土のIVc層である。9G区のSF1～SF4および9H区のSF5についてはIVc層の上層で検出した。ともに平面プランは楕円形で焼土層の堆積は15cm前後であった。SF1～4については遺物はあまりみられなかった。SF5からは中期前半主体の縄文土器片が64点出土した（第124図1239～1244）。

9H区のSF6および南側のSF7～SF10はIVc層の下層で検出した。いずれも明赤褐色の焼土の堆積は深いところで20cm以上あり、下層のV層にまで達していた。縄文土器片等の遺物の出土はなく、焼土跡中より出土した多数の炭化材について自然科学分析を行った。8H区のSF7より出土した炭化材の¹⁴C年代測定値は5,500±120yrBPで縄文前期に相当する数値を示している。樹種同定を行った資料はSF7出土のものが主体で、結果は1点のケヤキを除き67点はすべてコナラ属の根材であった（第4章）。

第2表 住居跡(SB)内ビット(P)等一覧表 1

No.	遺構名	測定値(cm)			上・色	測定数	特・用					備考	
		長軸	短軸	深さ			上花	石器	中前	中後	後縁	側縁	
1	SB1	P1	44	40	32	7SYR33	3	0	△				
2	SB1	P2	36	30	36	7SYR33	0	0					△
3	SB1	P3	32	28	28	7SYR33	0	0					△
4	SB1	P4	112	100	24	2SYR42	0	0					△
5	SB2	P1	(32)	30	18	2SYR42	73	5	△	○			
6	SB2	P2	27	27	20	2SYR50	3	0			△		
7	SB2	P3	35	22	11	10YR32	6	0		○			
8	SB2	P4	33	31	10	10YR32	0	0					△
9	SB2	P5	58	52	15	10YR32	11	4		○			
10	SB2	P6	40	36	16	10YR32	2	0					△
11	SB2	SK1	116	82	64	10YR40, 10YR32	110	83	△	○			石器2, 骨片, オニグリミ
12	SB2	SK2	90	50	25	10YR40	0	0					△
13	SB2	P7	22	44	30	10YR32, 5SYR56(焼上)	109	7		○			骨片
14	SB47	P1	43	28	28	10YR32	18	11	△	△			
15	SB47	P2	26	26	21	10YR42	8	2		○			
16	SB47	P3	26	26	16	10YR40	1	0					△
17	SB47	P4	43	43	21	10YR40	8	1	△	△			
18	SB47	P5	60	52	32	10YR40	3	0					
19	SB47	P6	32	30	0	10YR40	4	0		○			
20	SB47	石	(70)	(40)	(18)	5SYR56(焼上)	5	3					骨片
21	SB3	P1	30	29	(10)	7SYR42	0	0					
22	SB3	P2	27	27	(12)	7SYR42	0	0					
23	SB3	P3	32	32	(20)	7SYR42	0	0					
24	SB3	P4	33	32	(10)	7SYR42	0	0					
25	SB3	石	42	24	0	2SYR56(焼上)	0	0					
26	SB4	P1	42	40	40	7SYR32	28	9	△	△			
27	SB4	P2	44	26	15	7SYR32	11	0		○			
28	SB4	P3	28	24	14	7SYR42	4	5		△			
29	SB4	P7	34	28	24	7SYR42	3	1		○			SB21P6
30	SB4	P8	40	35	28	10YR40	14	7	△	△			
31	SB4	P9	50	50	70	10YR54	8	0					
32	SB4	P11	30	20	12	10YR40	1	0					
33	SB4	P12	27	23	15	10YR53	0	6					SB21P10 SB21P11
34	SB4	P14											
35	SB4	P15	30	24	12	7SYR42	0	0					
35	SB4	P16	30	30	15	10YR40	7	1		○			
36	SB4	P17	20	12	43	10YR40	2	0					
37	SB4	石	64	64	26	7SYR32	13	5		○			
38	SB45	P1	38	38	52	10YR40	5	7					
39	SB45	石	54	52	18	7SYR56, 2SYR56(焼上)	1	2		○			
40	SB5	P1	84	76	30	7SYR34	3	1		○			
41	SB5	P2	64	56	41	7SYR34	2	1		○			
42	SB5	P3	48	35	36	7SYR44	0	1					△
43	SB5	P4	72	68	36	7SYR46	3	0		○			
44	SB5	P5	56	56	18	7SYR34	13	3		○			オニグリミ
45	SB5	P6	32	20	13	7SYR34	0	0					△
45	SB5	P7	26	22	12	7SYR34	0	0					△
47	SB5	石	(85)	90	34	10YR36, 7SYR44	4	0		○			骨片
48	SB7	P1	28	28	21	7SYR46	1	0					
49	SB7	P2	34	32	20	7SYR41	2	3					△
50	SB7	P3	22	20	37	7SYR41	15	1		○			
51	SB7	P4	33	33	18	7SYR41	10	4		△			
52	SB7	P5	50	34	33	10YR42	14	8	△	△			
53	SB7	P6	18	18	20	2SYR4	3	0					
54	SB7	P7	22	20	13	2SYR50	0	0					
55	SB7	P8	22	22	11	2SYR50	0	0					
56	SB7	P9	18	17	18	10YR42	0	0					
57	SB7	LSK1	80	80	40	7SYR41	58	1	○				
58	SB7	石	48	40	18	2SYR33	23	0		○			
59	SB8	P1	40	28	21	10YR50	3	0		△			
60	SB8	P2	33	30	26	10YR50	0	0					△
61	SB8	P3	45	42	28	10YR50	16	3		○			
62	SB8	P4	33	30	26	10YR32	7	3		△			
63	SB8	P5	45	45	14	10YR32	24	5	△	△			
64	SB8	P6	46	46	18	10YR50	4	3	△	△			
65	SB8	P7	28	28	14	10YR50	0	1					△
66	SB8	P8	40	40	5	10YR50	0	1					
67	SB8	P9	43	38	12	10YR50	7	0					
68	SB8	P10	32	30	5	10YR50	0	1					
69	SB8	P11	33	26	12	10YR32	7	3	△	△			
70	SB8	P12	35	26	12	10YR50	2	1					骨片
71	SB8	P13	18	18	16	10YR50	1	1		△			
72	SB8	P14	40	24	30	10YR50	1	2					
73	SB8	P15	18	14	18	10YR52	4	1		○			
74	SB8	P16	33	(30)	10	10YR32	9	9					
75	SB8	P17	30	30	20	10YR50	0	0					
76	SB8	P18	(60)	57	26	10YR42	2	1					
77	SB8	P19	40	34	36	10YR50	4	3		△			
78	SB8	P20	35	32	15	10YR50	1	0		△			
79	SB8	P21	45	43	32	10YR50	1	1	○				

第2表 住居跡(SB)内ビット(P)等一覧表 2

No.	遺構名	長軸 幅員(cm)	幅員 深さ(cm)	土色	遺物数		備考	
					上花崗岩風化 中筋小斜坡削面中不明	△○		
80	SB8	P1	104	92	28	7.5YR3/2.5YR3/2.5YR5/6	57 4	△○
81	SB8	P2	100	88	16	7.5YR3/2.5YR3/2.5YR5/6	20 2	○△
82	SB8	P3	54	49	0	2.5YR5/6(焼上)	0 0	△
83	SB12	P1	53	49	35	10YR5/6	18 6	○△
84	SB12	P2	52	45	80	7.5YR2/2.7.5YR5/6	24 24	△○
85	SB12	P3	56	64	9	10YR4/12.5YR5/6(焼上)	1 0	△
86	SB9	P1	54	50	54	10YR4/2	15 7	△
87	SB9	P2	65	45	40	10YR4/2	15 6	△
88	SB9	P3	44	40	38	10YR4/2	3 2	△
89	SB9	P4	32	31	28	10YR4/2	11 2	△
90	SB9	P5	70	62	45	10YR4/2	30 19	○△
91	SB9	P6	26	26	20	10YR4/2	0 0	△
92	SB9	P7	22	22	15	10YR5/6	1 0	○△
93	SB9	P8	26	22	15	10YR5/6	0 0	△
94	SB9	P9	26	25	20	10YR5/6	0 0	△
95	SB9	P10	22	20	33	10YR5/6	0 0	△
96	SB9	P11	24	21	40	10YR5/6	0 1	△
97	SB9	P12	22	22	40	10YR5/6	0 1	△
98	SB9	P13	22	22	38	10YR5/6	0 2	△
99	SB9	P14	21	20	35	10YR5/6	0 2	△
100	SB9	P15	18	17	35	10YR5/6	0 2	△
101	SB9	P16	19	18	30	10YR5/6	0 1	△
102	SB9	P17	33	30	40	10YR5/6	2 0	△
103	SB9	P18	21	20	31	10YR5/6	0 0	△
104	SB9	P19	26	22	32	10YR5/6	2 3	△
105	SB9	P20	16	16	8	10YK5/3	0 0	△
106	SB9	P21	24	22	21	10YR5/6	0 0	△
107	SB9	P22	26	24	12	10YR5/6	0 0	△
108	SB9	P23	30	29	22	10YR4/2	2 3	△
109	SB9	P24	22	22	14	10YR5/6	2 0	△
110	SB9	P25	14	12	15	10YR5/6	0 0	△
111	SB9	P26	12	11	40	10YR5/6	1 0	△
112	SB9	P27	17	17	45	10YR5/6	2 1	△
113	SB9	P28	24	24	30	10YR4/2	1 0	△
114	SB9	P29	26	21	42	10YR4/2	2 0	△
115	SB9	P30	28	22	28	10YR4/2	3 3	△
116	SB9	P31	24	23	16	10YR4/2	0 0	△
117	SB9	P32	10	10	14	10YR2/2	0 0	△
118	SB9	P33	13	12	11	10YR3/2	1 0	△
119	SB9	P34	10	10	11	10YR3/2	0 0	△
120	SB9	P35	10	10	13	10YR3/2	0 0	△
121	SB9	P36	9	8	15	10YR3/2	0 0	△
122	SB9	P37	8	8	15	10YR4/2	0 0	△
123	SB9	P38	10	9	20	10YR3/3	14 1	△
124	SB9	P39	10	10	13	10YR2/2	0 0	△
125	SB9	P40	8	8	10	7.5YR3/2	0 0	△
126	SB9	P41	10	8	7	10YR3/2	0 1	△
127	SB9	P42	10	10	7	10YR4/2	0 0	△
128	SB9	P43	10	10	10	10YR3/2	0 0	△
129	SB9	P44	64	40	25	2.5YR4/2	5 1	△
130	SB10	P1	100	70	84	2.5YR5/6	7 10	△○
131	SB10	P2	60	50	55	2.5YR5/6	9 6	△
132	SB10	P3	42	34	35	2.5YR5/6	6 2	△
133	SB10	P4	40	35	56	10YR5/6	6 6	△○
134	SB10	P5	85	50	62	7.5YR5/6.10YR5/6.10YR4/2	6 4	△○
135	SB10	P6	70	60	15	10YR4/2.10YR5/6.5546(焼上)	6 4	△○
136	SB11	P1	34	42	27	2.5YR5/6	0 0	△
137	SB11	P2	30	27	17	2.5YR5/6	0 0	△
138	SB11	P3	67	59	24	2.5YR6/4	0 0	△
139	SB11	P4	48	43	22	2.5YR3/1	1 1	△
140	SB11	P5	53	53	15	2.5YR5/2	0 0	△
141	SB11	P6	(25)	(25)	(10)	SYR6(焼上)	0 0	△
142	SB10	P1	45	30	30	7.5YR3/5	0 1	△
143	SB10	P2	69	55	27	7.5YR3/5	0 0	△
144	SB10	P3	45	49	32	7.5YR3/5	0 0	△
145	SB10	P4	50	34	32	7.5YR3/5	1 0	△
146	SB13	P5	(28)	28	18	10YR4/2	0 0	△
147	SB13	P6	43	43	15	2.5YR5/4	0 0	△
148	SB13	SK	86	54	45	7.5YR3/5	0 0	△
149	SB13	P7	108	72	18	7.5YR3/5.7.5YR5/6(焼上)	0 0	△○
150	SB15	P1	38	38	27	2.5YR3/5	0 1	△
151	SB15	P2	21	20	6	2.5YR4/1	0 0	△
152	SB15	P3	33	(30)	20	10YR5/6	0 0	△
153	SB15	P4	(54)	(52)	(15)	10YR5/6	23 4	○○
154	SB15	P5	(72)	(60)	(12)	10YR5/6	49 0	○○
155	SB17	P1	60	(52)	36	7.5YR2/3.7.5YR3/4	0 3	△
156	SB17	P2	55	45	32	10YR3/4	0 0	△
157	SB17	P3	(60)	(60)	11	7.5YR3/5	0 1	△
158	SB18	P4	25	25	10	10YR5/2	0 0	△
159	SB18	P5	26	26	15	10YR5/4	2 1	△
160	SB18	P6	28	28	32	10YR5/2	11 0	△△
161	SB18	P7	30	18	14	10YR5/2	2 1	△
162	SB18	P8	18	18	20	10YR5/3	2 1	△
163	SB18	P9	(30)	30	40	10YR5/2	7 1	△
164	SB18	P10	(18)	18	10	10YR5/2	0 0	△

タリ

P4-5は灰巣

骨片

第2表 住居跡(SB)内ピット(P)等一覧表 3

No.	遺構名	規模(m)	土色	遺物数		時 期	考
				上層	中層		
165	SB18	Ø1	68 45 (12)	10YR52	240 7	○	
166	SB19	P1	45 30 18	10YR54	0 0	△	
167	SB19	P2	40 40 32	10YR54	6 10	△ △	
168	SB19	P3	45 44 52	10YR53	4 2	△	
169	SB19	P4	40 40 33	10YR44	3 11	△ △	
170	SB19	P5	34 28 30	10YR46	3 6	△	
171	SB19	P6	40 40 42	10YR46	2 3	△	
172	SB19	P7	36 34 25	10YR54	1 0	△	
173	SB19	P8	1 33 24	10YR54	0 6	△	
174	SB20	P1	26 24 28	7.5YR31	0 1	△	
175	SB20	P2	26 24 20	7.5YR31	0 2	△	
176	SB20	P3	26 24 21	7.5YR31	0 0	△	
177	SB20	P4	20 20 16	7.5YR31	0 0	△	
178	SB20	P5	60 48 (9)	7.7YR42 7.5YR56(壁上)	1 1	△	
179	SB21	P1	25 24 20	7.5YR31	2 0	△	
180	SB21	P2	25 25 20	7.5YR31	3 2	△	SIP1
181	SB21	P3	25 25 25	7.5YR31	6 2	○	SIP2
182	SB21	P4	[24] 24 16	7.5YR31	0 0	△	SIP4
183	SB21	P5	30 25 21	7.5YR31	18 8	△	SIP5
184	SB21	P6	28 22 18	10YR32	19 3	○	
185	SB21	P7	24 22 22	10YR53	21 0	○	
186	SB21	P8	30 30 20	10YR32	23 3	○	
187	SB21	P9	60 57 42	7.5YR42	90 11	△ ○	
188	SB21	P10	55 (37) 70	10YR54	45 0	△ ○	
189	SB21	P11	50 (40) 92	10YR43	73 8	△ ○	
190	SB21	P12	100 50 0	2.5YR66(壁上)	9 0	△ △	骨片
191	SB22	SK1	72 48 31	10YR54	35 7	△ ○	
192	SB22	SK2	70 50 38	10YR43 10YR46 10YR56(壁上)	47 7	△ △	
193	SB22	SK3	50 40 35	7.5YR31	58 5	△ ○	SIP7
194	SB22	SK4	45 45 33	7.5YR41	83 2	○	SIP8,木炭
195	SB22	SK5	72 72 62	10YR42	54 6	△ ○	7IP12
196	SB22	SK6	45 45 31	10YR42	42 1	○	7IP7,骨片
197	SB22	SK7	56 42 32	10YR42 7.5YR42 7.5YR56(壁上)	118 21	△ ○	
198	SB24	P1	36 25 35	10YR52	1 0	△	
199	SB24	P2	56 33 31	10YR54	23 9	○	骨片
200	SB24	P3	(42) 38 49	10YR43	5 4	○	
201	SB24	P4	60 48 46	10YR42	18 0	○	オニグモ3
202	SB24	P5	70 60 72	10YR42	30 17	○	
203	SB24	P6	37 30 58	10YR53	14 4	△	
204	SB24	P7	46 42 50	10YR42	12 3	○	
205	SB24	P8	34 30 48	10YR42	3 1	△	
206	SB24	P9	38 35 56	10YR42	4 0	△	
207	SB24	P10	[20] 26	10YR41	8 0	○	
208	SB24	P11	30 30 51	10YR42	3 0	△	
209	SB24	P12	40 40 57	10YR42	1 0	○	P12は灰面
210	SB24	P13	40 40 54	10YR42	4 2	○	
211	SB24	P14	50 50 68	10YR42	32 5	○	
212	SB24	P15	36 (60) 24	10YR36,10YR23	13 3	○	
213	SB25	P1	46 45 35	10YR42	16 5	△	
214	SB25	P2	44 43 36	10YR42	22 3	○	
215	SB25	P3	58 65 28	10YR42	79 10	△ ○	
216	SB25	P4	58 54 34	10YR42	22 1	△ ○	
217	SB25	P5	26 24 12	10YR42	3 0	△	
218	SB25	P6	28 28 39	10YR52	10 2	○	
219	SB25	P7	34 32 17	10YR43	4 0	△	
220	SB25	P8	26 26 31	10YR42	3 13	○	
221	SB25	P9	48 38 35	10YR34	9 5	△	
222	SB25	P10	21 19 10	10YR34	0 0	△	
223	SB25	P11	41 39 31	10YR34	10 0	△ △	
224	SB25	P12	66 59 12	10YR45	0 0	△	
225	SB25	P13	50 45 26	10YR34	4 1	△	
226	SB25	P14	(50) 45 11	10YR34	8 2	○	P14は灰面
227	SB25	P15	21 21 25	10YR34	0 0	△	
228	SB25	P16	39 36 45	10YR44	1 0	○	
229	SB25	P17	40 35 20	10YR44	0 0	△	
230	SB25	P18	61 51 25	10YR34, 10YR45, 10YR44	0 1	△ P11-SB25P3	
231	SB25	P19	46 44 19	10YR34	0 0	△	
232	SB25	P20	34 30 17	10YR34	3 0	△	
233	SB25	P21	23 20 5	10YR35	0 0	△	
234	SB25	P22	15 15 6	10YR36, 10YR46	0 0	△	
235	SB26	P16	53 53 15	10YR42	3 0	△	
236	SB26	P17	50 45 4	10YR45	1 0	△	
237	SB26	P18	124 92 24	10YR34, 10YR44	234 0	○	
238	SB26	P19	80 66 (19)	10YR45	17 1	○	骨片
239	SB27	P1	33 31 36	10YR52	0 0	△	
240	SB27	P2	40 (32) 14	10YR45	0 0	△	
241	SB27	P3	40 40 35	10YR53	27 3	△ △	
242	SB27	P4	70 65 26	10YR33	0 0	△	
243	SB27	P5	36 (25) 32	10YR53	0 0	△	
244	SB27	P6	64 36 8	10YR32	1 0	○	
245	SB28	P1	15 15 13	10YR42	0 0	△	
246	SB28	P2	28 24 11	7.5YR31	4 0	○	P2は灰面
247	SB28	P3	34 28 22	7.5YR31	12 3	○	骨片
248	SB28	P5	25 23 48	10YR42	2 0	△	
249	SB28	P6	25 20 24	10YR42	1 0	△	

第2表 住居跡(SB)内ピット(P)等一覧表 4

No.	遺構名	遺構(cm.)	上色	遺物数		特徴	備考
				上部	下部		
250	SB28	P7	22 20 9	10YR52	0 0	△	
251	SB28	P8	28 24 30	7.5YR31	2 3	△	
252	SB28	P9	25 24 12	7.5YR21	2 2	△	骨片
253	SB28	P10	30 (28) 6	10YR32	1 1	△	△ P11は欠番
254	SB28	P11	20 20 12	10YR32	1 1	△	
255	SB28	P12	28 25 14	10YR32	7 0	△ △	
256	SB28	P14	21 20 12	10YR32	1 1	△	
257	SB28	P15	36 34 22	10YR32	11 0	△ △	
258	SB28	P16	(36) 36 50	10YR32	13 3	△ △	
259	SB28	P17	52 32 32	10YR31	35 4	△	
260	SB28	P18	(44) 45 36	10YR32	32 6	△ ○	SB39P1
261	SB28	SK	64 62 90	10YR32	104 11	○	骨片, オニグマ? トゾノ?
262	SB28	壁土	39 37 0	SYR56(壁上)	0 0	△	
263	SB29	P1	46 46 40	10YR54	5 0	△	
264	SB29	P2	50 45 38	10YR53	9 0	△	
265	SB29	P4	47 40 43	10YR53	1 0	△	△ P3は欠番
266	SB29	P5	40 37 15	10YR54	0 0	△	
267	SB29	P7	73 50 43	10YR52	3 6	△	P6-SB39P1
268	SB29	P8	42 40 15	10YR43	1 1	△	
269	SB29	P9	26 (24) 15	10YR32	30 7	△ △	骨片
270	SB29	P10	54 50 38	10YR54	23 4	○	
271	SB29	LSK	100 (70) 22	10YR54	2 0	△	
272	SB29	壁土	80 (60) 22	10YR46, SYR56(壁上)	○		
273	SB30	P1	38 38 30	10YR53	2 3	○	
274	SB30	P2	28 28 26	10YR42	0 0	△	
275	SB30	P3	28 30 53	10YR42	1 0	△	
276	SB30	P4	19 17 47	10YR53	0 0	△	
277	SB30	P5	29 (18) 25	10YR53	2 0	△	
278	SB30	P6	20 18 23	10YR53	1 0	△	
279	SB30	P7	20 20 22	10YR53	0 0	△	
280	SB30	P8	45 38 51	10YR42	4 7	△	
281	SB30	P9	18 16 32	10YR53	0 0	△	
282	SB30	P10	20 18 37	10YR32	7 0	△	
283	SB30	P11	(80) 54 30	10YR32	32 2	○	
284	SB30	壁土	56 40 0	SYR68(壁上)	9 0	○	
285	SB31	P1					SB33P13
286	SB31	P2	54 42 44	10YR42, 2.5YR54	43 16	△ △	骨片
287	SB31	P4	30 27 23	10YR42	16 2	△ △	
288	SB31	P5	45 42 28	2.5YR3	51 9	○	
289	SB31	P6	34 39 12	10YR42	4 1	△	
290	SB31	P7	47 40 25	2.5YR42	33 2	△ △	
291	SB31	P8	30 25 6	10YR42	1 0	△	
292	SB31	P9					SB33P15
293	SB31	P10					SB33P16
294	SB31	P11					SB33P17
295	SB31	P12					SB33P18
296	SB32	P1	48 42 22	10YR32, 2.5YR56	30 0	○	
297	SB32	P2	50 50 35	10YR42	31 5	○	
298	SB32	P2	62 50 66	10YR52	69 5	△ ○	骨片
299	SB32	P3	30 24 8	10YR42	1 0	△	
300	SB32	P4	54 40 36	10YR42	4 0	△	
301	SB32	P5	45 42 31	10YR32	16 0	△	
302	SB32	P6	55 50 41	10YR32	73 5	△ △	
303	SB32	P7	17 17 8	10YR32	0 0	△	
304	SB32	P8	30 30 22	10YR42	3 4	△	
305	SB32	P9	25 25 15	10YR42	0 0	△	
306	SB32	P10	64 50 45	10YR42	28 2	△	
307	SB32	SK1	96 72 24	10YR52, 10YR42	45 11	△ ○	コナラ属, トゾノ?
308	SB32	SK2	125 63 45	10YR52	63 7	△ ○	
309	SB32	P1	85 (60) 22	10YR42, 2.5YR56(壁上)	6 1	△ ○	
310	SB33	P1	48 48 30	10YR31	23 6	△ ○	クリ
311	SB33	P2	25 22 25	10YR42	6 0	△	
312	SB33	P3	26 25 26	10YR42	16 2	△ △	
313	SB33	P4	16 16 30	10YR42	2 0	○	土偶片(右腕)
314	SB33	P5	28 26 29	7.5YR42	11 0	△ △	
315	SB33	P6	18 18 28	10YR42	7 0	△	
316	SB33	P7	23 21 18	2.5YR42	3 0	△	
317	SB33	P8	45 45 30	10YR2/1	44 0	△	骨片, コナラ属
318	SB33	P9	24 22 35	10YR2/1	40 2	○	
319	SB33	P10	22 20 11	2.5YR2	8 1	△	
320	SB33	P11	30 26 14	10YR31	6 0	△	
321	SB33	P12	34 32 35	10YR43	8 2	△	
322	SB33	P13	33 30 37	2.5YR2	56 3	○	
323	SB33	P14	35 34 34	7.5YR42	90 8	○	
324	SB33	P15	30 27 39	10YR31	31 2	○	
325	SB33	P16	28 24 32	10YR2/1	95 1	○	
326	SB33	P17	45 40 30	10YR43	21 5	○	
327	SB33	P18	62 50 12	7.5YR32	7 2	○	
328	SB33	P19	25 17	7.5YR40	16 1	△ △	THP4
329	SB33	P20	35 32 26	7.5YR4/1	17 1	○	THP5
330	SB33	P21	69 48 24	7.5YR32	21 0	○	THP6
331	SB33	P21	(60) 28	5YR2/1, 10YR54	45 4	○	
332	SB34	P1	36 35 36	10YR33	0 0	△	
333	SB34	P2	34 34 12	10YR3/2	0 0	△	

第2表 住居跡(SB)内ビット(P)等一覧表 5

No.	遺構名	測定値(cm)			土色	遺物数	時 期	状 況	考 察	
		床板	規範	測定						
329	SB34	P3	42	42	22	10YR4/4	6	△		
330	SB34	P4	32	20	33	10YR4/3	0	○		
331	SB34	P5	34	34	20	10YR4/2	3	○		
332	SB34	P6	50	38	15	10YR4/2	6	○		
333	SB34	SK1	78	(60)	86	10YR4/3	19	1	○ △	
334	SB34	SK2	80	(50)	25	10YR4/2	35	3	△ ○	
335	SB35	P1	27	24	18	7.5YR5/2	0	○		
336	SB35	P2	23	23	20	7.5YR3/1	0	○		
337	SB35	P3	24	24	26	10YR5/3	3	0	△	
338	SB35	P4	24	24	14	5YR4/2	1	0		
339	SB35	P5	24	24	6	7.5YR3/2	5	0	△ □	
340	SB35	P6	1	43	30	25	7.5YR3/2	5	0	○
341	SB36	P2	40	38	28	10YR5/2	18	3	△	
342	SB36	P3	55	51	42	10YR5/2	16	2	△ ○	
343	SB36	P4	32	(25)	9	10YR5/2	1	0		
344	SB36	P5	35	39	12	10YR5/2	2	1	○	
345	SB36	P6	72	57	27	10YR4/2	36	0	△ ○	
346	SB36	P7	30	30	7	10YR3/1	10	1	○	
347	SB36	P8	33	(30)	22	10YR5/3	25	5	△ □	
348	SB36	P9	47	40	39	7.5YR4/2	30	6	△ □	
349	SB36	P10	30	30	20	7.5YR4/2	9	0		
350	SB36	P11	33	(30)	16	7.5YR4/2	3	0		
351	SB36	P12	40	38	32	10YR5/3	36	2	△ ○	
352	SB36	P13	(33)	(24)	34	7.5YR3/1	10	1		
353	SB36	P15	29	20	26	10YR3/3	1	1	△	
354	SB36	P16	22	18	27	10YR4/3	5	1	△ □	
355	SB36	SK1	78	72	25	10YR3/2	41	1	△ □	
356	SB36	SK1	84	(64)	28	10YR4/2, 10YR5/3 (後上)			骨片	
357	SB42	P1	77	50	20	10YR5/2, 10YR6/1 (後上)			△	
358	SB37	P1	32	30	8	7.5YR4/1	2	2	○	
359	SB37	P2	35	35	24	7.5YR4/1	8	0	△ ○	
360	SB37	P3	40	35	12	7.5YR4/1	9	2	△ ○	
361	SB38	P1	21	18	18	10YR4/1	1	0		
362	SB38	P2	25	19	25	10YR5/4	0	0		
363	SB38	P3	22	22	28	10YR5/5	0	0		
364	SB38	P4	34	30	15	10YR5/2	0	0		
365	SB38	P5	26	25	17	10YR5/2	0	0		
366	SB38	P6	21	21	23	10YR5/2	0	0		
367	SB38	P7	24	24	18	10YR5/3	0	0		
368	SB38	P8	20	20	26	10YR5/4	0	0		
369	SB38	P9	23	(20)	11	10YR5/2	0	0		
370	SB38	P10	19	19	10	7.5YR4/1	0	0		
371	SB38	P11	45	33	16	10YR4/1	5	0		
372	SB38	SK1	133	95	23	10YR4/2	33	8	○	
373	SB38	SK2	62	51	30	2.5YR5/4	12	0		
374	SB38	SK3	83	75	18	10YR4/2	13	1	○	
375	SB38	SK4	54	43	16	10YR5/4	0	1		
376	SB39	P2	30	27	24	10YR5/3	3	0		
377	SB39	P3	74	(47)	62	10YR5/3	43	1		
378	SB39	P4	46	40	56	10YR4/2	14	3	△	
379	SB39	P5	70	40	50	10YR4/3	27	1	○	
380	SB39	P6	41	41	13	7.5YR4/2	3	3	△	
381	SB40	P1	69	32	45	10YR4/2	1	0		
382	SB40	P2	28	26	18	10YR5/3	0	0		
383	SB40	P3	40	36	42	10YR5/3	9	1	△	
384	SB40	P4	70	45	30	10YR7/3	2	0		
385	SB40	P5	30	24	12	7.5YR4/1	4	0	△	
386	SB41	P1	34	33	18	7.5YR5/3	0	0		
387	SB41	P2	32	30	8	7.5YR5/2	2	0		
388	SB41	P3	26	25	23	7.5YR5/3	2	0		
389	SB41	P4	24	22	4	5YR5/2	0	0		
390	SB41	P5	23	22	28	7.5YR5/3	1	0		
391	SB41	P6	28	26	6	7.5YR4/2	2	0		
392	SB41	P7	62	40	38	10YR5/4	17	3	△	
393	SB41	P8	33	33	31	7.5YR4/2	9	0		
394	SB41	P9	25	24	50	7.5YR4/1	3	3		
395	SB41	P10	(50)	(50)	(14)	10YR5/2, 5YR5/3 (後上)			△ KP3	
396	SB44	P1	38	34	15	7.5YR4/2	7	3		
397	SB44	P2	35	34	12	10YR5/3	0	0		
398	SB44	P3	54	45	54	10YR4/2	13	4	△ □	
399	SB44	P4	27	(20)	18	10YR4/3	2	1		
400	SB44	P5	35	27	20	10YR5/4	1	0		
401	SB44	P6	23	22	25	10YR5/4	0	0		
402	SB44	P7	30	29	35	10YR4/2	16	3		
403	SB44	P8	20	20	21	10YR5/3	1	0		
404	SB44	P9	40	39	32	10YR4/2	2	0		
405	SB44	P10	39	18	21	10YR5/3	2	1		
406	SB44	P11	(50)	43	32	10YR4/4	12	1	○	
407	SB44	P12	50	(45)	18	10YR4/4	5	0	△	
408	SB44	SK1	98	64	64	10YR5/3, 10YR6/4				
409	SB44	SK1	72	72	38	10YR54/5, 10YR66 (後上)			△ □	

54 第3章 遗憾与遗物

第3表 SK・P一覧表 1

第3表 SK・P一覧表 2

No.	遺物名	規格(cm)		上色	灰(㎜)	遺物数	時	期	備考
		長軸	幅						
77	SK78 SB35	96	90	50	7.5YR4/1	2.5	17	5	○
78	SK79 SB35	132	120	61	7.5YR4/2	5	29	8	○
79	SK80 SB36	56	50	32	SYR4/1, 7.5YR6/1-7.5YR6/2	10.20	17	2	○
80	SK81 71	80	78	31	7.5YR4/2	5	7	0	△
81	SK82 71	107	100	54	7.5YR4/2, 10YR54	2.3	41	4	○
82	SK83 7K	100	89	65	10YR4/3	5	48	4	△ △
83	SK84 7K	110	(80)	52	10YR4/2	5	56	10	△ ○
84	SK85 7K	76	(66)	36	10YR4/3, 10YR52	2.5	24	6	△ ○
85	SK86 7K	75	50	70	10YR4/2, 10YR54	2.3	12	0	○
86	SK87 7K	86	58	67	10YR4/2, 10YR54	2.3	13	3	△
87	SK88 SB27	138	106	88	10YR53	5	150	23	△ ○
88	SK89 71	64	63	70	10YR4/2	2.3	73	9	△ ○
89	SK90 71	62	57	79	10YR4/2	2.5	95	5	○
90	SK91 71	125	92	38	10YR4/3	2.3	16	7	○
91	SK92 71	120	112	72	2.5YR2/2, 2.5YR6/4	2.5	1067	70	△ ○
92	SK93 SB42	112	94	70	10YR3/3, 10YR54	2.35	47	△	石縫片、クリ 骨片、SB42唯要
93	SK94 8L	118	80	45	7.5YR4/2	2.5	70	8	○
94	SK95 7L	76	65	40	7.5YR4/1	2.5	18	1	○
95	SK96 71	94	(62)	23	10YR4/2	2.3	1	1	△
96	SK97 71	(112)	94	50	10YR3/3	2.5	48	32	○
97	SK98 71	124	72	30	10YR4/2	2.5	135	45	△ ○
98	SK99 71	90	63	40	10YR4/2	2.5	57	6	△ △
99	SK100 71	(145)	94	25	10YR4/4	2.5	42	3	△ ○
100	SK101 71	108	94	68	10YR5/3, 10YR54	5.10	616	36	○
101	SK102 71	130	90	68	10YR4/3, 10YR5/3	5.10	78	5	△ △
102	SK103 71	95	52	14	10YR4/2	2.3	9	0	△
103	SK104 71	70	55	56	10YR53	2.5	64	2	△ △
104	SK105 SB35	120	75	38	10YR3/2	2.5	101	11	△ ○
105	SK106 SB36	86	(40)	(25)	10YR4/2	10.20	5	2	○
106	SK107 71	75	(50)	30	10YR3/3	1.2	15	2	○
107	SK108 71	60	58	68	10YR4/2	2.3	29	6	○
108	SK109 71	80	50	56	10YR4/4	2.5	30	8	○
109	SK110 71	84	(45)	20	7.5YR3/3	1.2	0	0	△
110	SK111 71	125	100	39	10YR3/3	1.2	2	1	○
111	SK112 71	85	75	54	10YR4/3	2.5	92	6	△ △
112	SK113 71	(64)	50	45	10YR54	2.3	33	1	○ □
113	SK114 71	74	63	48	10YR4/3	2.5	114	20	△ ○
114	SK115 7K	116	90	46	10YR4/3	2.5	14	0	△ △
115	SK116 7K	106	81	80	10YR4/2	2.5	67	5	○
116	SK117 7L	110	88	50	10YR4/2, 10YR7/4	5.10	83	13	○
117	SK118 SB27	110	105	73	10YR4/2	5.10	256	26	△ ○
118	SK119 SB27	75	64	34	10YR4/3	2.5	53	6	△ ○
119	SK120 SB39	85	48	40	10YR4/3	2.5	28	8	△ ○
120	SK121 SB39	110	63	55	10YR52	2.5	45	14	△ ○
121	SK122 SB39	70	50	38	10YR53	2.5	26	14	○
122	SK123 SB36	94	75	20	10YR52	2.3	38	3	△ ○
123	SK124 SB36	110	90	34	10YR4/2	2.5	70	8	△ ○
124	SK125 SB36	107	75	70	10YR53	2.3	66	12	△ ○
125	SK126 SB36	94	60	47	10YR53	2.3	46	11	○
126	SK127 SB36	70	(60)	38	10YR4/3	2.5	89	11	○ □
127	SK128 71	(95)	87	62	10YR53	5.10	228	35	△ △
128	SK129 SX9	168	136	74	10YR3/2				骨片
129	SK130 SX9	72	(56)	62	10YR4/2		88	11	△ △
130	SK131 SX9	(80)	(56)	56	10YR54				
小計									
1	6H P1	62	62	6	7.5YR4/3	1	11	3	△
2	7H P1	80	65	24	10YR4/3	2.3	26	5	△ △
3	7H P2	73	62	26	10YR4/3	5.10	34	9	△ △
	TH P3	32	30	12	7.5YR3/2	2.5			
	TH P4	25	25	17	7.5YR4/1	2.5			
	TH P5	35	32	26	7.5YR4/1	2.3			
	TH P6	60	48	24	7.5YR3/2	2.3			
4	7H P7	18	18	32	10YR2/2	2.3	11	1	○
5	7H P8	(28)	29	28	2.5YR4/3	2.5	13	18	△ ○
6	7H P9	75	55	40	10YR4/3	2.5	30	6	△ ○
7	7H P10	40	30	10	10YR4/3	2.3	10	0	○
8	7H P11	60	55	42	10YR4/0	2.3	29	1	○
9	7H P12	40	40	24	10YR4/3	2.3	15	1	○
10	7H P13	30	(23)	14	10YR4/0	2.3	29	0	○
11	7H P14	66	60	30	10YR3/0	1.2	41	2	○ □
12	7H P15	30	30	15	10YR4/0	1.2	3	0	○
13	6L P1	42	28	40	10YR3/2	5	7	3	○
14	6L P2	84	76	30	10YR5/3	5	15	0	○
15	6L P3	30	22	24	10YR4/1	2.3	8	0	○
16	6L P4	53	45	10	10YR3/6	2.3	0	0	△
17	6L P5	(39)	35	37	10YR3/2	2.3	12	1	△
18	6L P6	43	36	10	10YR3/2	2.3	18	4	△

第3表 SK・P-観表 3

No.	遺傳名	規模(cm)	土色	底面	遺物数	時空				備考
						(上層)	石器	中層	下層	
19	61 P7	37 32 23	10YR3/2	2.3 6 0	○					
20	61 P8	35 24 20	10YR3/2	2.3 24 1	○					
21	61 P9	20 18 26	10YR3/2	2.3 2 0					△	
22	61 P10	37 31 20	10YR5/2	2.3 2 6					△	
23	61 P11	64 56 12	10YR5/2	2.3 4 0		△	△			
24	61 P12	68 65 34	10YR5/4	2.3 19 0	○					
25	61 P13	32 26 33	10YR3/2	2.3 3 0					△	
26	61 P14	30 25 12	10YR4/1	5 1 0	○				△	
27	61 P15	38 32 33	2.5Y5/3	2.3 8 0	○				△	
28	61 P16	30 25 35	10YR5/2	2.3 0 0					△	
29	61 P17	77 42 63	10YR5/2	2.3 3 8					△	
30	61 P18	60 (40) 38	10YR5/2	2.3 3 1					△	
31	61 P19	50 37 22	10YR5/3	5.10 3 1					△	
32	61 P20	70 37 35	10YR4/3	5.20 5 1					△	
33	61 P21	64 46 30	10YR4/2	2.3 5 4					△	
34	61 P22	50 45 74	2.5Y5/3	2.3 10 0					△	
35	61 P23	37 33 42	2.5Y5/3	2.3 0 0					△	
36	61 P24	32 30 44	2.5Y5/3	2.3 0 0					△	
37	61 P25	58 50 52	7.5YR5/2	2.5 8 4	△					サニダルミ
38	61 P26	42 32 13	7.5YR4/2	2.5 5 0	○					
39	61 P27	70 60 42	10YR5/4	2.5 9 1	○					
40	71 R1	70 65 7	10YR4/2, 2.5YR6/5(城上)	2.3 31 3	△ △					
41	71 P1	62 31 25	10YR4/3	1.2 10 4	△					
42	71 P2	28 28 31	2.5Y3/2	2.3 31 4	○					打製石系陶器
43	71 P3	33 30 30	10YR3/2	1.2 18 3	○					
44	71 P4	34 34 11	10YR4/2	5 0 0					△	SK81の上層
45	71 P5	35 35 14	7.5YR2/2	2.3 6 0					△	
46	71 P6	(37) 36 16	7.5YR5/2	2.3 0 0					△	SB23P4
71 P7	45 40 42	10YR2/1	5							
47	71 P8	65 65 60	10YR5/3	2.3 13 3	△	○				
48	71 P9	55 50 68	2.5Y4/2	2.5 99 6	△	○				骨片
49	71 P10	34 30 21	10YR4/2	2.3 11 0					△	
50	71 P11	22 21 20	2.5Y3/2	1.2 2 0	○					
51	71 P12	48 44 10	10YR4/2	2.3 11 2	○					
52	71 P13	34 27 22	10YR4/3	2.3 11 0					△	
53	71 P14	56 50 38	10YR4/3	1.2 26 5	△	○				
54	71 P15	50 33 38	10YR4/2	2.3 23 1	△ △	△				
55	71 P16	60 60 47	10YR4/3	2.3 62 5	△ △	△				
56	71 P17	26 26 22	10YR4/3	2.3 7 0	△	△				
57	71 P18	42 40 38	2.5Y3/2	2.3 75 4	△	△				
58	71 P19	40 40 48	10YR4/3	2.5 6 3	○					
59	71 P20	24 21 11	10YR4/3	1.2 0 0					△	
60	71 P21	30 24 21	10YR5/3	1.2 2 0					△	
61	71 P22	24 22 13	10YR4/3	2.3 0 0					△	
62	71 P23	(60) (45) 24	10YR4/2	2.3 9 0					△	
63	71 P24	45 32 20	10YR4/3	2.5 8 0					△	
64	71 P25	50 45 35	10YR5/3	2.3 4 1	○					
65	71 P26	33 30 17	10YR4/2	1.2 21 2	○					
66	71 P27	60 42 36	10YR4/3	2.5 17 2					△	
67	71 P28	68 43 17	10YR4/3	2.3 14 3	○					
68	71 P29	30 30 12	10YR4/2	2.5 4 0					△	
69	71 P30	50 50 44	10YR4/2	2.5 26 5	△ △	△				
70	71 P31	73 63 60	10YR4/3	2.5 15 2	○					
71	71 P32	68 (55) 57	10YR4/3	5 4 2					△	
72	71 P33	(36) 34 45	10YR3/2	2.3 35 1	△ △	△			SK93と一部重複	
73	71 P34	37 31 29	10YR4/2	1.2 3 1	△	△				
74	71 P35	28 (20) 34	10YR4/3	2.3 12 3	△ △	△			骨片	
75	71 P36	57 35 29	10YR4/4	2.3 0 0	○					
76	71 P37	(30) 28 26	10YR4/3	2.3 0 0					△	
77	71 P38	28 26 28	10YR4/2	2.3 0 0					△	
78	71 P39	56 50 24	10YR5/3	2.3 0 0					△	
79	71 P40	50 38 28	10YR4/2	2.3 0 0					△	
80	81 P1									S821P1
	81 P2									S821P2
	81 P3									S821P3
	81 P4									S821P4
	81 P5									S821P5
81 P6	52 46 30	10YR3/2	5 79 10	○						S823P1
81 P7										
81 P8	44 44 20	7.5YR3/1	5 0 1							△
81 P9	64 56 32	7.5YR3/1	2.3 14 2							△
81 P10	39 30 28	7.5YR4/1	2.3 8 0							△
84	81 P11	(65) 42 16	10YR4/2	2.5 11 3					△	
85	81 P12	42 34 34	10YR4/2	5 0 0					△	
86	81 P13	40 28 26	10YR4/2	2.3 42 8					△	
87	81 P14	50 50 48	10YR4/2	2.3 12 3	△ △	△				
88	81 P15	(50) 40 46	10YR4/2	2.5 55 8	○					

第3表 SK・P一覧表 4

No.	遺構名	規模(cm)	上色	灰 (mm)	遺物数				備考
					上	下	左	右	
89	SI P16	35 30 52	10YR4/3	2.3	14	1	△	○	
90	SI P1	73 50 43	10YR4/1, 2, 5Y6/3		15	7		○	獨立柱建物跡 獨立柱建物跡
91	SI P2	75 54 52	10YR4/1	10	25	6		○	
92	SI P3	41 41 59	7.5YR4/1	5	7	0		△	
93	SI P4	33 22 8	10YR3/2	2.3	0	1		△	
	SI P5								欠番
94	SI P6	22 22 23	10YR3/2	2.3	0	0		△	
95	SI P7	50 31 36	10YR3/2	5	3	0		△	
96	SI P8	(38) 22 20	10YR3/3	5	1	0		△	
97	SI P9	22 20 23	10YR3/3	2.3	1	0		△	
	SI P10								欠番
98	SI P11	32 30 27	7.5YR4/1	5	0	0		△	
99	SI P12	50 45 33	7.5YR4/1	5	11	2		△	
100	SI P13	62 62 24	10YR2/2	2.3	11	1		△	
101	SI P14	45 40 18	7.5YR3/2	2.3	1	0		△	
102	SI P15	60 57 20	10YR5/3	10	0	0		△	
103	SI P16	35 33 12	2.5Y5/2	2.3	4	0	△		
104	SI P17	40 29 23	10YR4/4	2.3	8	1		△	
105	SI P18	58 52 10	10YR7/6	2.3	0	0		△	
106	SI P19	24 22 8	10YR3/1	5	0	0		△	
107	SI P20	21 21 6	7.5YR3/1		0	0		△	
108	SI P21	25 24 5	7.5YR4/1	2.3	0	0		△	
109	SI P22	30 30 26	10YR4/1	2.3	8	3	○		
110	SI P23	52 45 22	10YR4/1	5	4	0		△	
	SI P24								欠番
111	SI P25	28 26 7	7.5YR3/2	2.3	7	0		△	
112	SI P26	25 22 5	7.5YR3/2		0	0		△	
113	SI P27	40 27 32	7.5YR5/2	5	0	0		△	
114	SI P28	55 49 12	10YR5/2	2.3	0	0		△	
115	SI P29	35 33 20	10YR4/1	2.3	0	1		△	
116	SI P30	38 38 26	10YR4/1	2.3	1	1		△	
117	SI P1	56 52 31	10YR4/1	10	30	25	○		獨立柱建物跡 獨立柱建物跡
118	SI P2	64 48 40	10YR4/1		18	7		△	
119	SI P3	40 40 30	10YR5/2	5	10	6	○		
120	SI P4	24 20 24	7.5YR5/0	2.3	2	1		△	
121	SI P5	34 30 15	7.5YR5/0		4	0		△	
122	SI P6	58 58 16	10YR4/4	2.3	0	0		△	
123	SI P7	42 40 13	10YR4/2	2.3	8	1		△	
124	SI P8	38 38 32	10YR4/2	2.3	57	8	○		
125	SI P9	56 38 34	10YR4/2	2.5	10	2		△	
126	SI P10	20 18 22	10YR4/3	2.3	5	0		△	
127	SI P11	30 25 18	10YR5/4	1.2	3	1		△	
	SI P12								SB23P3
128	SI P13	56 50 43	10YR4/3	2.3	10	4		△	
129	SI P14	40 40 84	10YR3/1	2.3	35	4	○		
130	SI P15	42 34 16	10YR4/2	1.2	19	3		△	
131	SI P16	47 45 22	10YR4/3		8	2		△	
132	SI P17	43 40 52	10YR4/2	2.3	13	1		△	
133	SI P18	70 63 25	10YR4/2	2.3	22	3	△ △		骨片
134	SI P19	38 38 18	10YR5/4	1.2	2	0		△	
135	SI P20	60 60 27	10YR5/4	2.3	2	1		△	
136	SI P21	56 52 24	10YR4/3	1.2	3	0	○		
137	SI P22	70 67 16	7.5YR4/2	2.3	4	1		△	
138	SI P23	44 38 22	10YR5/3	2.3	1	3	○		
139	SI P24	62 60 43	10YR3/2	5.10	16	1	△ ○		
140	SI P25	64 54 65	10YR3/2	5.10	64	9	○		
141	SI P26	35 33 15	10YR3/2	2.3	3	0	○		
142	SI P27	64 56 21	10YR4/3	2.3	5	1		△	
143	SI P28	69 63 16	10YR3/2	2.3	0	1		△	
144	SI P29	56 56 23	10YR4/3	1.2	0	0		△	
145	SI P30	50 48 41	10YR4/3	1.2	0	0		△	
146	SI P31	50 45 18	10YR4/3	1.2	0	0		△	
147	SI P32	(70) 66 17	10YR3/4	2.3	3	6		△	
148	SI P33	40 38 28	10YR5/4	2.5	5	1		△	
149	SI P34	40 38 31	10YR4/2	2.3	11	2	△ △		
150	SI P35	30 30 12	10YR4/2	1.2	1	2		△	
	SI P36								欠番
151	SI P37	48 46 32	10YR5/4	1.2	14	1		△	
152	SI P38	43 33 48	10YR5/3	1.2	1	2		△	
153	SI P39	62 52 46	10YR4/2	2.3	1	0		△	
154	SI P40	42 38 12	10YR4/3	1.2	2	0		△	
155	SI P41	32 32 25	10YR4/3	2.3	5	0		△	
156	SI P42	35 35 20	10YR4/3	2.3	1	0		△	
157	SI P43	38 31 18	10YR4/3		3	0		△	
158	SI P44	31 25 24	10YR4/3		5	1	○		
159	SI P45	30 30 30	10YR4/3	2.5	3	1		△	
160	SI P46	30 28 32	10YR4/4	2.3	2	3		△	

第3表 S K · P 一覧表 5

No	遺構名	断面(㎝)	土色	遺物数				参考
				上部	石器	中層	後期(後)不明	
161	71_P47	38 36	18	10YR4/3	2.5	0	0	△
162	71_P48	43 (40)	18	10YR4/4	1.2	1	0	△
163	71_P49	(40) 38	47	10YR4/3	1.2	8	1	△
164	71_P50	43 40	66	10YR4/3	2.3	17	0	△
165	71_P51	87 67	50	10YR4/3	2.3	25	11	○
166	71_P52	42 40	54	10YR4/3	5.10	7	2	○
167	71_P53	50 50	46	10YR4/3	1.2	12	3	△ △
71_P54								欠番
168	71_P55	52 46	77	10YR4/2	2.3	10	2	△
169	71_P56	43 38	53	10YR3/3	5	20	22	○
170	71_P57	50 44	82	10YR4/2	2.3	18	7	○
81_P1	56 50	22	10YR5/3	2.4	4	△ △		
172	81_P2	50 40	23	10YR5/3	2.0	5		△
173	81_P3	20 15	20	10YR5/3	0	0		△
174	81_P4	28 25	24	10YR5/3	2	2		△
175	81_P5	68 63	75	7.5YR4/1, 10YR5/3	5	155	19	△ ○
81_P6								SB23P2
176	81_P7	80 60	24	10YR3/2	2.3	93	15	○
177	81_P8	74 69	66	10YR5/4	5	116	13	△ △ 骨片
178	81_P9	42 40	11	7.5YR3/1	2.3	1	1	○
179	81_P10	52 44	15	10YR5/3	2.3	2	3	○
180	81_P11	40 26	27	10YR4/2	2.3	12	4	○
181	81_P12	36 32	25	10YR4/2	2.3	37	1	△
81_P13								欠番
182	81_P14	66 60	65	10YR4/4	2.3	52	3	△ △ 骨片
183	81_P15	63 56	18	10YR4/4	2.3	7	0	△
184	81_P16	30 30	24	10YR5/6	1.2	3	13	△
185	81_P17	50 44	40	10YR4/3	2.5	10	3	△
186	91_P1	45 36	10	10YR4/2	5	1	1	△
187	91_P2	38 33	28	10YR4/2	5	5	2	△
188	91_P3	49 37	34	10YR5/3	5	28	14	○
189	91_P4	30 28	20	10YR5/5	0	1		△
190	91_P5	67 66	13	10YR5/4	10	2	1	△
191	91_P6	36 33	36	10YR4/2	2.3	5	6	○
192	91_P7	33 31	16	10YR4/2	2.3	3	5	△
193	91_P8	40 30	17	10YR4/2	2.3	4	2	△
194	91_P9	20 20	11	10YR4/2	5	0	0	△
195	91_P10	20 16	9	10YR4/2	5	0	0	△
196	91_P11	17 16	9	10YR4/2	5	2	0	△
197	91_P12	17 16	6	10YR4/2	5	2	0	△
198	91_P13	21 20	8	10YR3/2	1	6	1	△
199	91_P14	20 19	22	10YR4/2	2.3	0	0	△
200	91_P15	38 31	50	10YR5/3	8	6		△
201	91_P16	25 23	15	10YR5/3	5	0	0	△
202	91_P17	38 32	12	10YR5/3	1	3	1	△
203	91_P18	(44) 30	32	10YR4/2	5	5	3	△
204	91_P19	38 28	17	2.5YR3/3	2.3	2	2	○
205	91_P20	35 32	12	10YR4/2	5	0	1	△
206	91_P21	31 27	20	10YR4/2	6	11	△ △	
207	91_P22	20 20	10	10YR4/2	3	0		△
208	91_P23	52 45	27	10YR4/2	5	7	10	△
209	91_P24	31 25	8	10YR4/1	5	1	1	△
210	6K_P1	60 55	26	10YR3/3	5	6	1	△
211	6K_P2	30 24	24	10YR4/2	5	13	0	△ △
212	6K_P3	53 50	26	7.5YR4/2	2	0	△	
213	6K_P4	50 32	32	10YR4/3	2.3	4	1	△
214	6K_P5	40 38	32	10YR3/2	5	2	6	△
215	6K_P6	35 33	24	10YR4/2	2.3	2	0	△
216	6K_P7	50 48	16	10YR3/2	2.3	3	0	△
217	6K_P8	77 53	59	10YR3/2	2.3	43	6	△ △
218	6K_P9	50 48	28	10YR3/2	2.3	39	5	△
219	6K_P10	52 52	16	10YR4/2	8	0		△
220	6K_P11	38 28	27	10YR3/2	5	6	0	△
221	6K_P12	74 60	20	10YR4/1	5	1		△
222	6K_P13	42 40	22	10YR4/1	2.3	2	0	○
223	6K_P14	40 40	21	10YR3/2	2.3	5	2	△ △
224	6K_P15	33 36	12	10YR3/2	2.3	2	0	△
225	6K_P16	33 27	18	10YR3/2	2.3	2	1	△
226	6K_P17	25 21	12	10YR4/1	2.3	0	0	△
227	6K_P18	50 45	19	10YR4/1	5	3	0	△
228	6K_P19	26 22	11	10YR4/2	2.3	4	1	○
229	6K_P20	45 30	12	7.5YR4/1	2.3	0	1	△
230	6K_P21	35 27	11	7.5YR4/1	2.3	2	0	△
231	6K_P22	45 45	16	7.5YR4/1	2.3	0	0	△
232	6K_P23	50 42	22	7.5YR4/1	5	5	2	△
233	6K_P24	36 36	17	7.5YR4/1	2.3	0	0	△
234	6K_P25	36 34	24	7.5YR4/1	2.3	4	1	△

第3表 SK・P一覧表 6

No.	遺構名	規模(cm)		土色	灰 (mm)	遺物数	時 期				考 査
		長軸	短軸				上部	石器	中前	中後	
235	6K P26	30	30	12	10YR4/2	5	0	0	0	0	△トチノキ
236	6K P27	35	33	24	10YR3/2	23	3	0	0	0	△
237	6K P28	38	31	17	10YR4/1	23	0	0	0	0	△
238	6K P29	30	30	14	10YR2/1	23	0	0	0	0	△
239	6K P30	28	25	18	10YR3/2	23	0	0	0	0	△
240	6K P31	30	28	25	10YR3/2	23	2	3	0	0	△
	6K P32										欠番
241	6K P33	52	48	22	75YR2/2	23	5	1	0	0	△
242	6K P34	(36)	35	21	75YR3/2	23	2	0	0	0	△
243	6K P35	42	38	24	10YR3/3	5	4	2	0	0	△
244	6K P36	50	50	18	10YR3/2	5	3	0	0	0	△
245	6K P37	40	35	18	10YR3/2	10	6	0	0	0	△
246	6K P38	62	58	34	10YR4/3	23	10	1	0	0	△
247	6K P39	24	24	25	10YR3/2	23	1	0	0	0	△
248	6K P40	(43)	40	36	10YR3/3	5	8	0	0	0	○
249	6K P41	44	40	61	10YR3/1	5.10	25	2	0	0	△片
250	6K P42	34	33	15	10YR3/2	2	0	0	0	0	△
251	6K P43	27	25	28	10YR4/1	1.2	2	0	0	0	△
252	6K P44	35	35	30	10YR4/1	1.2	0	0	0	0	△
253	6K P45	30	30	14	10YR2/2	5	2	1	0	0	○
	6K P46										欠番
254	6K P47	40	37	13	10YR4/2	5	0	0	0	0	△
255	6K P48	34	31	10	75YR2/2	23	0	0	0	0	△
256	6K P49	25	24	8	75YR2/2	1.2	0	0	0	0	△
257	6K P50	42	30	16	75YR3/3	23	0	0	0	0	△
258	6K P51	(24)	23	11	75YR4/2	23	0	0	0	0	△
259	6K P52	54	50	21	10YR3/3	5.10	2	1	0	0	△トチノキ
260	6K P53	32	28	23	10YR4/3	2.3	3	0	0	0	△
	6K P54										欠番
261	6K P55	50	46	18	10YR3/2	5	6	0	0	0	△トチノキ
262	7K P1	32	30	39	10YR4/1	5	14	4	0	0	○
263	7K P2	28	28	25	10YR4/1	5	15	3	0	0	○
264	7K P3	46	46	24	10YR3/2	5	5	1	0	0	○
265	7K P4	49	37	25	10YR3/2	5	3	0	0	0	△
266	7K P5	33	28	26	10YR2/2	2	1	0	0	0	△
267	7K P6	36	28	15	10YR2/2	1	1	0	0	0	△
268	7K P7	26	26	25	10YR3/3	2.5	1	1	0	0	△
269	7K P8	38	38	18	10YR4/4	2.5	5	0	0	0	△
270	7K P9	50	37	30	10YR3/4	2.3	4	1	0	0	△
271	7K P10	28	23	20	10YR4/3	5	0	0	0	0	△
272	7K P11	60	50	38	10YR3/3	53	18	0	0	0	○
273	7K P12	53	43	17	10YR4/2	2.3	6	8	0	0	△
274	7K P13	(30)	24	18	10YR4/5	1.2	1	1	0	0	△
275	7K P14	(64)	50	48	10YR3/3	5	27	3	0	0	○
276	7K P15	33	33	18	75YR4/2	2.5	4	0	0	0	△
277	7K P16	34	33	17	10YR4/4	2.3	13	0	0	0	△
278	7K P17	60	60	56	10YR5/2	5.10	75	9	0	0	△石碑、骨片
279	7K P18	38	34	22	10YR5/3	2.3	4	1	0	0	△
280	7K P19	30	27	36	10YR4/2	5	1	0	0	0	△
281	7K P20	(67)	58	28	10YR3/2	5	13	7	0	0	○上側片
282	7K P21	24	20	23	10YR2/2	1.2	0	0	0	0	△
283	7K P22	40	32	16	10YR4/4	1.2	2	0	0	0	△
284	7K P23	38	35	21	10YR4/3	1.2	8	1	0	0	△
285	7K P24	40	37	14	10YR4/4	2.5	2	0	0	0	△
286	7K P25	40	38	30	10YR5/4	2.3	33	2	0	0	△
	7K P26										欠番
287	7K P27	60	50	25	10YR5/4	2.3	9	2	0	0	○
288	7K P28	54	48	33	10YR5/3	2.3	6	1	0	0	△
289	7K P29	40	40	16	10YR4/4	2.3	8	0	0	0	○
290	7K P30	40	34	22	75YR4/3	1.2	9	0	0	0	○
291	7K P31	32	26	14	10YR3/3	1.2	1	1	0	0	○
292	7K P32	38	38	18	10YR3/3	1.2	0	1	0	0	△
293	7K P33	43	37	32	10YR4/4	1.2	1	0	0	0	△
294	7K P34	60	60	72	10YR4/2	2.5	27	2	0	0	○
295	7K P35	55	50	29	10YR4/5	2.5	19	2	0	0	○
296	7K P36	56	(44)	20	10YR4/2	2.3	0	0	0	0	△トチノキ
297	7K P37	76	60	14	10YR3/3	2.3	7	2	0	0	△
298	7K P38	30	30	18	10YR4/2	1.2	0	0	0	0	△
299	7K P39	50	45	22	10YR4/2	1.2	0	0	0	0	△
300	7K P40	30	27	14	10YR4/3	1.2	2	0	0	0	△
301	7K P41	30	26	15	10YR4/4	2.3	0	0	0	0	△
	7K P42										欠番
302	7K P43	38	38	22	75YR4/2	2.5	4	1	0	0	△
303	7K P44	40	40	16	10YR2/2	1.2	1	1	0	0	△
304	7K P45	34	32	15	10YR3/5	1.2	0	0	0	0	△
305	7K P46	27	25	22	10YR4/2	2.5	0	0	0	0	△
306	7K P47	40	40	42	10YR4/5	1.2	0	0	0	0	△

第3表 S K · P - 輸出表 7

No	遺構名	長軸 幅軸 深さ (m)	土色	灰 (m)	遺物数	特徴	備考	
							七器	石器
307	7K_P48	60 50 48	10YR4/2	2.3	51 5	△ △		
308	7K_P49	64 60 53	10YR4/2	2.5	4 4	△ △		
309	7K_P50	57 50 75	10YR4/3	2.5	15 1	○ ○		
310	7K_P51	58 56 44	10YR4/2	2.3	3 3	○ ○		
311	7K_P52	40 40 52	10YR5/4	2.3	4 3		△	
312	7K_P53	30 26 22	10YR5/4	2.3	0 0		△	
313	7K_P54	50 50 48	10YR4/3	2.3	11 0		△	
314	7K_P55	40 35 20	10YR4/3	2.3	2 0	○ ○		
315	7K_P56	40 40 20	10YR4/2	2.3	6 0	○ ○		
316	7K_P57	42 40 45	10YR4/3	5	1 2	○ ○		
317	7K_P58	36 34 16	7SYR3/2	1.2	0 0		△	
318	7K_P59	(60) 56 27	10YR4/3	2.3	36 1	△ △		
319	7K_P60	36 27 25	10YR4/2	1.2	1 0		△	
320	7K_P61	32 30 18	10YR4/3	1.2	1 0		△	
321	7K_P62	33 27 29	10YR4/2	1.2	4 1	○ ○		
322	7K_P63	63 60 24	10YR4/3	5.10	89 6	○ ○	石錐、骨片 骨片	
323	7K_P64	43 40 70	10YR3/2	5	17 0	○ ○	欠番	
	7K_P65							
324	7K_P66	48 48 22	10YR4/3	2.5	0 1		△	
325	7K_P67	40 40 44	10YR4/3	2.3	12 0	△ △		
326	7K_P68	40 38 45	10YR5/4	2.3	10 5	○ ○	石錐	
327	7K_P69	66 40 40	10YR5/3	2.3	5 0		△	
328	8K_P1	26 24 30	10YR5/3	2.3	2 3	○ ○		
329	8K_P2	31 25 11	10YR5/2	2.3	5 0		△	
330	8K_P3	32 32 34	10YR4/2	2.3	8 2	○ ○		
331	8K_P4	28 26 14	10YR4/3	2.3	4 0		△	
332	8K_P5	26 26 11	10YR4/2	2.3	2 0		△	
333	8K_P6	70 50 20	10YR2/2	2.3	15 5		△	
334	8K_P7	30 26 19	7SYR4/2	10	6 1		△	
	8K_P8						SB41P8	
335	8K_P9	18 16 16	7SYR4/2	2.3	2 1		△	
336	8K_P10	63 60 38	7SYR4/2	5.10	18 24	○ ○		
337	8K_P11	30 28 29	7SYR5/3	5	0 0		△	
338	8K_P12	30 24 30	7SYR4/3	2.3	5 0		△	
	8K_P13						欠番	
339	8K_P14	20 20 25	10YR4/2	1	0 0		△	
340	8K_P15	45 32 24	10YR3/1	35	6		△	
341	8K_P16	30 28 30	7SYR4/2	2.3	1 1		△	
342	8K_P17	30 26 20	10YR4/3	5	0 0		△	
343	8K_P18	22 20 12	10YR4/1		0 0		△	
344	8K_P19	50 45 23	7SYR4/2		1 0		△	
345	8K_P20	28 26 25	10YR4/1	5	0 0		△	
346	8K_P21	34 21 17	10YR4/4	1	0 0		△	
347	8K_P22	45 45 45	10YR6/4, 10YR5/3	1	2		△	
348	8K_P23	38 26 15	10YR6/4	2.3	0 0		△	
349	8K_P24	34 30 16	10YR5/4	2.3	1 0		△	
350	8K_P25	20 17 16	10YR4/2	2.3	0 0		△	
351	8K_P26	24 24 10	10YR4/3	2.3	0 0		△	
352	8K_P27	(40) 26 18	10YR3/1		0 0		△	
353	8K_P28	30 28 14	10YR4/2	2.3	0 1		△	
354	8K_P29	30 28 15	10YR5/2	5	0 3		△	
	8K_P30						欠番	
	8K_P31						欠番	
355	8K_P32	22 22 14	10YR5/2	2.3	2 0		△	
356	8K_P33	43 37 14	10YR5/2	2.3	3 3	△		
	8K_P34						欠番	
	8K_P35						SB41P9	
357	8K_P36	44 40 16	10YR3/1		0 2		△	
358	8K_P37	38 32 27	7SYR4/1	2.3	7 0		△	
359	8K_P38	45 43 69	10YR4/2, 5YR5/4	50	13		△	
360	8K_P39	46 53 36	10YR5/2	5.10	7 3		△	
361	8K_P40	32 32 24	10YR4/4	5	2 1		△	
362	8K_P41	(70) 66 40	10YR3/3	5	42 4	○ ○		
363	8K_P42	80 60 33	10YR4/2	2.3	2 6		△	
364	8K_P43	26 22 26	7SYR4/1	2.3	26 1	○ ○		
365	8K_P44	40 30 35	7SYR3/2	2.3	1 2		△	
	8K_P45						SB41P9	
366	9K_P2	53 50 22	SYR5/3	5	4 2	○ ○	△	
367	9K_P3	28 28 7	SYR5/3	2.3	0 0		△	
	9K_P4						SB41P4	
	9K_P5						SB41P5	
	9K_P6						SB41P6	
368	9K_P7	26 26 20	7SYR4/2	5	1 0	○ ○		
	9K_P8						SB41P7	
369	6L_P1	50 32 18	7SYR4/2	2.3	7 0	○ ○		
370	6L_P2	40 36 12	7SYR4/1	2.3	9 0	○ ○		
371	6L_P3	(56) 48 22	7SYR4/2	2	0	○ ○		

第3表 SK・P一覧表 8

No.	遺構名	規模(cm)	長軸	短軸	深さ	上色	風 (m)	通物数	時期				備考	
									土器	石器	中前	中後	後前	
372	SL P4	30	30	10		75YR4Z	2.3	1	0	△				
373	SL P5	32	28	12		75YR4Z	2.3	1	0	○				
374	SL P6	76	68	12		75YR4Z		2	2					△
375	SL P7	42	33	27		75YR3/1		1	0					△
376	SL P8	38	32	15		10YR3/2	5	3	1	○				
377	SL P9	42	38	19		10YR4/1		0	0					△
378	SL P10	118	64	14		10YR4/1	2.3	0	1					△
	SL P11													欠番
379	SL P12	40	30	12		10YR4/1	2.3	0	0					△
380	SL P13	34	32	13		10YR4/1	2.3	1	0	△				
381	SL P14	33	30	8		10YR4/1	2.3	0	0					△
	SL P15													欠番
382	SL P16	67	60	32		10YR3/2	2.3	6	0					○
383	SL P17	50	47	35		10YR3/2	2.3	19	5	△	○			骨片
384	SL P18	47	40	18		10YR3/3	2.3	8	0	△	△			
385	SL P19	63	60	36		75YR4/2	2.5	13	0	○				
386	SL P20	68	60	26		10YR3/3	2.3	10	0					
387	SL P21	56	50	55		10YR3/3	5.10	39	5					骨片
388	SL P22	45	40	35		75YR4/2	2.3	16	0					
389	SL P23	48	43	48		75YR3/2	2.5	41	0	△	○			骨片
390	SL P24	56	48	28		75YR4/2	2.5	32	1	△	△			
391	SL P25	40	38	25		10YR2/2	1.2	41	2	△	○			右踵
392	SL P26	36	31	18		10YR3/3	2.3	3	0					
393	SL P1	54	50	43		2.5Y4/2	2.5	38	5	△	○			
394	SL P2	45	37	32		10YR4/2&2.5Y6/3	5	25	3	△	○			
395	SL P3	56	45	35		10YR4/2&2.5Y6/3	5.10	62	11					○
396	SL P4	38	35	24		10YR4/3		4	0					△
397	SL P5	60	52	24		10YR4/3	2.3	0	0					△
398	SL P6	60	36	28		10YR3/3	2.5	19	0					SK64と重複
399	SL P7	40	36	67		10YR4/2		5	3	1	△			
400	SL P8	57	50	60		2.5Y4/2	2.5	38	15					石碑2
401	SL P9	62	50	67		10YR3/2	2.3	2	0					△
	SL P10													欠番
402	SL P11	32	27	70		10YR4/2	1.2	13	0	△	△			
403	SL P12	30	26	66		10YR4/2	1.2	5	2		○	△		
404	SL P13	43	40	40		2.5Y4/2	2.3	2	0					
405	SL P14	55	(40)	42		2.5Y4/2	2.5	19	4	△				
	SL P1													欠番
406	SL P2	60	55	25		10YR5/3	2.3	9	0					○
407	SL P3	70	54	20		10YR5/3	5	0	0					△
408	SL P4	60	50	18		10YR6/3		0	0					△
409	SL P5	34	33	38		7.5YR5/2	2.3	6	0					△
410	SL P6	45	42	15		10YR4/2	10	17	5					
411	SL P7	60	50	48		10YR3/3	5	37	6					
412	SL P8	56	45	42		10YR3/3	2.3	33	4					
413	SL P9	52	49	72		7.5YR7/6&10YR5/2&10YR5/3	5.10	3	3					○
	SL P10													欠番
414	SL P11	48	42	20		10YR4/3	2.3	8	0					△
415	SL P12	37	35	25		10YR4/2	2.3	0	0					△
416	SL P13	40	35	32		2.5Y4/2	2.5	3	0					SB24の柱穴の可能性あり
417	SL P14	40	37	49		10YR5/2	2.5	13	2					SB24の柱穴の可能性あり
418	SL P15	(30)	28	40		10YR5/2	1.2	0	1					△
419	SL P16	35	33	41		10YR5/2	2.5	7	0					△ SB24の柱穴の可能性あり
420	SL P17	42	40	15		10YR4/2	2.5	2	9					△ SB24の柱穴の可能性あり
421	SL P18	50	28	14		10YR4/1	2.3	0	0					△ SB24の柱穴の可能性あり
422	SL P1	(38)	35	12		7.5YR5/3	2.3	5	1					
423	SL P2	50	40	34		7.5YR5/3	5	2	0					△
424	SL P3	28	26	14		7.5YR5/2	1	0						
	SL P4													SB41P2
	SL P5													SB41P1
425	10P1	86	66	16		10YR5/3	1	0		△				
426	10P2	(60)	60	50		2.5Y5/3	10	4	1		○			SB5上層
427	10P3	34	31	5		10YR4/2		0	0					△
428	8M P1	34	23	22		10YR4/2	2.3	3	0					△
429	8M P2	48	42	26		7.5YR3/1	2.3	0	1					△
430	8M P3	42	34	23		10YR3/2	2.3	0	0					△
431	9M P1	32	30	14		10YR5/2	2.3	3	0					△
432	10M P1	25	21	6		10YR5/3	5	0	0					△
	小計						4307	826	3	17	100	2		
	合計						13410	2355	4	30	170	7		

第4表 遺構出土調査土器観察表 1

No.	出土点名	遺物番号	計測値(cm)	分類	観察事項	種別	量り
1	SB1	26	□(3)	19	口縁部内面有段。口縁部を覆する腰部の上に凸唇陶腹。底支は細かいRL構文。		1
2	SB1裏裏	7469	△(33,高34 底(14))	19	底支厚。△縁部に側の凸唇陶腹。凸唇陶腹や底支は比総等で他の部品同様は5段状。		2
3		4板	△(10),高(11)	21	底支が膨らむ小形の板。底支する腰部は無文。断面に凸唇の底板文。地文はRL構文。		3
4		10板	△(14)	22?	2条半の△縁部の板。底支する腰部は無文。断面に凸唇の底板文。地文はRL構文。		4
5	SB1	8		23a	△縁部内面有段。底支に斜斜形と短波線。		5
6		2100		23?	△縁部内面有段。底支に斜斜形と短波線。		6
7		11		22	△縁部に凸唇のRL構文。		7
8		-7		25	底支内面の上部。△縁部の側に段。△縁部外縁部に斜斜形。地文はRL構文。		8
9		-6		25	底支内面の上部。△縁部同一側。		9
10	SB1裏裏	-3		21	底支内面の△縁。△縁部に凸唇による曲唇文。		10
11		-8		25	底支内面の△縁。△縁部同一側。		11
12		-5		23?	△縁部内面有段。底支に斜斜形。		12
13		7集		22	△縁部外縁部に凸唇による曲唇文。△縁部内面にRL構文。		13
14	SB1	507		10?	△縁部外縁部が突出。地文の凌脱体。		14
15		841集		23c	△縁部に底支部で凸唇と薄唇。△縁部内面にも底支走痕。		15
16	SB1裏裏	-2		25	底支内面の上部。地文はRL構文。		16
17		461		9	底支内面の△縁。△縁部に底支走痕。		17
18		2096		9	底支内面の△縁。△縁部に底支走痕。		18
19	SB1	1		22?	底支内面の上部。△縁部に底支走痕。		19
20		6774		23	底支部の△縁。地文はRL構文。		20
21		456		22?	手に底支内面の△縁。		21
22		451		18?	底支部の底支。地文はRL構文。		22
23	SB1裏裏	-1	底(13)	26	底支内面の△縁。△縁部に底支走痕。		23
24	SB1	2	底(8)	26	底支内面の△縁部の底支走痕。		24
25		1460		30a	△縁部と△縁部に底支走痕。		25
26		298		30b	△縁部と△縁部に底支走痕。		26
27		77集		35b	△縁部に丸い縫みの△縁部走痕。底支無文。		27
28		851		35b	△縁部に丸い縫みの△縁部走痕。底支無文。		28
29	SB2	6562集		44c	手に△縁文。△縁部上部に底支走痕。		29
30		536		35a	△縁部に△縁部走痕。		30
31		-28		35a	△縁部に△縁部走痕。		31
32		534		35b	△縁部に丸い縫みの△縁部走痕。		32
33		632		34a	肥厚した△縁部底部に△縁部走痕。		33
34		-2		36d	内側する△縁部に△縁部走痕。		34
35	SB2#P	-3		33a	△縁部に△縁部走痕。		35
36	SB2	288		38b	興味ある△縁部と△縁部走痕。		36
37		682集		44c	無文の△縁部。		37
38		-4		33a	△縁部と△縁部の下部△縁部の走痕。		38
39	SB2#P	-5		36?	よく引かれた底部に横窓の走痕。		39
40		-6		44a?	△縁部の下部△縁部。		40
41	SB2	6582集		44a?	△縁部に△縁部走痕。		41
42	SB2#P	6577集		36b	△縁部に△縁部走痕。		42
43	SB2	676		33?	△縁部の△縁部に△縁部走痕。		43
44	SB2#P	6603集		44	地文はRL構文。		44
45		87		44	地文はRL構文。		45
46		678		44a	△縁部に△縁部走痕。		46
47	SB2	291		34?	多段△縁文の△縁部走痕。		47
48		82集		31?	△縁部に△縁部走痕。		48
49		93		32a	△縁部に△縁部走痕。		49
50		884		32b	△縁部に△縁部走痕。		50
51		-2		34d	△縁部は△縁部。△縁部走痕。		51
52		-3		34b3	△縁部。△縁部。△縁部に△縁部走痕。		52
53		-4		34d?	△縁部に△縁部と△縁部走痕。		53
54	SB2P1	-5		34d?	△縁部に△縁部と△縁部走痕。		54
55		-6		31?	△縁部に△縁部走痕。		55
56		7		30b1	△縁部に△縁部走痕。		56
57		-8		43	△縁部に△縁部走痕。		57
58	SB2P3	-1		43	△縁部に△縁部走痕。		58
59		-22		31a	△縁部に△縁部走痕。		59
60		-24		44c	無文の△縁部走痕片。		60
61	SB2SK1	-25		43	△縁部走痕。△縯部走痕。		61
62		-26		35	△縁部を△縁部走痕の△縁部走痕。		62
63		7082集		36c?	△縁部走痕の△縯部走痕。		63
64	SB2	29	底(6)	44c	底支無走痕。底支走痕。		64
65	SB2SK1	7083底(8)		44c	底支無走痕。底支走痕。		65
66		692底(11)		44	削出のRL構文。底支は削出。		66
67	SB2	6579底(14)		33a	削出の△縯部走痕。		67
68		294底(11)		44	削出のRL構文。底支は削出。		68
69		293底(10)		44	削出のRL構文。底支は削出。		69
70	SB3裏裏	3796集	底(33)	19?	削出の△縯部走痕。		70
71	SB3	-3		8	底支の△縯部走痕。		71
72	SB3裏裏	-1		18?	底支の△縯部走痕。		72
73	SB3	13743		23?	削出する底支下方に△縯部走痕。		73
74		-3		23a	△縯部中段に△縯部。△縯部に底支走痕。		74
75	SB4#P	-4		23a	2段△縯部走痕。		75
76	SB4	125		19?	△縯部底支の△縯部走痕。		76
77	SB4裏裏	7135		26	△縯部底支の△縯部走痕。		77
78	SB4#P	-7		26	削出の△縯部走痕。		78
79		-5		19	底支△縯部の△縯部走痕。		79
80	SB4#P	-1		34fl	△縯部底支の△縯部走痕。		80

第4表 遺構出土繩文土器観察表 2

No.	出土地点	遺物番号	計測値(cm)	分類	観察事項	標因	番号
81	SB4P13	-1	25	西面Y字状の口縁に破片。			81
82	SB4	132 成(11)	26	底部に横代田压痕(1本短い1本通り)。			82
83	SB4P13	-2	23	底部に横代田压痕、地文はRJ繩文。			83
84	SB4	2777	26	陶器文の吹き抜き、軽土練を施された後に重ねた工程が裏面で確認できる。	48回		84
85	SB4	116	77	内面有孔、X字状の吹き抜き(1本短い1本通り)。			85
86	SB4P14	-1	26	2段の縦帶が並び、地文は無地の繩文。			86
87		601	23?	造形部に幾重重ね、地文は無地の繩文。			87
88		59地	25	鏡光表面のFに吹き抜き、地文の一部か。			88
89		208地	26	口縁内側に吹き抜き、地文帶の下に地文に吹き抜け。			89
90		-21	26	口縁内側に吹き抜き。			90
91		-28	21	早速窯上地文を施す地文吹き抜け。	49回		91
92		3103	23?	既述窯上地文と同様の吹き抜け。			92
93		-2	18?	「1縫内に有孔、地文の複数吹き抜け」。			93
94		2090	25	口縁部の吹き抜け、地文はRL繩文。			94
95		45地	19	三方に吹き抜け地文をもつ吹き抜け部が複数に見られ、区画帶内に交叉割れ文。			95
96		3182地 L1(23)	23?	2段の反対側吹き抜け(1縫、地文部)と2段の吹き抜け(2縫、地文部)の下に連続吹き抜け、附部吹き抜け。			96
97		5001	18	底部部内側に有孔文、口縁部に轍つなぎ文、区画帶内に吹き抜け。			97
98		409地 C1(17)	19	「口縁内側に5~6段の1縫区画と、区画内に吹き抜け。」と記載。			98
99		4330	19?	底部部内側に吹き抜け。			99
100		3445	2	複数系吹き抜けの下方に三角印記文。			100
101		44	19?	腰掛部内側に吹き抜け文。			101
102		54地	19	口縁部内側に吹き抜け、腰掛部に斜吹き抜け。			102
103		603	19	腰掛部内側を斜めに吹き抜け、斜吹き抜け。			103
104		3779	19	口縁部内側を斜めに吹き抜け。			104
105		3054	19	輪行青磁が施下する斜削に吹き抜け。	50回		105
106		-22	19?	10段間ごとに斜削。			106
107		57地	20	「口縁部に無地文、リム状吹き抜け以下斜絞状の余根文」。			107
108		3186地	20	口縁部に無地文、腰掛する吹き抜け帯が垂下。地文は無地RJ繩文。			108
109		65	20?	10段間ごとに斜削。			109
110		427地	22?	ジグザグ状の車輪吹き抜け、その下を吹き抜け旋轉が垂下。			110
111		4755	18?	腰掛部吹き抜けの地文は条綱文、その下を吹き抜け旋轉が垂下。			111
112	SB10	1894	14	SB10地 11.12同じく斜削。			112
113		3190地	14	吹き抜けの車輪吹き抜け。			113
114		605	14	複数の吹き抜け文。			114
115	SB5	61地	22?	吹き抜けの地文は条綱文、その下を吹き抜けRJ繩文。			115
116		868地 C1(20)	19	「腰掛部吹き抜けの2段の斜削ごとに吹き抜け、斜削に斜削吹き抜け」。			116
117		3042	19?	腰掛部の吹き抜け、欠損部、腰掛部の吹き抜け、腰掛の区画内に吹き抜け。			117
118		3336	19	腰掛部に大きな吹き抜け(斜削)、腰掛部に斜削の吹き抜け。			118
119	SBSP5	-1	19?	腰掛部内側に吹き抜け、斜削部に吹き抜け。			119
120	SB5	5260	19?	口縁部内側と腰掛部、腰掛部内側に吹き抜け。			120
121	SBSP4	-1	19?	有段の吹き抜け、腰掛吹き抜けの下に吹き抜けと灰状文。			121
122		3340地	19	10.5~10.5同じく斜削。			122
123		2092	28	腰掛部吹き抜け内側に吹き抜け。	51回		123
124		1065	19?	腰掛部吹き抜けの北端。			124
125	SB5	6032地	19?	斜削部に吹き抜け吹き抜け。			125
126		3333	19?	腰掛部吹き抜け文と吹き抜け。			126
127		378地	19	2段の吹き抜けによる角型文、腰掛部に斜削の吹き抜け。			127
128		6770地 C1(33)	19?	腰の吹き抜けを2段吹き抜け、SB10地 上邊出上の上西片と複合。			128
129		3870 地6	26	腰掛部吹き抜け、11縫ごとの吹き抜けあり。			129
130		659	19	腰掛部三段吹き抜け、地文はRJ繩文。			130
131		29	9	浅い吹き抜け、内側に小斜削。			131
132	SB6	282-1	18	コントラス大きな吹き抜け、腰掛吹き抜け吹き抜け。	52回		132
133		282-3	18?	腰掛部吹き抜けの下に2段の吹き抜けと斜削。			133
134		2769	18	「腰掛部吹き抜けの下に2段の吹き抜けと斜削」。			134
135	SB6	30地	18	腰掛部吹き抜けの上に腰掛吹き抜け、腰掛吹き抜けが複数ある。腰掛部に吹き抜け吹き抜けがある。			135
136	SB6	284地	18?	腰掛吹き抜け吹き抜け。			136
137		394地	25	腰掛部吹き抜けの左の吹き抜けが複数ある。	53回		137
138	SB6	282地	11(37)	斜削部上の吹き抜け、腰掛吹き抜けの右に吹き抜け、斜削部吹き抜けの複数ある。			138
139	SB16	36地	25	「口縁部に吹き抜け、腰掛吹き抜けの下に吹き抜け吹き抜け」。			139
140	SB16	137地	18	腰掛部吹き抜けの左の吹き抜け吹き抜け、腰掛部吹き抜け吹き抜けの右の吹き抜け吹き抜け。			140
141	SB16	3949地	18	「腰掛部吹き抜けの下に直角の腰掛吹き抜けと斜削吹き抜けがある。斜削部に大きな吹き抜けする斜削部と腰掛吹き抜け」と評定は2段に沿って吹き抜け吹き抜けがある。			141
142		3196地	17(33)	腰掛吹き抜けの上に腰掛吹き抜け、腰掛吹き抜けが複数ある。腰掛部に吹き抜け吹き抜けがある。			142
143		367地	20	「腰掛部吹き抜け吹き抜け、腰掛部吹き抜け吹き抜け」。			143
144		3948地	27	有り斜削の吹き抜け吹き抜け。			144
145		544地	26	腰掛部吹き抜けの左の吹き抜け吹き抜け、腰掛部吹き抜け吹き抜けの右の吹き抜け吹き抜け。			145
146		3980地	20	腰掛部吹き抜け吹き抜け吹き抜け。			146
147		3211地	18?	腰掛部吹き抜けの左の吹き抜け吹き抜け、腰掛部吹き抜け吹き抜けの右の吹き抜け吹き抜け。			147
148		2792地	8?	腰掛部吹き抜け吹き抜け。			148
149	SB16	-1	27	腰掛部吹き抜け吹き抜け吹き抜け吹き抜け吹き抜け。	55回		149
150		-1	17	腰掛部吹き抜け吹き抜け吹き抜け吹き抜け吹き抜け。			150
151		13	12	「口縁部吹き抜け吹き抜け」。			151
152		3414	18?	腰掛部吹き抜け吹き抜け吹き抜け吹き抜け。			152
153		3349地	18?	有前斜削吹き抜け吹き抜けの左の吹き抜け吹き抜け。			153
154		2961	18?	153地 同じく吹き抜け吹き抜け。			154
155		2799	8?	U字状の吹き抜け。			155
156		3197	18?	腰掛吹き抜けの左の吹き抜け吹き抜け吹き抜け吹き抜け吹き抜け。			156
157		2798地	18?	U字のある吹き抜け吹き抜け吹き抜け吹き抜け吹き抜け吹き抜け。			157

第4表 遺構出土繩文土器観察表 3

No.	出土点	遺物番号	計測値(cm)	分類	概要	種別	番号
158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173	SB16	-12	18?	縦長の口内に縦施墨。底部横面重丁。		55回	158
		-14	18?	口縫部に口横に横施墨。その下に横走り横と斜施墨。			159
		4321	18?	内側する口縫部に波状文、削部は無文。			160
		11	18?	口縫部に削部引け糸跡の付る縫を波状、穴部部に凸巻文。地文はRL繩文			161
		-10	18	1)縫部に削部の波状文。			162
		3960	18?	ねじり波状の把手。縫を斜施墨。			163
		3419	25	発光する縫施墨。			164
		4117	18?	160の裏面か。平縫部が軽井手形。底地文は無文。			165
		3352	18	1)縫部を2条の口縫と斜施墨とする。以下縫部の波状波文。			166
		-4	15	2)縫部面波文の中に横施墨。削部はRL繩文。			167
170 171 172 173	SB17	4216	25	波状部に舌状の小突起。地文はRL繩文。			168
		3050	26	削部付背口上に波状文。			169
		4327	8	平縫部面で波文を基底例。地文はRL繩文。			170
		7291	25	削部面上の波状片。地文は可逆繩。			171
		3214	12	縫部の縫付背面の下部に下縫部背。			172
		4738	18?	2本の下縫部の波状。地文。		57回	173
		1497地	15	1)縫部縫2本の波状が混在し、以下縫部で波文を中心と文様を様く。 2)縫部に追加した縫部を多く用。縫部は無文。			174
		7500,高(64) 底(10)	18	1)縫部上端の波状。底部は縫部背の縫つづき波文5単位。両を斜位おびて縫位波文とす。製品は波状波文地文。間に4-5本の蛇行波状。 2)縫部は無文。			175
		3046	9	波文を4位置の浅縫。斜縫に水波紋および黒色付着物。内側本縫。			176
		7307地	36a	L字状に分布した縫部に文様帯。突起部の済み文を模んで2本の波状が横走。			177
178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188	SB17	4514	36a	L字状の縫の縫2本の横走り縫。縫部に複数の横走り縫と波状の横走り縫を組み立てる。			178
		154	353	波状に3本の横走り縫。			179
		7295地	44	縫部はRL繩文。			180
		-2	44a	波文部の下にRL繩文。			181
		7294 底(11)	44	縫部の歪い底部付近の縫片。無文。			182
		248地	36b	L字状に内折する波状の縫。縫部横縫等4単位のS字状背筋のつく突起。突起部は盤状の隆起をもつ縫部が連結。突起部では横走り縫を組み立てる。			183
		2434	36	L字状の縫の縫。			184
		267	36b	L字状の縫の波状部に舌状の突起。突起部には隆起と波状による高巻き。突起部から円形刺突を軸に横走り縫。地文の筋部の下方に横走り縫。			185
		1112	36a	L字状の縫の縫の波状部。		59回	186
		506	36	L字状の縫の縫の波状部。筋部は波文の下にRL繩文。			187
189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230	SB8	4207地	36b	L字状の縫の波状部に突起。突起部はS字状波文と内側部に高巻き隆起。L字縫部文様部には横走る突起部付近に波状横走り縫。			188
		1447-1	36a	L字状の縫の波状部に突起。突起部は波文で無文。			189
		847	36a	L字状の縫部に横走り縫。縫部はRL繩文。			190
		1451	36a	L字状の縫の底部に突起部に円形刺突とLR繩文。縫部する波状間に横走り縫。			191
		108地	36?	縫部の父古に円形刺突。			192
		933	36a	L字状の縫の縫の波状部。			193
		264	352a	縫部に高巻き波状部に突起。突起部は波文で無文。			194
		4100	352e	縫部に高巻き波状部に突起。突起部は波文で無文。			195
		458	352e	縫部に2本の横走り縫。			196
		4238	36?	縫部の父古に円形刺突。			197
198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230	SB8	2433	35c	縫部に歪い波状で直線の縫。			198
		1479	353	縫部部に波状による子古文。			199
		2785	35c	縫部部に2本の波状。			200
		2589	3433	波状による子古文。			201
		667	3455	縫部に2本の波状。			202
		-19	344c	縫部に横走り縫。			203
		1475	35e	縫部した1縫部に2本の波状。			204
		3382	35e	1)波状施墨。縫部の右側縫部以下トRL繩文。 2)縫部の右側縫部以下横走り縫。			205
		935	35a	L字状の縫縫部に突起。4本の縫部付近。地文はRL繩文。			206
		2593	35c3	縫部部に波状による子古文。			207
208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230	SB8	500	30b	内側する横走り縫。			208
		569	34j	縫部の右側縫部の下方に凹形刺突がある小穴孔。			209
		1466	33a	縫部に本の子古。			210
		671-1	34j	縫部に横走り縫。		60回	211
		4596	40?	縫部に多くの波状文。			212
		2089	40?	縫部に多くの波状文と横走り縫。			213
		937	44a	口縫部に無文を以て、以てRL繩文。			214
		2637	35c	縫部文の口縫部に波状の縫。			215
		20	35c	縫部文の口縫部に波状の縫。			216
		-3	44c	無文の縫部。スス付着。			217
218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230	SB8&1	7012	35e	曲取りられた1縫部にRL繩文。内面に横走り縫。よく潜かれた容面。			218
		-4	44	縫部に横走り縫。			219
		7013	44	縫部にRL繩文。			220
		-5	44	縫部にRL繩文。			221
		-6	44	無文の縫部。スス付着。			222
		7015	34c6	肥厚した1縫部に波状による子古文。			223
		7014	34c6	肥厚した1縫部に文様帯。2本の波状部にD字状の縫突起。			224
		-2	43	波状部にLR繩文を充満。			225
		7075	34c6	肥厚した1縫部に文様帯。2本の波状部にD字状の縫突起。			226
		-1	9	波状の口縫部。波状部に凹形刺突。			227
228 229 230	SB8&2	115	19?	波状の口縫部に波状の縫突起。			228
		25	26	縫部部に波状。波状は削部小孔(日本相)と本通り(本通り)本通り)。			229
		-2 底(12)	44	東部付元無文。波状は削部小孔(日本相)と本通り(本通り)本通り)。			230
		109 底(10)	44	東部付元無文。波状は削部小孔(日本相)と本通り(本通り)本通り)。			

第4表 遺構出土縄文土器観察表 4

No.	出土地点	遺物番号	計測値(cm)	分類	観察事項		総面 積	参考 番号
					上	下		
231			242	39	沈柵周にRL縄文を有す。		231	
232	SB9		5480	39	U形孔・削込み・複数の底面凹にノの字状沈柵文。		232	
233			6003	39?	口横部・3本の底面の底面凹にノの字状底面文。		233	
234	SB9P6		-1	44	無文の直底U形孔。		234	
235	SB9		5262	38b	内側するU形孔部、横部の沈柵底凹下に短底面の削み。		235	
236	SB9P30		-1	44	無文の直底U形孔。		236	
237	SB9		6975	35c	U形孔部に2つの削み底面。		237	
238	SB9		5485	38c	SK9281の約1040cm同一個体。		238	
239	SB9P7		-1	34c?	口横部の削底凹に横部に削底縄文、以下沈柵文。		239	
240	SB9		6014	35a	U形孔部に溝の底丸縫。		240	
241	SB9P23		-1	44c	U形孔・横部の底丸縫。		241	
242	SB9P27		-1	43	削底・底面の底底凹部・よくかかれた削底。		242	
243			6012 底(10)	43	底面の直底U形孔。		243	
244	SB9		7000地	44c	U形孔部・底面の小穴部、底面はLR縄文。		244	
245			6310	43	削底・底面の底底凹部・よくかかれた削底。		245	
246	SB10		1256地	L118.高(22) 底12.削15	18	口横部は文律面14cm半径、削底部文部は底底凹部と底面に無文帶。削部文様は底面と削底部共に横行化。		246
247	SB10		1080地	L11(22).高24 底(13)	18	單位は12cm半径から、U形孔部文部の底面は圓文帶でつながる2本の横走障壁。削部に単純の直底丸縫と削底部障壁。		247
248			14657	D1(13).高14	20	U形孔部に無文帶、削底部にノバ横縫文、削底部は横底凹の沈柵文。		248
249	SB10		14239	D1(18)	18	4段底の底部の削底凹部面に削底部と上部の直底凹部各2本。		249
250			8503地	D2(24)	18	底部は直底凹、12cm半径の削底凹部と削底部に底面各2本。		250
251			-32	D3(13)	18	底部は削底凹、底面は底底凹部。		251
252	SB10		644地	削(14).底12	18	削底部・底底凹部・直底丸縫、削底部は削底凹部による削底文。2622年削底・底底凹部は削底凹部(日本未記載)。		252
253			1085地	G1(16)	18?	U形孔部無文、底長の直底凹部区間に中央凸部の一部に短底丸縫。		253
254			-31	削10.底8	18	削底部・底底凹部と削底部シグマ、底面はU形孔部・直底丸縫と斜底丸縫。		254
255			1503地	削7	18?	削底部・底底凹部の底底凹部・中央部にスリット、直底丸縫化なし。		255
256			4356 地	削10	20	U形孔部が内折する直底丸縫、直底丸縫の底底凹部にLR縄文、削底部は無文。		256
257			6852地	G1(30)	18?	削底部・底底凹部の直底丸縫。		257
258			1507地	削(13)	18	削底部が内折する直底丸縫、直底丸縫の底底凹部にLR縄文、削底部は無文。		258
259			14673		18?	削底部内に底底凹部・底底凹部の削底部丸縫。		259
260			8510地		19	U形孔部無文、且ト父母の直底凹部と直底凹部各2本。		260
261			-33		15	底部は直底凹、12cm半径の削底凹部と削底部に底面各2本。		261
262			8729		25	25の直底部から、口横部文部は削底部文部と削底部に底面各2本。		262
263			8674		25	25の直底部の削底部文部の反面底凹部は無文、削底部はLR縄文の上に直底丸縫。		263
264			8549地		26	U形孔部の底底凹部内に削底部丸縫、削底部は削底部丸縫。		264
265			612地		26?	11横底丸縫の底底凹部内に削底部丸縫。		265
266			8378		26?	單位に底底凹部と直底丸縫、削底部は削底部丸縫。		266
267			1817		26?	底底凹部内に削底部丸縫、削底部は削底部丸縫。		267
268			14297		26?	11横底丸縫・直底丸縫と削底部丸縫に削底部丸縫。		268
269			1596		15	U形孔部・削底部・直底丸縫と削底部丸縫に削底部丸縫。		269
270			9638地		25	11横底丸縫の底底凹部の反面底凹部は無文、削底部はLR縄文の上に直底丸縫。		270
271			480		25?	11横底丸縫と削底部丸縫に削底部丸縫。		271
272			1583		15?	削底部丸縫・底底凹部と底底凹部区間に直底丸縫。		272
273			1078		18	底底凹部の直底丸縫と削底部丸縫に削底部丸縫。		273
274			1076地		18?	底底凹部に底底凹部と削底部丸縫に削底部丸縫。		274
275	SB10		1464地		18?	11横底丸縫の底底凹部と削底部丸縫に削底部丸縫。		275
276			14656		18?	11横底丸縫の底底凹部の反面底凹部は無文、削底部はLR縄文の上に直底丸縫。		276
277			14585		26	U形孔部を主とする直底丸縫・削底部に底底凹部・削底部丸縫。		277
278			14574		26?	直底丸縫・削底部丸縫の底底凹部は無文、SBSIに同一個体。		278
279			14579		26?	直底丸縫・削底部丸縫の底底凹部は無文、SBSIに同一個体。		279
280			8444		26?	直底丸縫・削底部丸縫の底底凹部は無文、SBSIに同一個体。		280
281			8615		26?	無文の直底丸縫。		281
282			613%		18?	削底部丸縫・削底部丸縫の底底凹部による人字削底文・削底部は直底丸縫。		282
283			1599		27?	削底部上部の削底部・SB10の144と削底部丸縫。		283
284			8616		18?	直底丸縫の削底部丸縫・直底丸縫・底底凹部による人字削底文。		284
285			1828地		18?	削底部の直底丸縫の上部と削底部丸縫の底底凹部による人字削底文。		285
286			14669地		18?	直底丸縫の底底凹部の反面底凹部は無文、削底部は直底丸縫。		286
287			614地		25	削底部・直底丸縫・削底部丸縫による人字削底文・削底部は直底丸縫。		287
288			824		26?	削底部・直底丸縫による人字削底文・削底部は直底丸縫。		288
289			214		18?	人字削底文・直底丸縫の上部と削底部丸縫が削底部丸縫。底底凹部は直底丸縫。		289
290			213地		18?	直底丸縫の削底部丸縫と直底丸縫による人字削底文。		290
291			471地		25?	25と削底部丸縫。		291
292			14298地		18?	削底部の直底丸縫後部に削底部丸縫。		292
293			1515-1		18?	削底部丸縫と削底部丸縫の上部が底底凹部による人字削底文。		293
294			19304 地2.5		25	ニーダーA型・底底凹部。		294
295			8463	D1(26)	20?	11横底丸縫・直底丸縫の下部は削底部丸縫の底底凹部による人字削底文。		295
296			8535 地		20?	直底丸縫の外縫が底底凹部。		296
297			4343地	D1(31), 剥(34)	25	25と同一・口横部は直底丸縫・削底部は直底丸縫による人字削底文。		297
298			8743 地13		25	削底部丸縫と削底部丸縫の上部が底底凹部による人字削底文。		298
299	SB10		7133 地24.高8	9	18?	直底丸縫の削底部丸縫・直底丸縫の底底凹部による人字削底文。		299
300			8865地	G1(26)	18?	11横底丸縫文底凹部の底底凹部内に直底丸縫・直底丸縫は多方向に展開。		300
301			8923 地28.底8		18?	底底凹部・直底丸縫・内折していねの直底丸縫。		301
302	SB10		15900地	剥(10), 削7	18?	削底部丸縫・直底丸縫による人字削底文。		302
303			15911		18?	口横部は直底丸縫・直底丸縫による人字削底文。		303
304			14582地		18?	口横部・直底丸縫・直底丸縫による人字削底文。		304
305			8858		15?	口横部・直底丸縫による人字削底文。		305
306	SB10P1		-4		18?	底底凹部の削底部丸縫・直底丸縫による人字削底文。		306
307	SB11		216		19?	底底凹部上方に直底丸縫・直底丸縫による人字削底文。		307

第4表 遺構出土縄文土器観察表 5

No.	出土場所	遺物番号	計測値(cm)	分類	観察箇所	博図	番号
308	SB11	-	942	26	気状袋帯の上部にRJ構文。	67回	306
309	SB11P5	-	2	26	台付土器の脚部、両縁に各2条の縦波状。	309	310
310	-	-	326	8	段上・1段下の脚部、両縁に各2条の脚波状が現す。その下に横位の波状波紋。	310	311
311	SB12	-	1	26	気状袋帯の横波状。	311	312
312	-	-	2	26	理彫痕(16cm)の横波状。	312	313
313	SB9	227件	-	18	SB9上、標準31.6cmの棒形片足盆。気状袋帯の区画内に理彫痕。	68回	314
314	SB12	-	330	18	理彫痕(16cm)の横波状。	314	315
315	-	329	底(4)	26	直文の縦・斜面および底面。	315	316
316	SB12埋甌	7468	耐(32), 高(37)	18	1門柱付1脚の甌でSB9の側面(313)。底帶と平隣波紋による区画帯。脚部脚端の降伏間に通ずる理彫痕の跡。半径文は15cm。側面区画内に平隣波紋による直文と直波文およびコバシタ。また、側面区画内に波状波紋。	316	317
317	-	873	底(5)	18	脚部底面は有肩形(17)と側面を丁度重ねる波状工具による直波文。	317	318
318	-	3063件	-	18	口縁部(17)の側面の直波文と波状波紋および斜波文。	318	319
319	-	106	-	25	側面は直波文と斜波文。	319	320
320	SB13	-	5255	25	脚部(17)と底(5)。	69回	321
321	-	5258件	-	26	脚部による直波文をもつ複数個。	321	322
322	-	7097	-	26	無文の少し引けた直波文。口縁にスリット付。	322	323
323	-	839	-	18	大傾斜の口縁に無文。底帶間に丸波文と連続斜文。	323	324
324	-	1522	-	25	無文の口縁。	324	325
325	-	1214	-	25	直波文の内に理彫痕か、腹底下方に斜波状。	325	326
326	SB14	1208件	-	25	直波文。側面柱(17)と底(5)。	70回	327
327	-	1273	-	25	脚部(17)と底(5)。	327	328
328	-	1603	-	25	脚部(17)と底(5)。	328	329
329	-	1520	-	25	側面は直波状工具による直波文。	329	330
330	-	-1	-	19?	1門柱付1脚の直波文。	330	331
331	SB15P1	-3	-	23?	底(5)に理彫痕か、腹底下方に斜波状。	331	332
332	-	-2	-	25	側面は直波文と斜波文。	332	333
333	-	-	-	15?	側面柱(17)と底(5)。	333	334
334	81V	-1	-	23a	306件の17件から。	71回	334
335	8F N	3298	-	23a	所有の直波文と直波文。以下波状による伴状区画内に垂下蛇行蛇文。底文LR構文。	335	336
336	SB15P2	7471	-	23a	直波文の内に理彫痕と利刃文。以下波状による伴状区画内に垂下蛇行蛇文。底文LR構文。	336	337
337	SB15P2	7502	-	23a	口刃理彫痕。下角等間に斜波状の刻み。	337	338
338	-	7472	-	25	口M字(17)と直波文。	338	339
339	SB15P2	7470件	-	23c	「1門柱付1脚」の発見用。連続斜文。底はT字状の沈没区画(17)に蛇行蛇文。さらに横構格円文。地文は波状文。内面は波状筋に波状斜文。左に直波状円文。	339	340
340	-	-1	-	25	1門柱付1脚の直波文。	340	341
341	SB15P2	7501	-	25	3本の手半直波文の直波状。	341	342
342	-	-3	-	23?	側面柱(17)と底(5)。	342	343
343	SB15	5696	-	25	側面柱(17)と底(5)。	343	344
344	SB15P2	-2	-	19?	1門柱付1脚の直波文。	344	345
345	-	7459	底(12)	25	直波文の直波。	345	346
346	SB15埋甌	3038	底(13) 附18	25c	直波文の直波。22件の直波文による直波文。地文はRJ構文。	346	347
347	-	3794件	底(41)	44/2	上縁部は直波文。脚部はRJ構文。	347	348
348	-	3607件	底(31)	44	脚部はRJ構文。	348	349
349	SB18	3582件	底(12)	44	脚部はRJ構文。底文はRJ構文。	349	350
350	-	3581件	底(14)	44	底部柱(17)と底(2本組2×2本組)1本送り。	350	351
351	-	3560件	-	44	脚部はRJ構文。	351	352
352	-	3612	-	44	脚部はRJ構文。	352	353
353	SB18P8	-1	-	25	1門柱付1脚(17)の直波状。以下RJ構文。	353	354
354	SB18	3554	-	44	竜骨柱(17)の残存する底以下の1脚部。	354	355
355	-	3559	-	44	脚部柱(17)と底(5)。	355	356
356	-	8248	-	35e	口縁部-横波状の有肩斜文。	356	357
357	-	8255	-	35a	1門柱付1脚の直波状。	357	358
358	SB19	8357	-	36b?	内折れ17と1門柱付1脚の横波状。	358	359
359	-	8239	-	44c	無文の直波。口縁部(17)の直波状。	359	360
360	-	8243	-	44	脚部はRJ構文。	360	361
361	SB19P2	-2	-	40?	よく折れた容器に多量直波文と印文の押圧痕。	361	362
362	-	8358	内4, 底12	40?	口縁部-直波状。	362	363
363	SB19	8200	底(5)	44	脚部はRJ構文。底文は直波状。	363	364
364	-	8246	底(13)	44	脚部はRJ構文。底面にスレ付直波。	364	365
365	SB21P8	-1	-	44	直波文の直波。	365	366
366	-	-3	-	43	脚部柱(17)の有肩直波。	366	367
367	SB21P9	-2	-	44a	無文の直波状。	367	368
368	-	-4	-	32a	横波状の直波状。	368	369
369	-	-2	-	31a	口縁部-直波状。	369	370
370	SB21P11	-4	-	31a?	脚部柱(17)の直波状。	370	371
371	-	3底(12)	-	44	脚部柱(17)と底(5)。	371	372
372	-	-4	-	44a?	1門柱付1脚の直波状。	372	373
373	-	-5	-	44a?	1門柱付1脚の直波状。	373	374
374	SB22	-6	-	34?	脚部柱(17)の直波状。	374	375
375	-	-7	-	44a	底部柱(17)の直波状。	375	376
376	-	8	-	33b?	脚部柱(17)の直波状。内面にスリット付直波。	376	377
377	-	-9	-	44	脚部柱(17)の直波状。底部はRJ構文。	377	378
378	-	8194	脚(18), NC11	44	脚部柱(17)と底(5)。	378	379
379	-	-3	底(14)	44	脚部柱(17)と底(5)。	379	380
380	-	-9	-	44	口縁部の横波。	380	381
381	-	-7	-	35a	1門柱付1脚の移し直し直波と横位の直波。	381	382
382	SB23P9	-12	-	25	1門柱付1脚の直波状。	382	383
383	-	-8	-	6	直波状直波と直波状。	383	384
384	-	-11	-	33b?	脚部柱(17)の直波。	384	-

第4表 遺構出土繩文土器観察表 6

No.	出土地点	遺物番号	計測値(cm)	分類	観察事項	順位	番号
385		-10	33	斜位の発起線の横に弧状の発起線。			385
386	SB23#1	R1	24?	斜位の長い底部に沈縫。			386
387		R3	26	無文の斜縫。			387
388		R2	26	底部に現代住瓦、			388
389	SB23P1	-2	44	無文の斜縫。			389
390	SB23P2	-2	33a	斜位の底と縫の下方に複数の隆起部。			390
391		-3	43	内外部にいくつもかれた無文の口縫。			391
392		--4	34a?	内外部に凹現した複数部の底縫と、縫間に削み。有刻痕部以下は直縫文。			392
393	SB23P3	-5	34a?	392と同一物体。彌縫は沈縫による重弧文。			393
394		-2	34b1	縫帯部に直縫文、内側にRL縫文。			394
395	SB23P4	-1	44	脱下部に直縫文、底部は斜位住瓦。			395
396		-4	44a2	内壁のみの口底瓦、無文部の下にRL縫文。			396
397	SB24#1	-2	44	無文の斜縫部。			397
398		-1	44	無文の斜縫部。			398
399		8421	44a2	内壁のみの口底瓦、無文部の下にRL縫文、頭部に補修孔。			399
400		8432	34!	縫帶部に弧状の骨突。			400
401	SB24	8422	33b1	口縫部に複数の横び沈縫。			401
402		8644	25d	口縫部に円形の削み文。			402
403		-4	43	斜位の底縫の衝撃痕。			403
404		8431	31a	底部に斜起線の下方に直角状の発起線、内側にススキ付痕。			404
405	SB24P3	-1	31a?	斜位部に削み出された斜縫の直縫文。			405
406		-1	44a	長い無文部の下にRL縫文。			406
407	SB24P4	-2	37B7	口縫部の直縫の反対に複数の小窓突。突起の中央に削み痕。			407
408		-6	33a	頭部・縫合部の直縫文、部分的にRL縫文。			408
409	SB24P5	-5	31	口縫部に横縫の直縫文。			409
410		-2	43	口縫部に24の複数直縫部。40c2と同一体。			410
411	SB24P7	-1	34d3	縫帶部に斜縫の直縫と沈縫と木の棒状沈縫、頭部に垂下骨突。			411
412	SB24P10	-1	34c4	縫帶部に24の複数直縫部。内側にススキ付痕。			412
413		-1	25a	口縫部に24の棒状直縫。			413
414	SB24P14	-2	35c	口縫部に山字状の削み。以下横む沈縫と削み文。			414
415		-1	35	口縫部に山字状の削み。以下横む沈縫と削み文。			415
416	SB24P15	-2	44b	縫帶部にRL縫文、頭部は無文。			416
417		-3	44a	無文部の下に残すえ。			417
418		-4	403, 410比較 縫合部、縫合部北端の下方に垂下沈縫。			418	
419	SB24#1	-3 □(30)	44a2	内壁のみの口底瓦。大穴外反する直縫部。無文部の下にRL縫文。			419
420		8658	24d	直縫部に斜む口底瓦の削み部。日本ハバナの直縫部。横む沈縫。			420
421		8618	24c	□口底瓦無文部の下に直縫と直縫直縫。			421
422		8758	24c	421と同一物体。□口底瓦無文部の下に直縫部。以下斜位の直縫文。			422
423		8578	24	□口底瓦無文部の下に直縫部の直縫文。			423
424	SB25	8418	24	24の複数直縫部の下に直縫部の直縫文。			424
425		-16	24	直縫部削みに別位部。以下直縫部の直縫文。			425
426		8405	24	斜位の直縫部の下に直縫部の直縫文。			426
427		8519	24	中央に直縫部。頭部は24の削み部。直縫部北端に直縫部。			427
428		8667	24	縫合部の上に直縫部。下方は24の直縫部の直縫部に削み部。			428
429		8582	24	直縫部の直縫部を直縫部が通す。			429
430	SB25P1	-2	24	直縫部の直縫部を直縫部が通す。			430
431	SB25	8517	24	直縫部の直縫部を直縫部が通す。			431
432	SB25P1	-1	24a2	24の複数直縫部の下に直縫部の直縫文。			432
433	SB25P3	-3	35b	□口底部に長い別のものあらず直縫部。			433
434	SB25P4	-2	24?	やや外側をする無文の口縫部。			434
435	SB25P6	-2	24	やや外側をする無文の口縫部。			435
436		8400	25	頭部にRL縫文。			436
437	SB25	8399#1 亂(16)	25	制限部。RL縫文。直縫部は断面直角。			437
438		8466 亂(15)	25	底部に直縫部。直縫部は断面直角。			438
439	SB26#1	1515#1 亂(36) 亂(29)	18	有段部の直縫部は、直縫部による直縫部の直縫文。区画内には複数の直状斜縫文。区画内には複数の直縫部。直縫部削みと直縫部削み。			439
440	SB26#1	1545#1 □(30), 脱(31)	18	□口底部に直縫部。以下直縫部削み。直縫部削みと直縫部削み。頭部には直縫部による直縫文と人柄巻き文。頭部の直縫部削み。			440
441	SB26#1	1568#1 □(24), 高(25)	18	□口底部直縫部は斜位部の直縫部。直縫部削みと直縫部削みをもつ連続つなぎ文。隆脊に直縫部は斜位部の直縫部削み。			441
442	SB26#1	1564#1 亂(14)	18?	台形の直縫部。11段位に4段位の直縫部把手。□縫合部は縫合部の直縫部による直縫部削み。頭部には直縫部削みと直縫部削み。直縫部削みは直縫部による直縫部削み。内側には直縫部の直縫文。頭部には直縫部削みと直縫部削み。			442
443		1457#1 亂(26)	18?	□口底部直縫部は斜位部の直縫部による直縫部削み。直縫部削みと直縫部削み。			443
444		8365 亂(12)3	18?	□口底部直縫部は斜位部の直縫部による直縫部削み。直縫部削みと直縫部削み。			444
445		8659	18?	頭部に直縫部の下に直縫部削みと直縫部削み。			445
446		8660	18?	□口底部直縫部の直縫部削みと直縫部削み。			446
447	SB26	8343 亂(23)	18?	□口底部直縫部の直縫部削みと直縫部削み。直縫部削みと直縫部削み。			447
448		8559 亂(15)	18?	直縫部削みと直縫部削み。			448
449		-14	18?	直縫部削みと直縫部削み。			449
450		8475	18?	直縫部削みと直縫部削み。			450
451		8473	18?	複数部に直縫部と直縫部削み。			451
452		8386#1 亂(43)	20	□口底部直縫部の直縫部削みと直縫部削み。			452
453	SB26	1457#2 □(41), 脱(50)	18	15#1頭部を直縫部。以下複数部の直縫部。直縫部は直縫部削みと直縫部削み。			453
454		8761	18?	□口底部直縫部を直縫部削みと直縫部削み。			454
455		1456#1	18?	□口底部直縫部を直縫部削みと直縫部削み。			455
456	SB26	8845	26	無文の直縫部。□縫合部。直縫部削み。			456
457		8361	26	無文の直縫部。□縫合部。直縫部削み。			457
458		8479	15	□口底部直縫部削みによる直縫部削みと直縫部削み。			458
459		-15	6	直縫部削みと直縫部削み。			459

第4表 遺構出土陶文土器観察表 7

No	出土地点	遺物番号	計画値(cm)	分類	observation	桟岡	毛里
460		8478	18?	東・唐西型に折沿文、柄は絞形の沈縫文。		8380	460
461		8483	19?	1184形。底辺の有刺縫。内丸の下に多孔磨石。腹部と口縁内側に細沈縫文。			461
462		8499	6	口縫内側に細縫の沈縫文。			462
463	SB26	8472地	18	無地。各々を子母鉢式。内丸に粗縫。腹部と口縁内側に細沈縫文。			463
464		8463	18?	無地。各々を子母鉢式。内丸に粗縫。腹部と口縁内側に細沈縫文。			464
465		8488地	18	無地。各々を子母鉢式。内丸に粗縫。腹部と口縁内側に細沈縫文。			465
466		8471	18	無地。各々を子母鉢式。内丸に粗縫。腹部と口縁内側に細沈縫文。			466
467	SB26	8377地	18	「11西」。見み列。11西の下に折沿文。柄は絞形の沈縫文と折沿文。巻きき唐西の下に垂下縫。			467
468		11886	18?	口縫内側に粗縫。内丸に粗縫。地文はRSL模文。			468
469		15557	26	無地の11西。下方に粗縫。内丸の下に多孔磨石。腹部と口縁内側に細沈縫文。			469
470		15697地	18?	口縫内側に粗縫。内丸の下に多孔磨石。腹部と口縁内側に細沈縫文。			470
471	SB26P	8520	18	447ヒ。柄が結合。手足と背筋間に無地の折沿文。			471
472		15661地	18	無地。各々を子母鉢式。内丸に粗縫。腹部と口縁内側に細沈縫文。			472
473		15794地	18	無地。各々を子母鉢式。内丸に粗縫。腹部と口縁内側に無地折沿文。			473
474		15542	18?	横の厚手の下に無地折沿文。内丸に粗縫。			474
475		15644地	18	472ヒ。柄が結合。			475
476		-10	26	無入の粗縫。			476
477		8758	3	底頂部に内丸の粗縫。突起内丸および口縁間に円形刺突文。内丸にLR模文。			477
478	SB27	8895	5?	底縫内側に粗縫。内丸に粗縫。			478
479		8871	5?	底縫内側に粗縫。内丸に粗縫。			479
480		8678	12	底部に粗縫。内丸の下に子母鉢式。地文はRSL模文。			480
481		8613	18?	底縫内側に粗縫。内丸に粗縫。			481
482		-4	35el	「11西」。腹部と口縁内側に折沿文。			482
483	SB27P3	-3	43	腹部と口縁内側に折沿文。			483
484		-2	25	上縫部にRSL模文。			484
485	SB27B	15932 高(40) 地(42)	8	横の厚手の柄と刃付。唐西形の直縫文。茎部輪に平底起線。地文はRSL模文。			485
486		8852地 11(33) 高(7)	5	11西の柄および刃付の下骨縫文。頭部は無地。			486
487	SB27	13927 11(33) 高(9)	10	無文の直縫。			487
488		8871 11(29) 高(7)	10	無文の直縫。			488
489		8815 厚(25)	44	側面と底縫。内面にスス付痕。			489
490		8895	36?	内丸の11西に弧形の陰窓と粗地縫による文縫帶。陰窓の反点に円形刺突。			490
491		9019	26	内丸に「11西」の柄および刃付の底縫文。両端は「11西」による方肩直縫。			491
492		-24	36?	「11西」の柄および刃付の底縫文。内丸に粗縫。			492
493		-20	36	36/SB26地 1ヒヨク。腰縫。			493
494		-27	33a	口縫に「11西」の柄。当腰部から外へへの本筋折沿が添丁。			494
495		-30	34d8	輪形地。11西の腰縫。内丸に粗縫を含んでRSL模文。			495
496		13747	35e2	口縫部に「11西」の腰縫。			496
497		-29	44a3	口縫部に「11西」の腰縫。			497
498		-23	35b	口縫部に丸い刻みのある腰縫。内丸に「11西」の腰縫。			498
499		9081	35el	上縫部に横の有刺縫。			499
500		13751	35b	「11西」の腰縫。			500
501		-25	35b	外丸子母11西。丸い刻みのある腰縫。内丸にスス付痕。			501
502		-31	35d	口縫に「11西」の腰縫。内丸にスス付痕。			502
503	SB28	-21	44a2	無文の内丸に粗縫。			503
504		-22	35d	無文の内丸に粗縫。			504
505		8099地	44a2	無文の内丸に粗縫。			505
506		8994	33a	下部と腰縫が「11西」の腰縫。内丸にRSL模文。			506
507		-33	31a3	腰縫の腰縫直縫。内丸に粗縫。			507
508		-32	35a7	腰縫の腰縫直縫。内丸に粗縫。			508
509		9014	29?	腰の腰縫直縫の下方に刃形の腰縫。			509
510		13752	29a	腰縫の腰縫直縫。内丸にスス付痕。			510
511		-37	33b1	腰縫に多少の粗縫。			511
512		-36	33b2	「11西」の腰縫。地文はRSL模文。内丸にスス付痕。			512
513		-35	43	削除。腰縫直縫。			513
514		-34	40?	削除。腰縫直縫。			514
515		9018地	36b	「11西」の腰縫直縫。			515
516		9005地	29b	2本の腰縫直縫の上に「11西」の腰縫。下部の内丸に格子状の細沈縫文。			516
517		-9	35b	「11西」に丸い刻みのある腰縫。内丸にスス付痕。			517
518	SB28SK	-8	35	腰縫に「11西」の腰縫。			518
519		-7	35d	腰縫に「11西」の腰縫。			519
520	SB28P4	-4	35d	腰縫に「11西」の腰縫。			520
521		-3	31a2	2本の腰縫の腰縫。			521
522	SB28P9	-1	38b5	口縫部に「11西」の腰縫。			522
523	SB28P16	-2	35c	「11西」に「11西」の腰縫。			523
524		-4	34b	内丸子母11西。腰縫の腰縫。外縫部が部分的に突出。			524
525	SB28P18	-1	35e1	「11西」に横の有刺縫。内丸に展屈か。			525
526		-2	43	削除。腰縫直縫。			526
527		-3 地(9)	44	地縫に丸い刻み。			527
528	SB28	9015地 地(10)	44	腰縫に削除。地縫にスス付痕。			528
529		9016地 地(10)	44	腰縫に削除。地縫にスス付痕。			529
530		1366	22?	内丸に「11西」の腰縫。			530
531		-7	22?	口縫部に横の腰縫。内丸にRSL模文。			531
532		8251	5	下部腰縫による腰縫。内丸に刻み。			532
533		9763	25	削除。腰縫。			533
534		-8	22?	削除に2本の腰縫。			534
535		-9	22?	手縫腰縫の腰縫。			535
536		12061	22?	削除。2本の手縫腰縫。			536
537		12062	22?	削除。2本の手縫腰縫。			537
538	SB29埋蔵	15699 地(47) 地(14)	22?	削除。2本の手縫腰縫。			538
539	SB29	-10	18?	腰縫腰縫の下部に腰縫。			539

第4表 遺構出土繩文土器観察表 8

No.	出土点名	遺物番号	計画値(cm)	分類	観察事項	確認箇所	確認箇所	
540	SB29P6	-1	35a	U字縫に横状の有刻縫跡。2字状の梯形開口部。山並状の穴あきあり。			88b5	
541	SB29P10	-1	25	開口部に梯形状1月による条縫文。			540	
542	-1	35e3	U字縫に4本の横切縫跡。施文はRL縫文。			542		
543	SB30#1	-2	34f1	梯形部に多量の弧状沈縫。			543	
544	SB30#上	-1	35g2	円筒部に横状の有刻縫跡と準縫跡。芦井と梯状の十器が組合。			544	
545	SB30L	-1	36a	丁字状の口部部の中央に横状の有刻縫跡。54dと同・側体。			545	
546	SB30	9467個	36b	丁字状のU字状の横頂部に施文文字と弧状縫文。腹部は降伏による2字状文。			546	
547	-1	34c6	梯形部の横走る縫跡間に斜列。			547		
548	-11	30b	内部するU字縫に小穴あき。側部は複数RL縫文と円形刺突。			548		
549	SB30L	-9	34j	梯形の有刻縫跡。地文はRL縫文。			549	
550	-10	34j	有刻縫跡の下部にLR縫文。			550		
551	9465	-2	34c6	梯形部の横走る縫跡間に斜列。			89d2	
552	SB30	9468	36?'	梯形部表面の下部に弧状の降伏。降伏の交点に円形刺突。			551	
553	-2	34j	梯形部の有刻縫跡の下方に縫文。			552		
554	9052	44	内側する梯形のU字縫。			553		
555	-7	44	網目状RL縫文。			554		
556	SB30L	-5	33a	梯形部2つの重複縫跡。上方にボタン状突起。			555	
557	-6	35?	降伏の交点に円形刺突。			556		
558	SB30	9053底(3)	41	ミニチュア土器の底部。底部は網代状底か。			557	
559	-13底(5)	41	ミニチュア土器の底部。			558		
560	SB30L	-12底(15)	44	網代状底えら型のU字縫。			559	
561	SB31#1	1892	△(22), 高(37) 底12	3単位の網状U線。底面から上の底部が垂下。降伏間にハの字状沈縫文。波底感方向が側(即ち底部)には斜縫と梯状の沈縫。以下斜沈縫。斜縫内に斜引付柱痕がある。底部は網代状底(3を超えて3泊引付柱1本引込)。			560	
562	-	13096	24	U字縫や梯形の下部に弧状の沈縫。			561	
563	-	-14	44b	梯形の肥厚した縫部部は無文。以下斜文帶のF+CLR縫文。			562	
564	10598#	-	44b	梯形の肥厚した縫部部は無文。以下斜文帶。			563	
565	-	-15	44b	梯形の肥厚した縫部部は無文。以下斜文帶。			564	
566	-	-17	44b	梯形の肥厚した縫部部は無文。以下斜文帶。			565	
567	-	13095	44a	斜文帶の下部RL縫文。			566	
568	-	14051	34c4	斜文帶部にU字の横切縫跡。当部にU字の鉄道跡。			567	
569	-	10905	34d8	斜文帶部にU字の横切縫跡。以下RL縫文。			568	
570	-	-13	44	U字縫部部に斜縫。			569	
571	SB31	10592	44	U字縫部部に2字状の斜縫列。斜文帶の下に縫文。			570	
572	-	-12	44	斜文帶の下DLR縫文。			571	
573	-	13090	44a2	斜文帶の下DLR縫文。			572	
574	-	11397	25	直文のU字縫。内部に斜引付柱痕。			573	
575	-	10981	24	斜部に斜降縫と沈縫による斜文。一部にLR縫文。			574	
576	-	10596	24	斜部の斜降縫の下部に弧状の沈縫。			575	
577	-	-16	24	斜部の斜降縫の上部に弧状の門鉄。			576	
578	-	-19	29b	斜部に斜引付柱と弧状降伏記録。その側に傾斜の網状縫文。			577	
579	-	10488	25	降伏部に斜引付柱。斜文はLR縫文。			578	
580	-	-18	43	斜部に斜引付柱の多量沈縫。地文はRL縫文。			579	
581	-	13026	44	斜部にRL縫文。			580	
582	-	-3	44a	斜文帶の下DLR縫文。斜部にスス付着。			581	
583	SB31P3	-2	33	側部に弧状の背負縫。			582	
584	-1	25	斜下部の斜引付柱と斜沈縫。			583		
585	SB31P4	-2	24?	降伏が外反する無文のU字縫。			584	
586	SB31P5	-1	29b	3本の斜引付柱の下部に斜引付柱の網状縫文。斜部にスス付着。			585	
587	-	10487	25	直文の斜引付柱。			586	
588	-	10250	26	直文の斜引付柱。直引付柱による斜彎曲が残る。			587	
589	SB31	10592底(2)	44	ミニチュア土器の底部。			588	
590	-	9442底(12)	25	直文の斜引付柱。直引付柱による斜彎曲が残る。			589	
591	-	13094底(14)	24	直引付柱の斜縫。斜部に網状の門鉄。地文はRL縫文。			590	
592	-	9716	7?	U字縫部の肥厚したU字縫。斜部に網状縫と斜沈縫。			591	
593	-	9598	18?	U字縫部の斜引付柱内に斜沈縫。底部に斜引付柱。			592	
594	-	-23	23?	斜引付柱の斜引付柱内に斜引付柱。斜部に網状縫。			593	
595	-	9695	23?	斜引付柱の斜引付柱内に斜引付柱。斜部に網状縫。			594	
596	-	9123	19?	内側する口部間に文書帶。斜部内に斜文帶。			595	
597	-	12548	22?	U字縫部に網状の斜縫。			596	
598	-	9144	35?	内側に肥厚したU字縫。斜部に網状縫。			597	
599	-	9697	18?	U字縫部に肥厚したU字縫。斜部に網状縫。			598	
600	-	9122	23?	U字縫部に肥厚したU字縫。斜部に網状縫。			599	
601	SB32	9715	26?	U字縫部に網状の斜引付柱。斜部に網状縫。			600	
602	-	-20	8	斜引付柱と斜引付柱。			601	
603	-	9700	17?	側部の斜引付柱のU字縫。			602	
604	-	9847	9?	浅縫のU字縫。斜部に斜引付柱。斜部に網状の門鉄。地文はRL縫文。			603	
605	-	-25	18?	浅縫のU字縫。斜部に斜引付柱。斜部に網状の門鉄。地文はRL縫文。			604	
606	-	-24	7?	側部に斜引付柱による斜縫。			605	
607	-	9854	29b	側部の斜引付柱の下に斜引付柱の網状縫。斜部に網状縫。			606	
608	-	-22	8	斜引付柱の斜引付柱。内側に斜引付柱。			607	
609	-	-31	44?	斜引付柱を凌駕するRL縫文。斜部に斜文帶。			608	
610	-	9845	19?	側部の斜引付柱内に斜文帶と斜引付柱。斜部にRL縫文。			609	
611	SB32SK1	-1	22?	斜引付柱の斜引付柱内に斜引付柱。斜部にRL縫文。			610	
612	SB32P6	-4	18?	斜引付柱の下DLR縫文。斜部に斜文帶。			611	
613	SB32P6	-5	44a2	斜引付柱の下RL縫文。			612	
614	SB32	9127	6	斜引付柱の下RL縫文。斜部に斜文帶。			613	
615	SB32	9696	31a?	斜引付柱と斜引付柱の斜引付柱。斜部にスス付着。			614	
616	-	-2	44a2	斜引付柱の下RL縫文。			615	
617	SB32P2	-3	12.7, 64.3	41	斜引付柱のミチュア土器。			616
618	SB32P10	-1	18?	斜引付柱の斜引付柱。			617	

第4表 遺構出土縄文土器観察表 9

No	出土地点	出土品番	計測箇所(cm)	分類	観察項目	確認箇所	参考番号	
619	SB32	10017	36b	東部に楕円状の凹部による斜面文、表面にスズ付青。			619	
620		-28	24	凸隆部に沿って沈縄文、区画内に重ねの字状沈縄。			620	
621		9701	19	交互斜文の下方に横位の逆縦文。底下部は4等分か。			621	
622		91268 脱(20)、底(10)	22	腹部に複数の沈縄文と底延長沈縄。底手状文やU字状文を配す。			92回	
623		-30	26	頭部にRL縄文。底部は斜面斜縄。			622	
624		13434 底(10)	26	頭部にRL縄文。底部は斜面斜縄。			623	
625		91246 脱(25)、底(12)	22	頭部に日本原形の垂下式横。地にはRL縄文。底部にも縄文。			624	
626		9471	36b	L字型のRL縫合部に荷造高島文。頭部に垂下式横。			625	
627		12221	35e3	U字型部に複数の文字文。口部にRL縄文。			626	
628		-3	44c	U字型にRL縄文。口部に無文。			627	
629		9473	44b	縫合部にRL縄文。			628	
630	SB33N	9877	35a	L字型のU字型部に複数のU字縄文。頭部に横位の縫合。			629	
631		9878	34c6	縫合部に斜交部と横位沈縄。			630	
632		9472	43	楕円状の凹部間に斜位の沈縄文。			631	
633		-4	35e3	(U字型) 斜行式横。			632	
634		-5	36?	縫合の外方に円形横文。			633	
635		12219 底11	44	頭部は現代江戸前の上部裏面打痕。			634	
636		9751	43	L字型に斜位、複数縫合の下方に沈縄。その下に有刻縫合。			635	
637		9492	35e1	U字型部の2つの横位縫合。			636	
638		10596	34b	縫合部の縫合部が突出。			637	
639		9755	39b	底延長部内外に斜位をもつ穴穿、口部に網み。表面に凹部。			638	
640		11151	44c	山並状突起をもつ無文の縫合部。外部に黒色着色。			639	
641		9494	35a	(U字型) 横位の縫合斜縄。			640	
642		9787	44a2	無文のU字型。			641	
643		12222	39	横位の凹部上方にRL縫合。縫合に強度のU切り縫合。			642	
644		9608	34	頭部に横位の有刻縫合。			643	
645		9495	43	RL縄文の上に斜位の横縫合。			644	
646		9483	39	横位間の縫合。内部に沈縄。			645	
647		9484	35a	頭部は現代江戸前の上部裏面打痕。			646	
648		10245	43	縫合にU字縫合。			647	
649		9788	35a	(U字型) 2つの横位縫合。			648	
650	SB33P8	-1	27	有孔付手元、頭部に日本の下部斜縫合。底部彫刻あり。			649	
651		-3	34d8	縫合部の1つの横位斜縫合。縫合部から有刻縫合が底下。			650	
652		-4	43	2つの楕円状沈縄の下方に斜位の沈縄文。			651	
653		SB33P10	9737	34j	欠落する有刻縫合の下方にU字縫合の彫刻文。			652
654		SB33P12	-1	44c	無文のU字型。内部に蓋付手元の横位縫合。			653
655		-1	34b3	縫合部に底延長部と溝利部の横位沈縄。			654	
656		SB33P14	-3	44	口部部にRL縫合。			655
657		-2	44a	無文部のU字型RL縫合。			656	
658		SB33P15	-1	34c6	縫合部の横位沈縄:U字型斜縫合。口部に横縫合。			657
659		-1	40a	注口上部の把手部。7G出下[No]1488]と接合。第240号[No]2846。			658	
660		-2	34e	縫合みの残る把手部にRL縫合。頭部に垂下式横。			659	
661	SB33P16	-5	34c4	縫合部の2つの横位沈縄。地にはRL縫合。			660	
662		-3	34j	口部内側に凹部。内部に横位の横位沈縄。			661	
663		-4	44b	縫合部および縫合部の横位RL縫合。			662	
664		-6	35a	(U字型) 横位の縫合斜縫。			663	
665		SB33P17	-7	44b	縫合部および縫合部の横位RL縫合。表面にスズ付青。			664
666		-5	43	頭部に多くの通過縫合。地にはRL縫合。			665	
667		SB33P19	-2	44b	縫合部の横位の縫合斜縫。口部に無文。			666
668		9662	77	背板下方に平底丸縫文。下方に有刻縫合。			667	
669		9485	19?	U字型の縫合部の沈縄文。下方に有刻縫合。			668	
670		97468	25	U字型部の沈縄部の彫刻。地にはRL縫合。			669	
671		9791	25	U字型部の沈縄部の彫刻。地にはRL縫合。			670	
672		9777	18?	U字型部の通縫の押き刺繍。地には熱泡文。			671	
673		11149	17	無文部の彫刻文。			672	
674	SB33	9488地	LJ(24)、附(14)	8	台形状の底部部と貫通れ。縫合部に有刻縫合。頭部に平底起縫による曲縫文。表面に底部の貫通れ。			673
675		10227地	LJ(35)、高32	25	やや膨らむU字型部は無文部。以降複数の横位縫合。			674
676		15909 L1(20)、高21	44a2	複数の横位の底延長部。頭部はRL縫合。			675	
677		SB33	9752 (底)	26	脚下部は無文部。頭部は網目(紙)1本組りと手引り1本送り。			676
678		10440	44a2	無文部のU字型RL縫合。			677	
679		10438	44a3	(U字型) 横位底延長部。地にはRL縫合。			678	
680		9454	44b	縫合部の横位RL縫合。			679	
681		10199	18?	(U字型) 文様部。区画内に解説沈縄。			680	
682		9453	6	(U字型) 横位の平底丸縫文。その下に通縫刺繡。内部に彫刻彫。			681	
683		9996	7	頭部に「平底丸縫」と有刻縫合による直縫文。			682	
684		9456	17	U字型部の直縫の有刻縫合。その下に横位の横位縫合。			683	
685		10007	17	U字型部の横位の底延長部。その頭にや軽竹枝工芸による縫合沈縄文。			684	
686		10468	8?	(U字型) 伸位と次位による直縫文。			685	
687		10005	25	口部に直縫の無文部。以降縫合。			686	
688	SB34	9997	6	頭部に「新陰茎」と「平底丸縫」と文様部を極く。			687	
689		10962	17?	脚上部に横位の底延長部。			688	
690		10439	6	頭部:横位の平底丸縫文。上部に漁網の彫刻彫。			689	
691		10631	17?	頭部部に「通縫」。			690	
692		10003	17?	直縫の「通縫」。U字型部の頭に「通縫」。			691	
693		10967	6	頭部:横位の平底丸縫文。			692	
694		9731	7?	頭部部に「平底起縫」による直縫文。			693	
695		9729	17	底延長部の横縫の「通縫」。轟山瓶部の「平底起縫」。			694	
696		10965	26	上方に直縫の「通縫」。表面にスズ付青。			695	
698		10898	8	荷造部に「平底竹枝」U字による直縫文。地にはLR縫合。			696	

第4表 遺構出土繩文土器観察表 10

No.	出土地点	遺物番号	計測値(cm)	分類	観察事項	補間	参考
698			-9	8	側面部に風呂の沈縫文。端部は丸い縫文。	669	
700	SB34	13071		8	699と同じ様、風呂の側面部に下隣起縫文。端部はLR縫文。	700	
701		10573		8?	側面部に風呂の側面部に下隣起縫文。端部はLR縫文。	701	
702		1	-2	6	口横部に横縫の下隣起縫文。上段は連続横縫文。	702	
703	SB34SK1	-1		25	口横部に横縫の下隣起縫文。上段は連続横縫文。	703	
704		-2		6	側面部に風呂の側面部に下隣起縫文。	704	
705	SB34P5	-1		34n	側面部に風呂の側面部に横縫部に風呂の風呂文。	705	
706		10470		43	側面部に風呂の側面部に横縫文。	706	
707	SB34	10684	底(?)	43	側面部に風呂の側面部に横縫文。	707	
708		13073	底(16)	26	側面部にLR縫文。内側は白色系。	708	
709		10978	側	26	口横部に有肩部による凹凸文。内側には腰帶のいの沈縫文と斜谷の繩縫文。	709	
710		10974		26	26と同じ。口部は丸縫。	710	
711		-15		26	709-710同様。側面部の下方に直隣起縫文。	711	
712		10975		17	口横部に風呂の側面部と斜谷部に下隣起縫文。	712	
713	SB35	10559		17	口横部に風呂の側面部と斜谷部の押引斜縫文。	713	
714		10561		17	斜谷部の14mm・16mm・18mm付近。	714	
715		-14		26	口横部に円錐形の沈縫文。	715	
716		9444		20	19・21の吹き抜きの上方に横縫の底部のみ。下方はRL縫文。	716	
717		9443		17	横縫部の下方に斜谷の吹き抜き形横縫文。	717	
718		13443		17	斜谷部に横縫の押引斜縫文。	718	
719	SB35P3	-1		8	側面部に横縫部と斜谷部の底部のみ。端部はRL縫文。	719	
720		10472	側	14	斜谷部にY字による凹凸文。端部は横縫文。	720	
721		13442		8	側面部にY字による凹凸文。	721	
722		10577		8	側面部にY字による凹凸文。	722	
723	SB35	10577		19	側面部にY字による凹凸文。	723	
724		10578		25	側面部に横縫の底部。	724	
725		10561	底(10)	25	斜面部にY字による凹凸文。横縫部は無跡の横縫。	725	
726		10191	底(19)	23	25の斜面部の有肩部によるとY字による凹凸文。横縫部は無跡の横縫。	726	
727		10428	(1)(33), 番(1)	10	無縫の底部。端部も横縫。	727	
728	SB35NE	-5	(1)(30), 番(3)	10	無縫の底部。	728	
729	SB35P	2		23	口横部に片斜谷部による連続斜縫文。左斜縫部に横縫底部。	729	
730		10455	側	23	口横部に片斜谷部による連続斜縫文。左斜縫部に横縫底部。	730	
731		10456		14	口横部にY字による凹凸文。端部は横縫文。	731	
732		10443		14	13・14の吹き抜きの底部。端部は下斜谷付近付近による凹凸文。	732	
733	SB36	-14		19?	13・14の吹き抜きの底部。端部は斜谷部による凹凸文。	733	
734		-15		22?	口横部に斜谷部。	734	
735		12014		18	口横部に斜谷部と斜谷部の底部。	735	
736		-23		8	口横部に横縫の底部。	736	
737		-11		14	口横部にY字による斜谷部と斜谷部による横縫底部。	737	
738	SB36U	-3		19?	13・14の吹き抜きの底部。端部は斜谷部による凹凸文。	738	
739	SB36	-3		25	口横部に横縫の底部。	739	
740		-2		26	尾突起の土管。11号はD子状の斜谷部。以下番付記載。	740	
741		-1		44	11号の吹き抜きの底部。端部は斜谷部。内側にスス付着。	741	
742		-2		44a	11号の吹き抜きの底部。内側にスス付着。	742	
743		10007		44a	11号の吹き抜きの底部。内側にスス付着。	743	
744	SB36	-17		35e	口横部にY字による斜谷部。	744	
745		-16		35b	口横部に丸い斜谷の斜谷部。	745	
746		-19		44b	縫合痕無し。以下RL縫文。	746	
747	SB36U	-2		23	側底部の下方に直す下隣起縫文と蛇行沈縫。端部はLR縫文。	747	
748		-21		23?	側部の直す下隣起縫文。端部はRL縫文。	748	
749		12013		18?	東下部断面に横縫文。端部はRL縫文。	749	
750		12351		17?	横谷部の下に斜谷部の斜谷部。端部はRL縫文。スス付着。	750	
751	SB36	13079	2	34!	横谷部の斜谷部の下に斜谷部。内側にスス付着。	751	
752		13079	1	22?	横谷部にY字による凹凸文。端部は横縫文。	752	
753		13428		26	東面にY字による凹凸文。端部に削み。	753	
754		-24		33a	側面部にY字による斜谷部と斜谷部。	754	
755		-22		33a	側面部にY字による斜谷部と斜谷部。	755	
756	SB36埋量	15635	底(37), 底(12)	26	側面部の下方に直すY字による凹凸文。端部はLR縫文。	756	
757	SB36	12012	底(19)	17	側底部の下方に斜谷部の斜谷部。端部はLR縫文。斜谷部の下方に斜谷部。	757	
758		12011	底(21)	24	斜面部に斜谷部による凹凸文。内側に横縫文。内側にスス付着。	758	
759	SB36P3	-2		44	側部のRL縫文。内側にスス付着。	759	
760	SB36P6	-1		38c	横谷部にY字による斜谷部。	760	
761	SB36P7	-1		43	上方にY字による斜谷部。	761	
762	SB36P12	-2		44c	11号以降のRL縫文。外側にスス付着。	762	
763	SB36P13	-2		44	側部のRL縫文。内側にスス付着。	763	
764		-1		40e	曲板文を描く(横谷部)。端部は横縫文。	764	
765	SB36P14	-1		6	平隣起縫部に横縫の沈縫文。	765	
766		-2		23	747と同一。側部。側面部に3本の斜谷部と蛇行沈縫。	766	
767		10466		8	縫横部に平隣起縫文。本に横縫爪形文。	767	
768		13070		8	横谷部の斜谷部の上にY字による凹凸文。端部は斜谷部。	768	
769		10896		8	T字状の有肩部の下方に平隣起縫文。	769	
770		10202		7	平隣起縫部による凹凸文。斜谷部による別み。	770	
771		10465		8?	横谷部の斜谷部。	771	
772		9992		5	11号は丸型の横縫形突起。文部は斜谷部による凹凸文と斜谷部。	772	
773		10567		8	側部にY字による斜谷部と斜谷部。	773	
774		12019		8	側部にY字による斜谷部と斜谷部。	774	
775		11140		25?	側面部のY字による斜谷部。斜谷部による別み。	775	
776		10226		12	横谷部の下方に斜谷部。	776	
777		10968		18	横谷部のY字による斜谷部。斜谷部による別み。	777	
778	SB38	13757		18	777と同一。	778	
779		10003		18	11号は丸型の横縫形突起。文部は斜谷部による凹凸文。	779	

第4表 遺構出土調査土器観察表 11

No	出土地点	遺物番号	計測値(cm)	分類	観察事項	種別	参考
280	SB38群	-2	18?	横穴の沈没部の下方に埋め込み。		780	
281		-3	8?	横穴の有効深度の下方に「茎竹管状工具による横穴沈没」。		781	
282		-2	23	「茎竹管状工具による横穴沈没」。		782	
283		-3	18	「茎竹管状工具による横穴沈没」。		783	
284	SB38SK1	-4	24?	「茎竹管状工具による横穴沈没」。		784	
285		-5	26	「茎竹管状工具による横穴沈没」。		785	
286		-6	5?	断面が「2本の棒状」。		786	
287		-7	18?	断面の「棒」。		787	
288	SB38SK3	-1	23	断面が「茎竹管状工具による横穴沈没」。		788	
289		-2 製(25)	28	よく削られた断面が「扇形」。	内方に赤茶色および黒褐色石器。	789	
790	SB38	12211 □(34), 製(25)	18	口縁部に無文、断面が「V字形」。	底面は斜面で、以下丁寧に磨きが施す。底下露間に沈没した3箇所の土柱など剥離状況。	790	
791		13745	18	口縁部に無文。	底面は斜面の沈没部。無文帯を挟んでRL構文。	791	
792		12015	7	断面が「V字形」。	底面は斜面の沈没部。	792	
793		-21	7	有効深度と「棒」の横穴沈没。	地文は無文。	793	
794		-19	8	「棒」の横穴沈没。		794	
795	SB38	-20	14	「棒」の横穴沈没。		795	
796		-22	26	口縁部に「V字形」。	内側に斜面。	796	
797		10672	44?	断面が「V字形」。	内側に斜面。	797	
798		10664	25	口縁部に「V字形」。	内側に斜面。	798	
799		-24	27?	断面が「V字形」。	内側に斜面。	799	
800	SB38P3	-1	25	断面が「V字形」。		800	
801	SB38P11	-1	34?	横穴の有効深度の下方に「茎竹管」。		801	
802	SB38L	-1	44?	断面は無文。以下RL構文。	表面にスズ付着。	802	
803	SB38	10679	18	有効深度によって平面が斜め。	区画内に新規の手探り跡。	803	
804	SB38L	15913 底(10)	44?	断面が「V字形」。	底面は削り出された本体(2枚超)と本体(1枚切り)。	804	
805		12213 底11, L1(26)	19	断面が「V字形」。	底面は削り出された本体。	805	
806	SB38	-23	10	断面が「V字形」。	底面は削り出された本体。	806	
807		10670	26	口縁部に「V字形」。	底面は削り出された本体。	807	
808	SB38複数	19833 高(48), 製(43)	19	断面が「V字形」。	内側に斜面。	808	
809		12546	26	断面が「V字形」。	内側に斜面。	809	
810	SB39	-8	9	断面が「V字形」。	内側に斜面。	810	
811		12645	17	断面が「V字形」。	内側に斜面。	811	
812		12722 □(30)	22	口縁部が斜面で、断面が「V字形」。	断面が「V字形」。	812	
813		12539# 製(22)	22?	断面が「V字形」。	内側に斜面。	813	
814		13460#	23b	口縁部に「V字形」。	内側は無文。	814	
815		12723	23	口縁部に「V字形」。	内側は無文。	815	
816		-24	26	口縁部に「V字形」。		816	
817		-20	23	口縁部が「V字形」。	内側は無文。	817	
818		-18	24	口縁部が「V字形」。	内側は無文。	818	
819		14276	23	口縁部が「V字形」。	内側は無文。	819	
820		-21	23	口縁部が「V字形」。	内側は無文。	820	
821	SB40	-23	23	口縁部に「V字形」。	内側は無文。	821	
822		13040	23	無文帶の下に「V字形」。		822	
823		-15	23	無文帶の下に「V字形」。		823	
824		12710-3	23?	無文帶の下に「V字形」。		824	
825		-16	23?	無文帶の横孔部を以て「V字形」。		825	
826		-19	23?	口縁部に「V字形」。		826	
827		12539# 底(9)	26	無文の底面。		827	
828		12725# 底(15)	19?	断面に「V字形」。	底部に「V字形」。	828	
829		12708# 底(11)	22?	断面に「V字形」。	地文はRL構文。	829	
830		12710-1 11(14), 高20	25	口縁部に「V字形」。	地文はRL構文。	830	
831		12774	18	口縁部が「V字形」。	地文はRL構文。	831	
832	SB40P3	-1	18	口縁部が「V字形」。	地文は無文。	832	
833		12713	17?	口縁部が「V字形」。	地文は無文。	833	
834	SB40	-22	26	口縁部が「V字形」。	地文は無文。	834	
835		13028	15	口縁部が「V字形」。	地文は無文。	835	
836		12719	21	口縁部に「V字形」。		836	
837	SB40U	-6	18?	口縁部の「V字形」。		837	
838		12540	26	内側に「V字形」。	内側に「V字形」。	838	
839		-23	23?	断面が「V字形」。		839	
840	SB40	12775	18?	横孔の「V字形」。		840	
841		12709	18?	断面が「V字形」。		841	
842		13022	19?	断面が「V字形」。		842	
843		13032	18	断面が「V字形」。		843	
844	SB40U	-8	22?	横孔部を以て「V字形」。		844	
845	SB40	-14	22?	断面が「V字形」。	地文はRL構文。	845	
846	SB40U	-25	22?	断面が「V字形」。	地文はRL構文。	846	
847	SB40	-7	23	横孔部に「V字形」。	地文はRL構文。	847	
848	SB40U	-9	22	断面が「V字形」。	地文はRL構文。	848	
849		-13	18?	断面が「V字形」。		849	
850	SB40	12727	22	断面に「V字形」。	地文はRL構文。	850	
851	SB40U	-10	22	断面が「V字形」。	地文はRL構文。	851	
852	SB40	12771	18?	断面が「V字形」。	地文はRL構文。	852	
853	SB40U	-11	25	口縁部に「V字形」。	地文はRL構文。	853	
854		-12	25	断面が「V字形」。		854	
855		100	36a	丁字状の「V字形」。	地文はRL構文。	855	
856	SB41	252	36a	丁字状の「V字形」。	地文はRL構文。	856	
857	(SX1)	148	36a	丁字状の「V字形」。	地文はRL構文。	857	
858		1607	36a	丁字状の「V字形」。	地文はRL構文。	858	

第4表 遺構出土繩文土器觀察表 12

No	出土地点	遺物番号	計測値(cm)	分類	経年変遷		備註
					初期	後期	
859		253	36c	下口字の口縁部に3本の横立鉢足。			859
860		257	43	[口縁部の内面]に木の棒で削られた溝跡。			860
861		1107	35c	[口縁部の内面]に木の棒で削られた溝跡。中央に斜穴。			861
862	SB41 (SK1)	2238	35a	横立鉢足の底立鉢足。			862
863		254	44	横立鉢足の口縁部。			863
864		99	44	横立鉢足のR縁部。			864
865		290	44c	裏文のR縁部。			865
866		309	41	裏文のR縁部。			866
867		2240	40c	注口部を含む側面破片。口縁部の沈窓区画内にRL縁柱。			867
868		-4	43	側面の沈窓区画内にR縁柱。			868
869	SK3	-6	387	横立鉢足の下方に底立鉢足。			869
870		-5	387	底立鉢足の下方に底立鉢足。			870
871		1028	□(36)	底立鉢足の下方に底立鉢足え。底面底部で2×2字の痕跡。地文はR縁柱。			871
872	SK1 ^a	2341	底(39), 高(14)	44a	無底鉢足の底立鉢足。		872
873		2	297	口縁部の外側に斜め溝跡。内側に曲面鉢足え。横立鉢足上に直通鉢足突起。			873
874	SB42	13408	22	断面の底面下部が鉢足え。地文はR縁柱。			874
875		13739	25	[口縁部]に木の棒で削られた溝跡。			875
876		-3	397	底立鉢足の下方に底立鉢足。			876
877	SB42埋甕	15831	底(31), 高(33)	397	断面の底面などに鉢足が鉢足品で底面に連結。底立鉢足は横立鉢足。		877
878		15634	底(66), 高(16	18	1)底立鉢足の下方に底立鉢足え。半段位の底立鉢足と底立鉢足。以下隣接鉢足と骨壺の間に底立鉢足と底立鉢足。2)底立鉢足の下方に底立鉢足え。地文はR縁柱。		878
879		14275	39?	[口縁部]の内側にR縁柱。			879
880		-7	38?	[口縁部]の内側にR縯柱。			880
881		-8	29?	[口縁部]の内側にR縯柱。			881
882	SB43	14274	20	口縁部の内側にR縯柱。			882
883		-9	23	口縁部の内側にR縯柱。長方形に底立鉢足。			883
884		-10	175	底立鉢足の上方に底立鉢足え。これは新位の底立鉢足。			884
885		-11	18	断面の底立鉢足の底立鉢足。			885
886		-12	22	断面の底立鉢足。地文はR縯柱。			886
887		-7	34d	横立鉢足の底立鉢足。三・RL縯柱。			887
888		-5	34d1	地文はR縯柱。			888
889	SB44SK	-6	44a	口縁部の下方にR縯柱。			889
890		-9	43	断面の底立鉢足。地文はR縯柱。			890
891		-4	44b	地文はR縯柱。			891
892		-2	44	断面のR縯柱。			892
893	SB44P3	-3	33a	断面の底立鉢足と底立鉢足。地文はR縯柱。			893
894		-1	25	断面の底立鉢足[口縁部]と底立鉢足。地文はス付鉢足。			894
895	SB44P10	-1	25	断面の底立鉢足[口縁部]と底立鉢足。地文はス付鉢足。			895
896		6	33a?	断面の底立鉢足と底立鉢足。			896
897	SB44P11	-1	77	[口縁部]に有刺鉢足と上口面鉢足。			897
898		15192	22?	断面の底立鉢足と底立鉢足。地文はス付鉢足。			898
899	SB44	-1	35	断面の底立鉢足。			899
900		-1	22?	断面の底立鉢足と底立鉢足。地文はR縯柱。			900
901	SB45P1	-2	22?	断面の底立鉢足。			901
902		15834	底12	断面の底立鉢足。底立鉢足は断面仕合(日本水引)と本押(日本逆水)。			902
903		8555	34a	口縁部と底立鉢足。底立鉢足は断面仕合(日本水引)と本押(日本逆水)。			903
904		15	35	断面の底立鉢足。			904
905	SB26	16	34	上方に底立鉢足。			905
906		884	44b	断面の底立鉢足は底立鉢足。底立鉢足はR縯柱。			906
907		17	44	断面のR縯柱。			907
908	SB46B ^a	-2	□(19)	44a2	4位位の底立鉢足。底立鉢足の無底の下は無路の範囲。		908
909		849	24	風呂の底面鉢足の内側に左側に上口面鉢足。			909
910	SB12	685	24	北側の底面内に断面の羽目鉢足。			910
911		-30	24	底立鉢足の内側に口縁部鉢足と底立鉢足。			911
912	SB47P1	-6	25	断面の底立鉢足上口と底立鉢足。地文はス付鉢足。			912
913		-1	24	下方に直通鉢足の底立鉢足。地文は断面仕合(日本水引)による条痕。			913
914	SB47P6	7345	24	やや深く中1)横立鉢足の横立鉢足起座。それに接して3本の底立鉢足が重り。			914
915		637	30a?	断面の底立鉢足。			915
916	SK1	1386	29	口縁部と底立鉢足。口縁部の底立鉢足の右側面。			916
917		1398	25	裏文等の下にR縯柱。			917
918	SK2	1396	28?	裏文等の底立鉢足。			918
919		1401	25	底立鉢足の下に底立鉢足の底立鉢足。			919
920		1519	26	断面の底立鉢足。			920
921		4	33a	底立鉢足と底立鉢足の底立鉢足。			921
922	SK4	-3	33a	底立鉢足と底立鉢足の底立鉢足。			922
923		92	35d	底立鉢足の下にR縯柱。			923
924	SK9	-3	34d7	断面底立鉢足の底立鉢足と底立鉢足の横立鉢足。			924
925		-3	38c	底立鉢足の下にR縯柱。			925
926	SK11	-4	34	底立鉢足の下多量の底立鉢足と底立鉢足。			926
927		-6	33	底立鉢足の下底立鉢足と底立鉢足。			927
928	SK12	-5	44b	底立鉢足を含む全断面R縯柱。表面にス付鉢足。			928
929		-12	34f	底立鉢足の下に底立鉢足。			929
930		-9	34f3	底立鉢足の底立鉢足。			930
931	SK16	-5	44a3	底立鉢足の底立鉢足。			931
932		-6	44a	裏文等の下にR縯柱。			932
933		-8	43	底立鉢足の下側面鉢足。			933
934		-11	33a	底下部の下底立鉢足。			934
935		-7	44a2	裏文等の下にR縯柱。			935
936		-8	40e	口縁部の口縁部。			936
937	SK17	-5	44	断面の底立鉢足。底立鉢足は削削鉢足。			937
938		-6	44a	口縫および削削R縯柱。			938

第4表 遺構出土縄文土器観察表 13

No.	出土施丸	遺物番号	計測値(cm)	分類	観察事項	場所
939	SK16	-2	33a	腹部に風状の横彫。		939
940	SK26	-1	22	口縁部:円形の内凹部。縁唇区間にRIL構造か。		940
941		-5	34b3	縁唇部:風状横彫と、内・外2本の横唇花轍と円形刻文。地文はRIL構文。		941
942	SK20	-6	34d8	縁唇部:1本の横唇花轍。		942
943		-7	44b	縁唇部:1本の横唇花轍。		943
944		-4	35c	上方に2本の直線彫と、内・外2本の横唇花轍とRIL構文。		944
945		-1	31(11)	口縁部:横彫と縦彫と斜彫。斜彫はRIL構文。		945
946	SK24	-2	40e	縁唇部:横彫と縦彫と斜彫。斜彫はスズ付有。		946
947		-1	30	口縁部:横彫と縦彫と斜彫。斜彫はRIL構文。		947
948	SK25	-3	29	直線彫の交差。下口縁部:横の突出部か。		948
949		-4	44	斜彫と直線彫。下口縁部:横の突出部。		949
950	SK29	2158	43	斜彫の1枚。直に風状横彫とRIL構文。		950
951		-5	35b	口縁部:1本の横唇花轍。		951
952	SK32	-4	31a	口縁部:横彫と縦彫と斜彫。		952
953		-6	44a	口縁部:横彫と縦彫。		953
954		-3	31a	腹部:横彫と縦彫と斜彫。35cと同一個体。		954
955	SK33	-2	6	波浪彫の内側。下口縁部:横の突出部か。		955
956	SK34	-3	44	斜彫と直線彫。下口縁部:横の突出部。		956
957		-4	31a1	腹部:横彫と縦彫の下方に風状の飛起縫。		957
958		-4	36b	口縁部:2枚の直線彫。		958
959	SK36	-3	31a	口縁部:下円形の直線彫。		959
960		-5	7	腹部:2枚の横起縫と直線彫。		960
961	SK37	-5	44c2	直線彫の1枚。		961
962		-4	40c2	風状の内側部にRIL構文。		962
963	SK38	-2	24	口縁部:直線彫と斜彫とRIL構文。		963
964	SK40	-6	35c	口縁部:横彫と縦彫と斜彫。		964
965		-5	35c3	腹部:横彫の内側部を含む斜彫とRIL構文。		965
966		-4	36b	口縁部:横彫の内側。地文はRIL構文。		966
967	SK41	-2	38c	口縁部:2枚の横起縫と直線彫とRIL構文。		967
968		-6	44b	縦彫部を含む直線彫とRIL構文。		968
969		-3	43	網部:2枚の横起縫。		969
970	SK42	-2	17	斜彫の直線部上に直線の押引きRIL構文。		970
971		-1	35f	横彫の内側下方に子戸鉢竹目状と異なるRIL構文。		971
972	SK43	-4	43	上方:直線彫。内側:RIL構文。		972
973		-2	38c	口縁部:直線彫と斜彫とRIL構文。		973
974	SK45	-1	43	側面:直線彫と斜彫。		974
975		-3	36	「手」字の内側に斜彫の飛起縫。		975
976	SK46	8281	35e2	網部:2枚の横起縫。		976
977	SK52	-5	39	口縁部:小突起。被説文鏡の途中に斜彫。		977
978		-4	44	無文の1枚。		978
979		-7	39b	内面:横起縫と被説文。尾帶部分に円形刻文。		979
980		-6	39b	979と同じ。斜彫。		980
981	SK54	-2	35	口縁部:横彫の飛起縫。		981
982		-3	44a2	無文の1枚にRIL構文。		982
983		-3	31b	縦帶部:RIL構文と円形の刻文。		983
984	SK55	-1	31a	網部:2枚の横起縫。		984
985		-2	31a?	網部:2枚の飛起縫。		985
986		14588	35b	口縁部:内突起と斜彫の直線部。丸い刻みの隣帯下方はRIL構文。		986
987	SK61	-6	31b	口縁部:斜彫の直線部と尾端はRIL構文。		987
988		-3	33a	無文部:2-4枚の直下飛起縫。		988
989	SK63	-1	44a	口縁部:直線彫とRIL構文。		989
990		-2	39	口縁部:2枚の横起縫。直線部:RIL構文。底帯部:横彫とRIL構文。		990
991	SK64	15635-3	35b	口縁部:2枚の横起縫。直線部:RIL構文。		991
992		-8	35b	口縁部:2枚の横起縫。		992
993	SK64	15635-1	31	2枚の後づいた直線部:内側の口字状脛骨帯。その下に墨下隕帯。LIJ辺部を有斜彫帶。直線部:直線彫でRIL構文。		993
994		15635-2	31(10), 35	内側のみの口縁部:直線の直線彫。RIL構文。		994
995	SK64	-6	38?	斜彫部:RIL構文。RIL構文部:横彫の直線彫。		995
996		-7	40f	口縁部:2枚の直線彫。		996
997		-6	34d8	縦帶部:RIL構文と横起縫。		997
998		-8	35?	口縁部:2枚の横起縫。		998
999	SK65	-7	34b5	縦帶部:RIL構文と横起縫。		999
1000		-5	40?	直線彫部:2つがくの直線彫。上方:風状横彫。		1000
1001		-9	29a4	網部:2枚の横起縫。		1001
1002	SK66	-4	43	北縁部:RIL構文を含む。		1002
1003		-4	32c3	縦帶部:3枚の横起縫。上方:RIL構文。		1003
1004	SK68	-3	34c3	縦帶部:横起縫とRIL構文。		1004
1005		-5	44a	口縫および網部:RIL構文。		1005
1006		-6	43	網部:2枚の横起縫。地文はRIL構文。表面にスズ付有。		1006
1007		-7	35	縦帶部:山吹状彫。直線の内側彫痕部:円形刻文。内面にスズ付有。		1007
1008		-3	35a	口縫部:直線彫。2枚の横起縫。		1008
1009	SK69	-4	35e2	口縫部:横起縫部背面に有斜彫帶。以下RIL構文。		1009
1010		-5	43	北縁部:RIL構文を含む。		1010
1011		-6	35e3	網部:2枚の斜行彫。		1011
1012	SK73	-3 内3, 口L1	40f	口縫:2枚の直線彫。		1012
1013	SK76	-4	44a2	口縫部:RIL構文。		1013
1014		-8	44b	縦帶部を含む2枚のRIL構文。		1014
1015	SK74	-6	35e1	1枚のRIL構文と有斜彫帶。		1015
1016		-7	35	口縫部:横起縫。		1016
1017		-2	18?	口縫部:横起縫。		1017
1018	SK79	-4	26	726(SB535)と同一個体。		1018

第4表 遺構出土縄文土器観察表 14

No.	出土地点	遺物番号	計測値(cm)	分類	観察事項	博団	参考
1019	SK79	-3	18	口縁部の渦巻彫文を起点に垂落部。壇に側面の直線刻突。		1019	
1020		-1	16	輪郭部に付ける隆起による棒状文。底面はRSL構造。		1020	
1021	SK63	-3	25	口縁部の横位の棒状文。		1021	
1022		-6	34c-2	縄帯部の円形刺突の間に、終点が窓文。内に輪郭状文。		1022	
1023		-13	34d-1	縄帯部の渦巻彫文。内には沈綱目による直線刻突。		1023	
1024		-11	34c-5	縄帯部の3本の横位波線。F方2本。側面か。		1024	
1025	SK88	-12	34l	多手次成形の明顯な玄済文。地文はRL構造。		1025	
1026		-14	35b	口辺部に長い側の隆起。地文はRSL構文。表面にスス付着。		1026	
1027		-7	35	口縁部の1本の横位波線。		1027	
1028		-10	35a	側面の垂落部下に斜位の波線文。		1028	
1029		-2	44	「T」字型の無文の「T」字。		1029	
1030	SK89	-4	33a	輪郭部・底部の隆起部。表面にスス付着。		1030	
1031		-3	24?	側面に付する沈綱目・斜位の波線。		1031	
1032		-3	35a	底面部に濃色状の直線刻突。		1032	
1033		-5	34h	縄帯部の「S」字彫文。底面はRSL構造。内に圓文。		1033	
1034	SK90	-6	34n	内壁面の縄帶部に玄済文。底面はRSL構造。地文は曲線波。	11786	1034	
1035		-4	34d	縄帯部の横位波線と側面に「T」字彫文。		1035	
1036		-7	35	口縁部に横位の有輪波。		1036	
1037		-32	34c-4	縄帯部の横位の棒状文。		1037	
1038		-24	34d-7	縄帯部に斜位の棒状文・円形刻突。表面にスス付着。		1038	
1039		-23	35c	「T」字型の「T」字彫文。底面はRSL構文。		1039	
1040		-35	34c	沈綱目で成形された「T」字彫文。		1040	
1041	SK92	22	44	「T」字型の無文の「T」字。		1041	
1042		-34	31b	口縁部に渦巻彫文。地文はRSL構文。		1042	
1043		-30	31b	口縁部に横位波線。下方に斜位の波線文。		1043	
1044		-29	35e-1	口縁部に横位の有輪波。		1044	
1045		-25	49?	よく押かれた表面に横位波線。上方の縄帶部に斜位の波線。		1045	
1046		27	36	「T」字型の波線面には「T」字彫文。		1046	
1047	SK92	-21	37b	波頭部・底部の斜位。上方の縄帶部が纏密に翼状。降筋の交点に円形刻突。口付および側筋にRSL構文。内側にスス付着。		1047	
1048		-33	40c	四方に斜る「T」字彫文。底面はRSL構文。		1048	
1049	SK92	-31	40c	「T」字型の「T」字彫文。上方の縄帶部に斜位の直線刻突。		1049	
1050		-28	底付10	底部に斜位の直線刻突。(2次切欠きと木割れ1つ入り)。		1050	
1051		-12	23?	腹位凹部の下方に横位の気孔跡。地文はRSL構文。		1051	
1052		-14	7	「T」字型の横位の有輪波。		1052	
1053	SK93	-15	35a	口縁部の前後位長方形に斜位の波線。		1053	
1054		-11	42?	台脚上の横波。底部に斜位。		1054	
1055		-14	18?	側面に2本の斜位降筋。左方に斜位状の花彫文。		1055	
1056		-4	35b	口辺部にRSL構文。その下に斜位降筋。無文部の下は繩文。		1056	
1057	SK94	-3	31a	「T」字型の3本の横位波起線。		1057	
1058		-13	43	窓文部の「T」字彫文。		1058	
1059	SK96	-8	40?	よく押かれた表面に横位の波線文。一部の沈綱目に斜位の短沈綱。		1059	
1060	SK100	-2	34(2)	縄帯部の横位の羽根彫文。以下腹位の風状波紋。		1060	
1061		-3	31a	腹部・底部の縄状波。		1061	
1062		-11	35c	「T」字型の口縁部・横位の波線文。窓部に横位波とRSL構造。		1062	
1063		-12	35c	「T」字型の口縁部・横位波の横位波。		1063	
1064	SK101	-13	35c	「T」字型の口縁部・横位波の横位波。		1064	
1065		-15	35a	「T」字型の口縁部・横位波の横位波。		1065	
1066		14	40?	よく押かれた表面に横位の波線文。		1066	
1067		-16	143, 93	腹位波頭部に斜位降筋。降筋の交点に円形の刺突。		1067	
1068		-4	40?	F方1十字型の口縁。		1068	
1069	SK102	-2	35?	口縁部の横位の窓部の下方に直線刻突。		1069	
1070		-3	44	腹部・RSL構文。表面にスス付着。		1070	
1071	SK105	4	24?	腹位の横位の斜位降筋。底部に側面直線。		1071	
1072	SK106	-2	25?	上方に2本の横位直線。		1072	
1073	SK107	-1	29?	腹位底付・2本の横位波起線。地文はRSL構文。		1073	
1074		-4	33a	窓起線による直線。		1074	
1075	SK108	-5	31a	豎位波頭部の直線状の波起線。表面にスス付着。		1074	
1076	SK109	-4	38c?	よく押かれた表面に横位の波状波紋。注縄内に直線刻突を示す。		1075	
1077	SK112	-2	34c	縄帯部の横位の窓部。		1076	
1078		-1	17	腹部の直線彫文。		1077	
1079		-2	20	リブ状突起の下方に直線状工具による彫刻文。		1078	
1080	SK113	-3	34!	腹位に「T」字型の窓部・底付波と3本の横位波。		1079	
1081		-10	33?	口縁部の横位直線。下方に横位波。		1080	
1082	SK114	-9	34c-5	縄帯部の横位の窓部。		1081	
1083		-7	29a	内側に横位の窓部。		1082	
1084		-8	43	腹部・底部の直線彫文。		1083	
1085		-5	34c	縄帯部の4本の横位波。		1084	
1086	SK116	-4	43	腹位に山状状の突起。突出下に直線刻突。表面に横位彫文。		1085	
1087		-3	34!	窓位の内側直線。		1086	
1088		-9	34-8	縄帯部の1本の横位波。		1087	
1089	SK117	-10	44a-2	無文部の下方・RSL構文。		1088	
1090		-11	19?	「T」字型の窓部に直線彫文。底付孔・縄帶部に直線刻突。		1089	
1091		-6	34b-5	縄帯部・底付孔・縄帶孔向。F方に2本の横位波。		1090	
1092		-8	34c-3	縄帯部の横位波。		1091	
1093	SK118	-7	35	「T」字型の横位波起線。表面にスス付着。		1092	
1094		-9	35a	「T」字型の横位波起線。表面にスス付着。		1093	
1095		-10	31a	窓位に横位の直線彫文。内側にスス付着。		1094	
1096		-5	24	付上位の直線彫文。降筋の交点に円形刻突。底面にRSL構文。		1095	
1097	SK119	-3	35e-1	「T」字型の2本の横位波。		1096	
1098	SK120	-5	34b-1	縄帶部に山状状突起。その上に直線彫文。棒は窓位波頭部に刺突。		1097	

第4表 遺構出土網文土器観察表 15

No.	出土場所	遺物番号	計画値(cm)	分類	調査事項	種別	分類
1099	SK120	-4	底(6)	44	脚下部破損。底形に脚代汗版(日本版式)と本港式の迷走型。	1099	
1100	SK121	-3		15	口縁部に網文柄。底部は底板式のひなぎな底文。PS1(SB40)に削合。	1100	
1101		-6		35a	口縁部に2本の脚代汗版。	1101	
1102	SK124	-7		34	底部に斜状の凹溝文。表面にスズ付着。	1102	
1103	SK125	-5		35a	口縁部に2本の脚代汗版。底面に斜状の隆起輪が集中。	1103	
1104		-4		35a	底部に2本の脚代汗版。底面に横置きの棒立位の起線。	1104	
1105		-2		24	側面に斜状の凹溝文。底面にスズ付着。	1105	
1106	SK126	-1		24	1105と同一底。側面に底板式の弧状文。	1106	
1107		-3		24	1105と同一底。側面に底板式の弧状文。	1107	
1108		-5		22	1105と同一底。	1108	
1109		-6		26	肥厚した底盤部および底板式に斜状の凹溝文。	1109	
1110	SK127	-7		26	1105の底盤部に斜状の凹溝文。	1110	
1111		-4	底(19)	26	脚下部に凸出部。表面は脚代汗版。内面にスズ付着。	1110	
1112		-5		25	口縁部に2本の脚代汗版。	1111	
1113		-7		12	底部から下へ平行状に斜状輪。	1112	
1114	SK128	-4		28	1105と同一底。内面に底板式。	1114	
1115		-6		35	1105と同一底。底文はRSL底文。	1115	
1116		-8		43	脚下部に横穴の跡。	1116	
1117		-7		35b	1105と同一底。斜状の凹溝文。表面にRSL底文。	1117	
1118	SX9	-6		34d	底部に2本の脚代汗版。表面にスズ付着。	1118	
1119		-8		35c	1105と同一底。表面はRSL底文。	1119	
1120		-9		15	斜状の凹溝文。下方に斜状沈底文。	1120	
1121	GHP1	-2		29b	垂直脚代汗版。下方に斜状沈底文。	1121	
1122	THP2	-1		25	無底部の下に三脚代による底盤部。底文はRSL底文。	1122	
1123	THP9	-4		43	脚代汗版の底に2本の脚代汗版。内面に斜状刻印。	1123	
1124	THP12	-1		31b	脚代汗版下底部と底盤部。内面にスズ付着。	1124	
1125		-1		34b	脚代汗版による脚代汗版。側面に斜状沈底文。RSL底文。表面にスズ付着。	1125	
1126		-2		34c	斜状の凹溝文。内面にスズ付着。	1126	
1127	7HP13	-3		44b	斜状に斜けた底盤部。側面は斜面にRSL底文。	1127	
1128		-4		44b	斜面に斜けた底盤部。側面は斜面にRSL底文。	1128	
1129	7HP14	-2		25	口縁部に斜状の凹溝文。内面にスズ付着。	1129	
1130	7HP15	-1		6	1105と同一底。内面にスズ付着。	1130	
1131		-1		38b	口縁部に2本の脚代汗版。内面はRSL底文。	1131	
1132		-2		34c3	脚代汗版による脚代汗版。内面に斜状刻印。	1132	
1133	GIP7	-1		34c5	脚代汗版による脚代汗版。内面にスズ付着。	1133	
1134	GIP25	-2		44	丸底GIP12とアーチ底。	1134	
1135	GIP27	-3		24	脚代汗版による斜状沈底文の底板式。	1135	
1136	GIP27	-2		24	小口斜状の底盤部の下に斜状の斜状沈底文。	1136	
1137	TIR1	15633		25	1105と同一底。斜状の凹溝文。内面にRSL底文による押付文。	1137	
1138		-1		44d2	無底部の下にRSL底文。	1138	
1139		-1		44d2	無底部の下にRSL底文。	1139	
1140	TIP2	13433		35a	1105と同一底。内面にスズ付着。	1140	
1141		13098		35b1	脚代汗版による脚代汗版。	1141	
1142		13065		44	斜状の凹溝文。内面にスズ付着。	1142	
1143	GIP15	14690		29b	脚代汗版による斜状沈底文の底板式。	1143	
1144	TIP3	13417		43	斜状の底盤部の下に斜状の斜状沈底文に刺み。	1144	
1145		13741		34	多くの脚代汗版の下にRSL底文。当文化RSL底文。	1145	
1146	TIP8	-2		40?	1105からの引抜き。斜状の凹溝文。内面にRSL底文。	1146	
1147		-3		12	1105の底盤部に斜状の斜状沈底文。内面にRSL底文による押付文。	1147	
1148		-3		26c3	斜状の底盤部に斜状の斜状沈底文。	1148	
1149		-4		36d	口縁部に横穴の斜状沈底文。	1149	
1150		5		31b?	1105と同一底。内面にスズ付着。	1150	
1151		-6	底(14)	44	無底部と脚代汗版による底盤部。	1151	
1152		-2		29	脚代汗版による底盤部と斜状の斜状沈底文。	1152	
1153		-1		35a	斜状の底盤部の下にRSL底文。	1153	
1154	TIP11	-1		35	口縁部に2本の脚代汗版。	1154	
1155	TIP16	-2		14	796(SB30)と同一底。	1155	
1156	TIP31	-1		35e1	1105と2本の脚代汗版による底盤部。底文はRSL底文。	1156	
1157	TIP9	-2		35e2	斜状の底盤部による底盤部によって底盤文。底面はRSL底文。	1157	
1158	GIP6	-1		36	斜状の底盤部による底盤部。	1158	
1159		-6		36a	1105の底盤部に覆え。斜状の3本の脚代汗版。	1159	
1160		-4		36a	1105と2本の脚代汗版。	1160	
1161	GIP2	-7		36a	1105と2本の脚代汗版。内面にRSL底文。	1161	
1162		-5		1159-1161と同一底。底盤部は2字切に隠蔽か。	1162		
1163		-8		35?	有底脚部の下にRSL底文。	1163	
1164	GIP22	-1		36b	1105の1字切に2本の脚代汗版による底盤部。底面はRSL底文。	1164	
1165		-3		1105と2本の脚代汗版。	1165		
1166	TIP14	-2		35a	斜状の底盤部に斜状の斜状沈底文。	1166	
1167		-4		35a	斜状の底盤部による底盤部。	1167	
1168	TIP24	-1		35b	斜状の底盤部による底盤部。	1168	
1169		-1		36c	よく伸びた2本の脚代汗版による底盤部。	1169	
1170	TIP25	-2		31a	斜状の底盤部に2本の脚代汗版。	1170	
1171	TIP26	-1		44	斜状のRSL底文。内面にスズ付着。	1171	
1172	TIP51	-3		34b3	底盤部に2本の脚代汗版。斜状部はRSL底文と斜状の斜状刻印。	1172	
1173	BJP1	7221		18	316(SB30)と同一底。	1173	
1174	BJP5	-4		35a	1105と2本の脚代汗版。	1174	
1175		-5		36b	1105と2本の脚代汗版。その下に斜状の斜状沈底文。	1175	
1176	BJP1	7598		34d7	斜状部に斜状の底盤部と1本の横状式刻印。PS1と横状部と複合して複合。	1176	
1177	BJP52	-1		35b	1105と2本の脚代汗版。	1177	
1178	BJP5	-2		44a2	無底部の下にRSL底文。表面にスズ付着。	1178	
1179		-6		31a3	斜状部に斜状の斜状底盤部。表面にスズ付着。	1179	

第4表 遺構出土網文土器観察表 16

No.	出土地点	遺物番号	計測値(cm)	分類	観察事項	埠岡	番号	
1180		-6	34.5	縦帶形:3本の横段沈板。			1180	
1181		-4	35.1	山根形:24.5cmの横位有肩縫合。			1181	
1182	8JP7	-8	35.4	山根形:24.5cmの横位有肩縫合。			1182	
1183		-3	35.1	山根形:24.5cmの横位有肩縫合。			1183	
1184		-7	43	山根形の二槽位の横段沈板。			1184	
1185		-5	31.7	上方に横段縫合によるレープ状の横段文。地文はRL横文。内側にスス付着。			1185	
1186	8JP10	-2	9	半腰形:24.5cmの横位有肩縫合。			1186	
1187	8JP14	-1	24.8	縫合位の横段を上方へ折れ曲げた。下方は三角形状の小区画文。			1187	
1188	9JP6	-2	35	下口部の横段の横位有肩縫合。内側にスス付着。			1188	
1189		-1	35	1188同一直位。弧形の横段文。			1189	
1190	6KP2	1	35	山根形:24.5cmの横位有肩縫合。山口部横段。			1190	
1191	6KP8	-1	上(4), 16	42b	台形上の横段。山根部の内側には横段文の空きは2單位。			1191
1192	7KP3	-1	25	11縫合部:横段の横位有肩縫合。全部はRL横文。			1192	
1193	7KP17	8169	底(10)	側下部:RL横文。縫合部は横位有肩縫合(日本編入1本送り)。			1193	
1194		-2	44	側下部:RL横文。縫合部は横位有肩縫合(日本編入1本送り)。			1194	
1195	7KP20	-1	26	直位の横段。			1195	
1196		-1	43	側下部:横段の横位有肩縫合。			1196	
1197	7KP27	-2	34	側上部:横段の横位有肩縫合。			1197	
1198		-3	17?	側位の横段に横位有肩縫合。			1198	
1199	7KP30	-1	26	直位部:縫合部の横段。			1199	
1200		-2	28	11縫合部:横段の横位有肩縫合。			1200	
1201	7KP35	-3	39?	3×3位にしたる縫合部の横下部。			1201	
1202		-2	39	11縫合部:横段の横位有肩縫合。			1202	
1203	7KP56	-1	39	縫合部は下口部に横段の横位有肩縫合に横段。			1203	
1204		-2	34b5	縫合部:横段の横位有肩縫合。表面にスス付着。			1204	
1205	7KP57	-1	5?	縫合位の横段と縫合部の三角形切欠。			1205	
1206	7KP59	-2	40b	11位の横段子縫合。RL横文。内側に横段文。			1206	
1207	7KP62	-1	26	11縫合部:横段の横位有肩縫合。下口に側位の横段文。			1207	
1208		-4	34d1	縫合部の横段化横位トヨリの横段文。			1208	
1209	7KP63	-6	31a	山根形:横位おびけの横段縫合。表面はRL横文。			1209	
1210		-5	43	山根形:横位の横段。			1210	
1211		-3	31a3	側位部:横段の横位。			1211	
1212	7KP64	1	31a	側位部:多本の縫合部縫合。内外にスス付着。			1212	
1213		-2	44a	下口部の11位RL横文。表面にスス付着。			1213	
1214	8KP1	7226	36c	下口部の11位横段縫合と縫合部による縫合。			1214	
1215	8KP3	-1	30c	T字縫合部:横段の横位有肩縫合。縫合部はRL横文。			1215	
1216	8KP41	-3	24	低腰形:こじらか円錐内に横段文。表面にスス付着。			1216	
1217		-1	24	12位横位:横位に内側に横位の横段文。			1217	
1218	8KP43	-2	24	12位横位:横位。			1218	
1219	8KP41	-2	24	12位横位:横位。			1219	
1220	8KP43	-1	24	12位横位:横位。			1220	
1221	6LP18	-1	6	「1縫合部:縫合枝文。アーチ横位の下限起端。			1221	
1222	6LP18	-2	6	下限起端の横位有肩縫合。横段文。			1222	
1223	6LP19	-2	25	低腰形の横位有肩縫合工具による縫合。			1223	
1224		-1	26	台形上の横段。下口部の縫合部は横段。			1224	
1225	6LP21	-2	29a2	縫合部:横段の横位有肩縫合。11位の横段縫合。			1225	
1226	6LP25	-3	31a	横位の横段縫合にて2本の縫合縫合が争う。底部にスス付着。			1226	
1227	7LP1	-3	34c4	縫合部:横段縫合。下口位:横文。縫合部のトヨリ横文。表面にスス付着。			1227	
1228	7LP3	-4	39b	よく側から2面に横段の横段文。縫合部に削化の縫合前縫。			1228	
1229		-3	39?	よく側から2面に横段の横段文。			1229	
1230	7LP6	-2	34b5	1091(1K18)と同一種。			1230	
1231		-1	40b	縫合部:横段。表面にスス付着。			1231	
1232	7LP8	-9	44b	上方は側平か、無文部のトヨリ横文。表面にスス付着。			1232	
1233	7LP11	-1	24	側下部横位:ハーフ状の横段文。			1233	
1234		-2	31a	側位部:横段の横位。			1234	
1235		-3	44	無文の1縫合部:側位後のん貫通孔。			1235	
1236	8LP7	-1	34g	縫合部:横位前縫部の区間に横位横段縫合。上方に円形切欠。			1236	
1237		-2	36	内折部:横位横段縫合の区間に。又は(1縫合部)下に横段縫合。			1237	
1238	8LP8	-1	43	側上部:横段の横段。			1238	
1239		5498	6	横段部:下方に突起と千字縫合の横段文。縫合部に垂直吹込み。			1239	
1240		4965	18?	横段部:横位横段縫合と貫通孔。口部側に横段吹込み。			1240	
1241	SFS	5432	26	内側面部の横文の横段。			1241	
1242		5207	25	横段部無理。ない。横段の下方はLR横文。			1242	
1243		5642	6	縫合部の横段吹込み。横段部に横段吹込み。			1243	
1244		5440	2	脚部:横段吹込み。			1244	
1245		3090	36a	11縫合部:横位吹込み。11位横位:横位吹込み。内側にスス付着。			1245	
1246		4152	34b1	縫合部:横段吹込み。			1246	
1247		2235	35	11縫合部:横位吹込み。			1247	
1248		1852	35a	11縫合部:横位吹込み。			1248	
1249		1859	33a	側部の横位吹込み:横位吹込み。			1249	
1250		1862	35c	口縫合部の横段吹込み:横段吹込み。			1250	
1251		320	36b	内折手:11縫合部:横段の横段。			1251	
1252	SX2	1614	43	(1縫合部)横段の横段。			1252	
1253		1859	40e	11縫合部:横段吹込み。11位横位:横段吹込み。			1253	
1254		2237	38b	内側面部:多本の横段吹込みと横段吹込み。表面にスス付着。			1254	
1255		21	38c	加文の1縫合部:内側に横段吹込み。			1255	
1256		-20	38	内折手:横段吹込み:横段吹込み。下方は横位の横段吹込み。			1256	
1257		1880	39	横位の横段。			1257	
1258		2067	39	上方に横位の横段吹込み。表面にスス付着。			1258	
1259		324	39	口縫合部の横段吹込み。上方に円形吹込み。上側吹込みの可視性あり。			1259	
1260		1609	43	表面に横段吹込みと円形吹込み。上側吹込みの可視性あり。			1260	

第4表 遺物出土編文土器觀察表 17

No	出土地点	遺物番号	計測値(cm)	分類	解説事項	通巻	
1261		2234	35e	円錐による2字表文。地紋はRL構文。		1261	
1262		319	40e?	崩上部に多角形の字模様。		1262	
1263	SX2	2593銅	39	「」形縫合の表文。表文は次の字状波線文。1字内横幅に拘る。		1263	
1264		2229	△(3x15)高(12)	40f	「」形縫合の表文。表文は次の字状波線文。1字内横幅に拘る。		1264
1265		8078	41	「ミユタ」形の刺繡。地。		1265	
1266		1857	範(6)	44	底縫合に刺繡。		1266
1267	SX2	2581銅	△(15)高(7)	39a	3字前の高さは約15.4mmで、1字内横幅、外縫合形状の1字前後では横縫文。半位文字は次の字状波線文。表文はスズメ文。	1266	1267
1268	SX2	2418銅	△(13x15)高(21), 鏡(7)	39a	外縫合は横口縫合で、表文はRL構文。区切文は高さ波継縫。底部はダグレットの花文。表文はスズメ文。		1268
1269	SX2	2270銅	△(14)高(22), 鏡(7)	39	頂部の字模様が外縫合に波継縫文。1字縫合の表文に蛇行波縫文。下方の波縫文は「」形縫合。内縫合はスズメ文。		1269
1270		11930	24c	「」形縫合の表文。表文は波縫文。1字内横幅に拘る。		1270	
1271		11861	24c	崩上部に「」形縫合と表文。表文は波縫文。		1271	
1272		10351銅	29	縫合の2字の表文の間に「」形縫合。		1272	
1273		7538銅	24	上方には横縫文。底縫合および別表文。下方はRJ構文と蛇行波縫。		1273	
1274		11901	24	底縫合の表文は「」形縫合。波縫文および別表文。		1274	
1275		11942銅	△(44), 高(57), 鏡(41)	29b	「」形縫合。表文は内縫合で波縫文。崩縫合に波縫文。崩縫合には横縫起縫。崩縫合には縫合起縫による区切文と波縫文。		1275
1276		4923銅	△(20)	24c	やや細い縫合。崩縫合に波縫文。区切文は波縫文。		1276
1277		13036銅	鏡(14)	29	波縫文の1字の字模様有刺繡。表文はRJ構文。		1277
1278		7854銅	29d	崩縫合に「」形縫合。表文はRJ構文と波縫文。		1278	
1279		11905銅	△(19)	30b	内縫合で「」形縫合。崩縫合に波縫文。崩縫合に「」形縫合。崩縫合にRJ構文と波縫文。		1279
1280		11933銅	△(29)	29c	「」形縫合の表文は「」形縫合。崩縫合は全面に縫合の波縫文。		1280
1281		10333銅	△(28), 鏡(31)	29c	1字縫合は無し。崩縫合下に2字の表文の波縫文と横縫合。表文はRJ構文。		1281
1282		11339	△(132)	29c	崩縫合の表文は縫合の波縫文。表文は横縫合と崩縫合の波縫文。		1282
1283		11651銅	鏡(30)	29c	むらむら崩縫合の1字の字模様と表文。その他の縫合は波縫文。表文はスズメ文。		1283
1284		11679	鏡(28)	29c	崩縫合に「」形縫合。表文はRJ構文と波縫文。		1284
1285		3995	鏡(14)	29c	崩縫合に「」形縫合。表文はRJ構文と波縫文。		1285
1286		1354	△(17)	30b	内縫合で「」形縫合。崩縫合にRJ構文と波縫文。		1286
1287		2538銅	△(32)	29a2	縫合部の外に「」字の縫合と波縫合。外縫合によるRJ構文と波縫文。	1286	1287
1288		3866銅	△(32)	30a	やや細い縫合の2字の表文。崩縫合による字状波縫。その内縫合に横縫合起縫。波縫合の表文は「」字の縫合と波縫合。表文はRJ構文。		1288
1289		13479	鏡(20)	32c	透影形の崩縫合。崩縫合に横縫合による字状波縫。		1289
1290		4933銅	鏡(12)	32c	反対見。崩縫合を向かう縫合。表文はRJ構文。		1290
1291		3105銅	鏡(21), 高(9)	32c	横縫合。崩縫合による字状波縫。表文はRJ構文。		1291
1292		2113銅	鏡(22)	32c	人ぐれむ縫合。崩縫合による字状波縫。		1292
1293		1409銅	鏡(19)	32c	大字ぐれむ縫合。崩縫合による字状波縫。下方はRJ構文。		1293
1294		12195銅	△(25), 頭(20)	29a3	やや細い縫合の2字の表文。崩縫合による字状波縫。波縫合の表文は「」字の縫合と波縫合。その外縫合は「」字の縫合と波縫合による字状波縫。下方はRJ構文。		1294
1295		4243銅	△(15)	34b3	山田式の突起。人ぐれむ縫合部の表文はRJ構文。崩縫合は3本単位の波縫文。	1300	1295
1296	SX3	2906銅	△(12)	34c1	縫合部の横口縫合による字状波縫。表文はRJ構文。		1296
1297		7656銅	△(27), 高(34), 鏡(11)	34b3b	崩縫合による縫合。波縫合の表文はRJ構文。		1297
1298		3251銅	△(27)	34c2	波縫合による縫合。波縫合の表文はRJ構文。		1298
1299		7609銅	△(17)	34d6	縫合部は「」字状波縫と波縫合。崩縫合はRJ構文とRJ構文。		1299
1300		2614銅	△(21)	34c4	縫合部は「」字状波縫と波縫合。崩縫合はRJ構文とRJ構文。		1300
1301		-147	△(11)	34d7	縫合部のRJ構文は縫合部の波縫合と崩縫合。崩縫合の横縫合はRJ構文。		1301
1302		2602銅	△(21)	34d6	崩縫合の表文は「」字の縫合。横縫合はRJ構文。		1302
1303		2218銅	高(23), 高(9)	34d6	縫合部は「」字状波縫と波縫合。崩縫合はRJ構文。		1303
1304		7614銅	△(18)	34b	縫合部の横縫合による字状波縫。崩縫合はRJ構文とRJ構文。		1304
1305		2760銅	△(26)	35	「」字の縫合による字状波縫。表文はRJ構文。		1310
1306		11923銅	△(21)	35b1	丸太の「」字状波縫と波縫合。崩縫合による字状波縫。		1306
1307		3522	△(16), 高(5)	35b1	「」字状波縫と波縫合。崩縫合による字状波縫。		1307
1308		-120	△(21)	306	内縫合で「」字の縫合と波縫合。表文はRJ構文。		1308
1309		12439銅	△(16)	35b2	8字単位の横縫合による字状波縫。		1309
1310		7732銅	△(11)	35c	「」字の縫合による字状波縫。		1310
1311		12572銅	△(26)	35	「」字の縫合による字状波縫。		1311
1312		3061銅	△(17), 頭(9)	37a	丸太の「」字状波縫と波縫合。崩縫合はRJ構文。		1312
1313		1547	鏡(21), 高(10)	43	崩縫合と表文。その1/2は丸太の「」字状波縫。		1313
1314		11924銅	△(21)	35b2	丸太の「」字状波縫と波縫合。		1314
1315		13524	△(9)×	28	上縫合の「」字状波縫と波縫合。		1315
1316		7717銅	△(27), 高(10)	36b	多角形の横縫合。		1316
1317		7655	△(16), 鏡(26)	35b3	「」字の縫合による字状波縫。		1317
1318		7640銅	△(8)	42a	「」字の縫合による字状波縫。		1318
1319		7851銅	鏡(12)	42a	「」字の縫合による字状波縫。		1319
1320		1443銅	△(13)	42a	「」字の縫合による字状波縫。		1320
1321		3820銅	鏡(15)	42a	「」字の縫合による字状波縫。		1321
1322		7713銅	△(27)	42a	「」字の縫合による字状波縫。		1322
1323		7657銅	△(9)	42a	「」字の縫合による字状波縫。		1323
1324		9027銅	△(11)	42a	「」字の縫合による字状波縫。		1324

第4表 遺構出土繩文土器観察表 18

No	出土地点	遺物番号	計画値(cm)	分類	観察事項	埠因	番号
1325		1540	底(7)	42b	無文の台付上器脚部。		1325
1326		13819	底(11)	42b	無文の台付上器脚部。		1326
1327		11688	底(20)	29c1	削下端に縦溝有。下端部は横丸背起線。		1327
1328		7635	底(17)	29c1	削下端に縦溝有。下端部は横丸背起線。		1328
1329		11315	底(19)	29c1	削下端に縦溝有。	1329	1329
1330		30764	底11	29a	削下端に縦溝有。底部は直面(上底)【木取え】内面(木送り)。		1330
1331		13177	底(20)	29c1	削下端に縦溝有。下端部は横丸背起線。底部は直面(木送り)。		1331
1332		12563	底(14)	29a	削下端に縦溝有。		1332
1333		-148			内側に削下に浅いV字形の底起線。内面に2本の横丸背起線。		1333
1334		12577	無	29a	口縁部に2次の横丸背起線。上方の縫合部は口字状か。内面に1本の横状背起線。		1334
1335		13179		29a	内面に2次の横丸背起線。1個体。		1335
1336		11626		29a	口縁部に2次の横丸背起線。内面に1本の横丸背起線。		1336
1337		7779		29a	口縁部に2次の横丸背起線。内面に1本の横丸背起線。		1337
1338		10333		29a	口縁部に2次の横丸背起線。内面に1本の横丸背起線。		1338
1339		4630		29a	口縁部に横状背起線と斜状の底起線。		1339
1340		3721		29a	「口縁部」2次の横丸背起線。		1340
1341		2130		29a	浅いV字状の底頂部の内側に横状の底起線。		1341
1342		9914		29a	口縁部に1次の横丸背起線。		1342
1343		2009		29a	外反する口縁部に2次の横丸背起線。		1343
1344		12556		29a	口縁部に2次の横丸背起線。内面に2本の横丸背起線。表面にスス付着。	1344	1344
1345		3079		29a	口縁部に2次の横丸背起線。		1345
1346		-86		29a	「口縁部」1次の横丸背起線。スス付着。		1346
1347		13184		29a	浅いV字状の底頂部の内側に横状の底起線と斜状の底起線。その下に横状背起線。スス付着。		1347
1348		9214		29a	外反する口縁部に2次の横丸背起線。内面にスス付着。		1348
1349		4561		29b	底起線に斜状の底起線。		1349
1350		2225		29b	底起線に斜状の底起線。		1350
1351		11690		29a	「口縁部」2次の横丸背起線。表面にスス付着。		1351
1352		11334		29b	底起線に斜状の底起線。下方に削下部の鉢円柱部。表面に変形部の沈縮部。スス付着。		1352
1353		2114		29c1	無文の下に横状背文。横丸背起線の下部は斜状の底起線。		1353
1354		11496		29b	外反する口縁部に斜状の底起線と斜状背文。表面にスス付着。		1354
1355		4528		29b	高凸起の底面の内側に弧形でV字形の底起線。底起線周囲は素面状および斜状の細辺背文。		1355
1356		12576		29a	「口縁部」無縫隙の横丸背起線。		1356
1357		11857		29a	1336に1倍。口縁部に横状背文。		1357
1358		10176		29a	1356-1357に同一致。		1358
1359		13034		29a	1356-1357と同一個体。底部は横状の底起線。		1359
1360		-93		29a	口縁部に無縫隙。口縁部内側に横状背文。		1360
1361		11322		29a	「口縁部」2次の横丸背起線。表面にスス付着。		1361
1362		14383		29a	削下端に2次の横丸背起線。表面にスス付着。		1362
1363		11326		29a	削下端に2次の横丸背起線。以下削下部の底起線。		1363
1364		2129		29a	高凸起の底面の内側に弧形でV字形の底起線。		1364
1365		7736		29a	2次の横丸背起線の下に高凸起の底起線と壁縫。		1365
1366		4174		29a	底起線に斜状の底起線。		1366
1367		11925		29a	底起線と斜状の底起線の間にV字形の底起線。		1367
1368		3993		29a	底起線と斜状の底起線。下方に削下部の鉢円柱部。表面にスス付着。		1368
1369		2987		29a	底起線と斜状の底起線。下方に削下部の鉢円柱部。表面にスス付着。		1369
1370		1345		29a	底起線と斜状の底起線。下方に削下部の鉢円柱部。表面にスス付着。		1370
1371		2550		29a	底起線と斜状の底起線。		1371
1372		3997		29a	削下部に縦溝有。		1372
1373		3985		29a	削下部に縦溝有。1372と同一個体。		1373
1374		470		29a	「口縁部」2次の横丸背起線。		1374
1375		1618		29a	口縁部に2次の横丸背起線。		1375
1376		-94		29a	「口縁部」2次の横丸背起線。		1376
1377		11689		29a	「口縁部」2次の横丸背起線と斜状の底起線を有する底起線。		1377
1378		1514		29a	底起線に斜状の底起線。		1378
1379		3680		29a	1378に1倍。底起線に斜状の底起線と斜状の底起線。		1379
1380		2546		29a	底起線に入子状の底起線。		1380
1381		12828	第34-31 高45、延44	129b 31a2	口縁部に2次の横丸背起線。それに横状の底起線と斜状の底起線。2本横状の底起線が竪方向へ上から下から手すり下部開口部。下方に上部支錠と対向するように2本単位の逆U字形。削下部に斜状の底起線。		1381
1382		7912		31a3	口縁部に2次の横丸背起線。下方に横行背文。内面は垂耳脚部に押圧痕。		1382
1383		7542		31a3	12828に同。		1383
1384		11238		31a	削下部に横行背文。スス付着。		1384
1385		2543		31a1	「口縁部」2次の横丸背起線。以下底部の垂耳脚部。横行文か。内外にスス付着。		1385
1386		2896		31a2	2本単位の横状背文。以下底部に手すり下部開口部と横行背起線。		1386
1387		1416		31a1	「口縁部」2次の横丸背起線。		1387
1388		3668		31a	口縁部に横状の底起線。		1388
1389		7226		31a1	口縁部に2次の横丸背起線。		1389
1390		1840		31a1	口縁部に3次の横丸背起線。以下底部の底起線。		1390
1391		3974		31a1	口縁部に2次の横丸背起線。以下底部の底起線。スス付着。1390と同一個体。		1391
1392		3121		31a1	口縁部に2次の横丸背起線。以下底部の底起線。		1392
1393		12456		31a2	2本単位の横状背文。以下底部の底起線。		1393
1394		2895		31a1	口縁部に2次の横丸背起線。以下底部の底起線。		1394
1395		11349		31a1	口縁部に2次の横丸背起線。以下底部の底起線。		1395
1396		11561		29e1	無文の下に島田の押圧行文がある底起線と竪状縫。		1396
1397		-142		29e1	底起線に斜状の底起線。		1397
1398		3875		29e1	2次の横状背文の下には底起線。		1398
1399		-108		29e1	無文の下に横状の底起線。		1399
1400		-104		29e1	2本の横状背文の下にはRL構文。		1400
1401		12466		29e1	沈縫の底の下にはRL構文。		1401
1402		11693		29e1	多本の横状背文の下にはRL構文。		1402
1403		3888		29e1	底起線周囲に横状背文。下方はRL構文。		1403

第4表 遺構出土調査土器観察表 19

No.	出土地点	遺物番号	計画値(cm)	分類	観察事項	序号
1404		-149	35d	無文部の下に2列の三角形連續刻文。	1404	
1405		12574	35d	無文部の下に2列の三角形連續刻文。	1405	
1406		-143	35d	成組型:円形の押抜痕。無文部の下に3列の三角形連續刻文。	1406	
1407		-145	35d	無文部の下に2列の三角形連續刻文。以下RL構文。	1407	
1408		-144	35d	無文部の下に2列の三角形連續刻文。	1408	
1409		13253	33b2	LH構文間に本の横状沈繩。無文部の下に横状沈繩と垂下沈繩。地文はLR構文。	1409	
1410		3663	33b1	削痕:丁字状の沈繩跡。	1410	
1411		2917	43	成組型:成組型。内側にLH構文。	1411	
1412		3651	30b	内側にLH構文。	1412	
1413		2992	33b1	削痕:垂下沈繩と蛇行形。	1413	
1414		3107	33b1	削痕:過度沈繩文とそれを削除する2~3本単位の弧状刻線。	1414	
1415		2228	38b7	LH構文:1本の横状沈繩。以下多巻の弧状沈繩。	1415	
1416		-107	35c	成組型:内側に弧状刻文。	1416	
1417		4556堆	38b7	単位単位の弧状の有刻帶帯:円形刻痕。3本単位の横状沈繩の下方は横状の弧状沈繩と蛇行形。	1417	
1418		-145	30	内側にLH構文:帶状:RL構文。表面にスス付着。	1418	
1419		3815	38c	内側にLH構文:成組型:LR構文と充満。	1419	
1420		3088	29d	成組型:RL構文と充満。丁字状の枝葉茎跡か。	1420	
1421		3731	38c?	横状の下部は3本の弧状沈繩。成組型:LR構文を充満。	1421	
1422		2368	38b7	1423(1)~餘分。	1422	
1423		3383	38b7	降帯:上に円形の連續刻文。区間に成組型。削下沈繩。	1423	
1424		11872	38c	横状の弧状:以F LR構文。	1424	
1425		11442	38c	帶状:成組型:成組型:LR構文を充満。	1425	
1426		-125	43	削痕:成組型の弧状沈繩。地文はRL構文。	1426	
1427		2554	38c	削痕:成組文:RL構文を充満。表面にスス付着。	1427	
1428		1524	43	横状の成組型:RL構文を充満。器底はよく焼かれている。	1428	
1429		-124	43	横状の成組型:RL構文を充満。器底はよく焼かれている。	1429	
1430		3739	38b	削痕:成組文:地文はRL構文。	1430	
1431		3695	38b	1430(2)同一個。	1431	
1432		7788堆	34j	横状に単位の弓状刻付け。下方は横状の沈繩文。	1432	
1433		7735	34j	1432(1)~削痕:地文はRL構文。内側にスス付着。	1433	
1434		-78	34j	1432~1433同一個。	1434	
1435	SX3	11943	33b2	削痕:成組型の沈繩文。地文はRL構文。	1435	
1436		1943無	34d2	純形型:末尾は空の横状沈繩と貫通孔。	1436	
1437		-122	34j	8字状の突出文の下方に成組の直線文。地文はRL構文。	1437	
1438		7638	34j	1436(2)同一個。地文はRL構文。	1438	
1439		9955堆	34j	1436~1438同一個。削痕:帶状文を充満して直線。	1439	
1440		2930堆	34j?	上が直線的な成組文。横状に以下RL構文。	1440	
1441		3671	34j?	削痕:斜行沈繩。地文はRL構文。	1441	
1442		-144	34j?	削痕:斜行沈繩。地文はRL構文。	1442	
1443		2467	34j	弧状直線文の直線下に成組の直線文。地文はRL構文。	1443	
1444		-116	34j	突起部の直線:円形刻痕。内側に凹凸状隙間。表面に細孔。	1444	
1445		2831	34b1	縦帶状の凸巻きの成組文:圓形刻痕。頭部に3本単位の垂下沈繩と斜行沈繩。	1445	
1446		12449堆	34b1	過度沈繩文の頭部は地文に由来:充満。附筋間に有刺傷痕と弓字状貼付け文。	1446	
1447		3912	34b1	縦帶状:当身は成組文と弧状の直線文。頭部:RL構文。	1447	
1448		12429	34b1	地文から削痕:トカリ~直線刻絵。横は本成組。削痕:RL構文。	1448	
1449		12451	34b1	縦帶状:地文は成組文:成組の直線文。	1449	
1450		2824	34b1	縦帶状:地文は成組文。	1450	
1451		11935	34b3	縦帶状:地文は成組文。	1451	
1452		2415	34b3	縦帶状:地文は成組文。	1452	
1453		2215	34b3	縦帶状:地文は成組文。下端に連續刻文。	1453	
1454		3074	34b3	縦帶状:地文は成組文。横は円形の直線文。	1454	
1455		1791	34b3	重複の上に山並状刻痕。直線間に円形の直線。頭部に8字状刻痕。	1455	
1456		2225	34b3	上半部は成組文と弧状の直線文。頭部は無文部の下にRL構文。	1456	
1457		17176	34b3	主文は弧状の直線文。	1457	
1458		-111	34b3	縦帶状:頭部の弧状次第:内側にRL構文。	1458	
1459		2111	34b4	縦帶状:入子状の直線文。削痕:本の直下接縫。	1459	
1460		2036	34b4	縦帶状:本単位の部位:沈繩頭部:円形刻痕。頭部に斜行および垂下沈繩。	1460	
1461		3005	34b4	縦帶状:横の直線文。下端にスス付着。	1461	
1462		11939	34b4	縦帶状:入子状の直線文。はRL構文。内側にスス付着。	1462	
1463		1359	34b4	人字の直線文:トカリ~直線刻絵。	1463	
1464		12933	34b5	縦帶状:頭部の成組直線:弓字状刻文。以 RL構文。	1464	
1465		3336	34b5	縦帶状:頭部の成組直線:弓字状刻文。表面にスス付着。	1465	
1466		12567	34b5	縦帶状:頭部の成組直線:弓字状刻文。表面にスス付着。	1466	
1467		3386堆	34b6	縦帶状:削痕:円形刻痕。頭部は2本の堆円成組文。	1467	
1468		12433	34c2	縦帶状:成組直線:内側に横状沈繩。	1468	
1469		2527	34c3	縦帶状:円形刻痕文:成組直線:成組直線:頭部は成組文:頭部は成組文。	1469	
1470		2229	34c3	縦帶状:成組直線:内側に直線刻痕。地文はRL構文。内側にスス付着。	1470	
1471		12566堆	34c3	縦帶状:成組直線:成組直線:頭部は2本の堆円成組文。	1471	
1472		3666	34c4	堆円部:2本の横状直線。地文はRL構文。	1472	
1473		2829	34c4	堆円部:2本の横状直線。以下RL構文。表面にスス付着。	1473	
1474		-110	34c4	堆円部:2本の横状直線。	1474	
1475		3234	34c4	堆円部:2本の横状直線。頭部:頭部成組文。	1475	
1476		11873	34c4	堆円部:2本の横状直線。表面にスス付着。	1476	
1477		1361	34c5	堆円部:2本の横状直線。頭部:RL構文。	1477	
1478		1354	34c5	堆円部:2本の横状直線。表面にスス付着。	1478	
1479		3083	34c5	1469(1)~削痕。	1479	
1480		3095	34c5	縦帶状の横部位:成組直線:以下RL構文。表面にスス付着。	1480	
1481		2733	34c5	縦帶状の横部位:成組直線:表面および頭部はRL構文。	1481	
1482		1536	34c6	縦帶状の横部位:成組直線:以下RL構文。	1482	
1483		1527	34c6	縦帶状:成組直線:表面にスス付着。	1483	

第4表 遺構出土織文土器観察表 20

No	出土地点	遺物番号	計測値(cm)	分類	観察事項	特徴	量り
1484		2724		34c5	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面にスス付着。		1484
1485		3098		34c5	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面はRL構造。		1485
1486		3230壺		34c5	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面はRL構造。		1486
1487		1241		34c5	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面はRL構造。		1487
1488		- 112		34c5	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面はRL構造。		1488
1489		12452		34c5	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面はRL構造。		1489
1490		2747		34c9	縄文壺の4面(直縫型)。4面の横位直縫型。		1490
1491		787		34c11	手形部に丸穴。外壺部に円形の直縫型突起。		1491
1492		11870		34c9	縄文壺の4面(直縫型)。4面の横位直縫型。		1492
1493		225		34c5	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面はRL構造。		1493
1494		3986		34c5	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面はRL構造。以下RL構造。		1494
1495		3123		34c5	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面はRL構造。		1495
1496		2535		34c4	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面にスス付着。		1496
1497		2462		34c5	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面はRL構造。		1497
1498		7588		34c5	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面はRL構造。		1498
1499		2236		34c5	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面はRL構造。		1499
1500		2217		34c7	縄文壺部に丸穴付。直縫型丸穴。直縫型丸穴の下方に横位直縫型。地支はRL構造。		1500
1501		2013		34c8	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面にスス付着。		1501
1502		211		34c8	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面にスス付着。		1502
1503		2994		34c8	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面にスス付着。		1503
1504		- 109		34c8	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面にスス付着。		1504
1505		- 114		34c8	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面にスス付着。		1505
1506		113		34c8	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面にスス付着。		1506
1507		1542		34c8	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面にスス付着。		1507
1508		3223		34c8	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面にスス付着。		1508
1509		12575		34c8	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面にスス付着。		1509
1510		2729		34c8	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面にスス付着。		1510
1511		3083		34c8	縄文壺の横位(直縫型)。直縫型丸穴、内外面にスス付着。		1511
1512		3113		3411	縄文壺部の直縫型の上部に直縫型丸穴。表面にスス付着。		1512
1513		3109		3411	縄文壺部の直縫型の上部に直縫型丸穴。表面にスス付着。		1513
1514		2807		308	内壺等する縫合部。2-4の縫合部。		1514
1515		11708壺		34c5	縄文壺部・3-4の横位直縫型。直縫型RL構造。表面にスス付着。		1515
1516		- 109		34c8	内壺等する縫合部。2-4の横位直縫型。表面にスス付着。		1516
1517		2631		34c8	内壺等する縫合部。2-4の横位直縫型。表面にスス付着。		1517
1518		3901		34c8	内壺等する縫合部。2-4の横位直縫型。表面にスス付着。		1518
1519		2112		34c8	内壺等する縫合部。2-4の横位直縫型。表面にスス付着。		1519
1520		11906		34c8	内壺等する縫合部。2-4の横位直縫型。表面にスス付着。		1520
1521		2530		34c8	内壺等する縫合部。2-4の横位直縫型。		1521
1522		1787		34c8	内壺等する縫合部。2-4の横位直縫型。表面にスス付着。		1522
1523	SX3	2466壺		35?	口縫部部・直縫型の横位直縫型。以下状況の横位直縫型。底部はRL構造。スス付着。		1523
1524		2731		35?	口縫部部・直縫型の横位直縫型。以下状況の横位直縫型。底部はRL構造。スス付着。		1524
1525		3896		35?	口縫部部・直縫型の横位直縫型。以下状況の横位直縫型。底部はRL構造。スス付着。		1525
1526		2012		35?	口縫部部・直縫型の横位直縫型。以下状況の横位直縫型。底部はRL構造。スス付着。		1526
1527		2528		35?	口縫部部の下方に直縫型丸穴。地支はRL構造。		1527
1528		2736		35?	口縫部部の下方に直縫型丸穴。地支はRL構造。		1528
1529		- 105		316	口縫部部の横位直縫型。直縫型丸穴。以下状況の直縫型丸穴。表面にスス付着。		1529
1530		3882壺		35b	口縫部部の横位直縫型。直縫型丸穴。以下状況の直縫型丸穴。表面にスス付着。		1530
1531		- 101		35b	口縫部部の横位直縫型。直縫型丸穴。以下状況の直縫型丸穴。表面にスス付着。		1531
1532		2459		35b	口縫部部の横位直縫型。直縫型丸穴。以下状況の直縫型丸穴。表面にスス付着。		1532
1533		12822		35b	口縫部部の横位直縫型。直縫型丸穴。以下状況の直縫型丸穴。表面にスス付着。		1533
1534		12432		35b	口縫部部の横位直縫型。直縫型丸穴。以下状況の直縫型丸穴。表面にスス付着。		1534
1535		- 98		35c	口縫部部・直縫型の横位直縫型丸穴。		1535
1536		2562		35c	口縫部部・直縫型の横位直縫型丸穴。以下状況の直縫型丸穴。表面にスス付着。		1536
1537		22126		35c	口縫部部・直縫型の横位直縫型丸穴。以下状況の直縫型丸穴。表面にスス付着。		1537
1538		3673		35c	口縫部部・直縫型の横位直縫型丸穴。以下状況の直縫型丸穴。表面にスス付着。		1538
1539		- 97		35c	口縫部部・直縫型の横位直縫型丸穴。以下状況の直縫型丸穴。表面にスス付着。		1539
1540		11715		35c	口縫部部・直縫型の横位直縫型丸穴。以下状況の直縫型丸穴。表面にスス付着。		1540
1541		- 95		35?	口縫部部・直縫型の横位直縫型丸穴。		1541
1542		- 103		43	口縫部部・直縫型の横位直縫型丸穴。底部は直縫型丸穴。		1542
1543		- 100		43	渡掛部の横位直縫型丸穴。		1543
1544		1406		43	渡掛部の横位直縫型丸穴。以下状況の横位直縫型丸穴。表面にスス付着。		1544
1545		11895		43	渡掛部の横位直縫型丸穴。以下状況の横位直縫型丸穴。表面にスス付着。		1545
1546		3089		44c	やや肥厚した口縫部部・直縫型丸穴。		1546
1547		1805		35e2	口縫部部・直縫型丸穴。以下状況の横位直縫型丸穴。		1547
1548		2618		35e2	口縫部部・直縫型丸穴。以下状況の横位直縫型丸穴。		1548
1549		- 99		44c	口縫部部の横位直縫型丸穴。以下状況の横位直縫型丸穴。		1549
1550		- 102		35	口縫部部・直縫型の横位直縫型丸穴。以下状況の横位直縫型丸穴。		1550
1551		4162		35e2	口縫部部の横位直縫型丸穴。以下状況の横位直縫型丸穴。		1551
1552		11701		35e2	口縫部部の横位直縫型丸穴。以下状況の横位直縫型丸穴。		1552
1553		11310		35e1	口縫部部・2-3の横位直縫型丸穴。		1553
1554		13448		35e1	口縫部部・2-3の横位直縫型丸穴。		1554
1555		12820		35e1	口縫部部・2-3の横位直縫型丸穴。2字縫の展開か。		1555
1556		2413		35e1	口縫部部・2-3の横位直縫型丸穴。2字縫の展開か。		1556
1557		2020		35c	口縫部部・2-3の横位直縫型丸穴。2字縫の展開か。		1557
1558		4029		35e3	口縫部部・2-3の横位直縫型丸穴。2字縫の展開か。		1558
1559		3468		35e3	口縫部部・2-3の横位直縫型丸穴。2字縫の展開か。地支はRL構造。		1559
1560		1360		35e3	口縫部部・2-3の横位直縫型丸穴。2字縫の展開か。地支はRL構造。		1560
1561		2414		35e3	口縫部部の横位直縫型丸穴。2字縫の展開か。地支はRL構造。		1561
1562		- 110		35e3	口縫部部の横位直縫型丸穴。2字縫の展開か。地支はRL構造。		1562
1563		11311		35e3	口縫部部の横位直縫型丸穴。2字縫の展開か。		1563
1564		1777		35c	口縫部部の横位直縫型丸穴。2字縫の展開か。		1564

第4表 遺擱出土繩文土器觀察表 21

第4表 遺構出土縄文土器観察表 22

No.	出土地点	遺物番号	計測値(cm)	分類	観察事項		補足	番号
					内	外		
1644		1764	44b	無文の縦唇部下方はRL縄文。表面にスス付着。				1644
1645		1528	44c	「山形部」に山型状起立。無文部の下方にLR縄文。				1645
1646		7776	44a3	「山形部」に本の横位壠起継。無文部の下方は横文か。				1646
1647		3766	44a3	「山形部」に本の横位壠起継。無文部の下方はLR縄文。内外にスス付着。				1647
1648		12436	44a3	「山形部」に本の横位壠起継。無文部の下方はRL縄文。表面にスス付着。				1648
1649		11649	44a3	「山形部」に本の横位壠起継。無文部の下方はRL縄文。表面にスス付着。				1649
1650		-89	44a3	「山形部」に本の横位壠起継。無文部の下方は横文か。				1650
1651		2638	44a3	「山形部」に本の横位壠起継。表面にスス付着。				1651
1652		-87	44a3	「山形部」に本の横位壠起継。無文部の下方はRL縄文。表面にスス付着。				1652
1653		7659	44a3	「山形部」に本の横位壠起継。表面にスス付着。				1653
1654		-90	44a3	「山形部」に本の横位壠起継。表面にスス付着。				1654
1655		4161	44	底状の「山形部」無文。内側にスス付着。				1655
1656		2559地	U(18)	縦唇部に円錐の神止痕。全周にRL縄文。				1656
1657		9211	底(11)	J565の削下部。				1657
1658		11647地	O(25)	縦唇部にRL縄文。無文部の底部に横彌札。				1658
1659		253地	O(20)	縦唇部を含む前面にRL縄文。表面にスス付着。				1659
1660		3097地	O(27)	縦唇部は無文。底部以下部分にRL縄文。				1660
1661		3068地	U(29)	縦唇部が「日本」の横行沈縫。經營部を含む全周にRL縄文。				1661
1662		1417地	O(21), 高(30)	縦唇部を含む全周にRL縄文。表面にスス付着。				1662
1663		3746地	O(15), 高(9)	縦唇部が「日本」の横行沈縫。經營部を含む全周にRL縄文。				1663
1664	SX3	3465地	U(24), 高(26)	縦唇部の縦帶部下方はRL縄文。表面にスス付着。				1664
1665		1545地	底(12)	脚下部にRL縄文。底部はスレテ状。				1665
1666		1786地	底(10)	脚下部にRL縄文。底部は縦代化軋(2本組)と2本削り(1本送り)。				1666
1667		348地	O(15)	全周に縱状の只縫。				1667
1668		2902地	O(17)	縦唇部を含む全面にRL縄文。施文方向は前部部と脚部で異なる。				1668
1669		1242地	O(23)	縦唇部の下方にRL縄文。				1669
1670		3086地	U(11), 高(15)	「山形部」に本の横位壠起継。經營部を含む全周にRL縄文。				1670
1671		3694地	O(13)	「山形部」に本の横位壠起継。经营部を含む全周にRL縄文。表面にスス付着。				1671
1672		2029地	U(20)	「山形部」の縦帶部下方はRL縄文。表面にスス付着。				1672
1673		-123	底(11)	脚下部にRL縄文。底部はスレテ状。				1673
1674		3098地	O(15), 高(7)	縦唇部の底部は代土。				1674
1675		11865地	底(9)	脚下部にRL縄文。底部は縦代化軋(2本組)と2本削り(1本送り)。				1675
1676		3457地	O(9)	脚下部に縦唇。底部は縦代化軋(1本組)と1本削り(1本送り)。				1676
1677		2118地	O(10)	脚下部にRL縄文。底部は重縫(甲子重縫)。				1677
1678		2904地	O(14)	輪積模様が残る。				1678
1679		3108地	O(11)	脚部にRL縄文。				1679
1680		2127地	底(5)	脚下部無文。底部は縦代化軋(2本組)と2本削り(1本送り)。				1680
1681		930地	O(9), 高(7)	内側のニチヨウ土器。底部は脚代化軋(2本組)と2本削り(1本送り)。				1681
1682		11625地	底(11)	脚下部にRL縄文。底部は縦代化軋(2本組)と2本削り(1本送り)。				1682
1683		3482地	N?	脚下部に縦唇。底部は縦代化軋(1本組)。				1683
1684		3896地	底(11)	脚下部にRL縄文。底部は縦代化軋(2本組)と2本削り(1本送り)。				1684
1685		3124地	底(10)	脚下部にRL縄文。内側にスス付着。底部は網代化軋。				1685
1686		6028地	L(30, 高39	脚部のみの「山形部」は無文。6段の「寄舌部」に縫合部に縫合式成縫。地文は斜面成縫。地文は斜面成縫。工具による柔軟成縫。底部は網代化軋(2本組)と2本削り(1本送り)。				1686
1687		底(4)	25	脚部のみの「山形部」は無文。以降沈前部に縫合式成縫と縫合式成縫。その下方の横彌札帶間に縫合部の短縫跡。又は「円形刺突」。以降の沈前部は無縫。				1687
1688		5400地	U(33), 高(43)	「山形部」の横位壠は無文。縫合式成縫と縫合式成縫。脚部に縫合部の蛇行沈縫。地文はRL縄文。底部は縦代化軋(1本組)と1本削り(1本送り)。				1688
1689		5408地	O(34), 高(47	25	「山形部」の横位壠は無文。縫合式成縫と縫合式成縫。地文は縫合式成縫。工具による柔軟成縫。			1689
1690		6456地	O(24)	25	「山形部」無文。縫合式成縫と縫合式成縫。地文は縫合式成縫。工具による柔軟成縫。			1690
1691		8119地	O(11)(21)	25	「山形部」無文。以降RL縄文。			1691
1692		6665地	底(7)	24や更にすりし縫合部は無文。以下脚部の沈縫。地文はRL縄文。				1692
1693		6656地	底(10)	24や更にすりし縫合部は無文。以下脚部の沈縫。地文はRL縄文。				1693
1694	SX4	8127地	底(11)	24更に縫合部は無文。以下縫合部の縫合縫。				1694
1695		-16	24	J569と同一個体。脚部は無文。以下縫合部の縫合縫。				1695
1696		8081地	26	「山形部」の横位壠の下方に縫合部の短縫跡。又は「円形刺突」。以降の沈前部は無縫。				1696
1697		8115地	26	「山形部」の横位壠の下方に縫合部の短縫跡。又は「円形刺突」。以降の沈前部は無縫。				1697
1698		6447地	O(34)	25脚部に縫合部の短縫跡。又は「円形刺突」。以降の沈前部は無縫。				1698
1699		6252地	O(11)(32)	25脚部に縫合部の短縫跡。又は「円形刺突」。				1699
1700		5858地	O(14), 高(9)	25「山形部」無文。脚部は縫合部の短縫跡。又は「円形刺突」。以降の沈前部は無縫。				1699
1701		6463地	23?	「山形部」に通縫。又は「円形刺突」。以降の沈前部は無縫。				1700
1702		6520地	23?	「山形部」無文。内側に横位門縫と小突起。地文は柔軟成縫。無縫。				1701
1703		6446地	26	外反する無縫。無縫の頂部より縫合部の短縫跡。				1702
1704		8079地	26	方形の突起部下方に横位の縫合部。下方は弧状の沈縫。T字部内に内折する「山形部」に円形の隆起と横位の弧状成縫。表面に赤痕。				1703
1705		7143地	22?	「山形部」無文。縫合部の無縫区間に「山形部」成縫。その下方は弧状の沈縫。				1704
1706		-13	22?	1704の脚部移行部からシグザグの沈縫部の底。地文はRL縄文。				1705
1707		-7	22?	1704の脚部移行部からシグザグの沈縫部の底。地文はRL縄文。				1706
1707		6455地	23?	支脚部に横位の短縫跡。下方は縫合部の短縫跡内に弧状成縫。地文は柔軟成縫。				1707

遺物番号に一つついているものは、出土地点のデータ(座標及び標高)のないものである。
分類は第3節遺構外出土の縄文土器の分類に準じている。

第5表 遺擲別出土石器一覽表 1

第5章 遺擲別出土石器一覽表 2

第5章 遺擇別出土石器一覽表 3

第5表 遺構別出土石器一覽表 4

第6表 S-B・S-X出土石器観察表 1

No.	遺構名	遺物番号	種別	石材	計測値(mm±0.5mm)			観察事項	特徴	番号	
					長さ	幅	厚さ				
1	SB1	18	石器	下品石	(22)	(22)	5	(2.7)	半圓錐、尖頭部欠損、未製品の可能性あり	14785	1708
2		2099	石器	下品石	(30)	15	6	(2.6)	頭部と底面の区分不明確、尖頭部先端欠損	14786	1709
3		7136	石器	下品石	23	17	3	1.4	基材剥片の形狀を保つもの、湾曲は微細	14787	1710
4		449	UF	チート	27	30	12	11.9	頭部の片側に微細削離痕	14788	1710
5		4424	UF	頭端石	29	13	4	1.9	頭端の片側に微細削離痕	14789	1710
6		4426	UF	チート	37	27	13	11.0	頭端の片側に微細削離痕	14790	1710
7		-1	UF	チート	24	27	6	6.0	頭端部に不規則な削離痕	14791	1710
8		2094	磨石類	磨石	145	67	46	6.0	トントンに滑らかな表面、無面研磨取り	14792	1711
9		4427	磨石類	磨石	134	80	36	6.0	ガラツク表面、上部に小さな刃状、無面研磨打痕	14793	1712
10		84	石器	チート	18	13	3	0.8	凸基材剥片、基材の状態は浅い	14794	1713
11	SB2	679	石器	下品石	15	9	2	0.3	凸基材剥片、頭部の先端欠損	14795	1714
12		1056	石器	下品石	(18)	(9)	1	(0.3)	凸基材剥片、片側および尖頭部の先端欠損	14796	1715
13		2427	石器	下品石	(14)	(15)	2	(0.7)	尖頭部の片面の破片	14797	1716
14		-1	石器	下品石	19	10	2	0.7	尖頭部、頭端底面	14798	1716
15		-2	石器	チート	(20)	(16)	5	(2.6)	尖頭部の片側の破片、未製品の可能性あり	14799	1716
16		-3	石器	下品石	21	(12)	2	(0.6)	未製品、抉り跡と片側削離のみの複合型	14800	1716
17		-4	石器	チート	(17)	(13)	2	(0.8)	凸基材剥片、片側および尖頭部欠損	14801	1716
18		630	石器	チート	20	11	3	1.0	頭端部と片側の区分不明瞭、向面加工	14802	1716
19		-22	石器	下品石	57	17	11	7.8	剥片の先端に微弱な削離加工、削離面三角形	14803	1716
20		-23	石器	下品石	27	14	10	2.8	素材剥片の片側を削るも、僅頭部側面に加工痕	14804	1716
21	SB2K1	-24	石器	チート	29	10	5	2.0	素材剥片の片側を削るも、深尾部先端欠損	14805	1720
22		-25	石器	下品石	(15)	(11)	3	(0.6)	頭部と先端を大く削離加工	14806	1720
23		-26	タビリ形石器	チート	20	16	5	2.3	三刃に削離痕	14807	1719
24		6604	RF	チート	(39)	(18)	10	(8.3)	全面に削離痕、鋸長いいまみ形の様な形状	14808	1719
25		-13	RF	チート	36	12	5	3.0	頭端の片側に尖頭部の刃部	14809	1719
26		-20	RF	下品石	52	23	5	6.6	頭端の片側に頭端底面	14810	1719
27		-21	RF	チート	(13)	(16)	5	(1.4)	円錐形、頭端底面的な削離痕、大作品	14811	1720
28		296	RF	チート	41	26	4	5.9	頭端の片側に微細削離痕	14812	1720
29		990	UF	下品石	31	35	5	4.7	頭端の片側に削離痕	14813	1720
30		856	UF	チート	26	16	4	1.7	頭端の片側に微細削離痕	14814	1720
31	SB2K2	-5	UF	下品石	53	20	6	7.8	頭端の片側の一部に微細削離痕	14815	1720
32		-6	UF	チート	50	17	10	10.7	頭端の片側に不規則な削離痕	14816	1720
33		-7	UF	チート	42	21	7	5.8	頭端の片側に頭端底面	14817	1720
34		-8	UF	チート	31	16	4	2.5	頭端の片側に不規則な削離痕	14818	1720
35		-9	UF	チート	15	31	10	8.2	下品底に削離痕	14819	1720
36		-10	UF	チート	20	8	2	0.6	頭端の片側に微細削離痕	14820	1720
37		-11	UF	チート	28	17	5	2.5	頭端の片側に微細削離痕	14821	1720
38		-12	UF	チート	19	13	5	2.0	頭端の片側に微細削離痕	14822	1720
39		-14	UF	下品石	28	21	7	4.1	頭端の片側に削離痕	14823	1720
40		-15	UF	頭端石	18	24	6	2.3	T字形二刀式切削的な削離痕	14824	1720
41	SB2K3	-16	UF	チート	28	18	5	3.2	頭端底面に削離痕	14825	1720
42		-17	UF	チート	23	26	7	4.8	頭端部に不規則な削離痕	14826	1720
43		-18	UF	下品石	43	24	12	9.8	頭端の片側に微細削離痕	14827	1720
44		-19	UF	下品石	22	34	5	4.7	頭端の片側に微細削離痕	14828	1720
45		-27	石器	下品石	30	30	13	9.9	分割離散系の残片	14829	1720
46		278	擦傷石斧	蛇紋岩	(73)	(33)	11	(47.6)	丸棒式、刃部欠損	14830	1724
47		40	刮削石斧	砂岩	96	43	15	6.7	擦傷、表面に多くの自然面を残す	14831	1725
48		850	刮削石斧	碧玉岩	92	53	24	15.3	擦傷、表面やや硬化	14832	1725
49		1459	刮削石斧	綠色片岩	(92)	46	21	(12.1)	擦傷痕、刃部欠損	14833	1725
50		848	石器	下品石	(300)	(243)	53	(63.0)	台状、下に削るかんな削痕、灰熱による変色あり	14834	1725
51	SB2P1	79	砾石	砂岩	(89)	(82)	28	(27.5)	全面に削るかんな削痕、破損部	14835	1726
52		-1	UF	チート	38	18	6	5.2	角削れに微細削離痕	14836	1726
53		-1	UF	チート	24	16	4	2.1	角削れに微細削離痕	14837	1726
54		-1	UF	粘土岩	32	26	(5)	(5.0)	有茎石器、刃部欠損、灰熱の可能性大	14838	1721
55		-1	UF	下品石	27	20	5	2.5	円錐形、刃部欠損、灰熱の可能性大	14839	1721
56		-2	UF	チート	(13)	14	2	(0.6)	手平端、尖頭部欠損	14840	1721
57		-3	UF	下品石	(15)	8	2	(0.4)	円錐形、刃部欠損	14841	1721
58		-4	UF	チート	12	25	6	1.8	頭部は素面剥片の状況を留める、鋸い頭部	14842	1717
59		-13	タビリ形石器	チート	20	26	6	3.3	2つのツバキを伴う削離痕	14843	1717
60		-15	RF	チート	22	39	5	4.4	頭部に直線的な削離痕、右端の刃部性あり	14844	1717
61	SB2P2	-16	RF	チート	16	22	2	1.2	頭端の片側に過度的な削離痕	14845	1717
62		-17	RF	チート	27	16	4	2.6	頭端の片側に片側削離痕の刃部	14846	1717
63		7224	UF	チート	36	29	8	8.5	頭端の片側に微細削離痕	14847	1717
64		-5	UF	チート	26	35	7	5.9	頭端部に微細削離痕	14848	1717
65		-6	UF	下品石	38	24	10	8.3	T字形に微細削離痕、灰熱の可能性あり	14849	1717
66		-7	UF	チート	30	20	5	3.2	頭端の片側に微細削離痕	14850	1717
67		-8	UF	下品石	36	28	7	7.4	両頭端に微細削離痕	14851	1717
68		-9	UF	チート	34	36	8	8.9	両頭端に不規則な削離痕	14852	1717
69		-10	UF	チート	30	20	7	4.1	頭端の片側に微細削離痕	14853	1717
70		-11	UF	チート	35	48	8	10.0	頭端の片側に微細削離痕	14854	1717
71	SB2P3	-12	UF	チート	38	40	4	3.0	頭端の片側に微細削離痕	14855	1717
72		-20	石器	下品石	51	46	35	96.7	分割離散系で作成山口型	14856	1717
73		-14	横刃形石器	砂岩	55	69	16	62.0	刃幅約50mm、表面は刃部以外堅石の自然面	14857	1717
74		-18	石器	砂岩	33	19	10	9.6	小形の切削石器	14858	1723
75		-19	石器	砂岩	34	20	9	9.1	小形の刃部欠損	14859	1722
76		-21	刮削石斧	砂岩	100	63	32	27.0	上面に明らかな削痕	14860	1722
77		-22	刮削石斧	碧玉岩	75	66	60	33.0	上面にガラツク感	14861	1722
78		-1	石器	下品石	16	12	3	0.6	半圓錐、未製品の可能性あり	14862	1722
79		-2	UF	チート	21	24	6	2.5	頭端に不規則な削離痕	14863	1722
80	SB4	2767	石器	黑曜石	(20)	16	6	(1.9)	凹面無葉系、尖頭部欠損	14864	1722

第6表 S-B・S-X出土石器観察表 2

No.	遺構名	遺物番号	種別	石材	付帯箇所(木村ほか)				観察事項	辨別	参考
					長さ	幅	厚さ	重量			
81.	SB4	6091	石器	黒曜石	(21)	(14)	3	(0.8)	凹面無手縫、肉眼および尖端部の先端欠	149回	1728
82.		2771	石器	下駄石	34	16	6	3.4	底面との区分不明瞭、無縫:フブリ痕	149回	1729
83.		-4.	タシビ形石器	下駄石	28	18	12	11.9	12の刃剥離痕		
84.		-5.	タシビ形石器	下駄石	14	18	7	3.8	11のツブリを伴う剥離痕		
85.		131.	RF	下駄石	44	20	9	5.8	肉眼無:底面を真面加工、縫合部にツブリ痕		
86.		-1.	RF	下駄石	(12)	(18)	3	(0.7)	肉眼:底面の小片状、片片:弓筋の破損品		
87.		-2.	RF	チャート	35	16	6	3.4	無縫の刃剥離:ノコギリを伴う逆傾斜的	149回	1731
88.		-3.	RF	黒曜石	22	12	5	1.6	無縫の刃剥離:弓筋痕		
89.		-6.	UF	チャート	33	31	10	8.9	無縫の刃剥離:弓筋痕		
90.		128.	石板	下駄石	59	39	18	33.9	分割磨拭で作成面が全周		
91.	SB4P1	-2.	RF	チャート	25	20	7	3.6	無縫の刃剥離:弓筋痕		
92.		-1.	UF	チャート	34	14	4	2.1	無縫の刃剥離:弓筋無による破損品		
93.	SB4P9	-1.	磨製石斧	黒曜石	(65)	(37)	(9)	(21.7)	定角式、刃部を含む、無縫による破損品	149回	1730
94.		-1.	石器	チャート	31	10	3	1.3	直基削の刃形を示める	149回	1732
95.	SB4P5	47.	石器	チャート	35	14	5	3.1	無縫の内側に逆傾斜的剝離痕		
96.		437.	石器	チャート	(24)	(17)	4	(1.3)	弓筋無:無縫、肉眼および尖端部欠	150回	1733
97.		598.	石器	チャート	(35)	(15)	4	(1.4)	弓筋無:無縫、無縫の刃形が底状	150回	1734
98.		599.	石器	下駄石	17	15	2	0.5	弓筋無:無縫、無縫の刃形が底状	150回	1735
99.		653.	石器	チャート	37	30	8	8.0	川字形、大刀型の刃形	150回	1735
100.		869.	石器	チャート	(23)	(19)	4	(2.0)	弓筋無:無縫、各部の状は複雑、先端欠	150回	1735
101.		1240.	石器	チャート	(18)	(10)	3	(0.5)	弓筋無:無縫、片側の一端に先端欠	150回	1737
102.		1385.	石器	黒曜石	(15)	(10)	2	(2.0)	弓筋無:無縫、肉眼および尖端部欠		
103.		2265.	石器	黒曜石	19	12	3	3.0	弓筋無:無縫、33度に平行		
104.		3335.	石器	黒曜石	24	16	4	4.0	弓筋無:無縫、薄い断面の素材	150回	1738
105.	SB5	3440.	石器	黒曜石	19	11	3	3.0	弓筋無:無縫、薄い片断の様子を如く	150回	1736
106.		3446.	石器	黒曜石	(21)	(24)	3	(1.7)	弓筋無:無縫、肉眼および尖端部欠、大型	150回	1739
107.		4757.	石器	黒曜石	(21)	(6)	6	(1.6)	弓筋無:無縫、片側および尖端部欠、均厚	150回	1739
108.		5249.	石器	黒曜石	31	(14)	3	(1.3)	弓筋無:無縫、尖端欠	150回	1740
109.		5265.	石器	チャート	19	13	3	0.7	弓筋無:無縫、各部の状は複雑	150回	1741
110.		37.	石器	下駄石	(28)	(5)	5	(1.6)	弓筋無:無縫、肉眼および尖端部欠	150回	1742
111.		1504.	石器	黒曜石	54	21	11	9.7	素材削の刃形を示める、微部が鋸歯加工	151回	1744
112.		-7.	石器	黒曜石	20	15	4	1.3	素材削の刃形を示める、片面切欠で端部は鋸歯	150回	1743
113.		50.	スクレーバー	チャート	56	34	12	25.4	「凹」の面加工の跡	151回	1745
114.		1378.	スクレーバー	チャート	52	27	6	8.7	両側削:「凸」面加工の跡	151回	1745
115.	SB5	2257.	スクレーバー	チャート	(23)	(8)	5	(3.1)	現在二面:有茎剥離の刃形、破損品	151回	1746
116.		2268.	スクレーバー	チャート	35	33	11	14.0	一面:無茎剥離の刃形	151回	1747
117.		42.	タシビ形石器	下駄石	21	23	7	3.8	2つのツブリを伴う剝離痕	151回	1746
118.		42.	タシビ形石器	チャート	26	8	3.8	2つのツブリを伴う剝離痕	151回	1747	
119.		3450.	RF	黒曜石	28	26	8	3.8	前面:肉眼による剝離痕、縫合にツブリ痕		
120.		3790.	RF	黒曜石	24	22	7	2.8	前面:肉眼による剝離痕、縫合にツブリ痕、未製品の可能性あり		
121.		5003.	RF	黒曜石	34	21	8	4.8	無縫の刃形を示せる、微部が鋸歯加工	151回	1748
122.		5004.	RF	黒曜石	27	34	10	5.4	無縫の刃形を示せる、上端部が凹形		
123.		-9.	RF	黒曜石	27	22	6	3.1	上端部:凹形、根折れ切り取りの可能性あり	151回	1749
124.		-10.	RF	チャート	25	28	7	6.2	下端部:上端部:肉眼の刃形		
125.	SB5	4748.	RF	黒曜石	32	20	3	2.0	無縫:ノコギリ:手工作的な剝離痕		
126.		432.	UF	チャート	48	25	7	12.0	無縫:手工作的な剝離痕		
127.		3184.	UF	チャート	61	37	11	22.3	無縫:手工作的な剝離痕		
128.		3439.	UF	黒曜石	27	16	9	3.0	無縫:肉眼による剝離痕		
129.		3442.	UF	黒曜石	52	16	5	4.1	無縫:肉眼による剝離痕		
130.		3443.	UF	黒曜石	40	23	9	8.7	無縫:肉眼による剝離痕		
131.		4329.	UF	チャート	22	32	7	6.0	無縫:肉眼による剝離痕		
132.		4740.	UF	チャート	34	31	9	10.7	無縫:不規則な剝離痕		
133.		4752.	UF	黒曜石	27	17	10	2.6	上端部:底面:肉眼による剝離痕		
134.		5006.	UF	下駄石	54	30	8	12.9	側面の刃形:不規則な剝離痕		
135.	SB5	5010.	UF	黒曜石	21	22	6	1.7	ドロップ:肉眼剥離痕		
136.		5612.	UF	黒曜石	29	25	7	3.5	二面にミゼラブル状剥離痕		
137.		5240.	UF	チャート	40	27	10	8.0	側面の刃形:肉眼による剝離痕		
138.		6866.	UF	チャート	40	15	6	4.0	側面部:凹形:柱状剥離痕		
139.		-1.	UF	チャート	38	18	11	7.0	側面の刃形:肉眼による剝離痕		
140.		-11.	UF	チャート	30	18	5	2.2	側面部:凹形:柱状剥離痕		
141.		-12.	UF	チャート	32	23	8	4.1	側面の刃形:肉眼による剝離痕		
142.		-13.	UF	チャート	38	16	5	3.0	側面の刃形:肉眼による剝離痕		
143.		-14.	UF	チャート	29	31	7	4.0	側面の刃形:肉眼による剝離痕		
144.		-15.	UF	チャート	38	22	8	6.5	山形部:柱状剥離痕		
145.	SB5	-16.	UF	チャート	26	16	5	2.7	上端部:柱状剥離痕		
146.		-17.	UF	チャート	18	25	2	1.2	側面部:柱状剥離痕		
147.		-18.	UF	チャート	36	22	4	2.8	側面の刃形:肉眼による剝離痕		
148.		-19.	UF	下駄石	33	19	8	4.1	側面の刃形:肉眼による剝離痕		
149.		-20.	UF	黒曜石	32	16	4	1.9	側面部:柱状剥離痕		
150.		-38.	石板	チャート	47	40	20	28.4	分割磨拭で作成面が全周		
151.		-5.	石板	下駄石	47	54	14	35.5	分割磨拭:素材の残根		
152.		49.	磨製石斧	鉈状石	(36)	(35)	(8)	(1.1)	小破片		
153.		4423.	磨製石斧	鉈状石	(57)	(53)	18	(6.1)	定角式、刃部の横行:やや風化	151回	1750
154.		-1.	磨製石斧	鉈状石	(27)	(52)	(11)	(16)	小破片		
155.	SB5	-2.	磨製石斧	鉈状石	(35)	(41)	(9)	(15)	小破片:49と同一物体		
156.		-3.	磨製石斧	鉈状石	(47)	(38)	(10)	(20)	小破片		
157.		-4.	磨製石斧	鉈状石	(36)	(21)	(7)	(9)	小破片:48と同一物体		
158.		5354.	打製石斧	母岩	95	42	14	7.0	母岩形:素質		
159.		439.	打製石斧	安山岩	45	78	13	43	刃形部約55mm:安山岩の自然面	151回	1751
160.		3061.	磨石磨	義理岩	(59)	79	51	(286)	ザラつく表面、1/2次欠損		

第6表 S B・S X出土石器観察表 3

No	遺構名	遺物番号	種別	計測値(cmおよびg)			観察事項	緯度	番号		
				長さ	幅	厚さ					
161		3334	磨石類	縫合矢石	83	75	45	299	ザフク森灰	15108 1752	
162	SBS	5253	磨石類	縫合矢石	(198)	72	(30)	(368)	ザフク森灰、玄板晶		
163	SBS	-1	UF	磨巒石	15	19	4	(0.8)	頂部の片側、表面剥離		
164	SBS	-1	石器	磨巒石	(20)	(12)	3	(1.3)	頂部剥離、表面欠損		
165		1838	石器	下呂石	(15)	16	3	(0.9)	平底盤、表面の破片、1850に接合	15208 1763	
166		1840	石器	磨巒石	(22)	19	5	(1.4)	表面のひび割れ		
167		1850	石器	下呂石	(17)	14	2	(0.5)	天端部の破片、1850に接合	15206 1753	
168		2244	石器	下呂石	(20)	14	3	(0.7)	円錐形尖端、先頭部欠損	15209 1754	
169		2790	石器	チャット	16	14	2	(0.4)	円錐形尖端、断面の形状は弧状	15228 1755	
170		-1	石器	下呂石	30	22	6	3.2	表面剥片の形状を留める、先端に剥離痕	15210 1756	
171		442	石器	チャット	(43)	(25)	7	(8.0)	鋸歯、つまみ形先端、12次屈	15209 1757	
172	SBS	446	スクレーパー	チャット	51	45	18	35.6	両刃加工の刃部、長軸に直線的自然面		
173		-2	カサビ形石器	下呂石	22	(19)	8	(2.3)	1時の削除跡		
174		281	UF	チャット	50	21	10	10.7	直角・複数刃上、延形凹凸の未製品の可能性あり		
175		1839	UF	磨巒石	25	19	6	2.3	全表面研磨加工、スクレーパー等の被削品か		
176		447	UF	磨巒石	35	45	11	19.7	下端部に不規則な剥離痕		
177		1801	UF	チャット	45	40	12	26.8	側面の片側に不規則な剥離痕		
178		-3	UF	チャット	30	24	9	6.8	側面の片側に不規則な剥離痕		
179		443	石器	磨巒石	30	24	8	8.0	分岐形刃部、表面の残根		
180		593	打撲形斧	縫合矢石	104	45	18	(9.0)	凹面側、先端部に剥離痕の可能性あり		
181		2762	石器	磨巒石	(12)	9	3	(0.3)	凹面側を磨き、尖端部に先端欠		
182		2763	石器	下呂石	14	8	2	0.3	凹面側を磨き、速い・快り・片側および先端欠		
183		3027	石器	下呂石	14	10	2	0.4	平底盤		
184		4513	石器	下呂石	16	(11)	3	(0.5)	凹面側を磨き、片側欠	15508 1785	
185		4710	石器	下呂石	14	(9)	2	(0.2)	凹面側を磨き、片側欠		
186		7477	石器	チャット	17	11	3	0.5	凹面側を磨き、基部の抉り深い片側欠		
187		18869	石器	磨巒石	14	9	3	0.3	凹面側を磨き、表面状態(片側)	15506 1784	
188		-1	石器	下呂石	13	(8)	2	(0.2)	凹面側を磨き、片側欠		
189		7319-2	石器	磨巒石	23	8	3	0.7	表面剥片の形状を留める	15508 1788	
190		-2	石器	下呂石	22	11	7	1.2	表面剥片の形状を留める、微調整		
191	SBS	-3	カサビ形石器	下呂石	30	24	10	7.0	底部にブレードを作った削離痕		
192		-4	カサビ形石器	チャット	18	24	5	2.5	1時の削除痕		
193		-5	カサビ形石器	下呂石	18	19	6	1.8	1時のブレードを作った削離痕		
194		-6	カサビ形石器	下呂石	19	25	9	5.2	三回にブレードを作った削離痕	15508 1789	
195		-7	カサビ形石器	下呂石	18	31	6	(3.5)	三回に削離痕、一部欠損		
196		-8	カサビ形石器	下呂石	21	18	9	4.0	1時のブレードを作った削離痕		
197		4434	UF	下呂石	25	30	5	3.3	側面剥片の形状を留める		
198		4435	UF	チャット	25	43	9	9.4	側面剥片の形状を留める、微調整		
199		4437	UF	磨巒石	22	19	10	2.8	下端部にブレードを作った削離痕		
200		4764	UF	下呂石	42	32	10	11.5	側面剥片の形状を留める、微調整		
201		-9	UF	下呂石	33	43	6	6.6	2回に微調整		
202		-10	UF	下呂石	30	21	5	3.8	三回にブレードを作った削離痕		
203		-12	石器	下呂石	51	78	16	50.3	厚さのある側面剥片を素材とし頭部に打撲移		
204		153	骨器	縫合矢石	(115)	(50)	27	(180)	定式化、系部の一起に刃部欠損	15508 1791	
205		-11	骨器	縫合矢石	(16)	16	5	(3)	小形の刃部、月切の破片	15508 1790	
206	SBS	SBT7P1	-1	石器	チャット	19	14	3	1.2	刃部	15508 1787
207	SBS	SBT7P4	-1	カサビ形石器	チャット	20	22	8	4.1	1時の削除痕	
208	SBS	486	石器	下呂石	18	(12)	2	(0.5)	凹面側を磨き、片側欠	15508 1786	
209		498	石器	チャット	15	11	3	0.7	凹面側を磨き、片側欠		
210		505	石器	下呂石	19	11	3	0.2	凹面側、底面状態	15606 1792	
211		624	石器	下呂石	(14)	(6)	1	(0.1)	六角形ののみの片側		
212		1110-1	石器	下呂石	(6)	13	2	(0.2)	凹面側を磨き、先頭部欠、側面状態		
213		1110-2	石器	下呂石	(10)	7	2	(0.2)	片側のみの削離痕		
214		1475	石器	下呂石	(10)	10	2	(0.2)	凹面側を磨き、片面の先と尖頭部欠		
215		1617	石器	磨巒石	11	6	2	0.5	凹面側を磨き、側面状態	15606 1793	
216		1873	石器	磨巒石	22	(11)	2	(0.5)	凹面側を磨き、片側欠	15508 1794	
217		3432	石器	下呂石	(18)	16	4	(1.1)	片面のみの削離痕		
218		2565	石器	磨巒石	(6)	11	2	(0.1)	凹面側を磨き、钝角および尖頭部欠		
219		2567	石器	チャット	(13)	(11)	3	(0.6)	側面状態のみの片側		
220		3063	石器	下呂石	(24)	15	5	(1.5)	凹面側を磨き、先頭部欠、側面状態		
221		4090	石器	下呂石	10	11	3	0.7	凹面側を磨き、側面状態		
222		4093	石器	下呂石	15	9	2	0.5	凹面側を磨き、側面状態		
223		4098	石器	下呂石	17	(10)	2	0.4	凹面側を磨き、片側欠、側面状態	15606 1795	
224		4092	石器	下呂石	14	(10)	2	0.4	凹面側を磨き、片側欠、側面状態	15606 1795	
225		4235	石器	下呂石	16	(10)	3	(0.6)	凹面側を磨き、片側欠		
226		4312	石器	チャット	22	13	4	1.1	凹面側を磨き、側面状態、左右非対称		
227		4501	石器	チャット	16	9	3	0.4	凹面側を磨き、表面や今風化		
228		4505	石器	下呂石	19	11	3	0.7	片面		
229		6864	石器	下呂石	(26)	13	4	(0.6)	凹面側を磨き、先端欠		
230		-1	石器	下呂石	(17)	(13)	5	(0.9)	凹面側を磨き、片側欠		
231		-2	石器	下呂石	(9)	11	2	(0.2)	凹面側を磨き、先頭部および尖頭部欠		
232		-3	石器	下呂石	(13)	12	2	(0.4)	凹面側を磨き、先頭部および尖頭部欠		
233		-4	石器	下呂石	(15)	16	2	(0.8)	尖頭部欠、未製品の可能性あり		
234		844	石器	下呂石	(29)	9	6	2.8	純粋、先端に削離痕	15606 1797	
235		2595	石器	玉器	13	(4)	2	0.2	表面剥片の形状を留める		
236		4062	石器	玉器	33	13	6	2.8	表面剥片の形状を留める、無い・調査済		
237		4067	石器	下呂石	(18)	4	2	(0.3)	純粋、追久、微調整に削離痕		
238		4227	石器	チャット	(18)	5	3	(0.5)	純粋、石器部は一端のみ		
239		4510	石器	下呂石	(18)	11	2	(0.6)	表面剥片の形状を留める、先端欠		

第6表 S・B・X出土石器観察表 4

No	遺物名	遺物番号	種別	石材	計測値(mmおよびg)			観察事項	辨認	番号	
					長さ	幅	厚さ				
241		-8	石器	下凹石	(39)	23	6	(4.2)	石材剥片の形状を留める。先端欠	156回	1799
242		-9	石器	下凹石	42	22	12	9.9	石材剥片の形状を留める。鮮明に磨耗斑	156回	
243		-10	石器	下凹石	(22)	21	10	(4.3)	底面のみの破片。石器底の横断面は楕円形	156回	
244		-11	石器	黒曜石	18	13	6	1.4		156回	
245		-5	石器	下凹石	(28)	(12)	3	(1.1)	つまみ部分の破片	156回	1800
246		116	スクリバー	黒曜石	58	31	7	13.2	無刃片・削除済みの刃部	156回	1801
247		3363	スクリバー	下凹石	45	29	12	11.7	二辺に粗粒の調色の部分	156回	1802
248		1111	RF	下凹石	21	22	5	1.9		156回	
249		4315	RF	下凹石	18	22	6	2.6		156回	
250		4316	RF	下凹石	23	23	5	2.8	下端部・竹刀調査の連続的な剝離痕	156回	1803
251		-7	RF	黒曜石	16	15	3	0.9	無刃の片側・連続的な剝離痕	156回	
252		111	UF	下凹石	65	48	13	35.0	下端部に不明瞭な剝離痕	156回	
253		244	UF	下凹石	42	51	10	16.4	二辺に微細な剝離痕	156回	
254		507	UF	下凹石	52	26	8	7.9	二辺に微細な剝離痕	156回	
255		1231	UF	下凹石	38	30	19	8.7	両側縫に微細剝離痕	156回	
256		2436	UF	チート	33	33	5	7.1	無刃の片側・不規則な剝離痕	156回	
257		3034	UF	玉器	27	16	3	2.3	無刃の片側・不規則な剝離痕	156回	
258		4091	UF	下凹石	56	27	9	13.2	無刃の片側・不規則な剝離痕	156回	
SB8	4197	UF	チート	37	22	12	7.7	無刃の片側・不規則な剝離痕	156回		
	4205	UF	下凹石	36	45	8	12.2	下端部・微細な剝離痕	156回		
	4206	UF	下凹石	52	45	6	14.8	二辺に微細な剝離痕	156回		
	4311	UF	チート	23	24	7	3.7	両側縫に不規則な剝離痕	156回		
	-12	UF	下凹石	26	28	4	3.6	下端部に規則的な剝離痕	156回		
	-13	UF	下凹石	29	23	4	3.0		156回		
	-14	UF	下凹石	26	25	6	2.4		156回		
	-15	UF	下凹石	41	24	6	5.8		156回		
	-16	UF	下凹石	24	22	6	2.2		156回		
	-17	UF	下凹石	35	18	4	2.5		156回		
269	-18	UF	下凹石	47	26	12	14.0	両側縫に刃口付近の剝離痕	156回		
270	113	石核	チート	37	63	15	34.4	無刃の片側・刃口付近の剝離痕	156回	1804	
271	263	界隈石斧	鐵紋岩	(44)	(30)	(16)	(23)	分角式・基部付近の小片	156回		
272	6935	曲茎石斧	鐵紋岩	(28)	(35)	(12)	(17)	分角式・基部の破片	156回		
273	-6	曲茎石斧	鐵紋岩	(20)	(6)	(2)	(1)	表面の一部	156回		
274	485	打鑿石斧	綠色片岩	(42)	(43)	18	(46)	鋸歯の小片	156回		
275	1876	打鑿石斧	綠色片岩	(76)	60	29	(174)	鋸歯形・刃部欠	156回		
276	857	打鑿石斧	綠色片岩	120	48	21	17.2	鋸歯形・刃部欠・表面・肩部の自然面	156回	1805	
277	226	石核	鐵紋岩	(66)	74	(39)	(217)	ザラツク感、小破片	156回		
278	-2	石核	下凹石	34	9	6	2.0		156回	1798	
SB8群1	-1	UF	下凹石	20	25	6	2.4	石材剥片の形状を留める。無刃にフリフリ	156回		
	7011	崩石	鐵紋岩	(48)	19	34	(151)	滑らかな表面・約1/2欠損	156回		
	7018	石製品	珪化木	(167)	20	16	(79.3)	自然石のよどみ・部分的に研磨の可溶性あり	156回	1806	
SB8群2	-1	UF	下凹石	(12)	(6)	1	(0.2)	片面の一部	156回		
	-1	UF	下凹石	24	23	4	2.9	片面の一部の破片	156回		
SB8P4	-2	打鑿石斧	砂岩	126	54	24	17.9	鋸歯形・正面に底面の自然面が残る	156回	1806	
	-3	打鑿石斧	砂岩	118	50	18	13.4	鋸歯形・正面に底面の自然面が残る	156回	1807	
	-1	UF	下凹石	(18)	12	3	(0.8)	玉器	156回		
SB8P5	-1	UF	下凹石	16	14	3	0.8	内面に連続的な剝離痕	156回		
	-1	RF	下凹石	16	14	3	0.8		156回		
SB8P6	-1	UF	下凹石	(18)	(12)	2	(0.6)	玉器	156回		
	200	石核	チート	(18)	(12)	2	(0.6)	玉器	156回		
289	207	石核	黑曜石	16	(12)	2	(0.3)	玉器無系縫、片面の先端欠	156回	1810	
290	243	石核	下凹石	22	(10)	3	(0.6)	玉器無系縫、片面欠	156回		
291	277	石核	下凹石	(12)	11	2	(0.3)	玉器無系縫、尖頭部分欠	156回		
292	318	石核	チート	(12)	(11)	3	(0.4)	玉器無系縫、尖頭の破片	156回		
293	5028	石核	下凹石	(19)	12	3	(0.8)	玉器無系縫、尖頭部分の先端欠	156回		
294	5029	石核	下凹石	(9)	6	2	(0.1)	玉器無系縫、尖頭部分の先端欠	156回	1811	
295	5030	石核	下凹石	13	12	3	0.4	玉器無系縫、尖頭部分の先端欠	156回	1812	
296	5279	石核	下凹石	(14)	17	4	(1.1)	玉器無系縫、尖頭部分欠	156回		
297	5472	石核	下凹石	18	(5)	2	(0.3)	玉器無系縫、尖頭部分欠	156回		
298	5474	石核	下凹石	(15)	11	2	(0.5)	玉器無系縫、尖頭の付け出不出之、大頭部分	156回		
299	5483	石核	下凹石	(15)	18	5	(1.6)	玉器無系縫、尖頭部分欠	156回		
300	5486	石核	下凹石	(12)	12	3	(0.5)	玉器無系縫、片面の先および尖頭部分欠	156回		
301	5666	石核	下凹石	(15)	10	2	(0.4)	玉器無系縫、尖頭部分欠	156回		
302	6005	石核	下凹石	16	15	3	0.8	玉器無系縫、尖頭部分欠	156回		
303	6006	石核	チート	(15)	12	4	(0.9)	玉器無系縫、尖頭部分の先端欠	156回	1813	
304	6007	石核	下凹石	(15)	18	3	(1.2)	玉器無系縫、尖頭部分の先端欠	156回		
305	6025	石核	チート	(12)	(5)	1	(0.1)	玉器無系縫、片面より尖頭部分の先端欠	156回		
306	6316	石核	下凹石	(15)	14	2	0.5	玉器無系縫、尖頭部分欠	156回		
307	6483	石核	チート	(22)	18	4	2.2	玉器無系縫、尖頭部分欠	156回		
308	6485	石核	チート	(22)	(14)	4	(1.4)	尖頭部分のみの破片	156回		
309	6496	石核	下凹石	(25)	14	5	(1.3)	玉器無系縫、周囲の一部欠損	156回	1814	
310	6493	石核	チート	(22)	17	6	(2.3)	大頭部	156回		
311	6573	石核	下凹石	26	18	2	0.8	玉器無系縫、片面欠	156回	1815	
312	6608	石核	下凹石	(16)	(9)	2	(0.4)	玉器無系縫、片面欠	156回		
313	6673	石核	下凹石	(12)	(4)	1	(0.1)	玉器無系縫、片面のみの破片	156回		
314	6877	石核	チート	(18)	(11)	2	(0.4)	玉器欠損、傾斜のみを片面測定	156回		
315	6895	石核	チート	(22)	(14)	4	(1.4)	玉器無系縫、片面欠損	156回		
316	6987	石核	下凹石	(13)	(6)	2	(0.3)	玉器のみの破片	156回		
317	7008	石核	下凹石	(38)	19	5	(2.8)	玉器無系縫、片面の先および尖頭部分の先端欠	156回		
318	7084	石核	下凹石	(17)	(6)	2	(0.1)	玉器無系縫、片面および尖頭部分の先端欠	156回		
319	7139	石核	下凹石	(11)	10	2	(0.3)	玉器無系縫、尖頭部分欠、微細剝離痕	156回		
320	7596	石核	下凹石	23	18	2	1.0	玉器無系縫、左半部欠損	156回		

第6表 S-B・S-X出土石器観察表 5

No	遺構名	遺物番号	種別	石材	計測値(mm±0.1mm)			観察事項	特記	番号	
					長さ	幅	厚さ				
321	SB9	-1	石劍	下呂石	19	(10)	2	(0.6)	基部の大手欠損		
322		-2	石劍	下呂石	(11)	(9)	1	(0.2)	門基部茎面、両脇および尖削部欠		
323		5277	石劍	下呂石	(24)	14	4	(1.4)	通貫の施された基部をもつ、素部欠損	15948	
324		5283	石劍	下呂石	(24)	14	7	(2.2)	基部欠損、先端が削れ	18116	
325		5288	石劍	下呂石	24	8	4	1.2	母材に、無理な手造り跡		
326		5473	石劍	下呂石	(23)	19	9	(4.2)	両脇の施された底削部缺、背腹側断面は楕円形		
327		6427	石劍	下呂石	(28)	11	2	(1.2)	両脇ののみの刃渡り加工、先端大削		
328		6314	石劍	下呂石	(60)	8	4	(2.5)	棒状、両脇が尖る、背側部に削れ痕	15949	
329		6385	石劍	下呂石	(54)	9	5	(2.7)	棒状、両脇が尖る、先端の一部欠損	15950	
330		6491	石劍	下呂石	20	5	4	0.6	棒状、両脇が尖る、両脇に削れ痕	15950	
331		7131	石劍	下呂石	20	10	3	0.7	刃渡りとの部分不規則、主に刃渡り側に剥片		
332		-3	石劍	下呂石	(19)	8	3	0.6	末梢の施された底削部缺、背腹側断面は楕円形		
333		-4	石劍	下呂石	(15)	(8)	3	(0.4)	基部および先端削れ痕		
334		-21	石劍	チャート	(14)	7	4	(0.7)	両脇側に裏打ち加工、基部および先端欠		
335		205	属性不明	チャート	22	13	2	1.0	縦溝跡にむかう側面を突出させる	15948	
336		-5	カサビ形石刀	下呂石	29	10	7	3.9	1寸の刃渡り		
337		-6	カサビ形石刀	下呂石	16	13	6	3.9	1寸の刃渡り		
338		-7	カサビ形石刀	下呂石	25	16	6	3.2	1寸の刃渡り		
339		-8	カサビ形石刀	下呂石	13	19	4	2.5	2寸の刃渡り		
340		-9	カサビ形石刀	下呂石	14	14	4	0.8	三辺にフレアを伴う剝離痕		
341		-10	カサビ形石刀	下呂石	23	16	7	3.2	1寸のフレアを伴う剝離痕		
342		-11	カサビ形石刀	下呂石	32	22	8	6.1	1寸のフレアを伴う剝離痕		
343		6024	RF	チャート	(49)	(40)	9	(18.6)	被削痕、右既の可動部あり		
344		6098	RF	チャート	26	22	4	2.6	内側縫に通達する剝離痕		
345		-18	RF	チャート	15	9	3	0.7	下端部に通達する剝離痕		
346		-19	RF	チャート	12	19	4	0.9	下端部に通達する剝離痕		
347		5285	UF	下呂石	19	16	4	1.4	三辺に刃こぼれの剥離痕		
348		5479	UF	下呂石	37	29	12	8.8	側削の片側に刃こぼれの剥離痕		
349		6221	UF	下呂石	47	26	6	9.8	側削の片側に刃こぼれの剥離痕		
350		-12	UF	下呂石	42	65	8	23.4	下端部に刃こぼれの剥離痕		
351		-13	UF	下呂石	28	19	9	5.2	側削の片側に刃こぼれの剥離痕		
352		-14	UF	下呂石	38	21	4	4.2	側削縫に刃こぼれの剥離痕		
353		-15	UF	下呂石	32	10	3	1.0	側削の片側に剝離痕		
354		-16	UF	下呂石	34	23	7	5.3	辺に剝離痕を帯びる剝離痕		
355		-17	UF	下呂石	31	26	6	4.2	側削の片側に剝離痕		
356		5281	石槍	下呂石	48	27	23	38.6	分岐状素材で直裏面は全削	15949	
357		7067	石槍	下呂石	45	32	22	26.7	分岐状素材で直裏面は全削	15949	
358		-20	石槍	下呂石	42	33	15	24.4	分岐状素材で直裏面は全削	15949	
359		6007	骨刀と骨	地鉄針	(64)	26	9	(25)	定式化、刃部の片側に斜起欠損	15949	
360		5284	打孔石斧	黒鳴石	(120)	84	50	(66.3)	横削痕、底延久削、周縁に上り色	15950	
361		202	磨石と骨	黒鳴石	91	80	56	53.8	ザラツク削痕、上面に風化		
362		234	磨石と骨	黒鳴石	80	54	18	9.3	ザラツク削痕、表面風化		
363		240	磨石と骨	骨	(96)	54	32	(28.1)	セイザツ骨質、骨上面に削痕	15949	
364		241	磨石と骨	骨	125	52	26	287	トトロに削れ、表面風化し風化	15949	
365		5494	磨石と骨	黒鳴石	80	54	39	217	ザラツク削痕、上と下方に凹痕	15949	
366		6006	磨石と骨	鉢形井	(91)	74	70	49.4	ザラツク削痕、口に欠損	15949	
367		6218	磨石と骨	黒鳴石	(103)	(49)	38	(23.5)	上面に削れかな風痕、破損品		
368		6294	磨石と骨	黒鳴石	(54)	(55)	42	(15.1)	ザラツク削痕、残存約1/2		
369	SB10	-1	RF	黒鳴石	16	15	3	0.6	三角形の翼の片側に剝離痕、他の側は削痕		
370		S-B9P1	-1	石劍	下呂石	39	15	8	5.0	縫状、底延久削、先端丸みを帯びる	15949
371		S-B9P19	-1	石劍	チャート	20	(8)	3	(0.7)	新規削で形成し、被削痕、底部の大手と削離痕	15949
372		475	石劍	チャート	17	15	3	0.6	アキレス突起、尖削部丸みを帯びる	16000	
373		620	石劍	チャート	19	14	4	0.7	アキレス突起、底部の突起は浅い	16000	
374		640	石劍	下呂石	(19)	(23)	5	(1.9)	アキレス突起、尖削部の突起は浅い	16000	
375		646	石劍	チャート	26	15	3	(1.1)	アキレス突起、尖削部の突起は浅い	16000	
376		947	石劍	チャート	(20)	(13)	3	(0.8)	アキレス突起、尖削部の突起は浅い	16000	
377		1243	石劍	下呂石	25	9	4	(4.3)	アキレス突起、尖削部の突起は浅い	16000	
378		1244	石劍	下呂石	24	16	6	1.9	アキレス突起、尖削部の突起は浅い	16000	
379		1345	石劍	下呂石	15	10	4	(0.5)	アキレス突起、片側の一部の感	16000	
380		1496	石劍	チャート	(11)	(14)	6	(0.7)	アキレス突起、片側の一部の感	16000	
381		1582	石劍	チャート	(20)	(15)	4	(1.0)	アキレス突起、底延久削	16000	
382		1815	石劍	下呂石	27	20	7	2.7	アキレス突起、底延久削の外縁に浅い	16000	
383		1819	石劍	下呂石	(19)	(16)	3	(1.0)	アキレス突起、片側の一部に底延久削	16000	
384		1821	石劍	下呂石	19	11	4	0.8	アキレス突起、底延久削の外縁に浅い	16000	
385		1885	石劍	下呂石	(12)	(12)	2	(0.3)	アキレス突起、片側の一部に底延久削	16000	
386		1897	石劍	下呂石	12	14	3	1.0	アキレス突起、浅い、狭い、薄い片側の部品を調整	16000	
387		1902	石劍	チャート	24	18	3	1.3	アキレス突起、底部の凹凸は浅い	16000	
388		4522	石劍	チャート	27	(19)	3	(1.5)	アキレス突起、片側大削	16000	
389		4760	石劍	下呂石	(23)	16	6	(2.0)	アキレス突起、浅い、先端丸く	16000	
390		5021	石劍	下呂石	(26)	15	5	1.4	アキレス突起、浅い、先端丸く	16000	
391		5405	石劍	下呂石	(20)	14	3	(0.7)	アキレス突起、底部の突起は浅い	16000	
392		8349	石劍	黒鳴石	15	13	2	0.3	アキレス突起、底部の突起は浅い	16000	
393		8350	石劍	下呂石	(23)	(16)	3	(0.7)	アキレス突起、底部の一部に底延久削	16000	
394		8532	石劍	黒鳴石	(14)	13	3	(0.5)	アキレス突起、底部の突起は浅い	16000	
395		8533	石劍	下呂石	20	18	4	1.0	アキレス突起、底延久削	16000	
396		8546	石劍	黒鳴石	23	15	2	0.6	アキレス突起、底延久削	16000	
397		8636	石劍	チャート	(16)	(17)	5	(1.1)	アキレス突起、底延久削の部品の感	16000	
398		8795	石劍	チャート	(52)	15	7	(5.8)	基部欠損、待春タイプ	16000	
399		8855	石劍	下呂石	(29)	(18)	5	(2.0)	基部欠損	16000	
400		8926	石劍	下呂石	(17)	(9)	4	(0.9)	アキレス突起、片側から削痕にかけての感		

第6表 S-B・S-X出土石器観察表 6

No.	遺構名	遺物番号	種別	石材	計測値(単位:g)			観察事項	特徴	着目
					長さ	幅	厚さ			
401		14301	石器	下部石	(21)	(17)	2	(0.1)	先端部と側面の一部の破片	
402		14309	石器	下部石	32	15	3	0.9	白基無色系、薄手の尖形片	160回 1833
403		14311	石器	チャート	30	(15)	4	(1.2)	白基無色系、片側の一部欠損	160回 1832
404		-1	石器	下部石	(20)	(17)	4	(1.2)	白基無色系、薄手の一部欠損	
405		-2	石器	下部石	(35)	20	4	(4.1)	子基底、尖端欠損、尖端部の可能性あり	160回 1837
406		-3	石器	下部石	(20)	16	4	(1.2)	白基無色系、薄手の尖端欠損	
407		-4	石器	下部石	(17)	(11)	3	(0.5)	白基無色系、薄手の尖端部の一部欠損	
408		211	石器	真岩	(41)	15	8	(4.1)	棒状、基底の先端部欠損	160回 1839
409		609	石器	チャート	27	12	6	(2.2)	棒状、基底の一形欠損	
410		554	石器	チャート	54	17	6	4.0	木材剥片の形狀を有する	161回 1845
411		4523	石器	チャート	(18)	(13)	3	(0.8)	木材剥片の破片	
412		4529	石器	下部石	43	28	8	8.2	木材剥片の形状を有する、側面部に野尻底	
413		4761	石器	チャート	27	21	6	3.2	側面部は木材剥片の形狀を含める	160回 1840
414		8825	石器	下部石	(18)	(14)	3	(1.1)	基底欠損、前面部は扁平	
415		14302	石器	チャート	(30)	23	9	(5.5)	側面部と頂部の区分不明瞭、先端欠損	160回 1841
416		14305	石器	下部石	(39)	21	10	(4.9)	木材剥片の形状を有する、先端欠損	160回 1842
417		5	石器	下部石	31	16	7	3.1	木材剥片の形状を有する、側面に野尻底	160回 1843
418		-6	石器	下部石	(32)	(10)	2	(1.0)	木柄欠損、断面は扇子	
419		-7	石器	チャート	20	22	6	2.0	基底前方の形状を有する	
420		-8	石器	チャート	(23)	18	7	(2.6)	側面部の破片底端丸、側面欠損	
421		-9	石器	チャート	11	12	3	1.0	木材剥片の形状を有する、側面部は扁平	
422		-10	石器	チャート	(10)	(3)	2	(0.1)	側面部の先端のみの破片	
423		8924	石器	下部石	45	42	6	7.6	橢形、二形影タイプ	161回 1846
424		15678	石器	下部石	(64)	25	8	(11.6)	橢形、先端部欠損	161回 1847
425		1250	スクレーパー	チャート	53	35	9	15.0	側面部の片面削り、前部要の刀部	161回 1848
426		835	R.F.	チャート	34	33	6	6.6	側面の片面削り、通達刃の側面底	
427		948	R.F.	無縫石	15	21	5	1.2	側面の片削り、側面底	
428		1242	R.F.	チャート	67	33	19	31.6	側面の片削り、通達刃の側面底	
429		1258	R.F.	下部石	34	21	11	7.4	側面部の片面削り、側面底	
430		1567	R.F.	チャート	48	64	16	46.9	側面部の片面削り、側面底	
431		1907	R.F.	チャート	28	26	5	4.6	側面部の片面削り、側面底	
432		8862	R.F.	チャート	43	32	6	9.5	側面部の片面削り、側面底	
433		14302	R.F.	チャート	57	51	11	45.7	側面部の片削り、側面底の側面底	
434		-11	R.F.	無縫石	21	23	6	3.0	側面部の片削り、ノコギリ状の側面底	161回 1849
435		139	R.F.	チャート	39	27	6	7.8	側面部の片削り、不規則な側面底	
436		464	R.F.	チャート	32	30	7	9.8	二刃に不規則な側面底	
437		622	R.F.	チャート	49	32	8	8.5	側面部の片削り、不規則な側面底	
438		623	R.F.	チャート	38	31	5	7.4	側面部の片削り、不規則な側面底	
439		645	R.F.	下部石	43	35	9	11.7	側面部にリガクの次の側面底	
440		1246	R.F.	チャート	40	34	7	7.8	側面部の片削り、不規則な側面底	
441		1257	R.F.	チャート	44	34	7	10.3	二刃に不規則な側面底	
442		1513	R.F.	チャート	49	23	8	8.1	側面部の片削り、刃に対する側面底	161回 1851
443		1595	R.F.	チャート	40	41	15	28.5	側面部の片削り、刃に対する側面底	
444		464	R.F.	チャート	32	30	7	9.8	二刃に不規則な側面底	
445		622	R.F.	チャート	49	32	8	8.5	側面部の片削り、不規則な側面底	
446		8860	R.F.	下部石	30	28	9	6.3	側面部の片削り、不規則な側面底	
447		14663	R.F.	チャート	61	16	9	17.8	側面部の片削り、刃に対する側面底	
448		-12	R.F.	チャート	20	22	3	1.5	二刃に不規則な側面底	
449		-13	R.F.	下部石	20	17	4	1.5	側面部の片削り、不規則な側面底	
450		-14	R.F.	下部石	31	24	6	4.3	下部部に後削痕	
451		-15	R.F.	チャート	22	31	8	5.2	側面部に二刃削りの側面底	
452		-16	R.F.	チャート	65	45	14	32.4	側面部の片削り、不規則な側面底	
453		-17	R.F.	チャート	17	26	6	3.1	二刃にリガクの次の側面底	
454		-18	R.F.	チャート	30	19	7	3.9	側面部の片削り、側面底	
455		-19	R.F.	チャート	28	20	12	5.9	下部部に二刃削りの側面底	
456		-20	R.F.	無縫石	28	11	6	2.0	側面部に二刃削りの側面底	
457		-21	R.F.	チャート	33	23	11	9.2	側面部にリガクの次の側面底	
458		-22	R.F.	チャート	42	28	11	11.8	側面部の片削り、不規則な側面底	
459		-23	R.F.	無縫石	27	15	4	1.3	側面部に二刃削りの側面底	
460		-24	R.F.	チャート	40	29	7	7.5	側面部にリガクの次の側面底	
461		-25	R.F.	チャート	31	17	6	2.5	側面部の片削り、不規則な側面底	
462		-26	R.F.	無縫石	21	31	7	4.0	下部部に二刃削りの側面底	
463		-27	R.F.	無縫石	23	14	4	1.8	側面部の片削り、不規則な側面底	
464		-28	R.F.	チャート	26	29	6	4.7	側面部の片削り、不規則な側面底	
465		-29	R.F.	チャート	63	34	19	48.8	分割縫の縫合に付いた側面底	
466		1473	石核	チャート	28	37	10	11.4	分割縫裏の核	
467		8617	石核	チャート	45	54	18	45.3	側状片片材で埋め付ける面底	
468		8435	磨製石斧	無縫石	21	10	6	3	定刃式、刃部欠損後に再加工の可能性あり	161回 1850
469		8794	磨製石斧	無縫石	(56)	38	11	(46)	定刃式、刃部欠損、中央に櫛切り状の溝	161回 1853
470		8853	磨製石斧	無縫石	116	49	19	(218)	定刃式、刃部の一部	161回 1854
471		14567	磨製石斧	無縫石	(136)	(56)	25	(410)	定刃式、刃部欠損、基部に削面底	161回 1855
472		138	打製石斧	緑色石	(56)	35	13	(27)	鋸歯形、基部欠損	161回 1852
473		8793	骨刃形石斧	無縫石	70	132	25	249	刃部115mm、上面に原石の自然面	161回 1856
474		8854	骨刃形石斧	安山岩	56	83	11	51	刃部80mm、背面に刃底	161回 1857
475		863	磨石	無縫石	89	58	32	278	上下に傳わるか野尻底、上側と左右に刃底5	161回 1858
476		8286	磨石	砂岩	(80)	69	43	(307)	刃底欠損、下側に刃底	
477		874	磨石	無縫石	(74)	(57)	(44)	(246)	刃部欠損、薄らかな刃底	
478		15902	磨石	無縫石	46	37	24	39	ザラツ形底、上下に凹凸面底	
479		15907	磨石	無縫石	96	77	41	457	ザラツ形底、上下に凹凸面底	
480		15906	磨石	無縫石	96	86	61	624	ザラツ形底	

第6表 S.B.・S.X出土石器観察表 7

No.	遺構番号	遺物番号	種別	計測値(mm±0.2)				観察事項	神社	番号	
				長さ	幅	厚さ	重さ				
481	SB10	15901	石器	泰山岩	97	79	33	286	全体にザラつ有り、ニチュア	16176	1859
482		-1	石器	チケット	(32)	15	7	(3.9)	刃端と裏面の区分は不明瞭、底部先端欠	16008	1844
483	SB10P1	-3	UF	チケット	26	16	7	3.8	下端部に不規則な削離痕		
484		-2	磨石類	泰山岩	66	62	41	238.0	セイダラ/青石を用い		
485	SB11P5	-1	打製石器	泰山岩	76	42	13	40	泡立石、片面加工	15809	1809
486		-1	石器	下呂石	18	11	4	0.8	頭部に素材特有の形状を留める、側面にツブレ痕		
487		327	UF	トド石	36	46	10	15.3	側面に不規則な削離痕		
488	SB12	-2	UF	チケット	35	26	6	4.5	側面の片側に不規則な削離痕		
489		-3	UF	下呂石	23	23	6	3.5	側面の片側に削離痕		
490	SB12塊	-1	UF	チケット	(27)	17	4	(2.0)	表面調査の結果、石器の未製品の可能性あり	16244	1863
491		-1	タケノ石器群	下呂石	33	42	5	(10.6)	1辺のフリエをもつ剝離痕、一部欠損		
492	SB12P1	-2	タケノ石器群	下呂石	28	30	5	7.1	1辺のフリエをもつ剝離痕		
493	SB12P2	-1	UF	チケット	19	37	12	8.5	側面の片側にノッチ状の加工、他の未製品や		
494		-2	石器	チケット	99	28	17	49.2	側面調査板、長い削離をもつ芯形品		
495		U-2	石器	下呂石	21	12	3	0.5	円錐形素面、長い削離をもつ芯形品	16270	1864
496		U-3	UF	チケット	24	25	5	2.2	側面の片側に削離剥離層		
497		U-1	磨石類	蛇紋岩	(71)	(45)	17	(9.1)	穴式、蛇紋岩	16206	1860
498		L-3	UF	チケット	60	42	18	47.4	片面に圓錐形の刃部		
499	SB12P2	L-1	磨石類	泥灰岩	(90)	49	25	(19.5)	穴式、玄武岩類、破壊痕、刃こぼれあり	16246	1861
500		L-2	磨石類	蛇紋岩	(80)	(41)	19	(6.0)	穴式、片端方当向	16203	1862
501		526	UF	黒曜石	(14)	(16)	2	(0.4)	ノック穴を封するよみ影石器、破壊品と確定	16363	1865
502	SB13	940	石器	黒曜石	30	22	10	5.4	分割調査板		
503		5257	打製石器	黒曜石	105	54	15	126	生存形、黒曜石の自然面を残す、風化立つ	16360	1866
504	SB15	6963	石器	下呂石	16	10	2	0.3	円錐形素面、肩彫刻、側面削離		
505	SB15塊	-1	UF	チケット	(43)	(46)	8	(16.0)	穴式、一部欠損、刃部は片面加工	16445	1867
506	SB15P1	6871	石器	チケット	(24)	49	5	(7.2)	側面削離、刃部は片面加工	16446	1868
507		2280	石器	黒曜石	33	(17)	3	(1.7)	凹面調査板、肩彫、透明白素面	15394	1756
508		2442	石器	チケット	(23)	(22)	3	(0.9)	穴式調査板の片側		
509		2800	石器	チケット	32	(16)	4	(1.8)	円錐形素面、片側および尖端部の先端欠	15380	1759
510		3044	石器	黒曜石	32	23	4	3.3	部分的な削離、未製品と確定		
511		3045	石器	チケット	38	18	4	2.1	円錐形素面、肩彫刻	15380	1761
512		3201	石器	チケット	30	21	7	3.5	円錐形、尖端部の先端欠	15381	1760
513		3653	石器	下呂石	28	17	5	1.8	円錐形素面、基盤の抉れは浅い	15379	1762
514		3663	石器	チケット	(14)	(10)	2	(0.4)	刃部のみの破片		
515		3670	石器	下呂石	(22)	14	3	(0.9)	円錐形素面、肩および尖端部の先端欠		
516		4106	石器	下呂石	(17)	15	3	(0.8)	円錐形素面、尖端部の先端欠		
517		4108	石器	下呂石	(28)	(10)	4	1.4	円錐形素面、身彫欠損		
518		4322	石器	チケット	(25)	16	6	(2.1)	円錐形素面、肩および尖端部の先端欠	15380	1763
519		-1	石器	黒曜石	(13)	15	4	(0.9)	円錐形素面、尖端部欠損		
520		3971	石器	チケット	31	18	7	3.8	素材削離の片側を削る、直面は全面調査	15378	1765
521		4319	石器	チケット	51	29	14	12.7	直面削離加工の跡を示す大形の削離もつ	15379	1764
522		-2	石器	下呂石	(20)	19	4	(0.9)	刃部で一層欠損、削離板にツブレ痕		
523		2793	スクライバー	チケット	32	63	9	21.6	下端部に削離痕の刃部	15378	1766
524		3977	スクライバー	チケット	29	26	6	4.9	下端部に削離痕の刃部	15379	1766
525		4116	スクライバー	チケット	(17)	(24)	5	(2.3)	周囲に背面加工の刃部、欠損品		
526		-5	スクライバー	チケット	25	27	8	5.2	片面に片面加工の刃部		
527		-3	カビナビ石器	下呂石	19	24	6	3.0	1辺の削離痕		
528		2440	RF	黒曜石	32	22	6	4.3	直面の片側削離、直面的削離痕		
529	SB16	4109	RF	チケット	50	33	7	15.0	直面の片側削離、直面的削離痕		
530		4118	RF	チケット	(22)	(24)	7	(5.0)	直面削離、直面の削離痕		
531		-6	RF	チケット	29	19	5	3.4	直面の片側削離		
532		1373	UF	チケット	45	20	9	5.8	直面の片側削離、直面削離痕		
533		2801	UF	チケット	21	13	3	1.0	直面の片側削離、直面削離痕		
534		3043	UF	黒曜石	40	21	9	7.8	直面の片側削離、直面削離痕		
535		3200	UF	チケット	34	26	12	6.4	直面削離に沿って不規則な削離痕	15380	1767
536		3209	UF	チケット	47	27	6	8.6	直面削離の片側削離痕		
537		3212	UF	チケット	32	29	12	12.2	直面削離の片側削離痕		
538		3353	UF	泰山岩	64	57	16	59.9	直面の片側削離、直面削離痕		
539		3668	UF	チケット	52	26	8	13.5	直面の片側削離、直面削離痕		
540		3978	UF	泰山岩	61	49	20	54.4	直面削離に沿って不規則な削離痕		
541		3979	UF	黒曜石	61	21	9	20.0	直面削離の片側削離痕		
542		-8	UF	チケット	32	24	9	7.5	直面削離の片側削離痕		
543		-9	UF	チケット	25	36	8	6.8	下端部にV字状の削離痕		
544		1235	石器	チケット	31	35	14	21.8	直面削離材の片側		
545		3410	磨石類	蛇紋岩	101	56	19	(20.5)	刃部大、片側にV字状の削離痕	15378	1770
546		-4	磨石類	蛇紋岩	34	20	6	6	直面削離材可逆、小形の穴形品	15379	1768
547		3250	打製石器	泰山岩	(67)	37	11	(5.2)	直面削離、直面削離、やや風化	15379	1772
548		3421	打製石器	泰山岩	116	60	14	110	直面削離、直面削離	15379	1771
549		-7	打製石器	泰山岩	103	55	17	108	直面削離、直面削離		
550		1068	磨石類	泰山岩	(80)	(86)	(62)	(74.7)	直面から片側削離		
551		4107	磨石類	泰山岩	96	66	39	44.9	直面に隔壁		
552		3425	UF	泰山岩	(184)	(193)	89	(356.0)	約1/2欠損、内面は滑らかな磨痕	15380	1779
553		4214	石器	チケット	20	14	3	0.5	直面削離材、脱色		
554		4215	石器	下呂石	22	(16)	4	(1.2)	直面削離材可逆、片側削離、直面削離はよい	15400	1773
555		-1	石器	チケット	20	13	3	1.2	直面の片側削離材加工、底盤の自然面み	15400	1774
556		-3	石器	下呂石	30	16	8	2.5	直面は直面削離の片側を留める		
557	SB17	4719	スクライバー	チケット	32	31	9	6.4	直面の片側削離の刃部		
558		1844	RF	チケット	33	39	10	15.1	直面部に直面的削離材		
559		4210	RF	下呂石	22	28	8	4.7	直面部に直面的削離材		
560		5025	RF	下呂石	35	25	7	3.5	下端部に溝起立の削離痕		

第6表 S・B・SX出土石器観察表 8

No.	遺構名	遺物番号	種別	石材	計測値(単位:ミリメートル)				観察事項	辨認	番号	
					長さ	幅	厚さ	重量				
561	SB17	-2	RF	チャート	25	27	4	2.9	薄い片状の全面を微細な溝、石綱の未製品か			
562		1845	UF	チャート	42	20	7	4.6	無組織的で丸みを帯びた断面			
563		1846	UF	下呂石	72	54	18	73.0	無組織的・無規則な断面			
564		5027	UF	黒曜石	28	29	11	7.9	無組織的片削り・断面剥離面			
565		4212	磨石類	巻岩	209	56	38	533	ザラツク感・一面に凹凸有り	154回	1783	
566		7290	磨石類	巻岩	172	52	42	(51.3)	一面に凹凸有り・端に半円形の先端欠	154回	1782	
567	SB17B	-1	磨石類	巻岩	115	72	52	57.9	ザラツク感・6面に多数の凹窓	154回	1781	
568	SB17P1	-1	石器	ト呂呂石	30	12	4	1.4	凹面加工・一面に凹凸有り	154回	1775	
569	-2	石器	チャート	52	15	8	4.5	素材剥片の形を保てるもの、先端のみを調整加工	154回	1777		
570	SB18P	-1	打製石斧	緑色片岩	(73)	(27)	(8)	(24)	断面破損の跡			
571	SB18P2	-1	石器	巻岩	(56)	(27)	(13)	(63)	断面破損の跡			
572	SB19	8170	石器	下呂石	(11)	(9)	2	(0.2)	凹面加工・両端および尖頭部の先端欠			
573		8198	石器	黒曜石	(16)	12	3	(0.7)	凹面加工・尖頭部欠損			
574		8247	石器	下呂石	(24)	14	2	(0.7)	凹面加工・先端欠・削痕状複数	165回	1869	
575		8257	石器	チャート	(15)	11	3	(0.7)	凹面加工・尖頭部欠損			
576		8265	石器	下呂石	(17)	11	3	(0.4)	凹面加工・片側の欠損・断面状側縫	165回	1870	
577		8584	石器	下呂石	12	9	1	0.2	凹面加工・両端が大きめ	165回	1871	
578		8606	石器	下呂石	19	10	2	0.4	凹面加工・断面状側縫	165回	1872	
579		-1	石器	下呂石	(6)	(8)	1	(0.4)	凹面加工・断面状側縫			
580		-10	石器	ト呂呂石	(12)	(10)	2	(0.6)	凸面加工・片側および尖頭部欠			
581		8267	石器	下呂石	27	11	5	1.5	無組織的にアラスカ感・石器の利用の可能性あり	165回	1873	
582		-2	石器	下呂石	(16)	(6)	(2)	(0.3)	巻岩類のものと似る・骨縫にツブレ状			
583	SB19	3	タビビ形石器	巻岩	21	24	7	3.9	2時のツブレ状・凹面加工			
584		4	タビビ形石器	下呂石	36	16	7	3.6	2時のツブレ状・凹面加工			
585		5	タビビ形石器	チャート	23	24	7	4.0	2時のツブレ状・凹面加工			
586		6	タビビ形石器	下呂石	21	26	7	4.4	2時のツブレ状・凹面加工	165回	1874	
587		5287	RF	チャート	(17)	17	3	(1.3)	圓錐形に溝がある鋸歯状			
588		8585	UF	下呂石	67	48	14	26.0	無組織的にグリース状の断面底			
589		-8	UF	下呂石	29	54	9	11.9	2面に凹面加工・断面底			
590		-9	UF	下呂石	37	18	6	4.3	凹面加工・断面底			
591		8359	石椎	下呂石	42	55	15	26.9	分厚な横材の残骸			
592		-7	磨石類	蛇紋岩	(25)	(14)	(3)	(2)	小破片			
593		8201	打製石斧	巻岩	140	58	29	262	變形・無組織の一方は理縫面	165回	1877	
594		8607	磨石類	巻岩	(134)	68	32	(457)	上に理縫・凹面および横断面	165回	1879	
595		8228	磨石類	巻岩	97	80	66	851	企理にざつく音響・上面に滑らかな摩擦面	165回	1876	
596	SB19T	-2	UF	下呂石	38	18	8	5.1	六方柱・方錐形			
597		1	磨石類	巻岩	(44)	(20)	7	(10.7)	無組織の片削り・刃部の一部と馬頭欠損	165回	1876	
598		5919P2	-1	石器	下呂石	(13)	(2)	(2)	(0.4)	凹面加工・竹縫および断面の破片		
599		5919P4	-1	UF	下呂石	45	25	8	9.4	無組織の片削り・断面剥離面		
600		SB19P5	-1	石器	下呂石	(19)	(8)	3	(0.6)	子孫縫・直縫の…馬頭		
601		SB19P6	-1	UF	下呂石	46	24	8	6.3	無組織に飛散剥離面		
602	SB19P7	-1	磨石類	蛇紋岩	(43)	10	20	(26)	六方柱・方錐形および直縫	165回	1875	
603	SB21P5	-1	石椎	下呂石	26	19	18	11.6	分厚な横材の横棒			
604	SB21P6	-1	石器	チャート	25	13	9	4.4	分厚な横材の横棒			
605	SB21P7	-1	構造形石器	緑色片岩	49	91	11	74	刀身70度・無理にこじり抜き	165回	1882	
606	SB21P11	-1	石器	巻岩	16	10	2	0.1	巨厚な直縫・表面の凹字は浅い	165回	1883	
607	SB22	8223	石椎	巻岩	29	14	5	1.5	無組織無縫隙・丸い直縫	167回	1883	
608	SB22	8222	石椎	巻岩	(179)	(199)	(69)	(28.0)	内側にざつく音響・底無に2.1mm	167回	1887	
609	SB22P	-1	石器	下呂石	34	10	5	2.0	無組織剥片の形状を保てる・底無	167回	1886	
610	SB22P4	-1	石器	チャート	(16)	(13)	2	(0.7)	無組織剥片の形状を保てる・底無	167回	1884	
611	SB22SK1	-2	UF	巻岩	26	31	7	6.9	底無に飛散剥離面			
612	SB23	-1	磨石類	巻岩	143	96	61	(118)	ザラツク感・底無			
613	SB23T	-1	UF	黒曜石	(17)	10	2	(0.3)	底無・馬頭欠損	165回	1880	
614		3	タビビ形石器	緑色片岩	49	91	11	74	刀身70度・無理にこじり抜き	165回	1882	
615		4	タビビ形石器	巻岩	26	13	13	5.6	1時のツブレ状・凹面加工	165回	1886	
616		5	タビビ形石器	チャート	26	35	10	5.6	1時のツブレ状・凹面加工	165回	1887	
617		4	打製石斧	巻岩	(83)	74	36	(292)	底無・直縫のものと組み、底無により変色	165回	1891	
618		5	打製石斧	緑色片岩	(69)	(67)	7	(43)	無組織剥片の底無			
619	SB23P	5	構造形石器	巻岩	47	50	9	(24)	底無・底付刃部3cm	165回	1890	
620		6	フリック	下呂石	35	31	13	6.2	無縫隙に底無・全周にヒビ割れ			
621		1	UF	巻岩	36	15	6	2.5	無縫隙の片削り			
622		SB23P1	-1	直縫石斧	蛇紋岩	(97)	52	22	(206)	底無・底付刃部が底無の一部剥離・底無多數	165回	1892
623		SB23P2	-1	直縫石斧	巻岩	(20)	(11)	2	(0.5)	底無・底付刃部が底無の一部剥離・底無多數	165回	1893
624		SB23P3	2	タビビ形石器	下呂石	17	15	4	1.3	1時のツブレ状・凹面加工		
625	SB24	5	直縫	巻岩	(219)	209	40	25.0	底無・底付刃部3cm			
626		8427	石器	巻岩	19	10	3	1.0	底無無縫隙・底無の凹字は浅い			
627		8553	石器	下呂石	46	50	11	13.7	底無無縫隙・底付刃部が底無の一部剥離・底無多數	165回	1895	
628		2	UF	巻岩	32	8	4	1.1	底無のムク・底無剥離面・底無欠損	170回	1898	
629		2	UF	巻岩	(30)	21	6	(4.4)	底無・底無の区分はヒビ割れ・底無欠損	165回	1897	
630		3	UF	巻岩	(21)	14	5	(1.7)	底無・底無の区分はヒビ割れ・底無	165回	1895	
631	SB24P1	8434	UF	チャート	58	44	13	29.4	底無無縫隙			
632		8550	打製石斧	巻岩	129	56	25	19.7	底無・上面に底無剥離面			
633		8496	巻岩	62	32	15	2.5	底無に滑らかな底無剥離面	170回	1901		
634		8641	蛇紋岩	蛇紋岩	55	8	4.7	底無無縫隙	170回	1900		
635		SB24P1	-1	UF	下呂石	(12)	11	2	(0.2)	底無無縫隙・底無の一部剥離		
636		-1	スクレーパー	チャート	47	35	8	12.4	底無無縫隙・底無剥離面	170回	1899	
637	SB24P5	-2	UF	巻岩	36	27	11	14.1	底無無縫隙			
638		3	打製石斧	巻岩	(83)	44	18	(73)	底無無縫隙・底無欠損	170回	1903	
639		4	打製石斧	緑色片岩	(75)	58	8	(49)	底無無縫隙・底無欠損	170回	1903	
640		-1	石器	チャート	(28)	(16)	3	(1.3)	底無無縫隙・底無および底無の一部欠	169回	1894	

第6表 S-B・S-X出土石器観察表 9

No.	遺構名	遺物番号	種別	石材	計測値(cmより±)			観察事項	詳細	番号	
					長さ	幅	厚さ				
641	SB24P6	-2	タケビ形石器	下呂石	24	14	6	1.7	1対のフブレを作った剝離痕		
642		8470	石器	下呂石	16	9	3	0.4	凹面無基盤、鋸歯状側縁	17186 1904	
643		8520	石器	下呂石	28	18	5	2.1	凸面無基盤、石器の自然面を残す	17186 1905	
644		8704	石器	トド石	20	(10)	3	(0.6)	凹面無基盤、片刃欠		
645		8412	石器	玉髓	35	11	3	1.3	測定の施された断端をもつ		
646		8468	UF	チート	38	31	6	8.8	側縁の片側に刃こぼれの剥離痕		
647		-2	UF	玉髓	40	10	5	2.3	側縁の片側に刃こぼれの剥離痕		
648		-3	UF	チート	19	24	8	4.0	下端部に刃こぼれの剥離痕		
649		-4	UF	チート	19	35	2	2.4	端部に不規則な剝離痕		
650		-5	UF	チート	29	17	10	5.1	側縁の片側に鋸歯状側縁		
651		-6	UF	トド石	26	19	6	2.4	下端部に刃こぼれの剥離痕		
652		-7	UF	チート	24	27	7	5.5	下端部に刃こぼれの剥離痕		
653		-8	UF	下呂石	45	13	7	4.2	側縁縦に剥離痕		
654		-9	UF	下呂石	28	40	23	20.8	分離発達材の片核		
655		-10	UF	下呂石	33	33	15	19.7	分離発達材で裏面は全周		
656		8389	打製石器	麻糬石	(83)	38	10	(35)	切削形、刃欠		
657		8401	打製石器	麻糬石	84	45	22	11.1	切削形、表面磨耗		
658		8390	磨刀形石器	砂岩	50	115	15	10.4	刃部10mm、刃欠		
659		-1	石器	チート	18	12	4	1.0	円錐形、未完成品の可能性あり		
660		SB25P2	-2	UF	チート	28	16	6	3.4	側縁の片側に不規則な剥離痕	
661		-3	磨刀形石器	麻糬石	66	90	25	12.7	刃部55mm、刃部カッペ板	17188 1907	
662		SB25P4	-1	磨刀形石器	麻糬石	(45)	(43)	(21)	(3.9)	尖角式、側縁のV字部分は刃欠	
663		SB25P6	-1	磨刀形石器	砂岩	52	80	10	5.2	刃部55mm、刃部カッペ板	17188 1908
664	SB26	8549	石器	黒曜石	16	13	2	0.4	凹面無基盤、側縁のV字部分は刃欠、傾く穴の剥離痕	17202 1910	
665		8551	石器	チート	29	(18)	5	(1.8)	側縁縦に剥離痕、片刃欠	17202 1911	
666		8557	石器	チート	18	5	2	(0.2)	凹面無基盤、片刃欠、先端は丸い	17202 1912	
667		8688	石器	下呂石	18	(10)	2	(0.4)	凹面無基盤、片刃欠、後縁タイプ	17202 1909	
668		8702	石器	下呂石	40	(17)	4	(2.4)	凹面無基盤、片刃欠	17202 1913	
669		8754	石器	陶器	13	(10)	2	(2.0)	凹面無基盤、片刃欠		
670		-1	石器	下呂石	19	(9)	3	(0.5)	凹面無基盤、片刃欠、後縁タイプ		
671		-3	石器	チート	27	21	4	2.2	側縁は実質材料の形状を留める	17202 1914	
672		-4	石器	チート	(31)	21	6	(3.1)	側縁と椎体のV字部分は刃欠、先端は丸い		
673		-5	石器	チート	(28)	(10)	2	(1.0)	側縁およびV字部分、横断面は幅半		
674		-6	タケビ形石器	下呂石	20	19	7	3.1	1対のカッペ板と伴う刃欠		
675		14577	RF	チート	53	30	9	12.7	側縁の片側に漸進的な剝離痕		
676		-7	RF	チート	37	31	9	12.2	側縁縦に漸進的な剝離痕		
677		-8	RF	チート	21	13	4	1.4	側縁の片側に漸進的な剥離痕		
678		8477	UF	下呂石	50	34	6	10.2	側縁の片側に漸進的剝離痕		
679		14314	UF	下呂石	33	45	12	13.8	内側縫に側縁剝離痕		
680		-9	UF	下呂石	46	33	11	14.4	側縁の片側に漸進的剝離痕		
681		-10	UF	チート	22	34	4	4.2	刃部に側縁剝離痕		
682		-11	UF	チート	24	14	6	2.2	側縁の片側に漸進的剝離痕		
683		-12	UF	チート	44	22	7	7.0	側縁の片側に刃こぼれの剥離痕		
684		8533	石器	下呂石	50	41	21	36.7	分離発達材で裏面は全周		
685		8756	石器	チート	30	51	16	29.1	分離発達材で裏面は全周		
686		-13	石器	チート	49	29	18	27.4	分離発達材の片核		
687		-2	磨刀形石器	蛇紋岩	(26)	(17)	(4)	(3)	尖角式、側縁の一部を含む小破片		
688		8389	打製石器	麻糬石	(47)	37	(17)	(35)	基部のV字部分		
689		8566	打製石器	鱗片岩	(45)	59	12	(46)	刃部のV字部分		
690		8756	磨刀形石器	麻糬石	63	(63)	9	(43)	提供刃部凹面		
691		8474	磨石	麻糬石	129	60	51	61.1	全面にややザラツ感有し、上に敲打凹窓	17202 1915	
692		8490	磨石	砂岩	(79)	45	34	(187)	イラフ式、側縁に刃欠		
693		8491	磨石	砂岩	(86)	(76)	5	(5.6)	下に平行各1、側縁全体破損		
694		8774	石器	陶器	(18)	(10)	2	(0.4)	凹面無基盤、片翼はびと尖端部の先端欠		
695	SB27	8615	石器	黒曜石	21	(13)	3	(0.8)	凹面無基盤、片刃欠	17202 1916	
696		8882	石器	トド石	16	11	2	0.4	凹面無基盤、不規則のV字部分は刃欠	17202 1917	
697		8978	石器	下呂石	29	(13)	4	(1.2)	凹面無基盤、片刃欠、側面状模様	17202 1918	
698		-1	石器	黒曜石	(12)	10	2	(0.2)	尖頭部のV字部分		
699		-2	石器	チート	20	10	4	(1.1)	基部欠欠、側縁のV字を溝加工	17202 1919	
700		8927	石器	チート	31	36	6	5.5	楕形、全縁に剥離痕	17202 1921	
701		8763	黒曜石	チート	(21)	(10)	2	(0.5)	対向する刃部分はV字状の剥離痕	17202 1920	
702		-3	RF	黒曜石	(13)	3	(1.0)	側縁の片側に刃部剥離痕、横幅拡大	17202 1920		
703		-4	RF	チート	25	12	3	1.5	側縁の片側に漸進的剝離痕		
704		8880	UF	チート	44	41	12	21.3	側縁に刃こぼれの剥離痕		
705		-6	UF	下呂石	35	26	4	4.2	側縁の片側に刃こぼれの剥離痕		
706		-7	UF	下呂石	30	28	5	4.2	側縁の片側に刃こぼれの剥離痕		
707		-8	UF	下呂石	24	15	5	2.5	側縁の片側に刃こぼれの剥離痕		
708		-9	UF	チート	31	23	3	3.8	側縁の片側に刃こぼれの剥離痕		
709		-5	磨刀形石器	麻糬石	52	72	13	52	刃部61mm、長い側縁の刃部		
710		8867	磨刀形石器	麻糬石	35	54	8	26	刃部92mm、長い上刃欠		
711		8876	磨石	麻糬石	104	79	43	54.1	下に滑らかな面有し、上方右に浅いV窓、被熱	17302 1922	
712		-6	石器	鶴鹿骨	(32)	(20)	(10)	(13.1)	側縁の小破片、側縁面残存		
713	SB27P3	-1	タケビ形石器	下呂石	27	26	6	5.9	1対のカッペ板と伴う剝離痕		
714		9008	石器	墨岩	(14)	(17)	2	(0.5)	凹面無基盤、片翼および尖端部の先端欠	17408 1923	
715		9009	石器	下呂石	20	11	2	0.7	凹面無基盤、側縁にカッペ板、石器軸取付の可動性あり	17408 1923	
716		9074	石器	下呂石	(12)	(10)	2	(0.2)	凹面無基盤、片翼および尖端部の先端欠	17408 1924	
717		11521	石器	下呂石	(19)	9	2	(0.4)	凹面無基盤、片翼と側縁のV字部分	17408 1924	
718		13754	石器	下呂石	(15)	12	2	0.4	凹面無基盤、先端欠、側縁状模様	17408 1925	
719		9023	石器	チート	24	10	4	1.2	側縁と側縁の区分が不明瞭、先端欠	17408 1926	
720		12369	石器	下呂石	(26)	18	6	(2.5)	側縁と側縁の区分が不明瞭、先端欠	17408 1927	

第6表 S-B・S-X出土石器観察表 10

No.	遺構名	遺物番号	種別	石材	計測値(単位:cm)				観察事項	辨別	番号
					長さ	幅	厚さ	重量			
721		-1	石器	チャート	30	17	8	4.4	素材削片の形状を留める、短い縦溝のみを調査	1750	1930
722		-2	石器	チャート	27	9	3	0.9		1740	1928
723		-3	石器	砂岩	71	(41)	10	(23.0)	ほとんどの台面を削す、短い溝溝、約10欠損	1750	1932
724		-4	石器	砂岩	54	44	8	14.4	ほとんどの台面を削る、縦溝のみを調査加工	1750	1933
725		-5	スクリーパー	チャート	(22)	16	3	(1.7)	三刃に片側削溝の刃形	1750	1931
726		8998	UF	チャート	30	39	12	14.1	素材削片の形状を留める、短い縦溝	1750	1930
727		9000	UF	チャート	33	27	8	7.4	トモセ形に近似する片側削溝	1750	1930
728		9078	UF	下臼石	70	39	12	41.9	素材削片の形状を留める、縦溝	1750	1932
729		9080	UF	チャート	31	23	11	6.5	素材削片の形状を留める、縦溝	1750	1932
730		11520	UF	下臼石	75	80	20	97.7	素材の片面に無規則削溝		
731		-9	石器	チャート	45	16	7	6.3	素材の片面に無規則削溝		
732		-10	UF	チャート	33	16	4	2.9	素材削片に「こぼれ穴」の消磨痕		
733		-11	UF	チャート	26	33	5	4.6	素材削片に「こぼれ穴」の消磨痕		
734	SB28	-12	UF	下臼石	39	29	4	5.4	素材削片に「こぼれ穴」の消磨痕		
735		-13	UF	下臼石	24	40	7	7.2	素材の片面削、不規則削溝		
736		-14	UF	チャート	44	24	10	13.0	素材の片面削、不規則削溝		
737		-15	UF	下臼石	33	33	5	3.5	素材削片に「こぼれ穴」の消磨痕		
738		-17	UF	下臼石	39	26	6	5.2	素材の片面削、不規則削溝		
739		-18	UF	チャート	26	22	7	2.6	素材の片面削、不規則削溝		
740		-19	UF	チャート	31	35	7	7.6	「こぼれ穴」の消磨痕		
741		-16	石器	チャート	31	20	10	8.7	分析検査用の片側		
742		9055	磨削石斧	砂岩	123	(156)	22	(284)	定式斧、刃面の崩壊	1750	1937
743		9076	磨削石斧	安山岩	190	75	41	1055	定式斧、大きな兆形孔、片面に夷打痕	1750	1938
744		9077	磨削石斧	安山岩	122	61	28	(338)	定式斧、刃面の兆形孔、片面に夷打痕	1750	1939
745		-8	打削石斧	赤色土石	(36)	(37)	6	(14)	打削石斧、刃面の兆形孔		
746		-6	鐵刃石器	砂岩	50	103	10	56	打削刃石器、刃面が残る		
747		9007	磨削石斧	砂岩	156	53	36	16.6	刃面に凹痕、両端に夷打痕	1750	1940
748		9001	石斧	熱帯岩	46	24	10	16.1	切り石	1750	1935
749		-1	UF	砂岩	22	22	7	1.5	素材削片の片側		
750	SB28P4	-2	石核	砂岩	34	19	4	43.6	分合巻き形の片側		
751		-1	石器	下臼石	25	25	6	2.0	素材削片の形状を留める、横縫にツブレ痕		
752		-2	石器	下臼石	27	8	4	1.9	棒状、表面は一層のみ、先端に粗面な削鉈部	1740	1929
753		-2	タビ形石器	下臼石	41	8	9.2	1.5	素材削片		
754		-3	タビ形石器	チャート	25	24	4	3.3	1時の消磨痕		
755		-4	タビ形石器	チャート	29	23	7	4.7	2時の消磨痕		
756		-4	UF	チャート	21	29	10	10.3	素材の片側に道筋的な削離痕		
757		-5	UF	砂岩	38	20	8	5.9	素材の片側に微細削離痕		
758		-2	磨削石斧	砂岩	(44)	(12)	4	(4.3)	定式斧、兆形孔、刃面の可能性あり	1750	1934
759		-3	石斧	砂岩	(45)	(14)	14	(11.6)	切り石	1750	1936
760		-6	磨削石斧	砂岩	37	35	18	28	全般的に消磨、一部に「消磨」、「削離」		
761		-1	石器	砂岩	(165)	129	58	(1177)	上に傷みなみ削離、一部欠損	1750	1941
762		9177	石器	下臼石	14	12	3	0.9	基盤		
763		9179	石器	下臼石	20	10	1	0.4	刃端無基盤、側面有削離痕		
764		9172	石器	チャート	17	(10)	3	(0.6)	刃端無基盤、側面有欠損		
765		1516	石器	下臼石	(16)	(14)	3	(0.6)	刃端無基盤、刃齊および尖端部の先端欠		
766		8258	石器	照葉岩	28	17	3	1.0	刃端無基盤、刃の形状は次状	1760	1944
767		-1	石器	下臼石	22	11	2	0.7	素材削片の形状を留める、刃無基部で強度無削離		
768		-2	石器	チャート	18	11	4	1.2	素材削片の形状を留める、刃無基部で強度無削離		
769		12358	磨削石斧	照葉岩	19	27	4	1.1	刃の奥に残る二つの斜部で構成される	1760	1947
770		-3	異形石器	下臼石	(20)	25	4	(1.6)	刃の奥に残る二つの斜部をもつ	1760	1945
771		9178	UF	下臼石	54	45	8	18.0	刃の奥に残る二つの斜部をもつ	1760	1943
772		-4	UF	下臼石	31	17	5	2.2	側面有削離痕		
773		-5	UF	下臼石	14	8	1	0.3	側面有削離痕		
774		-6	UF	下臼石	32	16	5	2.1	側面有削離痕		
775		-7	UF	チャート	35	39	7	10.8	刃無基部に「こぼれ穴」の剥離痕		
776		-8	UF	チャート	19	27	7	4.8	刃無基部に「こぼれ穴」の剥離痕		
777		12357	磨削石斧	照葉岩	47	28	4	1.9	刃無基部はほぼ完品	1760	1943
778		8250	磨削石斧	砂岩	55	30	9	2.5	刃無基部は刃無基部	1760	1942
779	SB28P7	-1	スクリーパー	チャート	39	89	20	75.6	有形の分離部の下端部に両側溝の刃部	1760	1948
780		-1	石器	チャート	(21)	(14)	3	(0.9)	刃端無基盤、片側有り及び尖端部の先端欠	1760	1946
781		9464	磨削石斧	砂岩	(36)	(34)	9	(17.5)	定式斧、刃無基部	1760	1952
782		-1	磨削石斧	砂岩	82	69	42	37.0	刃に角の小さな基盤	1760	1953
783		L-1	石器	下臼石	29	(14)	5	(2.0)	刃無基部、基盤のアコサウルス	1760	1949
784		L-2	磨削石斧	砂岩	(88)	73	(30)	(21.6)	刃打凹切口、刃有り		
785		L-3	磨削石斧	砂岩	76	51	(18)	(8.6)	刃打凹切口、刃有り		
786		-1	石器	チャート	(17)	21	6	(2.3)	刃無基部、刃有り		
787		-1	スクリーパー	チャート	33	22	6	4.5	刃無基部に周辺消磨の刃部	1760	1951
788		10587	石器	チャート	19	(14)	3	(0.6)	刃無基部、刃有り		
789		10588	石器	下臼石	20	4	3	1.1	刃無基部、刃有り	1760	1955
790		13902	石器	下臼石	25	(16)	4	(1.5)	刃無基部、刃有り	1760	1954
791		-1	石器	チャート	32	10	6	2.4	素材削片の形状を留める、先端部のみを調査		
792		-2	石器	下臼石	(20)	11	3	(0.9)	素材削片の形状を留める、先端部欠		
793		13993	石器	チャート	27	27	5	3.6	刃無基部、刃有り	1760	1956
794	SB31	-4	タビ形石器	下臼石	25	20	8	4.4	刃の形状は次状		
795		9440	UF	チャート	46	32	11	17.6	刃無基部に「こぼれ穴」の剥離痕		
796		10489	UF	チャート	50	41	9	15.5	刃無基部に「こぼれ穴」の剥離痕		
797		12025	UF	下臼石	25	36	6	7.3	刃無基部に「こぼれ穴」の剥離痕		
798		-5	UF	砂岩	30	35	7	8.0	刃無基部に「こぼれ穴」の剥離痕		
799		-6	UF	下臼石	25	24	6	3.3	刃無基部に「こぼれ穴」の剥離痕		
800		-8	UF	下臼石	18	28	9	4.0	刃無基部の片側に「こぼれ穴」の剥離痕		

第6表 S・B・S X出土石器観察表 11

No.	遺構名	遺物番号	種別	石材	寸法(横×奥行き×厚さ)mm			重量	観察事項	辨認	番号	番号
					長さ	幅	厚さ					
801	SB31	-9	UF	チャート	19	30	6	3.5	側面の片側に刃こぼれ後の剥離痕			
802		9066	骨製石斧	蛇紋岩	(99)	57	23	(225)	定角式、刃部および側面の剥離の破片	178回	1959	
803		10492	打製石斧	蛇紋岩	(45)	30	(17)	(24)	刃部の剥離			
804		10593	磨製石斧	蛇紋岩	(137)	70	36	(504)	定角式、刃部および側面の剥離			
805		9056	打製石斧	綠色石	(82)	36	8	(32)	側面、刃部欠損、表面により変色			
806		14053	打製石斧	綠色片岩	86	55	9	52	側面、刃部欠損、表面により変色			
807		-3	石斧	粘板岩	(24)	(23)	(6)	(3.9)	右側面右端、剥離の破片	178回	1957	
808		10594	磨製石斧	蛇紋岩	130	60	32	419	イエラフチズ痕、上の方剥離痕状	178回	1958	
809		10580	磨製石斧	蛇紋岩	(69)	70	(18)	(99)	表面に浅い凹痕、側面に凹打痕			
810		-10	石斧	蛇紋岩	(52)	34	8	(19)	イエラフチズ痕、表面の剥離片			
811		-11	石斧	蛇紋岩	(29)	24	6	(5)	側面的に薄らかな剥離痕、側面削離			
812	SB31P1	-1	カタツムリ石器	下呂石	20	28	7	3.9	11枚のフライスを用いた剥離痕			
813		9140	石斧	下呂石	(23)	(16)	3	(1.2)	手平鋸、長角の一点火	179回	1960	
814		10019	石斧	チャート	(19)	(14)	2	(0.8)	点火痕			
815		15194	石斧	下呂石	14	11	2	0.4	四面削離、片側および尖端部欠損			
816		-1	石斧	下呂石	21	13	3	(0.7)	円錐形基盤、片側の剥離欠損	179回	1961	
817		9131	石斧	下呂石	36	10	5	1.8	側面のみを削離加工、先端に剥離痕	179回	1962	
818		9214	石斧	下呂石	28	11	4	1.6	棒打痕、表面に一点火、伝統的な磨き痕	179回	1963	
819		-2	石斧	下呂石	29	20	5	2.4	側面は素材特有の形状を保める			
820		9135	スクレーパー	チャート	55	72	16	59.2	上端部に片面削離の万能刀			
821		-12	スクレーパー	チャート	47	35	14	19.2	両面削離、片面削離の万能刀	179回	1964	
822	SB32	-13	スクレーパー	チャート	18	24	5	2.7	1は全削離を複数加工			
823		-14	スクレーパー	チャート	38	25	7	7.3	側面の片側に刃部削離加工の刃部			
824		-15	スクレーパー	チャート	34	58	11	25.8	上端部に片面削離の刃部			
825		-16	カタツムリ石器	下呂石	20	18	5	2.5	1刃の刃削離			
826		-3	UF	チャート	18	22	6	2.7	側面の片側に斜め的な剥離痕			
827		9133	UF	チャート	35	54	6	9.5	下端部に刃に沿っての剥離痕			
828		9147	UF	下呂石	41	15	3	2.5	側面の片側に刃こぼれ後の剥離板			
829		9207	UF	下呂石	50	34	7	9.7	側面の片側に刃こぼれ後の剥離板			
830		-4	UF	チャート	31	20	4	3.0	側面の片側に刃こぼれ後の剥離板			
831		-5	UF	チャート	26	13	7	2.7	側面の片側に刃こぼれ後の剥離板			
832	SB32K1	-6	UF	下呂石	22	15	2	1.0	刃端部に刃こぼれ後の剥離痕			
833		-7	UF	黒曜石	35	24	10	3.5	片面削離に刃こぼれ状の剥離痕			
834		-8	UF	チャート	35	13	4	2.3	側面の片側に刃こぼれ後の剥離板			
835		-9	UF	チャート	29	34	8	8.4	側面の片側に刃こぼれ状の剥離痕			
836		-17	石核	黒曜石	21	24	9	4.6	介層帶特有の刃核			
837		9134	骨製石斧	蛇紋岩	(123)	(59)	25	(381)	刃火穴、刃端部の久留部分に戴打痕、蒸熱	179回	1966	
838		12967	打製石斧	蛇紋岩	100	49	16	(102)	刃火穴、刃端部欠損			
839		9656	磨製石斧	蛇紋岩	(54)	49	36	118	側面に凹角形の小破片、三面に戴打凹痕			
840		-1	UF	チャート	43	41	17	29.3	側面の片側に刃こぼれ状の剥離痕			
841		-2	打製石斧	黒曜石	(20)	43	14	(5.1)	刃端部に刃欠損			
842	SB32KP1	-1	骨製石斧	蛇紋岩	(19)	11	3	(2)	定角式、刃端部欠損	179回	1965	
843		-2	スクレーパー	下呂石	39	25	12	10.1	1は全削離を複数加工			
844		-2	UF	チャート	25	39	8	6.5	側面の片側に刃こぼれ後の剥離板			
845		-3	UF	下呂石	33	18	8	6.1	側面の片側に刃こぼれ後の剥離板			
846		-1	骨製石斧	蛇紋岩	(33)	18	(11)	(8.5)	刃火穴、刃の部分の小破片			
847		-1	UF	チャート	40	31	14	12.1	両面削離に刃こぼれ状の剥離痕			
848		9779	石核	黒曜石	17	13	3	0.7	片面削離、昌部の刃端部は無い	180回	1967	
849		-1	石核	下呂石	16	11	3	0.8	昌部上溝槽、昌部の刃端部は無い	180回	1969	
850		10235	スクレーパー	チャート	52	27	11	14.9	刃火穴、刃の部分の小破片	180回	1969	
851		11152	UF	チャート	47	25	3	6.2	側面の片側に刃こぼれ状の剥離痕			
852	SB32KP2	9756	UF	下呂石	24	19	4	2.4	刃端部に不規則な剥離痕			
853		9761	UF	下呂石	41	32	10	11.6	側面の片側に刃こぼれ状の剥離痕			
854		9771	UF	下呂石	37	35	7	7.8	側面の片側に刃こぼれ状の剥離痕			
855		9785	UF	チャート	50	40	10	19.3	側面の片側に刃こぼれ状の剥離痕			
856		9886	UF	チャート	31	35	8	9.2	側面の刃端部に刃端部欠損			
857		11531	UF	チャート	37	15	8	5.5	側面の片側に刃こぼれ状の剥離痕			
858		12224	UF	下呂石	40	36	5	8.7	側面の片側に刃こぼれ状の剥離痕			
859		-2	UF	下呂石	35	32	8	8.4	刃火穴、刃の部分の剥離痕			
860		-3	UF	玉核	19	13	4	1.1	側面の片側に刃こぼれ状の剥離痕			
861		-4	UF	下呂石	23	14	4	1.7	側面の片側に刃こぼれ状の剥離痕			
862	SB33	-5	UF	下呂石	32	30	3	3.6	側面の片側に刃こぼれ状の剥離痕			
863		9783	骨製石斧	蛇紋岩	(54)	34	11	(33)	刃火穴、昌部欠損	180回	1971	
864		11147	骨製石斧	蛇紋岩	(116)	(69)	22	(459)	刃火穴、刃端部欠損、昌部に凹痕各1	181回	1975	
865		11150	骨製石斧	蛇紋岩	68	32	17	79	刃火穴、刃端部欠損、刃の刃にフブリ痕	180回	1973	
866		9754	打製石斧	鷹斑石	(89)	66	22	(169)	刃端部、昌部欠損	180回	1972	
867		9796	磨製石斧	チャート	(66)	(69)	52	(249)	ガラフチズ痕、破片			
868		9874	磨製石斧	チャート	(197)	74	(81)	(614)	ガラフチズ痕、刃欠損			
869		-6	磨製石斧	チャート	(30)	(46)	(23)	(25)	ガラフチズ痕、小破片			
870		-1	UF	チャート	21	23	6	2.4	刃端部に刃こぼれ状の剥離痕			
871		-2	UF	黒曜石	32	15	4	1.8	側面に刃こぼれ状の剥離痕			
872	SB33P1	-1	石核	下呂石	14	(9)	2	(0.3)	円錐形基盤、昌の刃端欠損、昌部状剥離	180回	1968	
873		-1	骨製石斧	蛇紋岩	(122)	66	25	(411)	刃火穴、刃端部欠損、刃部に使用痕	181回	1976	
874		-2	磨製石斧	鷹斑石	(107)	51	21	(195)	ガラフチズ痕、刃端欠損			
875		-1	カタツムリ石器	下呂石	18	19	8	2.7	1対のフブリ痕による剥離痕			
876		-3	UF	下呂石	39	49	9	12.7	刃火穴、刃の部分の剥離痕			
877		-4	UF	下呂石	31	33	10	11.5	片面削離材の残骸			
878		-2	骨製石斧	蛇紋岩	45	26	10	21	定角式、刃端部の刃中央欠損	180回	1974	
879		-1	磨製石斧	鷹斑石	172	60	38	677	上に滑らかな表面と粗い刃端部			
880		-1	石核	土鉗	19	15	2	0.7	昌部のみを滑面調整、舞部I型			

第6表 SB・SX出土石器観察表 12

No.	遺構名	遺物番号	種別	石材	計測値(単位:cmおよびg)			観察事項	辨認	番号		
					長さ	幅	厚さ					
881	SB33P20	-1	横刃形石器	燧灰岩	61	66	15	73	万葉66mm、皮膚は灰岩の自然色			
882		9449	石鎌	下呂石	17	(9)	2	(0.3)	円基部無茎、片側の一部欠、副面状鋸歯			
883		9455	石鎌	黒曜石	(18)	(9)	2	(0.4)				
884		9726	石鎌	下呂石	(15)	(13)	3	(0.5)	円基部無茎、片側の一部欠、副面状鋸歯			
885		10437	石鎌	黒曜石	(24)	19	4	(1.7)	円基部無茎、尖端部欠	18209	1977	
886		13069	石鎌	下呂石	25	(15)	6	(2.2)	円基部無茎、基部の辺りは浅い、鋸歯の一部欠	18209	1978	
887		13072	石鎌	黒曜石	(23)	(14)	4	(1.6)	基部欠損			
888		13763	石鎌	下呂石	36	(15)	4	(1.4)	円基部無茎、片側欠	18209	1979	
889		-1	石鎌	黒曜石	18	16	3	1.0	平底鋸			
890		-2	石鎌	チャート	(23)	(16)	3	(1.5)	基部の一端欠、未製の可能性あり			
891		9451	石斧	チャート	25	23	7	5.3	全面鋸歯の痕跡をもつ、厚底	18209	1981	
892		9727	石鎌	下呂石	(22)	14	4	(1.4)	全面鋸歯の痕跡をもつ、先端欠			
893		10201	石鎌	チャート	(26)	19	3	(1.8)	頭部は素材特有の形状を保める、先端欠	18209	1982	
894		10436	石鎌	チャート	32	16	7	3.4	頭部との区分不明瞭、厚底	18209	1980	
895		-3	石鎌	チャート	27	(19)	3	(2.2)	素材特有の形状を保める、質感は無い	18209	1983	
896		9732	スクリーパー	下呂石	44	34	3	4.7	頭部のみ鋸歯、石底の未製品の可能性あり			
897		10004	スクリーパー	チャート	32	44	7	11.5	刃間に両面鋸歯の痕跡、下端欠損	18209	1985	
898		10006	スクリーパー	チャート	(29)	28	4	(4.8)	刃間に両面鋸歯の痕跡、下端欠損	18209	1984	
899		-4	スクリーパー	チャート	(26)	20	8	(5.7)	全面鋸歯の欠損部、肉厚			
900		13074	RF	チャート	44	27	9	8.4	頭部の片側に連續的な鋸歯痕			
901		-6	カビ形石器	下呂石	22	25	7	4.7	13時のフレーム作成用鋸			
902		9459	打刃石斧	燧灰岩	107	47	21	112	鋸歯部、風化の月状	18209	1987	
903		9999	打刃石斧	緑色片岩	122	55	26	(9.7)	頭部のみ鋸歯、石底の未製品の可能性あり			
904		10221	打刃石斧	燧灰岩	(66)	(44)	20	(75)	鋸歯部、基部の一端欠			
905		9457	橢刃形石器	安山岩	45	57	11	38	二邊に刃厚			
906		10001	崩石斧	砂岩	160	66	62	911	イエラグラフ(後板、背面多面)	18209	1989	
907		10888	崩石斧	安山岩	107	75	50	(6.4)	上に凸かな鋸歯、一部欠	18209	1988	
908		9458	崩石斧	安山岩	(197)	(145)	(58)	(1900)	サランバ形崩石、欠損部	18209	1991	
909		10000	崩石斧	安山岩	298	204	73	6500	背からなる崩石、石底部			
910		10570	石棒	燧灰岩	(272)	(102)	(67)	(3200)	頭部の痕跡ある、P1は破片の一部出土。	18209	1990	
911	SB34SK2	-1	UF	上縫	33	25	13	7.0	下端に、不規則な鋸歯痕			
912		11401	石鎌	下呂石	(15)	11	1	(0.2)	円基部無茎、尖端部の先端欠、SK372より出土			
913		-1	石鎌	下呂石	(18)	(12)	2	(0.7)	平底鋸、系統の一端より尖頭部の先端欠			
914		-2	石鎌	チャート	21	14	5	1.7	円基部無茎、基部の辺りは浅い	18209	1993	
915		-3	石鎌	下呂石	(14)	(11)	3	(0.7)	平底鋸、系統の一端欠	18209	1994	
916		10556	石鎌	チャート	16	10	1	0.3	円基部無茎、尖端部の先端を削る	18209	1992	
917		-11	石鎌	下呂石	(13)	15	2	(0.4)	円基部無茎、尖端部の先端欠			
918		-4	石鎌	下呂石	21	15	2	0.7	頭部と頭部の区分は不明瞭、機械的削除			
919		10555	RF	チャート	24	17	7	3.2	機械的片側削りによる鋸歯痕			
920		-5	UF	下呂石	42	27	4	3.6	機械的片側削りによる鋸歯痕			
921	SB35	-6	UF	下呂石	28	22	5	0.8	刃に刈りぼけ状の鋸歯痕			
922		-7	UF	下呂石	23	25	5	5.0	機械的片側削りによる鋸歯痕			
923		-9	UF	下呂石	27	39	10	6.4	機械的片側削りによる鋸歯痕			
924		-12	UF	チャート	38	22	7	8.4	機械的片側削りによる鋸歯痕			
925		-10	打刃石斧	緑色片岩	131	43	24	158	鋸歯部、刃に刈りぼけ痕、背に刃形			
926		9445	崩石斧	燧灰岩	171	73	42	761	全面にザランバ形、機械的削除			
927		11614	崩石斧	砂岩	(196)	(82)	(50)	(600)	ザランバ形崩石、次品			
928		10194	崩石斧	燧灰岩	(66)	57	39	(281)	下に凸かな鋸歯、約1/2欠損			
929		-1	石鎌	下呂石	37	15	3	1.6	素材剥片の形態を保める、頭部は櫛目			
930		-2	RF	チャート	41	24	7	6.8	全面削除			
931		-3	崩石斧	燧灰岩	36	36	32	42	全面にザランバ形、刃の様			
932	SB35NE	-1	崩石斧	蛇紋岩	(43)	25	7	(13)	円弧形、刃に欠損、刃と底面	18209	1995	
933		12215	石鎌	下呂石	(15)	15	3	(0.6)	円基部無茎、刃底部欠			
934		-1	石鎌	チャート	19	15	2	(0.7)	平底鋸、系統の一端より			
935		-2	石鎌	チャート	(16)	(6)	1	(0.1)	円基部無茎、平行大底			
936		-4	スクリーパー	チャート	(31)	(16)	5	(3.5)	片面削除の刃形、破損品	18410	1998	
937		-5	RF	チャート	57	25	12	15.6	頭部の片側にノッチをもむ連続的な鋸歯痕			
938		-7	UF	黒曜石	27	22	7	4.0	機械的片側削りによる鋸歯痕			
939		-8	UF	チャート	31	30	7	5.8	機械的片側削りによる鋸歯痕			
940		-9	UF	下呂石	44	29	12	14.9	機械的片側削りによる鋸歯痕			
941		10031	崩石斧	蛇紋岩	(85)	(49)	23	(174)	刃式式、刃が欠損、底面に崩石に削られた痕跡	18410	2000	
942	SB36	12354	崩石斧	蛇紋岩	136	56	26	403	刃式式、刃が欠損、底面に崩石に削られた痕跡	18506	2002	
943		-5	打刃石斧	緑色片岩	(44)	35	12	(23)	機械的、底面が向かい曲面			
944		-10	橢刃形石器	燧灰岩	(57)	73	9	(3.5)	円弧形			
945		-6	崩石斧	砂岩	(31)	27	6	(7)	底からなる崩石の刃形、機械的削除			
946		11890	石劍	緑色片岩	(145)	(16)	(54)	尖端および崩尾の被刃、先端の断面は円形	18410	2001		
947		-1	崩石斧	燧灰岩	(104)	(76)	26	(277)	上にややせらつた被刃、上面に深い凹痕	18506	2003	
948		-1	石鎌	チャート	19	13	4	1.0	円基部無茎、円底	18410	1996	
949		SB36P1	-1	スクリーパー	チャート	22	(11)	(3)	(1.1)	刃に片側削りの刃形、欠損品		
950		SB36P2	-1	石鎌	下呂石	(20)	(16)	3	(1.0)	底面の一部が欠損		
951		SB36P3	-1	石鎌	黒曜石	21	15	4	1.2	円基部、片側削り	18410	1997
952		-2	石鎌	下呂石	20	9	2	0.5	素材剥片の刃形を保める、機械的削除			
953		SB36P12	-1	打刃石斧	砂岩	137	57	33	337	底面の自然由来の刃形	18410	1999
954		SB37P1	-1	崩石	29	28	19	22.4	機械的、底面の自然由来の刃形	18710	2007	
955		SB37P3	-1	崩石	29	9	6	1.6	機械的削除底面	18610	2004	
956	SB38	10034	石鎌	下呂石	17	19	4	1.6	円基部無茎、底面の一部が欠損			
957		11137	石鎌	チャート	(20)	13	3	(0.9)	円基部および尖端部欠損、円基部に歪曲	18710	2005	
958		11390	石鎌	黒曜石	(26)	17	4	(1.4)	平底鋸、底面の自然由来の刃形	18710	2006	
959		12024	石鎌	下呂石	20	11	3	0.5	円基部無茎、底面の自然由来の刃形	18710	2007	
960		13756	石鎌	下呂石	25	(15)	4	(0.9)	円基部無茎、片側欠			

第6表 S B・S X出土石器観察表 13

No.	遺構名	遺物番号	種別	石材	計量値(mm±0.05)			観察事項	伴団	番号	
					長さ	幅	厚さ				
961		-1	石器	下凹石	(21)	(10)	2	0.7	凹面無多様、片側および刃部の一欠点		
962		10871	石器	下凹石	(18)	11	4	0.9	基部欠損、先端に剥離痕	18706	2008
963		14048	石器	チャート	(40)	18	6	0.2	底部は石材剥片の形状を留める、先端欠	18707	2010
964		-2	石器	チャート	(30)	22	6	0.4	頭部と底部の形状が不明瞭、先端部欠損		
965		-3	石器	チャート	(39)	13	7	0.5	石材剥片の形状を留める、底部欠損	18708	2011
966		-4	スクレーパー	チャート	(23)	(25)	6	0.4	両面に刃状加工の刀刃、欠損品		
967		-5	スクレーパー	下凹石	20	15	5	1.8	側面の刃部に急角度調整の跡		
968		-6	カサビ形石器	下凹石	7	25	5	2.1	2つのツブリを持つ斜面		
969		-7	RF	黒曜石	20	18	7	3.1	下凹部に規則的な剥離痕	18709	2012
970		14047	UF	黒曜石	47	11	4	2.3	両側斜面に剥離痕	18710	2009
971		-9	UF	下凹石	42	35	7	0.9	二辺刃口が付いた黒曜石		
972	SB38	-10	UF	チャート	44	65	20	45.5	下凹部に剥離痕		
973		-11	UF	下凹石	21	24	6	2.8	両側斜面に不規則な剥離痕		
974		-12	UF	チャート	36	15	5	2.6	両側斜面に刃こぼれの剥離痕		
975		-13	UF	下凹石	35	21	5	2.9	側面の刃部に刃こぼれの剥離痕		
976		-15	UF	チャート	22	21	3	2.3	側面の刃部に刃こぼれの剥離痕		
977		-16	UF	黒曜石	21	25	3	1.9	二辺に不明瞭な剥離痕		
978		-17	UF	黒曜石	20	9	3	0.7	側面の刃部に剥離痕		
979		-18	UF	チャート	34	42	5	3.2	下凹部に不規則な剥離痕		
980		-8	磨製石斧	蛇紋岩	(25)	(9)	(2)	0.9	小破片		
981		14783	打製石斧	砂岩	136	62	33	27.5	断面、底面の刃部を残す、断端にフレア		
982		11524	磨製石斧	麻疹岩	121	101	62	106.9	底面に複数の刃部を有する、4面に浮い凹痕	18706	2014
983		12017	石器	硯灰岩	(145)	217	84	(330.0)	底面に複数の刃部を有する、刃部欠損	18710	2013
984	SB38SK1	-1	磨製石斧	蛇紋岩	(25)	(18)	(5)	(2)	側面の一部を失む小破片		
985		12541	石器	チャート	(18)	(15)	3	1.1	側面の一部を失む小破片		
986		12550	石器	チャート	(25)	(12)	4	1.5	基部欠損		
987		12551	石器	下凹石	32	19	5	3.0	円錐形、左右斜对称、西い溝		
988		-5	カサビ形石器	チャート	16	21	8	2.7	1辺の剥離痕		
989		-1	RF	チャート	(24)	(13)	2	1.4	両端に規則的な剥離痕、欠損品		
990		-2	UF	F凹石	30	18	4	2.9	三辺に剥離痕		
991		-3	UF	チャート	27	14	5	3.1	側面の刃部に刃こぼれの剥離痕		
992		-4	石核	チャート	26	28	11	8.6	分割磨製石器の残株		
993		14850	磨製石斧	蛇紋岩	99	50	20	184	尖角式、刃部欠損	18806	2016
994	SB39要観	-6	UF	チャート	(52)	27	8	6.4	素材特徴の形状を留める、底部先端欠	18807	2015
995		-2	RF	チャート	29	27	5	4.0	規則的な剥離痕		
996	SB39P4	-1	UF	チャート	38	37	11	16.8	三辺に規則的な剥離痕		
997	SB39P5	-1	磨製石斧	蛇紋岩	(19)	(21)	(8)	(5)	一側面に含む刃部破片		
998		12711	石器	下凹石	(25)	17	4	1.3	基部欠損	19006	2017
999		-1	石器	黒曜石	(16)	(17)	3	0.5	底面無多様、基部の破片		
1000		13033	石器	下凹石	(33)	10	6	2.3	棒状、両端に刃部、一方の先端欠	19006	2018
1001		-2	石器	黒曜石	(26)	11	5	1.3	側面の刃部に刃こぼれの剥離痕		
1002		-3	石器	下凹石	(8)	27	3	0.8	底面のみの破片、底部傾斜面三角形		
1003		-10	石器	チャート	46	26	7	1.0	基部欠損		
1004		12718	スクレーパー	下凹石	78	45	9	35.9	側面の刃部に両面削除後の刃跡	19006	2020
1005		-11	RF	下凹石	23	5	3	1.3	側面の刃部に規則的な剥離痕		
1006		12715	UF	チャート	50	30	7	12.1	側面の刃部に規則的な剥離痕		
1007		-4	UF	チャート	18	19	7	2.6	二辺に不明瞭な剥離痕		
1008		-5	UF	チャート	22	22	3	1.5	側面の刃部に剥離痕		
1009		-6	UF	玉髄	22	10	2	0.8	側面の刃部に規則的な剥離痕		
1010		-7	UF	下凹石	19	18	4	1.3	両側斜面、底面に剥離痕		
1011		-9	UF	黒曜石	31	20	4	2.3	底面に剥離痕		
1012		-12	UF	チャート	34	31	9	8.8	二辺に剥離痕		
1013		-8	石核	黒曜石	22	30	9	5.9	分割磨製石器の残株		
1014		-13	磨製石斧	蛇紋岩	(12)	(14)	(3)	1.1	小破片		
1015		12716	打製石斧	麻疹岩	87	44	23	9.4	底面を失し、表面をやや風化		
1016		12725	打製石斧	麻疹岩	87	42	21	11.9	底面を失し、刃部に底面の自燃面	19006	2021
1017		U-4	石核	下凹石	36	13	3	1.5	小型の石核、焼けた済み		
1018		U-5	石核	チャート	26	36	10	10.8	分割磨製石器の残株	19006	2019
1019		U-1	磨製石斧	蛇紋岩	103	70	30	39.6	尖角式、刃部欠損、基部欠損		
1020		U-2	打製石斧	蛇紋岩	(73)	50	19	(8.1)	底面を失し、基部欠損		
1021		U-3	打製石斧	砂岩	(68)	(59)	20	(10.6)	底面のみの破片		
1022		103	石核	F凹石	(16)	(8)	1	0.91	円筒形石核、片側および先端欠、縮曲状剥離		
1023		1067	石核	F凹石	(19)	(7)	2	0.22	円筒形石核、側面の先端欠	18906	2022
1024		-1	石器	チャート	18	29	3	1.3	円筒形石核、側面の袂の深い、先端格平ら	18906	2024
1025		-2	石器	下凹石	(13)	(6)	1	0.22	円筒形石核、基部欠損		
1026		250	UF	チャート	25	49	6	2.8	側面の刃部に不明瞭な剥離痕		
1027		-3	UF	下凹石	28	26	7	0.6	両側斜面に刃こぼれの剥離痕		
1028		-4	UF	下凹石	37	34	9	11.7	二辺に刃こぼれの剥離痕		
1029		-5	UF	下凹石	33	25	5	3.9	三辺に刃こぼれの剥離痕		
1030		-6	UF	下凹石	30	19	7	3.3	両側斜面に剥離痕		
1031		-7	UF	下凹石	46	53	7	14.8	底面に刃こぼれの剥離痕		
1032		-8	UF	下凹石	24	32	11	6.2	両側斜面に剥離痕		
1033		-9	石核	下凹石	38	34	18	20.2	分割磨製石器の残株		
1034		95	磨製石斧	砂岩	(110)	84	45	(60.5)	やや歪曲した底面、周縁欠		
1035		7814	磨製石斧	鷹巣岩	144	78	38	60	上部に溶かされた痕跡、下部に底面に施打痕	18906	2025
1036	SB41(SX1)	-1	石核	F凹石	(18)	8	2	(0.2)	円筒形石核、片側と先端欠、縮曲状剥離	18906	2023
1037		-1	UF	F凹石	22	24	8	4.2	底面に刃こぼれの剥離痕		
1038	SB42	13422	磨製石斧	鷹巣岩	104	55	22	240	定角式、刃部の一部欠損	19206	2027
1039		13425	磨製石斧	鷹巣岩	(124)	63	23	(35.7)	定角式、刃部欠損、施打痕4所		
1040		13740	磨製石斧	鷹巣岩	(91)	50	19	157	定角式、刃部欠損		

第6表 SB・SX出土石器観察表 14

No	遺構名	遺物番号	種別	石材	計測値(mm±おびぎ)				観察事項	辨別	番号	
					長さ	幅	厚さ	重量				
1041	SB42	13413	打製石斧	砂岩	98	53	21	134	短脚刃、刃部欠損、原石の自然面あり			
1042		13414	打製石斧	砂岩	(93)	(56)	(16)	(160)	月歯欠損、未製品の可能性あり			
1043		13416	打製石斧	緑色片岩	59	(43)	(5)	(21)	剥離破片、刃部欠損			
1044		13421	打製石斧	緑色片岩	149	88	67	1250	上刃ややカーブした直角、下刃方に凹痕有			
1045	SB43	-1	石錐	黒曜石	18	15	3	0.5	円錐形先端、底部の形状は純角	19326	2028	
1046		-2	石錐	チャート	(26)	(5)	3	(0.6)	円錐形先端、尖り欠損	19326	2029	
1047		-3	石錐	下尾石	(15)	(11)	2	(0.6)	円錐形先端、尖り欠損	19326	2029	
1048		-4	石錐	チャート	31	20	7	3.6	頭部と底面の区分は不明瞭、線路を微弱調査			
1049		-5	スクイバー	黒曜石	21	16	8	3.0	刃部に凹凸感の有る状態	19326	2030	
1050		-6	UEP	黒曜石	27	14	5	2.3	無縫合の片側刃、刃口に波状の剥離板			
1051		14273	UEP	黒曜石	38	47	8	15.8	無縫合の片側刃			
1052	SB44P	-1	タクサ形石器	下尾石	17	23	7	3.7	1刃のブレードをもつ剝離板	19426	2033	
1053		-2	タクサ形石器	下尾石	21	23	7	3.7	1刃のブレードをもつ剝離板	19426	2033	
1054	SB44SK1	-3	UEP	チャート	32	38	7	11.8	頭部の片側刃、無縫合剥離板			
1055		-4	打製石斧	緑色片岩	127	40	12	(87)	頭部欠損、刃部の人字状、未製品の可能性あり			
1056	SB44P1	-2	石錐	玉髓	16	9	4	0.9	素材削片の形状を保たん、無い調整			
1057		-3	タクサ形石器	チャート	27	28	11	9.5	1刃のブレードをもつ剝離板			
1058	SB44P7	-1	石錐	麻浜灰岩	(116)	(70)	(71)	(2150)	研磨らかな表面、無理による変化あり			
1059		-2	石錐	下尾石	19	11	2	0.5	円錐形先端、底部にツバメ痕	19426	2031	
1060	SB44P11	-3	石錐	チャート	(15)	(13)	2	(0.5)	円錐形先端、底部にツバメ痕、長舌や風化	19426	2032	
1061		SB44	L-1	磨石	麻浜灰岩	139	101	40	666	無底の球体の下に凹面		
1062		-2	磨石	麻浜灰岩	19	13	5	1.2	1刃のブレードをもつ剝離板、未製品の可能性あり	19126	2026	
1063	SB45P	-1	タクサ形石器	麻浜灰岩	19	13	5	1.2	1刃のブレードをもつ剝離板	19526	2034	
1064	SB46P	-1	磨石	砂岩	(75)	53	38	(219)	頭部曲面三角形、一つの面に長い直角	19526	2034	
1065	SB47P	-1	磨石	砂岩	(112)	75	30	(450)	上面に直角打つ心地よい凹面各々、両端欠			
1066		-2	石錐	下尾石	26	16	5	1.5	平底錐、削離板削離			
1067		-3	タクサ形石器	下尾石	23	16	7	3.2	1刃のブレードをもつ剝離板			
1068	SB47P1	-2	RF	チャート	26	38	8	7.4	頭部の片側刃、通達的と通離痕			
1069		-3	UEP	チャート	48	30	12	15.0	頭部の片側刃、直角的な剥離板			
1070		-5	磨石類	麻浜灰岩	128	65	37	375	全面にテラフリ再利用			
1071		1660	石錐	下尾石	21	12	3	0.8	円錐形先端、底部の形状は浅い			
1072		1885	石錐	チャート	(19)	(11)	2	(0.5)	円錐形先端、片側欠損	19626	2037	
1073		2078	石錐	下尾石	15	11	2	0.5	円錐形先端、一茎葉状剥離			
1074		2269	石錐	下尾石	(21)	(10)	2	(0.5)	円錐形先端、片側の丸欠	19626	2035	
1075		2578	石錐	下尾石	16	10	2	0.4	円錐形先端、片側欠			
1076	SX2	-1	石錐	下尾石	(19)	(11)	2	(0.4)	円錐形先端、片側欠			
1077		-2	石錐	下尾石	19	10	1	0.3	円錐形先端、圓錐状剥離	19626	2036	
1078		-3	石錐	下尾石	25	15	6	1.8	円錐形先端、無底の丸欠			
1079		-4	石錐	下尾石	(19)	(13)	4	(0.7)	系統の大きさ不規則			
1080		2582	石錐	下尾石	(15)	5	2	(0.3)	系統の丸の部分、頭部にツバメ痕	19626	2038	
1081		-17	石錐	下尾石	34	10	7	2.3	系統削片の形状を保たん、頭部を微弱調査			
1082		-18	石錐	下尾石	(18)	12	3	(1.1)	全面削片の形状を保たん、頭部を微弱調査			
1083	SX2	19	石錐	上盤	24	9	3	0.7	円錐形削片の形状を保たん、頭部を微弱調査			
1084		-15	タクサ形石器	下尾石	19	18	8	3.7	1刃のブレードをもつ剝離板			
1085		-5	UEP	下尾石	59	27	13	13.5	頭部の片側刃、刃口に波状の剥離板			
1086		-6	UEP	下尾石	34	22	5	4.0	頭部の片側刃、無縫合剥離			
1087		-7	UEP	下尾石	19	25	5	3.9	頭部削片に刃口に波状の剥離板			
1088		-8	UEP	下尾石	23	27	4	2.5	頭部に刃口に波状の剥離板			
1089		-9	UEP	下尾石	38	20	9	6.1	頭部の片側刃、刃口に波状の剥離板			
1090		-10	UEP	下尾石	31	28	8	6.9	頭部に微弱剥離板			
1091		-11	UEP	下尾石	25	21	5	3.5	頭部削片に微弱剥離板			
1092		-12	UEP	下尾石	26	17	4	2.6	頭部の片側刃、刃口に波状の剥離板			
1093		-13	UEP	下尾石	36	31	6	7.3	頭部の片側刃、刃口に波状の剥離板			
1094		-14	UEP	下尾石	46	28	8	12.2	刃口に刃口に波状の剥離板			
1095		2277	打製石斧	麻浜灰岩	98	46	15	83	無底錐、直角欠損			
1096		1286	石錐	下尾石	10	7	1	0.1	円錐形先端、小形の丸缺	19726	2043	
1097		1342	石錐	チャート	(16)	(8)	1	(0.3)	円錐形先端、刃口と背筋と及び尖頭部の先端欠			
1098		1355	石錐	下尾石	7	11	2	(0.3)	円錐形先端、片側欠			
1099		1444	石錐	下尾石	20	12	4	1.6	円錐形先端、刃口と背筋と及び尖頭部の先端欠			
1100		1505	石錐	チャート	(3)	(7)	1	(0.1)	円錐形先端、刃口と背筋と及び尖頭部の先端欠			
1101		1541	石錐	下尾石	(18)	(8)	2	(0.4)	円錐形先端、刃口と背筋と及び尖頭部の先端欠			
1102		1762	石錐	黒曜石	21	13	3	0.5	円錐形先端、底部の丸の跡み			
1103		1775	石錐	チャート	(15)	13	3	(0.7)	円錐形先端、片側欠、浅い波状			
1104		1779	石錐	下尾石	16	11	3	0.7	円錐形先端、刃口と背筋と及び尖頭部の先端欠			
1105		1796	石錐	下尾石	(16)	(9)	2	(0.2)	円錐形先端、刃口と背筋と及び尖頭部の先端欠			
1106		2117	石錐	チャート	(19)	(3)	6	(1.5)	無底錐、刃口と背筋と及び尖頭部の先端欠			
1107		2207	石錐	チャート	24	16	4	1.9	円錐形先端、刃口と背筋と及び尖頭部の先端欠			
1108	SX3	2321	石錐	チャート	20	11	3	0.6	円錐形先端、片側欠	19726	2039	
1109		2470	石錐	下尾石	19	10	1	(0.2)	円錐形先端、片側欠、頭部に丸の跡み			
1110		2515	石錐	チャート	(16)	(13)	3	(0.5)	円錐形先端、片側欠			
1111		2613	石錐	下尾石	(16)	(12)	2	(0.5)	円錐形先端、片側欠、浅い波状			
1112		2632	石錐	下尾石	15	9	2	0.3	円錐形先端、頭部に小の縫い			
1113		2900	石錐	チャート	(19)	(11)	6	(1.4)	無底錐の丸の跡み			
1114		3100	石錐	チャート	19	9	2	0.5	円錐形先端、頭部に丸の跡み			
1115		3103	石錐	チャート	18	14	3	0.6	円錐形先端、片側欠			
1116		3314	石錐	下尾石	21	17	4	1.1	円錐形先端、底部の形状は浅い			
1117		3319	石錐	下尾石	19	9	1	0.3	円錐形先端、頭部に丸の跡み	19726	2044	
1118		3321	石錐	下尾石	13	8	2	0.2	円錐形先端、小型の空形品	19726	2042	
1119		3366	石錐	下尾石	(23)	(19)	4	(1.9)	無底錐の丸の跡み			
1120		3384	石錐	チャート	14	9	1	0.3	円錐形先端、頭部を調整加工	19726	2041	

第6表 S B・S X出土石器観察表 15

No	遺構名	遺物番号	種別	石材	計測値(cm±0.5)			観察事項	辨別	番号	
					長さ	幅	厚さ				
1121		3652	石鏃	下呂石	15	7	2	0.3	四面削平鏃、小形の実品形		
1122		3655	石鏃	下呂石	(24)	(6)	2	(0.5)	四面削平鏃、半身および先端部欠損		
1123		3694-4	石鏃	下呂石	18	10	3	2	未本品の可視性あり		
1124		2816	石鏃	下呂石	(14)	(4)	2	(0.1)	片削込みの跡あり		
1125		4335	石鏃	チャート	25	(2)	2	(0.6)	円錐無底鏃、片削欠	1970	2045
1126		7636	石鏃	下呂石	(14)	10	2	(0.4)	未本品		
1127		11328	石鏃	下呂石	16	11	2	0.5	キヤシ歯、神部を強調加工	1970	2040
1128		11347	石鏃	チャート	23	(14)	4	(1.3)	四面削平鏃、先端部に舟形凹、側に軸用孔		
1129		11640	石鏃	チャート	(14)	(6)	2	(0.4)	四面削平鏃、両端および尖端部欠		
1130		11855	石鏃	黒曜石	(16)	(11)	4	(0.6)	四面削平鏃		
1131		12206	石鏃	下呂石	21	12	3	0.7	四面削平鏃、刃鋒欠		
1132		12470	石鏃	チャート	(18)	(13)	2	(0.6)	円錐無底鏃、半身および尖端部欠		
1133		-1	石鏃	下呂石	(13)	(14)	2	(0.5)	削痕のほか破片		
1134		-2	石鏃	下呂石	(21)	(11)	2	(0.6)	丸棒の太い欠		
1135		-3	石鏃	男鹿石	26	(14)	3	(1.6)	基部のいたれり		
1136		-4	石鏃	下呂石	(11)	(2)	4	(0.8)	基部のいたれり、側角により膨張		
1137		-5	石鏃	下呂石	(19)	(5)	3	(0.5)	円錐無底鏃、半身欠損		
1138		1778	石鏃	下呂石	(18)	5	2	(0.3)	体化、一端欠、側面部にツブレ痕		
1139		2620	石鏃	下呂石	(20)	11	3	(0.6)	光端欠料、薄断面は偏平		
1140		3883	石鏃	チャート	(29)	(6)	3	(0.7)	長い無底の破片	1970	2047
1141		11634	石鏃	チャート	44	12	5	4.0	素材剥離の打ち合わせを示める	1970	2049
1142		12456	石鏃	玉髓	(41)	13	7	(3.5)	曲面溝の底面をつぶす理欠	1970	2048
1143		12460	石鏃	チャート	(49)	18	9	(6.8)	素材剥離の打ち合わせを示す、済成微弱、先端欠		
1144		12834	石鏃	チャート	(30)	14	9	(4.1)	側面溝の両端部破片、薄断面粗		
1145		13053	石鏃	下呂石	26	8	2	0.9	体化欠料、薄断面は偏平	1970	2046
1146		-6	石鏃	チャート	(16)	10	5	(2.2)	体化、餘角欠、薄断面は偏平のみ		
1147		-7	石鏃	チャート	21	12	2	0.7	側部と断面の区合は不明瞭		
1148		-8	石鏃	下呂石	(20)	(9)	3	(0.9)	90度おきの丸子、側部・審長板		
1149		-9	石鏃	トントク	(21)	14	3	(1.1)	側部のほか破片		
1150		-10	石鏃	玉髓	28	14	4	3	側面剥離の跡を示める		
1151		2567	石鏃	下呂石	25	39	9	5.9	機械的・手作による痕跡	1970	2051
1152		4633	石鏃	下呂石	(22)	(34)	5	(3.6)	機械的・手作による痕跡	1970	2052
1153		11703	石鏃	チャート	49	58	7	19.9	機械的・手作による痕跡	1970	2050
1154		-11	石鏃	下呂石	(18)	(24)	5	(1.8)	つぶれのみの2片		
1155		2532	スライバー	チャート	54	25	6	10.2	曲面溝・三面削平の刃型	1970	2053
1156		2588	スライバー	チャート	52	24	6	10.1	側面のU字に削痕の刃型		
1157		3226	スライバー	下呂石	52	65	11	32.9	二刃に骨突部側面の刃型		
1158		13180	スライバー	チャート	30	49	11	11.0	側面のU字に片面削平の刃型		
1159		-12	スライバー	玉髓	51	25	7	5.3	側面のU字に片面削平の刃型	1970	2054
1160		-13	スライバー	チャート	43	33	9	9.0	側面のU字に片面削平の刃型		
1161		-14	スライバー	黒曜石	11	27	5	1.3	ト直削・片面削平の刃型		
1162		-16	スライバー	下呂石	20	13	3	1.0	三刃に片面削平の刃型		
1163		-17	スライバー	チャート	16	17	4	1.2	三刃に片面削平の刃型		
1164		-18	スライバー	チャート	22	15	5	2.8	曲面溝・片面削平の刃型		
1165		-19	スライバー	チャート	26	18	5	3.0	側面のU字に片面削平の刃型		
1166		-20	スライバー	チャート	41	33	5	8.8	側面のU字に片面削平の刃型		
1167		1781	タビビ形石器	チャート	25	23	8	6.6	二刃に削痕		
1168		-30	タビビ形石器	下呂石	26	25	6	3.8	18のツブリを伴う削痕		
1169		-31	タビビ形石器	下呂石	27	24	11	6.0	18のツブリを伴う削痕		
1170		-32	タビビ形石器	下呂石	23	25	5	3.2	二刃にツブリを伴う削痕		
1171		-33	タビビ形石器	チャート	25	19	5	2.0	18のツブリを伴う削痕		
1172		-34	タビビ形石器	下呂石	21	17	5	2.0	18のツブリを伴う削痕		
1173		-35	タビビ形石器	下呂石	21	16	7	3.0	24のツブリを伴う削痕		
1174		-36	タビビ形石器	下呂石	19	14	5	1.9	18のツブリを伴う削痕		
1175		-37	タビビ形石器	チャート	15	15	3	1.0	18のツブリを伴う削痕		
1176		-38	タビビ形石器	チャート	22	20	4	2.3	18のツブリを伴う削痕		
1177		-39	タビビ形石器	下呂石	20	23	4	2.0	18のツブリを伴う削痕		
1178		-40	タビビ形石器	下呂石	17	18	4	1.6	18のツブリを伴う削痕		
1179		-41	タビビ形石器	下呂石	22	21	4	2.2	18のツブリを伴う削痕		
1180		-42	タビビ形石器	下呂石	25	20	8	4.0	18のツブリを伴う削痕		
1181		-43	タビビ形石器	下呂石	17	22	6	2.4	18のツブリを伴う削痕		
1182		-45	タビビ形石器	チャート	21	23	7	4.2	18のツブリを伴う削痕		
1183		-46	タビビ形石器	黒曜石	18	19	4	1.7	18の削痕		
1184		-47	タビビ形石器	チャート	22	18	7	3.0	18のツブリを伴う削痕		
1185		-48	タビビ形石器	玉髓	16	17	2	1.0	18のツブリを伴う削痕		
1186		-49	タビビ形石器	玉髓	23	18	5	2.2	18のツブリを伴う削痕	1970	2055
1187		-50	タビビ形石器	玉髓	22	18	7	3.1	18のツブリを伴う削痕		
1188		-15	RF	チャート	25	13	3	2.0	側面のU字に底面的な削痕		
1189		-53	RF	下呂石	20	14	4	1.2	側面のU字に底面的な削痕		
1190		-72	RF	黒曜石	(11)	(14)	2	(0.6)	側面のU字に底面的な削痕		
1191		75	RF	チャート	29	10	9.9	側面のU字に底面的な削痕			
1192		-77	RF	チャート	28	26	6	4.6	側面のU字に底面的な削痕		
1193		1760	UF	玉髓	33	25	6	6.9	側面のU字に底面的な削痕		
1194		2122	UF	玉髓	44	33	8	10.2	側面のU字に底面的な削痕		
1195		2633	UF	下呂石	27	26	6	3.8	二刃に底面的な削痕		
1196		2716	UF	下呂石	48	66	8	23.6	二刃に不規則な削痕		
1197		2988	UF	チャート	57	22	10	10.5	側面のU字に底面的な削痕		
1198		7633	UF	チャート	56	26	7	12.8	側面のU字に底面的な削痕		
1199		-51	UF	チャート	22	14	4	1.9	側面のU字に底面的な削痕		
1200		-52	UF	下呂石	23	15	4	1.8	側面のU字に底面的な削痕		

第6表 S-B・S-X出土石器観察表 16

No	遺構名	遺物番号	種別	石材	寸法(幅×奥行×厚さ mm)			観察事項	辨別	番号
					幅	奥	厚			
1201		-54	UF	下凹石	24	22	6	3.3 内側縁に微細剥離痕		
1202		-55	UF	下凹石	21	15	4	1.4 内側縁に月こぼれ状の剥離痕		
1203		-56	UF	下凹石	33	21	5	3.7 内側縁に月こぼれ状の剥離痕		
1204		-57	UF	下凹石	26	21	6	3.9 内側縁の片側に月こぼれ状の剥離痕		
1205		-58	UF	ドロイト	35	38	4	5.9 内側縁に月こぼれ状の剥離痕		
1206		-59	UF	チャート	43	36	8	12.4 内側縁に月こぼれ状の剥離痕		
1207		-60	UF	下凹石	27	25	3	2.4 内側縁に月こぼれ状の剥離痕		
1208		-61	UF	チャート	37	31	6	7.9 内側縁に月こぼれ状の剥離痕		
1209		-62	UF	下凹石	36	12	9	4.1 内側縁の片側に月こぼれ状の剥離痕		
1210		-63	UF	チャート	34	33	4	5.9 内側縁の片側に月こぼれ状の剥離痕		
1211		-64	UF	チャート	37	23	6	5.9 内側縁、小切端部剥離痕		
1212		-65	UF	チャート	23	23	4	2.7 辺に微細剥離痕		
1213		-66	UF	チャート	25	17	6	2.7 内側縁の片側に微細剥離痕		
1214		-67	UF	チャート	19	38	8	6.2 下端部に微細剥離痕		
1215		-68	UF	下凹石	17	23	6	2.4 下端部に不規則な剥離痕		
1216		-69	UF	チャート	29	23	8	4.2 内側縁に月こぼれ状の剥離痕		
1217		-70	UF	チャート	29	11	5	1.5 内側縁の片側に微細剥離痕		
1218		-71	UF	チャート	18	25	3	2.3 辺に不規則な剥離痕		
1219		-72	UF	チャート	27	22	4	3.3 内側縁の片側に不規則な剥離痕		
1220		-74	UF	玉髓	26	37	4	4.1 下端部に微細剥離痕		
1221		-78	UF	チャート	31	26	10	7.9 内側縁の片側に微細剥離痕		
1222		2123	石核	玉髓	45	33	13	23.2 分離産業材の石核		
1223		11324	石核	黑曜石	30	37	18	10.5 分離産業材の石核		
1224		13041	石核	チャート	31	37	11	16.6 分離産業材の石核		
1225		-21	石核	下凹石	27	26	17	15.6 分離産業材で裏面は全面		
1226		-22	石核	下凹石	18	41	8	5.7 分離産業材の石核		
1227		-23	石核	下凹石	28	17	11	4.5 分離産業材の石核		
1228		-24	石核	チャート	34	29	12	10.7 分離産業材の石核		
1229		-25	石核	チャート	24	18	14	7.3 分離産業材の石核		
1230		-26	石核	下凹石	25	27	10	6.6 分離産業材の石核		
1231		-27	石核	下凹石	40	34	19	31.3 分離産業材で裏面はほぼ全面		
1232	SX3	2011	磨光石斧	蛇紋岩	52	32	10	(31) 定角式、刃部の大手欠	1978	2056
1233		2716	磨光石斧	蛇紋岩	58	(23)	(6)	(11) 小破片		
1234		2377	磨光石斧	蛇紋岩	35	24	8	(13) 定角式、直頭と基部の一部欠	1978	2057
1235		3726	磨光石斧	蛇紋岩	79	(44)	18	(104) 定角式、直頭と基部の一部欠	1978	2058
1236		3538	磨光石斧	黒曜石	62	63	25	(129) 直頭式、直頭ののみ破片		
1237		11312	磨光石斧	蛇紋岩	76	(49)	18	(117) 直頭式、刃部の大手欠	1978	2060
1238		11685	磨光石斧	蛇紋岩	89	51	26	(243) 直角式、直頭欠損、直打削多數	1978	2059
1239		12467	磨光石斧	蛇紋岩	32	(30)	10	(14) 直角式、刃羽と一定、直線の可塑性あり		
1240		13185	磨光石斧	蛇紋岩	94	(52)	21	(76) 直角式、直頭ののみ破片		
1241		14886	磨光石斧	蛇紋岩	54	35	13	53 直角式、直頭欠損	1978	2061
1242		920-1	打撲石斧	燧発火石	95	51	26	16.2 直頭形、ニチニア土器と被り出土	1988	2064
1243		1348	打撲石斧	燧発火石	115	56	17	16.2 直頭形、兩刃の可逆性あり		
1244		1418	打撲石斧	綠色片岩	(67)	(43)	11	(39) 刃部の破片		
1245		1538	打撲石斧	綠色片岩	(49)	(51)	21	(56) 直頭形のみの破片		
1246		1812	打撲石斧	綠色片岩	(112)	(69)	24	(224) 燧発火石、刃部欠損		
1247		2010	打撲石斧	燧発火石	85	63	22	(157) 直頭形、直頭欠損		
1248		2038	打撲石斧	燧発火石	100	49	14	82 直頭形、燧発火石の自然面を残す	1988	2063
1249		2040	打撲石斧	岩石	(125)	52	26	(261) 直頭形、直頭欠損		
1250		2110	打撲石斧	燧発火石	95	38	17	76 直頭形、直頭欠損		
1251		2342	打撲石斧	燧発火石	(101)	46	19	(113) 直頭形、直頭欠損、原石の自然面を残す		
1252		2404	打撲石斧	燧発火石	(45)	53	32	(363) 直頭形、直頭欠損		
1253		2534	打撲石斧	燧発火石	(75)	51	22	(99) 直頭形、直頭欠損		
1254		2810	打撲石斧	燧発火石	69	50	22	95 直頭形、直頭欠損		
1255		2985	打撲石斧	綠色片岩	108	53	22	(171) 直頭形、直頭の一部欠		
1256		3078	打撲石斧	綠色片岩	81	43	9	36 直頭形、直頭の製品		
1257		3114	打撲石斧	燧発火石	(59)	60	8	(44) 刃部の破片		
1258		3205	打撲石斧	燧発火石	99	83	17	157 直頭形、刃部の側面に斷面理由		
1259		4049	打撲石斧	綠色片岩	(87)	(52)	12	(72) 直頭の破片		
1260		4073	打撲石斧	綠色片岩	(75)	45	10	(43) 燧発火石、直頭に変色		
1261		7731	打撲石斧	燧発火石	111	54	18	(132) 直頭形、直頭の一部欠		
1262		2324	打撲石斧	燧発火石	(72)	40	15	(46) 直頭形、未製品の可能性あり		
1263		11694	打撲石斧	鈍頭岩	(79)	53	7	(38) 直頭欠損		
1264		11948	打撲石斧	鈍頭岩	125	49	19	157 直頭形、燧発火石の自然面が残る	1978	2062
1265		-79	打撲石斧	綠色片岩	(75)	41	9	(34) 直頭形、刃部の破片		
1266		-80	打撲石斧	燧発火石	(66)	50	23	(97) 直頭形、直頭欠損		
1267		-81	打撲石斧	燧発火石	(108)	(57)	25	(167) 直頭形、直頭の一部欠		
1268		-82	打撲石斧	燧発火石	82	53	12	(56) 直頭形、直頭欠損		
1269		11512	磨光石斧	燧発火石	57	86	13	61 刃部76mm、原石の自然面を残す		
1270		-26	磨光石斧	燧発火石	44	(59)	4	(17) 直頭形65mm、直刃		
1271		-29	磨光石斧	燧発火石	27	54	6	15 直頭形50mm、直刃		
1272		2461	磨光石斧	燧発火石	(76)	(57)	53	(319) イイザラツ(西周)、直打削多數、欠損品		
1273		2526	磨光石斧	燧発火石	122	(79)	47	(638) 上に浅い凹痕、約15cm		
1274		2541	磨光石斧	燧発火石	(84)	(66)	32	(218) イイザラツ(西周)、欠損品		
1275		2606	磨光石斧	燧発火石	26	43	39	326 西周で回転刃付近に表面風化		
1276		2619	磨光石斧	燧発火石	(87)	(44)	39	(196) イイザラツ(西周)、上に凹痕風化、欠損品		
1277		2827	磨光石斧	砂岩	121	58	37	331 面上に浅い凹痕、直打削		
1278		3000	磨光石斧	燧発火石	57	56	42	194 上に浅い凹痕、直打削、欠損品		
1279		3002	磨光石斧	砂岩	(74)	(51)	35	(215) 上に浅い凹痕、直打削、破損品		
1280		3245	磨光石斧	燧発火石	(109)	61	(20)	(234) 上面に浅い凹痕、直打削		

第6表 S B・S X出土石器觀察表 17

No	遺構名	遺物番号	種別	石材	計測値(mm±10%)			観察事項	埠固	番号	
					長さ	幅	厚さ				
1261		3275	磨石類	砂岩	(48)	(65)	37	(194)	上面に浅い凹痕、底端部		
1262		3697	磨石類	板状岩	122	87	53	529	上面に浅いかな凹痕、浅い凹痕3つ、側面に飛打痕	198回	2066
1263		4178	磨石類	板状岩	107	85	48	493	上下面に浅いかな凹痕、表面風化		
1264		2592	磨石類	板状岩	(96)	(74)	142	(402)	ザラついた表面、欠損部		
1265		2714	磨石類	砂岩	90	84	45	555	上面に浅いかな凹痕と浅い飛打痕		
1266		2783	磨石類	板状岩	(74)	(66)	30	(176)	ややモザイク状表面、周縁欠		
1267		11318	磨石類	板状岩	105	84	50	505	ややモザイク状表面、上下面に凹痕各1	198回	2065
1268		18852	磨石類	板状岩	95	71	45	377	ザラついた表面		
1269		18867	磨石類	板状岩	(100)	(57)	69	(505)	ザラついた表面、欠損部		
1270		18908	磨石類	砂岩	155	75	41	637	滑らかな表面		
1291		18924	磨石類	板状岩	118	90	59	597	上面上に凹痕多数、表面風化		
1292		12440	磨石類	砂岩	(81)	(45)	26	(192)	上面に浅い飛打痕、欠損部		
1293		12836	磨石類	板状岩	109	72	47	513	ややモザイク状表面		
1294		13048	磨石類	砂岩	66	54	40	183	ややモザイク状表面		
1295		13192	磨石類	板状岩	102	(79)	55	(528)	上面に浅いかな凹痕、周縁1-2mm欠		
1296		13203	磨石類	板状岩	116	80	52	604	ザラついた表面、下面上に凹痕各2		
1297		13204	磨石類	板状岩	(21)	(54)	(36)	(56)	上面に浅いかな凹痕、側面が残る小破片		
1298		13205	磨石類	板状岩	(32)	(50)	(39)	(89)	上面上に浅いかな凹痕、小破片		
1299		2563	石刀	砂岩	(36)	67	30	(76)	ややモザイク状表面、成形の可能性あり	198回	2067
1300		3760	石刀	砂岩	(31)	67	30	(65)	2963辻合		
1301		4036	石刀	砂岩	(127)	(80)	(97)	(889)	断面の状態が異なる箇所が3点、裏面の可能性あり	198回	2069
1302		4337	石刀	板状岩	(76)	61	32	(144)	ザラついた表面、下面に飛打痕、一部欠	198回	2066
1303		-79	石刀	砂岩	(39)	(36)	(8)	(15)	面から断面まで、小破片		
1304		2625	石刀	粘板岩	62	27	14	44	切り口石刀		
1305		2553	石刀	砂岩	(26)	(22)	(15)	(95)	切り口石刀、約1/2欠、表面風化	198回	2071
1306		2558	石刀	粘板岩	(26)	25	(8)	(82)	切り口石刀、約1/2欠、表面風化	198回	2078
1307		2603	石刀	砂岩	(27)	15	11	(15)	切り口石刀、約1/2欠	198回	2073
1308		2921	石刀	板状岩	51	35	25	(48.4)	切り口石刀、片面の一部欠		
1309		11670	石刀	粘板岩	49	24	(6)	(11.6)	切り口石刀、片面の一部欠	198回	2072
1310		12425	石刀	粘板岩	(38)	27	13	(19.1)	有底石刀、約1/3欠	198回	2076
1311		12573	石刀	砂岩	41	32	14	23.7	切り口石刀、断形3点の可能性あり	198回	2074
1312		12635	石刀	粘板岩	26	29	10	14.5	有底石刀、鋸美吉古山切り口	198回	2075
1313		12807	石刀	板状岩	50	23	12	21.0	切り口石刀、断形3点の可能性あり	198回	2077
1314		14110	石刀	緑色片岩	(122)	(26)	22	(106.9)	高周波欠、3石に羽田川、上面に西廻	198回	2074
1315		7651	原石	チート	49	51	21	56	原石の分類表、赤色		
1316		11502	原石	チート	112	69	24	224	無軸孔の分類表、灰褐色		
1317		8123	石礫	板状岩	(14)	13	2	(0.5)	円錐形無系系統、尖端部欠損	198回	2079
1318		-1	石礫	チート	(19)	21	3	(1.4)	漏斗形の棒状した底面の破片、無底部欠損	198回	2080
1319		6779	石礫	下石臼	26	49	8	8.7	無底孔、片面削減	198回	2081
1320		-2	チードビル石器	チート	26	20	12	7.2	1号チードビル件の断面風化		
1321		5404	RF	チート	50	19	10	9.1	無底孔の片削面-連續的な剥離痕		
1322		6682	RF	下石臼	27	14	3	1.6	無底孔の片削面-連續的な剥離痕		
1323		6777	RF	チート	36	26	15	14.9	分割成の一方に断続的な剥離痕		
1324		5577	RF	黒礫岩	25	24	4	2.4	無底孔の片削面-連續的な剥離痕		
1325		-3	RF	チート	58	24	11	12.9	無底孔の竹筒にこぼれ出た剥離痕		
1326		-4	RF	チート	28	35	9	6.5	無底孔の片削面-竹筒にこぼれ出た剥離痕		
1327		-5	石核	チート	52	46	16	28.7	分割離点の片削面		
1328		-6	石核	上石臼	38	23	22	25.9	分割離点付近の片削面		
1329		6225	磨擦石斧	板状岩	(97)	53	21	(198)	尖角式、刃欠損		
1330		6470	磨擦石斧	板状岩	(65)	(49)	19	(90)	尖角式、底面の破片		
1331		6651	磨擦石斧	板状岩	(112)	(56)	26	(354)	尖角式、底面および刃欠損、表面に無打痕	199回	2083
1332		6652	磨擦石斧	板状岩	(84)	58	24	(178)	尖角式、底面および刃欠損、刃欠損方に飛打痕		
1333		8128	磨擦石斧	板状岩	(103)	(67)	28	(353)	尖角式、底面および刃欠損の一部欠		
1334		8140	磨擦石斧	板状岩	(23)	(24)	(7)	(5)	尖角式、底面の一部を削り残す小破片		
1335		6460	横刃刀形石器	板状岩	45	99	15	59	刃底部風化		
1336		7256	磨石類	板状岩	(119)	(76)	(37)	(464)	ややモザイク状表面、凹面2、三面張柵	199回	2082
1337	SX5	-1	UF	ドリル	45	17	11	8.0	無底孔の片削面-唐草模		
1338		1301	石核	下石臼	20	(11)	2	(0.6)	刃欠損無、片削面		
1339		1360	足F	チート	43	33	8	11	無底孔の片削面-連續的な剥離痕		
1340	SX6	14296	RF	チート	30	22	6	4	無底孔の片削面-連續的な剥離痕		
1341		14293	打撲石斧	緑色片岩	132	60	19	188	無底孔、無底孔の片削面は單石の白面		
1342		14576	磨石類	板状岩	79	69	58	303	ザラついた表面		
1343	SS2	15373	41皿	板状岩	285	185	108	(6150)	内面に浅いかな凹痕、一部欠損	202回	2178

第7表 S K・P 出土石器觀察表 1

No	遺物名	遺物番号	種別	石材	測量値(cm及びg)			縦横事項	標印	番号
					長さ	幅	厚さ			
SK1	石器	3452	石器	チャート	(20)	13	4	(0.9)	円錐形基盤、削面先端斜	
	石器	3453	石器	ドロイト	(13)	8	2	(0.1)	円錐形基盤、削面先端斜	
	石器	7347	石器	チャート	23	20	4	14	つまみ状の底面は末尖り片側はV字形	
	石器	-1	石器	チャート	32	13	10	34	棒状で裏屈は塊のみ、断面は「舟形」	2008B 2119
	石器	-2	石器	ドロイト	21	16	4	14	つまみ状の底面を持ち、裏屈は無い。	
	石器	-3	石器	チャート	(18)	(4)	3	(0.3)	片側の削面部分のみ生存	
1349	石器	-5	UF	チャート	24	38	6	4.5	複数枚片の側面に剥離痕	
1350	石器	687	磨石類	砂板岩	165	53	17	(200)	手舟形、上面および側面に磨打痕	2008B 2174
1351	石器	-4	石器	砂板岩	(40)	17	14	(14.5)	丸頭欠、側面は舟形	
1352	石器	-2	UF	チャート	22	16	4	14	複数枚・側面が削り出	
1353	石器	-3	石器	ドロイト	38	51	39	67.5	分野別の素材で作成面は全異	
1354	SK3	-1	石器	ドロイト	19	21	21	(95.6)	円頭欠、表面は圓形に近い	
1355	石器	-1	石器	砂板岩	(113)	12	2	0.5	凹面を削り、裏面は舟形	2021B 2175
1356	SK4	-1	石器	ドロイト	19	12	2	0.5	凹面を削り、裏面は舟形	
1357	磨石類	-2	磨石類	砂岩	(56)	52	18	(150.9)	定位角、舟形のみ	
1358	SK6	6881	RF	チャート	42	40	10	21.8	剥離の跡の下部に加工上の刃部	
1359	SK8	-1	石器	ドロイト	13	7	2	0.6	平滑面、側面および底面にツブレ痕	
1360	SK9	-1	石器	チャート	23	20	6	2.7	予茎部、先端は丸い	
1361	石器	-2	磨石類	砂岩	(94)	81	33	(337)	定位角大、大舟、削り出のみ	
1362	SK11	-1	石器	ドロイト	19	7	2	(0.2)	円弧形玉頭、削面状側面、片側欠	2008B 2084
1363	石器	-2	UF	チャート	37	18	7	4.3	複数枚片の両側面に剥離剥離痕	
1364	石器	-1	石器	ドロイト	35	19	8	3.5	円弧形玉頭、大型で内凹	2008B 2086
1365	SK12	-2	石器	ドロイト	20	12	4	0.6	円弧形玉頭、やや内凹	2008B 2085
1366	石器	-3	石器	ドロイト	(15)	(8)	2	(0.2)	基部に欠く(削出部および底面部の薄片	
1367	UF	-4	UF	ドロイト	45	51	15	36.9	複数枚・側面が削り出	
1368	SK13	-1	石器	チャート	(21)	(6)	(2)	(0.3)	円弧形玉頭、長い側部を持つ、半身欠損	2008B 2087
1369	SK14	-1	RF	ドロイト	30	26	5	3.0	両側面に削り出の跡を有するくわゆるつまみ形石器	
1370	石器	-1	石器	チャート	28	8	4	1.0	棒状に削り出の跡のみ、断面は「舟形」	2008B 2120
1371	SK16	-2	UF	チャート	32	27	8	5.2	複数枚片の両側面に剥離剥離痕	
1372	石器	-3	石器	チャート	30	22	9	6.4	分野別の素材として残候	
1373	石器	-1	UF	ドロイト	26	28	5	2.4	側面の一端に剥離痕	
1374	SK17	-2	UF	ドロイト	39	35	8	7.4	縦刃削削痕	
1375	石器	-3	打撲石斧	砂岩	110	64	23	205	剝離痕、表面の風化が美しい	
1376	石器	-4	石器	砂岩	30	24	18	19.0	右側面削、全面に研削痕	2016B 2149
1377	SK18	-2	RF	ドロイト	22	18	3	1.0	片面加工により底面を仄め出し蟲の可能性あり	
1378	石器	-1	UF	ドロイト	19	24	5	2.2	全面加工により底面を仄め出し蟲の可能性あり	
1379	SK19	-1	石器	チャート	(9)	15	3	(0.6)	大頭部および底面を仄め出し蟲の可能性あり	
1380	石器	-1	UF	ドロイト	24	25	5	3.7	鋸歯状の片側に剥離剥離痕	
1381	SK20	-2	UF	ドロイト	20	20	6	2.5	側面に不満足の剥離痕および側面	
1382	石器	-3	打撲石斧	砂岩	(86)	(57)	(8)	(55)	刃削り、削面が深く削れ込	
1383	石器	-1	石器	ドロイト	21	13	4	1.1	円弧形玉頭、各部の刃部は無い、削面状側面	
1384	SK21	-2	石器	ドロイト	15	11	4	0.6	円弧形玉頭、片側欠、側面部にツブレ痕	
1385	石器	-3	UF	チャート	28	37	6	5.1	縦刃削・不満足の剥離痕	
1386	SK22	-1	UF	ドロイト	36	24	11	9.2	側面の片側に剥離剥離痕	
1387	石器	-2	石器	ドロイト	48	50	15	26.1	板状形式を保持する上、両端に刃面	
1388	石器	-1	UF	ドロイト	20	15	4	(1.0)	新削出部、左茎部あるいは未製作の可能性あり	
1389	石器	-2	石器	ドロイト	14	13	3	0.5	円弧形玉頭、側面削、刃部欠、内凹	
1390	石器	-3	石器	ドロイト	18	(5)	2	(0.3)	円弧形玉頭、丁度欠、薄手	
1391	5 クサビ形石器	チャート	15	22	5	2.6	側面削の外見上の特徴の剥離痕			
1392	SK29	-4	UF	ドロイト	(12)	(4)	(3)	(0.2)	側面削、小片状の付属物不明	2008B 2134
1393	石器	-9	UF	ドロイト	13	3	1	1.1	石器全体の可能性あり	
1394	石器	-6	UF	砂岩	24	17	5	2.3	石器全体の可能性あり	
1395	石器	-7	打撲石斧	砂岩	(77)	51	23	50.0	分野別小片で削り出され、全面に剥離	2008B 2134
1396	石器	-8	UF	ドロイト	27	28	23	50.0	全面に剥離するが、刃部は無い	
1397	石器	-9	UF	ドロイト	(18)	(9)	3	(0.5)	円弧形玉頭、刃部および片側欠、削面状側面	
1398	SK30	-1	石器	ドロイト	19	12	3	0.6	円弧形玉頭、側面削	
1399	石器	-2	石器	チャート	(16)	(9)	3	(0.5)	つまみ状底面無、薄形削	
1400	石器	-4	UF	ドロイト	19	7	3	(0.5)	棒状大頭部は無いのみ、底部丸頭欠、側面にツブレ痕	
1401	石器	-5	石器	ドロイト	(14)	(9)	5	(1.0)	基部丸頭、底部の薄部は存在	
1402	SK31	-6	UF	石器	23	12	4	1.0	円弧形玉頭、各部の刃部は無い、削面状側面	
1403	石器	-1	石器	ドロイト	24	19	4	1.2	円弧形玉頭、各部の刃部は無い、削面状側面	
1404	石器	-1	石器	チャート	(17)	11	2	(0.5)	円弧形玉頭無および底部の削面の削部のみ	
1405	SK2	-2	UF	チャート	25	24	6	3.3	側面の片側に剥離剥離痕	
1406	石器	8224	石器	砂岩	45	32	13	26.8	切石跡、削面方角も切石跡	2016B 2150
1407	SK33	-1	石器	ドロイト	(26)	29	9	(1.3)	棒状大頭部欠け、側面削	
1408	SK34	-1	石器	チャート	(31)	15	6	(2.2)	側面削に施された削面を持つ、底部丸頭欠	2008B 2121
1409	石器	-2	UF	チャート	(24)	6	1.1	棒状大頭部、底部の薄部は存在		
1410	SK36	-1	石器	チャート	30	23	6	4.9	円弧形玉頭、各部の刃部は無い、削面状側面	
1411	石器	-2	石器	チャート	(14)	(12)	3	(0.3)	円弧形玉頭、削面欠	
1412	石器	-3	石器	ドロイト	22	30	16	10.8	分野別小片で削り出され、削部凹	
1413	SK37	-1	磨石類	砂岩	96	(62)	(35)	(255)	はく全面に磨き、そして、裏打ちの凹痕1ヶ所	
1414	石器	-2	磨石類	砂岩	177	75	52	189	全面磨き、側面曲面取扱、表面に暴打痕、トト:円頭欠2	2021B 2172
1415	SK38	-1	石器	ドロイト	29	20	4	2.0	円弧形玉頭部の凹部	
1416	石器	-5	UF	ドロイト	(21)	(12)	3	(0.6)	円弧形玉頭部の凹部	
1417	石器	-3	UF	ドロイト	23	18	5	2.0	端部がツブレのある剥離痕	
1418	SK40	-4	UF	チャート	20	29	3	2.8	側面の片側に不規則な剥離痕	
1419	石器	-2	石器	チャート	39	44	24	40.8	分野別素材で作成面は全異	
1420	石器	-3	石器	砂岩	57	77	11	51.7	板状形式の端部に約1cmの刀削	
1421	SK41	-1	打撲石斧	砂岩	60	57	23	(130)	側面、基部欠損、表面はやや風化	
1422	SK43	-1	石器	Fドロイト	22	39	17	20.5	分野別素材で作成面として残候	
1423	石器	-1	石器	チャート	19	16	3	0.7	円弧形玉頭、片側欠、大頭部は無い	
1424	SK44	-2	磨石類	蛇紋岩	(17)	(18)	(2)	(0.7)	小片	
1425	石器	-3	磨石類	砂岩	107	(54)	47	(388)	4-4:ザラつた剥離、平身欠	

第7表 S K・P 出土石器観察表 2

No	遺物番号	種別	石材	寸法値(mmおよびg)				観察事項	補足	番号	
				長さ	幅	厚さ	重量				
1426	SK48	-1	UF	下石片	49	21	12	7.7	側縁の片側に不規則な剥離痕		
1427	SK49	-1	石器	下石片	(34)	17	4	1.3	凹面無系縫、尖頭部欠損	2008d	2069
1428	SK52	8220-2	石器	チート	15	(11)	2	(0.3)	凹面無系縫、片端より尖頭部欠損、断面状態複数	2008d	2080
1429		8227	石器	下石片	(22)	(15)	2	(0.7)	凹面無系縫、片端より尖頭部欠損	2008d	2081
1430		8228	石器	下石片	28	(11)	3	(1.0)	凹面無系縫、片端欠損	2008d	2082
1431		8229	石器	下石片	(6)	11	3	(0.3)	凹面無系縫、片端欠損	2008d	2083
1432		8233	石器	下石片	(15)	(17)	5	(1.8)	基部欠損、尖頭部の凹凸性あり	2008d	2084
1433		8220-1	石器	チート	(24)	11	5	(1.4)	チート	2008d	2122
1434		-1	タビビ形石器	下石片	24	22	7	3.5	チートを作り付けるための削離痕	2010d	2139
1435		-2	RZ	碧玉岩	15	14	2	0.5	古い表面の滑落面に連続した河原底、下面調査		
1436	SK53	-1	石器	砂岩	27	26	15	13.8	砂岩	2010d	2152
1437	SK54	-1	UF	下石片	29	18	5	2.5	側縁の片側に剥離痕		
1438	SK56	-1	石器	下石片	18	12	3	0.6	凹面無系縫、片端は丸め		
1439	SK57	-1	骨器	赤鶴骨	(48)	16	8	(6.5)	定角式、基部より刃部欠損、破壊の可能性大		
1440	SK58	-1	骨器	赤鶴骨	(43)	(32)	(11)	(20.3)	定角式、刃部欠損、表面の一面に水滴状溝を残す		
1441	SK59	-1	RF	チート	41	15	5	3.8	抜取剥片の基部部に凹面状の刃部、石器の可能性あり		
1442	SK60	-2	UF	下石片	31	20	6	4.1	側縁の片側に不規則な剥離痕		
1443	SK61	-1	RF	チート	42	24	7	7.3	側縁の片側にやや刃部の削離加工		
1444	SK61	-1	UF	チート	41	40	13	22.0	端部に不規則な剥離痕		
1445	SK61	-2	UF	下石片	21	19	4	2.3	側縁の片側に剥離痕		
1446	SK65	-1	石器	チート	19	10	3	(0.7)	チート無系縫、片端欠損、基部の抉りは丸め	2008d	2094
1447	SK65	-2	UF	下石片	14	(10)	2	0.3	チート無系縫、細い刃部の剥離痕	2008d	2093
1448	SK64	-3	石器	チート	(12)	(6)	3	(0.2)	側縁ののみの破片、先端欠損		
1449	-4	RF	チート	30	34	9	8.5	側縁の片側に直線的な剥離痕	2010d	2142	
1450	-5	UF	チート	22	24	7	3.7	側縁の片側に不規則な剥離痕			
1451	-1	石器	チート	31	17	6	2.9	側縁と底面の区分が不明瞭、石材剥片の形状を留める			
1452	SK65	-2	UF	下石片	34	17	9	3.5	石材剥片の形状を留める、鋸部に剥離痕	2008d	2123
1453	-3	打裂石斧	赤鶴骨	(77)	64	28	(153)	チート無系縫、基部欠損、刃部は剥離痕			
1454	-4	磨石	赤鶴骨	(65)	67	41	(314)	十分多く、ややザラついた剥離痕、深い凹痕が上下に各2ヶ所			
1455	-2	UF	玉器	25	15	3	1.4	側縁にノリ状剥離痕			
1456	SK66	-3	UF	黒曜岩	20	10	4	1.1	側縁にノリ状剥離痕		
1457	-1	骨器	赤鶴骨	54	30	11	32.7	定角式、刃部欠損	2010d	2160	
1458	SK68	-1	タビビ形石器	下石片	15	16	5	1.6	1つのブレード	2010d	2140
1459	-2	磨石	赤鶴骨	(26)	(28)	(11)	(12.3)	定角式、底部ののみの痕跡	2010d	2161	
1460	SK69	-1	RF	下石片	30	13	3	1.3	側縁に片側面の二重加工痕		
1461	-2	UF	下石片	23	25	8	4.9	側縁にブレード痕			
1462	SK70	-1	石器	下石片	(45)	17	7	(4.3)	石材剥片の形状を留める、側縁の加工は片面、剥離部欠損		
1463	SK71	-1	タビビ形石器	下石片	25	24	6	(4.2)	1つのブレード、片面の一部被削痕		
1464	-2	UF	石器	下石片	19	9	6	1.4	石材剥片の形状を留める、剥離加工		
1465	SK72	-2	RF	下石片	29	31	5	4.3	側縁に刃部削離痕		
1466	-3	UF	チート	(15)	16	4	(0.6)	側縁部に刃部の削離加工、石器の表面品の可能性あり			
1467	SK73	-1	打裂石斧	赤鶴骨	150	67	25	(276)	剥離、底部の一部欠損、表面は風化している		
1468	-2	UF	石器	チート	27	9	6	1.6	体積で両端が尖る、先端の 端に剥離痕		
1469	-2	RF	下石片	(19)	(19)	4	(1.3)	側縁に連続する剥離痕、尖端部			
1470	SK74	-3	UF	下石片	12	24	5	1.4	側縁の内側に剥離痕		
1471	-4	打裂石斧	赤鶴骨	83	45	16	30	剥離部、小切の近傍			
1472	-5	磨石	赤鶴骨	93	(63)	(43)	(351)	ややくずつた剥離痕、内側、上に深い凹痕			
1473	-1	石器	チート	(28)	16	5	(2.4)	側縁部の剥離痕が片側につき、剥離部先端指向欠損			
1474	SK76	-2	UF	チート	8	4	1	0.5	側縁部の剥離痕が片側につき、剥離部先端指向欠損		
1475	-3	UF	チート	50	24	14	(16.9)	先端の2枚欠損、尖端部と考えられる			
1476	-4	UF	チート	26	16	3	(1.2)	側縁の片側に2枚欠損、尖端部と考えられる			
1477	SK78	-2	UF	チート	30	20	6	5.9	側縁の片側に不規則な剥離痕		
1478	SK80	-1	磨石	赤鶴骨	(65)	75	56	(307)	ややくずつた剥離痕、内側		
1479	-2	UF	チート	(19)	(19)	4	(1.3)	側縁に連続する剥離痕、尖端部			
1480	SK74	-3	UF	下石片	23	24	5	1.4	側縁の内側に剥離痕		
1481	-4	打裂石斧	赤鶴骨	(107)	64	39	(295)	刃部刀刃部に剥離痕、刃部は剥離痕			
1482	-5	UF	チート	21	22	7	3.2	台形、ほほ全くない、剥離痕、底面に横割によるブレード痕			
1483	SK84	-2	UF	チート	38	35	8	10.1	側縁部の剥離痕		
1484	-3	UF	チート	109	74	56	629	ほほ全くない、ダラづけ痕、上下に深い凹板各2			
1485	SK85	-1	RZ	チート	28	20	5	3.3	側縁部の刃部に直線的な剥離痕		
1486	-2	UF	チート	22	22	11	9.7	分割焼を石材とした際の			
1487	-3	UF	下石片	(19)	16	4	(1.0)	凹面無系縫、丸み	2008d	2095	
1488	SK88	-4	UF	下石片	33	6	3	1.7	側縁の内側に底面剥離痕		
1489		-5	UF	チート	21	23	6	2.8	下端部に底面剥離痕		
1490		-6	UF	チート	20	22	5	2.1	側縁の内側に底面剥離痕		
1491		-7	UF	チート	24	22	9	5.3	刃部すべてに底面剥離、三辺にブレード有り		
1492		-8	UF	チート	19	23	9	4.4	分離焼を石材とした際の		
1493		-9	UF	チート	16	7	2	0.2	凹面無系縫、刃部の抉り、底面剥離痕		
1494		-10	UF	真珠	33	15	6	2.6	側縁部の内側に底面剥離痕		
1495		-11	UF	チート	30	20	9	3.9	側縁の片側に底面剥離痕		
1496		-12	UF	チート	(21)	12	4	(0.9)	底面無系縫、丸み		
1497		-13	UF	チート	21	15	5	1.4	刃部刀刃部に剥離痕の形状を留める、底面剥離痕		
1498	-14	UF	チート	(17)	12	3	(0.4)	底面無系縫、丸み欠損、底面剥離痕			
1499	-15	UF	チート	(12)	11	2	(0.3)	底面無系縫、底に抉り、尖頭部欠損			
1500	-16	UF	チート	(20)	(11)	3	(0.5)	底面無系縫、底面剥離痕			
1501	SK92	-7	UF	チート	(11)	12	2	(0.4)	底面無系縫、丸み欠損、底面剥離痕		
1502		-8	UF	チート	(22)	(12)	4	(0.9)	底面無系縫		
1503		-9	UF	チート	(17)	17	4	(1.6)	底面は石材剥片の形状を留める、底面剥離痕		
1504		-10	UF	チート	26	17	3	1.3	底縁部の内側に底面剥離痕		
1505		-11	UF	チート	31	37	11	12.8	18個の剥離痕		
1506		-12	UF	チート	25	23	6	4.5	18個の剥離痕		
1507		-13	UF	チート	22	25	5	2.9	18個の剥離痕、ブレード有り		

第7表 SK・P出土石器觀察表 3

No	遺構名	遺物番号	種別	石材	古墳内(現おおむね)			統計事項	特徴	番号	
					長さ	幅	厚さ				
1508	SK92	-10	RF	下呂石	51	33	8	10.7	無縫の片側を消費加工、石器の未製品の可能性あり	2008E 2135	
1509		-11	RF	下呂石	40	18	5	2.7	薄い片側の一部をノック抜き加工。いわゆるみぞり石器	2008E 2136	
1510		-12	RF	チャート	21	40	15	15.0	分割加工の痕跡を示す加工		
1511		-13	UF	下呂石	40	35	7	8.6	無縫端に微細削除痕		
1512		-17	石縫	砂岩	14	23	12	5.7	小型の片側を消費加工、切妻方向に溝	2018E 2153	
1513		-18	磨製石斧	砂岩	(78) (56)	(20)	(65)	定角式、基部のみの破損部、被削の可能性あり			
1514		-19	打製石斧	磨成石	(75)	38	10	(32)	刃部折れ、基部欠損		
1515		-20	石斧	綠色砂岩	178	127	112	171.5	川原型の分類標準、一度削除してより角食		
1516		-1	石縫	チャート	(22)	16	4	(1.4)	円弧を基盤、深い切り先、先端欠損	2008E 2100	
1517		-2	石縫	チャート	21	18	3	1.4	円弧端、片側の無縫端のみを加工	2008E 2101	
1518		-3	石縫	黒曜石	20	17	5	1.4	円弧端	2008E 2102	
1519	SK93	-4	石縫	下呂石	27	19	7	2.9	刃部に過度加工、刃部が短く先端は丸い		
1520		-5	石縫	石鶴	(23)	(11)	3	(0.4)	原形の上部を削除した尖頭欠損、被削は頸長い	2008E 2125	
1521		-6	石縫	黒曜石	(18)	14	6	(1.4)	無縫の破片、端部は複数元で欠損		
1522		-9	カタビ多石器	下呂石	23	(12)	7	(1.7)	二つ以上のフリップを作り削除、1の欠損と判断		
1523		-7	UF	チャート	20	25	5	3.5	複数のフリップを作り削除		
1524		-8	UF	黒曜石	17	16	3	1.0	下呂型-微細削除痕		
1525		-10	磨製石斧	絆紋岩	38	11	5	4.3	定角式、刃部の完結品、刃部の一部欠	2018E 2143	
1526		-1	UF	チャート	30	27	6	4.3	側面の一部に後削除痕		
1527		-2	石縫	五木縫	23	32	8	5.9	分離性材質の残骸		
1528		-1	石縫	下呂石	18	(10)	3	(0.5)	基部を基盤、片側欠		
1529	SK97	-2	RF	黒曜石	12	16	4	0.7	全削除の痕跡の再加工、カタビ多石器の可能性あり		
1530		-3	UF	下呂石	31	15	5	1.9	側縫型-微細削除痕		
1531		-1	石縫	チャート	21	(13)	3	(0.8)	舌状端、基部の両端欠損		
1532		-2	UF	下呂石	38	60	8	12.3	端部に不規則な削除痕		
1533		-3	UF	下呂石	25	18	8	3.4	無縫の片側に後削除痕		
1534		-4	石縫	黒曜石	37	38	12	36.0	分離性材質の残骸		
1535		-5	磨製石斧	火成岩	(40)	(29)	(21)	(32)	定角式、加工作業の三面を確認できる小片		
1536		-6	打製石斧	緑色砂岩	(85)	54	26	(140)	腹曲、基部方圓の破片		
1537		-7	打製石斧	緑色砂岩	101	46	11	8.6	刃部折れ、刃部欠損		
1538	SK98	1537.5	スクレバー	珪藻土	105	18	7	7.7	刃刃削除片の側面に急角度に彎曲された刃部を持つ	2008E 2137	
1539		-1	磨製石斧	火成岩	(20)	(29)	(6)	(3.8)	ついでに削込まれた丸みの削除できる小片		
1540		-1	石縫	下呂石	(25)	22	6	2.8	舌状端、先端欠損、側縫状隙		
1541		-2	石縫	チャート	17	(10)	3	(0.6)	平滑端、基部付近の一辺が削除端で破損		
1542		-7	カタビ多石器	チャート	21	21	7	3.1	全削除-削除痕、2つの削除端と判断	2018E 2141	
1543		-3	RF	下呂石	40	51	11	25.9	下削型-ややかいな直線削除		
1544		-4	RF	下呂石	48	28	7	8.7	三つ以上の直線削除が複数		
1545		-5	RF	下呂石	24	33	9	6.5	1辺は完全に削除-直線加工、端部にフリーボンド		
1546		-6	UF	チャート	39	19	7	4.9	側縫端-直線削除		
1547		-10	UF	チャート	31	30	7	6.5	側縫の片側に小範囲な直線削除		
1548	SK100	-9	磨製石斧	絆紋岩	(55)	(25)	(10)	(2.4)	側面の取扱いが不完全で側縫削除は角丸形、刃部欠	2018E 2162	
1549		-9	打製石斧	砂岩	(110)	54	31	(20)	鋭角端、基部欠損、表面に気泡の自然曲がる		
1550		-1	石縫	下呂石	23	33	6	2.1	側縫端	2008E 2103	
1551		-1	石縫	下呂石	17	(11)	3	(0.4)	端部を削除し、側縫状隙		
1552		-2	石縫	黒曜石	(6)	(7)	3	(0.4)	円錐形端部、片側および尖頭部陥、側縫状隙		
1553		-3	打製石斧	火成岩	(55)	(29)	(6)	(20)	刃部-刃部方圓の欠損		
1554		-1	RF	下呂石	30	27	8	4.7	分離的-初めに直線加工、未製品の可能性あり		
1555		-3	石縫	下呂石	32	32	12	23.7	分離的-初めに直線加工で未完成		
1556		-2	石縫	砂岩	42	21	11	14.2	初期削除-片側を削除する	2018E 2151	
1557		-1	磨製石斧	絆紋岩	(5)	(33)	(5)	(5.6)	尖頭部-側縫をもつて、刃部方向欠損	2018E 2163	
1558	SK101	-2	石縫	下呂石	51	51	13	2.6	刃部-刃部折れ		
1559		-3	RF	下呂石	48	28	7	8.7	三つ以上の直線削除が複数		
1560		-4	RF	下呂石	24	33	9	6.5	1辺は完全に削除-直線加工、端部にフリーボンド		
1561		-5	UF	下呂石	39	19	7	4.9	側縫端-直線削除		
1562		-6	UF	チャート	31	30	7	6.5	側縫の片側に小範囲な直線削除		
1563		-7	UF	下呂石	51	51	13	23.7	分離的-初めに直線加工で未完成		
1564		-8	UF	チャート	36	15	7	4.0	4.0	全削除-直線削除	2008E 2126
1565		-9	UF	下呂石	51	51	13	24.5	側縫端-側縫を削除する		
1566		-10	UF	チャート	27	21	11	14.2	初期削除-片側を削除する	2018E 2147	
1567		-1	磨製石斧	火成岩	75	71	40	26.7	全削除-チャツク状の上部に浅い凹痕各		
1568	SK113	-2	磨石	黒曜石	(27)	20	3	(1.8)	裏面-薄くで大型		
1569		-3	石縫	チャート	30	15	4	(1.2)	直角端-基部-一部欠		
1570		-4	石縫	チャート	15	(9)	3	(0.3)	円弧状基部-片側欠	2008E 2104	
1571		-5	石縫	下呂石	(13)	(14)	3	(0.6)	片側端-尖頭部欠損		
1572		-6	UF	下呂石	28	27	7	4.0	1辺のフリップを作り削除痕		
1573		-7	UF	下呂石	39	36	8	8.3	側縫の片側に後削除痕		
1574		-8	UF	下呂石	37	27	5	3.5	側縫の片側に後削除痕		
1575		-9	UF	下呂石	70	9	9	9.4	1-2種類の刃部形状-複合、両端付近を溝状に研削		
1576		-10	UF	下呂石	18	22	5	2.2	2つのフリップを作り削除痕		
1577		-1	磨製石斧	火成岩	(58)	57	31	(13)	ザクバく音響-1次のみ-浅い凹痕各		
1578	SK117	-2	石縫	チャート	(13)	(16)	8	(2.6)	側縫の片側削除-丸み-側縫端		
1579		-3	石縫	チャート	29	11	3	1.0	側縫-刃部欠損、刃部の切り欠き	2008E 2127	
1580		-4	UF	下呂石	20	23	8	2.9	片側端-刃部-側縫端(2cm)		
1581		-5	UF	下呂石	25	52	5	5.6	側縫-刃部-側縫端		
1582		-6	UF	下呂石	25	21	7	4.6	側縫の片側に後削除痕		
1583		-7	石縫	チャート	32	36	11	12.1	分離性材質の残骸		
1584		-8	UF	下呂石	37	29	15	19.7	分離性材質で作業面は全面		
1585		-9	UF	下呂石	113	92	43	69.6	側から削除-側縫端		
1586		-10	UF	下呂石	19	12	3	0.7	側縫-刃部欠損、刃部の切り欠き	2008E 2171	
1587		-1	石縫	下呂石	(15)	(11)	2	(0.4)	側縫-刃部欠損、刃部の切り欠き		
1588	SK118	-2	石縫	チャート	19	12	3	0.7	側縫-刃部欠損、刃部の切り欠き		
1589		-3	石縫	下呂石	(19)	17	4	(1.2)	基部-刃部欠損		
1590		-4	磨製石斧	絆紋岩	25	13	5	3.3	定角式、刃部欠損	2018E 2144	
1591		-5	UF	下呂石	13	17	3	(0.9)	凹面-側縫端-刃部欠損		
1592		-6	石縫	チャート	32	22	5	3.2	側縫の片側にノッチを作り削除痕		
1593		-7	石縫	下呂石	27	29	15	19.7	側縫の片側削除-丸み		
1594		-8	磨製石斧	砂岩	(78)	(56)	(20)	(65)	側縫-刃部欠損		
1595		-9	UF	下呂石	52	17	5	3.9	側縫-丸み-部分不完全、全面に低い調査	2008E 2131	
1596		-10	UF	下呂石	14	20	6	(1.7)	側縫-刃部-一部	2020E 2172	
1597		-1	磨製石斧	火成岩	73	40	19	26	よじかくまれたからかう筋曲、側縫全体に崩打痕		
1598	SK121	-2	UF	チャート	17	(19)	7	(2.1)	2つの削除痕、側縫の一部欠		
1599		-3	石縫	チャート	46	33	9	14.7	分離性材質の残骸		

第7表 S K・P 出土石器観察表 4

No	遺構名	遺物番号	種別	石材	寸法(単位:mm)			観察事項	詳細	参考	
					長さ	幅	厚さ				
1590	-1	UF	下凹石	46	33	9	7.6	無縫部に微細網目層			
1591	-2	UF	黒曜岩	29	22	10	5.2	無縫部の片面に不規則な剥離層			
1592	SK122	-3	UF	下凹石	31	21	7	3.3	無縫部の片面に微細網目層		
1593	-4	UF	下凹石	36	16	6	3.6	無縫部の片面に微細網目層			
1594	-5	UF	下凹石	44	29	8	8.1	無縫部に微細網目層			
1595	-1	石器	下凹石	21	4	2	0.5	円錐形無縫部、U字状の浅い入り			
1596	-2	石器	下凹石	24	14	4	1.0	円錐形無縫部、U字状の浅い入り	2006版	2105	
1597	SK124	-8	石器	チャート	(28)	17	4	(1.3)	円錐形無縫部、先端欠損	2006版	2106
1598	-3	スクリーパー	安山岩	31	50	11	16.9	横長削りの下端部(45mm)の部			
1599	SK125	-1	石器	チャート	32	18	9	4.0	全削面の頭部に前進面での削れ、底部先端に齊刷底	2006版	2128
1600	SK126	-2	石器	下凹石	25	(14)	5	(1.3)	基部の片手欠損、浅い入り(円錐形無縫部は平基部)		
1601	SK127	-1	打製石斧	緑色片岩	82	45	13	6.4	形記、表面やや風化		
1602	SK127	-3	石器	絶紋岩	32	21	5	6.0	全削面の精円形削り、長軸方向に切口加工	2016版	2148
1603	-2	RF	チャート	29	23	6	3.9	下端部に連続する刃部痕			
1604	SK128	-1	UF	チャート	36	20	6	5.6	無縫部の片面に微細網目層		
1605	-3	打製石斧	黒曜石	58	52	20	8.2	複数形、刃部の自然剥離をせず、基部方向欠損			
1606	-1	石器	下凹石	36	41	10	14.9	1辺のツブリを作り剥離痕			
1607	-4	UF	下凹石	42	34	12	16.3	無縫部の片面に不規則な剥離痕			
1608	(SK129)	-5	UF	下凹石	35	16	10	3.6	無縫部の片面に一辺に微細網目層		
1609	(SK131)	-1	打製石斧	緑色片岩	69	46	19	7.0	刃部形、表面やや風化		
1610	-2	砂岩	褐色灰岩	(67)	(51)	(22)	(91)	サラウンド側面、裏面のみの小破片			
1611	6HP1	-1	スクリーパー	チャート	35	43	11	20.4	両面削りの刃部(3cm)		
1612	-1	石器	下凹石	(14)	(20)	4	(1.0)	調整をした底面のみ、錐形復原			
1613	7HP9	-2	UF	下凹石	43	27	8	8.0	無縫部・不規則な剥離痕		
1614	-3	UF	下凹石	25	35	6	5.2	無縫部・側面と下端部に微細網目層			
1615	7HP14	-1	石器	下凹石	(38)	(19)	7	(2.9)	基部および尖端部の先端欠損		
1616	6IP6	-1	カビビ形石器	下凹石	26	16	7	2.7	1辺のツブリを作り剥離痕		
1617	-1	石器	下凹石	(19)	(11)	2	(0.5)	円錐形無縫部、刃部および尖端部の先端欠損			
1618	6IP10	-2	石器	下凹石	(21)	13	4	(1.0)	両面削りの刃部(3cm)		
1619	6IP17	-3	磨打製石器	褐色灰岩	(84)	92	52	(520)	ツブリ・削れ、4次欠損、上口(ドド)・底板		
1620	6IP20	-1	磨打製石斧	絶紋岩	(20)	(20)	(3)	(2.0)	円錐形、削面の一部を含む小破片		
1621	6IP25	-2	石器	開口石	15	(17)	3	(0.5)	円錐形削り、刃部から側面にかけて欠損		
1622	6IP27	-3	UF	下凹石	35	(18)	7	(3.7)	円錐形削り、刃部で尖端部は丸い		
1623	7IP1	-1	磨打製石器	絶紋岩	(44)	33	13	(27.6)	円錐形削り、底面大・基部欠損		
1624	-2	打製石斧	砂岩	148	56	27	28.2	近縁形、底面の自然崩壊			
1625	7IP2	-3	打製石斧	砂岩	163	50	32	27.7	削離形、底面の刃部を削離	2006版	2168
1626	-1	打製石斧	砂岩	189	65	19	36.0	削離形、底面の刃部の表面を削離	2006版	2169	
1627	7IP3	-2	RF	下凹石	21	23	5	2.6	右側面に鋭利な突起を用ひ、カビビ形石器の可能性あり		
1628	-1	石器	褐色灰岩	(73)	(46)	26	(18)	ツブリ・削れ			
1629	7IP8	-1	磨打製石器	砂岩	(53)	8	(1.5)	底面斜面を削り、刃部			
1630	-2	UF	チャート	(15)	2	(0.4)	底面斜面を削り、刃部欠損				
1631	7JP12	-1	石器	チャート	18	11	4	0.9	右各端、手元の加工は無い	2006版	2109
1632	7JP16	-2	石器	下凹石	(22)	15	4	(1.0)	円錐形削り、底面の刃部は無い、側縫は片面削り	2006版	2110
1633	7JP18	-1	UF	チャート	24	26	5	3.8	トコ形・削離形の刃部痕		
1634	7JP28	-2	石器	下凹石	21	18	5	1.5	円錐形削り、底面の刃部は無い		
1635	7JP29	-3	UF	下凹石	26	60	29	55.6	分岐形削りで作成された刃部		
1636	7JP1	-1	UF	チャート	31	22	7	4.3	削離形・内凹して削離した調査板		
1637	7JP5	-2	UF	下凹石	49	26	8	15.1	削離形・底面削離痕		
1638	-1	豊富累	褐色灰岩	120	102	52	24.9	ほぼ全面にサラツク内底、上下ノイズに凹痕を有す			
1639	7JP9	-2	UF	チャート	33	26	11	7.6	削離・底面削離痕		
1640	8JP14	-1	石器	下凹石	(35)	34	9	(9.4)	底面・2次欠損、片側刃の刃部は奥28mm		
1641	-2	磨打製石器	絶紋岩	(20)	29	8	(12.8)	左尖端、底面削離、刃部の片側に様子立・板状あり	2016版	2145	
1642	6JP2	-2	打製石斧	砂岩	170	59	25	30.3	刃部削離、底面・刃部の刃部を削り	2026版	2170
1643	-3	機刃形石器	砂岩	59	94	14	6.5	刃部削離、先端部の自然崩壊を残す	2016版	2164	
1644	6JP17	-1	UF	下凹石	37	45	9	12.4	刃部削離の片面に微細網目層		
1645	6JP30	-2	UF	石器	(12)	(7)	2	(0.2)	削離・使用痕		
1646	-3	UF	下凹石	(15)	(8)	3	(0.6)	破損部、工具跡あり			
1647	-2	石器	下凹石	(18)	(10)	2	(0.4)	円錐形削り、刃部および尖端部の先端欠損			
1648	-3	石器	下凹石	(19)	(14)	3	(0.5)	円錐形削り、刃部および尖端部の先端欠損、側面斜面			
1649	-4	石器	チャート	(20)	(12)	3	(0.8)	基部および尖端部欠損			
1650	7JP14	-1	スクリーパー	チャート	60	32	11	20.6	鉄直削りの全周・合角削離の刃部・一部削離加工	2006版	2136
1651	7JP20	-2	UF	玉器	28	15	5	1.7	削離の片面に微細網目層		
1652	7JP23	-3	UF	下凹石	27	45	16	15.7	分岐形削りで作成した全周		
1653	7JP25	-1	UF	石器	(15)	(13)	3	(0.7)	尖端部の破片		
1654	-2	UF	墨脱石	(14)	(11)	3	(0.5)	平底盤、先端部の先端欠損			
1655	7JP38	-2	UF	下凹石	38	38	9	11.1	側縫の片面に不規則な剥離層		
1656	-3	UF	下凹石	18	21	4	1.9	1辺のツブリを作り剥離痕			
1657	7JP51	-2	UF	チャート	29	12	8	2.6	側縫の片面に不規則な剥離層		
1658	7JP53	-1	UF	チャート	(21)	(10)	4	(0.9)	円錐形削り、下身欠損		
1659	-2	UF	砂岩	(90)	(56)	38	197	全面にサラツク状態、約1/2欠、上下に刃部各1			
1660	7JP56	-3	UF	砂岩	98	73	48	345	サラツク・側縫・側面・三角形、三面に刃部各1		
1661	-1	UF	石器	122	51	48	351	側縫形・内凹形・底面削離			
1662	8JP5	-1	磨打製石斧	絶紋岩	(22)	(18)	(4)	(1.5)	内凹形、側縫の一部を含む小破片		
1663	8JP7	-2	UF	下凹石	(12)	(11)	3	(0.3)	円錐形削り、片面のみの破片		
1664	-3	UF	墨脱石	31	14	4	1.9	刃部が対向する2つめの刃部			
1665	8JP8	-1	UF	チャート	(20)	(9)	4	(0.7)	前削面の刃部削離加工の刃部をもつ		
1666	-2	スクリーパー	チャート	35	40	9	13.3	円錐形削り・底面削離の刃部の刃部をもつ	2016版	2138	
1667	8JP9	-3	UF	チャート	(18)	(14)	5	(1.4)	刃部および底面の付根の刃部、側縫部の横断面は袖円形	2008版	2129
1668	8JP10	-1	UF	下凹石	(29)	11	5	(2.1)	素材削離の形状が似る、側縫部側にツブレ痕、先端欠	2008版	2130
1669	-2	UF	下凹石	(16)	9	3	(0.5)	円錐形削り、刃部の自然崩壊			
1670	8JP11	-2	カビビ形石器	下凹石	15	15	4	1.1	刃部にツブリを作り剥離痕		
1671	-3	打製石斧	褐色灰岩	(123)	67	32	(348)	側縫形、基部欠損、表面に歯の刃自然崩壊			

第7表 S K・P 出土石器観察表 5

No	遺構名	遺物番号	種別	石材	計測値(mとおじ)			観察事項	辨別	番号		
					長	幅	厚					
1672	8JP16	-1	石器	下駄石	(21)	14	3	(0.4)	巴系無名器、尖頭部の先端欠、側面状態	20080	2111	
1673	8JP17	-1	打製石斧	緑色片岩	74	43	13	57	側面形、刃部に擦痕			
1674	-2	タビビ形石器	チャート	18	18	5	17	18の削離痕				
1675	9JP2	-1	打製石斧	褐灰色	(130)	65	31	(319)	楔形、基部欠損、表面に灰石の自然面を残す			
1676	9JP6	-3	UF	チャート	45	24	11	12.4	傾斜の片面に不規則な削離痕			
1677	9JP19	-1	石器	チャート	(15)	11	2	(0.3)	巴系無名器、滑らか片岩を用い、切り部以外は片面加工			
1678	-2	石器	下駄石	13	10	2	0.2	巴系無名器、側面状態				
1679	9JP20	-1	石器	チャート	23	(15)	5	(1.3)	巴系無名器、尖削			
1680	-1	石器	チャート	30	18	6	2.5	巴系無名器、大型の尖端品、肉厚	20080	2112		
1681	9JP21	-2	石器	下駄石	15	12	2	0.3	巴系無名器、鋸歯部は外側に陥く	20080	2113	
1682	-3	UF	チャート	46	29	9	10.9	傾斜に無規則削離痕				
1683	9JP23	-1	石器	下駄石	23	(17)	3	(0.9)	平底盤、基部の一部欠損			
1684	-2	UF	チャート	16	12	3	1.0	両側斜面に無規則削離痕				
1685	9JP24	-1	石器	下駄石	(14)	10	2	(0.3)	基部欠損			
1686	6KP5	-1	タビビ形石器	下駄石	14	15	5	1.4	1枚のウブレを作り削離痕			
1687	6KP9	-1	石器	下駄石	22	13	3	0.6	巴系無名器、滑らか片岩、側面状態	20080	2114	
1688	6KP12	-1	石器	玉砂利	18	18	3	0.9	底部は片岩斜面の形状を有する、裏面全長3cm			
1689	6KP45	-1	磨擦石斧	褐灰色	(83)	60	33	(262)	定角式、刃部に欠損			
1690	7KP4	8182	石器	下駄石	(17)	12	3	(0.5)	巴系無名器、基部の抉り孔浅い、尖削部の先端欠			
1691	7KP5	-1	石器	チャート	15	12	2	0.4	巴系無名器、大底盤の先端部に深い			
1692	7KP7	8183	石器	下駄石	(13)	(8)	2	(0.2)	巴系無名器、両側斜面の先端部の先端欠			
1693	7KP12	-1	石器	下駄石	(12)	12	3	(0.4)	巴系無名器、滑らか片岩の先端部			
1694	-1	石器	褐灰色	55	26	13	19.0	切口石器の可能性あり	20180	2156		
1695	7KP17	-2	石器	チャート	42	40	28	2.9	方形の底石器、褐色			
1696	7KP25	-1	石器	チャート	29	16	6	2.9	刃部の内側に凹み、底部との区分は不明瞭、先端欠			
1697	7KP27	-2	UF	チャート	26	27	4.3	U形	底面に無規則削離痕			
1698	7KP34	-1	削れ石	褐灰色	145	124	95	217.0	テラソツ形、側面に削れ打痕、上下にすり鉢状凹痕	20280	2176	
1699	7KP35	-1	石器	下駄石	(17)	(9)	2	(0.1)	切口石器、側面に刃部			
1700	7KP37	-1	打製石斧	赤褐色	117	51	21	16.6	墨跡、刃部に擦痕、赤褐色に変色			
1701	-2	石器	玉砂利	(49)	(72)	42	(265)	ややザラツク感の有る(24)に欠				
1702	7KP44	-1	磨擦石斧	褐灰色	(53)	18	11	(18.2)	複数面削離痕、基部欠損、刃部一部破損	20180	2146	
1703	7KP48	-1	石器	玉砂利	83	45	51	(235)	半永久欠損部、刃部打痕、上部に凹凸合			
1704	7KP50	-1	打製石斧	褐色	(157)	(58)	24	(269)	磨擦、刃部欠損			
1705	7KP51	-1	石器	下駄石	(18)	(9)	3	(0.5)	巴系無名器、削離痕、先端に軋目凹	20080	2115	
1706	7KP59	-1	UF	チャート	(21)	(12)	5	(1.5)	東西洋縦断の片岩、片岩石器の充実性あり			
1707	-1	石器	チャート	(22)	13	7	(1.8)	東洋斜面の形状を有める傾斜を持つ、錐形の先端欠				
1708	7KP63	-2	石器	物産岩	(42)	(14)	6	(3.8)	右側石器の部分削離	20180	2157	
1709	-2	タビビ形石器	下駄石	17	16	7	2.0	3-4枚のフブレを作り削離痕				
1710	7KP68	-1	UF	チャート	22	27	8	3.3	傾斜に無規則削離痕			
1711	-1	石器	褐灰色	(43)	(30)	16	(24.9)	切口石器、刃部の欠損	20180	2158		
1712	8KP3	7599	-1	石器	下駄石	13	(9)	3	(0.2)	巴系無名器、片脚欠		
1713	-1	石器	下駄石	(25)	(12)	3	(0.6)	基部欠損				
1714	-2	石器	下駄石	19	(13)	4	(0.9)	巴系無名器、片脚欠、未製品の可能性あり				
1715	8KP10	-3	タビビ形石器	下駄石	24	23	5	2.2	1枚の削離痕			
1716	-4	UF	下駄石	37	19	6	3.2	傾斜の片岩に複数削離痕				
1717	-5	石器	下駄石	18	(33)	4	(2.1)	墨跡、刃部にフブレおよびフブレ痕	20080	2133		
1718	8KP22	-2	RF	千鳥	(12)	(16)	2	(0.5)	傾斜に規則的な削離痕			
1719	8KP26	-1	石器	下駄石	18	(10)	3	0.3	巴系無名器、刃部欠、表面欠			
1720	-1	石器	下駄石	26	15	3	0.9	巴系無名器、完形	20080	2116		
1721	8KP29	-2	石器	下駄石	(17)	(9)	2	0.2	巴系無名器、両端欠、側面状態	20080	2117	
1722	-3	石器	褐灰色	20	13	5	1.1	巴系無名器、基部の抉り孔浅い、未製品の可能性あり				
1723	8KP33	-1	石器	下駄石	17	9	2	(0.2)	巴系無名器、片脚欠は定形品			
1724	8KP39	-1	打製石斧	緑色片岩	93	47	15	67	墨跡、黒斑にり葉筋に変色			
1725	SLP5	-1	處石斧	褐灰色	100	80	40	446	ほぼ全出でザラツク感、上部に浅い凹痕3ヶ所			
1726	6LP21	-1	石器	下駄石	54	49	42	75.6	分割産業地帯作業場14巻			
1727	6LP24	-1	UF	チャート	30	30	10	6.9	傾斜の片岩に微細削離痕			
1728	-2	UF	チャート	22	16	5	1.3	傾斜の片岩に微細削離痕				
1729	6LP25	-1	石器	粘土岩	46	29	13	26.2	切口石器	20180	2159	
1730	-1	石器	下駄石	13	10	2	0.1	巴系無名器、基部の抉り孔浅い				
1731	-2	RF	チャート	44	22	10	10.1	両側斜面に道筋的な削離痕				
1732	7LP2	-1	石器	褐灰色	(223)	(213)	75	(5500)	台形、全周欠損、表面は滑らかな板状			
1733	-1	石器	下駄石	27	(13)	4	(1.8)	巴系無名器、片脚欠、側面状態	20080	2118		
1734	-2	RF	チャート	35	31	8	6.2	複数に連続的な削離痕				
1735	-3	RF	下駄石	16	10	2	0.4	新削状態、墨跡の確認なし・フブレ痕				
1736	-4	2タビビ形石器	トヨ石	42	31	8	9.4	1枚のウブレを作り削離痕				
1737	-3	UF	下駄石	18	14	5	1.3	二列にフブレを作り削離痕				
1738	7LP8	-4	UF	下駄石	40	36	5	8.5	傾斜の片岩に不規則な削離痕			
1739	-5	UF	チャート	39	43	9	11.0	傾斜部に複数削離痕				
1740	-6	石器	粘土岩	33	24	8	9.3	切口石器、表面に研磨痕あり	20180	2155		
1741	-7	石器	砂岩	24	15	8	4.9	切口石器、片岩の切口の奥部に小溝	20180	2154		
1742	7LP12	-1	石器	下駄石	24	(11)	3	0.7	巴系無名器、片脚部の抉り孔浅い、やや黒化			
1743	-1	UF	チャート	23	37	8	7.3	下端部に小規則な削離痕				
1744	15257	-1	磨擦石斧	褐灰色	(175)	68	(36)	(484)	定角式、被擦による変色および被擦、刃部欠	20180	2165	
1745	15258	-1	磨擦石斧	褐灰色	(156)	66	35	550	定角式、被擦による変色および被擦、刃部欠	20180	2166	
1746	-2	磨擦石斧	砂岩	(139)	111	72	(1350)	部分的に滑らかな板状、表面は変色および被擦	20200	2177		
1747	7LP7	-1	石器	安山岩	66	97	44	27.5	磨擦石の分類標、緑色化			
1748	SLP9	-1	石器	下駄石	(15)	(9)	3	(0.4)	基部および刃部欠損			

第3節 遺構外出土の縄文土器

今回の発掘調査では、破片数で26万点余りという大量の縄文土器が出土した。遺構出土の約46,000点については、分別および接合を行い、1,707点を図示した（第4表、第45図～146図）。遺構出土分を除く約22万点の縄文土器のほとんどは、西側斜面より出土したものである。これらの縄文土器については、「捨て場」遺構出土の一括遺物という扱いも可能であったが、大半が時期的に混在のみられるIV a層からの出土であったので、前述のS X3・S X4出土以外のものについては遺構外出土として報告することとした。前期から晩期までの縄文土器を確認したが、主体となるのは中期から後期前半である。点数が多大のため、紙面の都合等で報告できないものも多い。

東西文化の接点をなす当地の地域的特性から多数の型式を含み、折衷様式も多く、さらに、連続的に生活が営まれていた時期が多いため過渡期の資料も目立つなど、その分類作業は難航した。その所属時期を主軸に、系統・器種・器形・文様要素・文様構成等により45群に分類したが、上記の事情から一貫性を欠くことを断っておく。なお、第4表に示した遺構出土の土器についての分類も本分類に準じている。

分類と概要

1群 半截竹管状工具で施文された前期の土器（第220図2362～2368）

- a類 胎土中に纖維を含み、口縁部に波状の横位沈線を幾重にも巡らせるもの（2362・2363）
- b類 平行沈線間に爪形文を施すもの。2366～2368の地文はR L縄文である。

2群 隆帶上に爪形文を施し、三角印刻文などを指標とする土器（第220図2369～2390）

幅広の貼付隆帶上に密接した爪形文を施す。胎土は黒褐色である。東海の北裏C1式や五領ヶ台式などに比定される中期前葉の土器である。胎土に含まれる金雲母は少ない。2369から2373・2377・2380は三角形の波状口縁である。2373・2375には楔状の文様が確認できる。2373の突起部には三角形の孔が開けられている。2380と2381は同一個体か。2条の爪形文を施す貼付隆帶間に指頭圧痕状の押圧を施す。2381には2380と別の突起部が残存する。

3群 目の粗い独特の縄文を地文とし、口縁内面の縄文施文等を指標とする土器（第203図2179・第221図2391～2409）

器形はキャリバー形が主体で小波状口縁や、いわゆる「酒盃」状突起が付くものなどがある。2179は目の粗い縄文地に刺突列を施す。2391は内面にも円形刺突を施す。2405・2406は同一個体。「酒盃」状突起に類する突起部と思われる。2407から2409も同様の突起に類するもの。2407の内面には縄文が施される。2399と2409は同一個体と思われる。

4群 脆弱な平行沈線文を施す焼成堅綴な土器（第221図2410～2417）

平出Ⅲ類A系の土器と思われる。破片資料のため詳細は不明。

5群 角押文、ベン先文、爪形文などの押し引きを施す中部高地系の一群（第206図2211～2215・第222図2418～2448）

押引きの文様形態によって時期差が想定できるかもしれない。

2212は楕円形の横位区画内にジグザグに沈線を施文する。2213は器面全体に指頭圧痕がみられる。2214では三角形と半円形の区画が交互に横位展開する。2215も口縁が開く。2214と同様の器形で押引き施文はないが、区画の形態が類似するので本群に位置付けた。2422～2424には、三叉文が描かれる。

6群 半截竹管による半隆起線によって施文する北陸系の土器（第203図2180～2183・第223図2450・第224図2506）

半隆起線上に爪形文を、口縁部にいわゆる「蓮華文」を施す新崎式系の一群。

2180・2181は口縁部に爪形文を施す半隆起線を巡らせる。2180は口縁部に無文帯をもつ波状口縁。2182は、口唇の半隆起線に矢羽根状の刻みを施す。その下には斜行する半隆起線を配す。2181は楔形の刺突を無文帯の上下にもつ。2183はいわゆる「蓮華文」を口縁に施す浅鉢。

第223図2450からは破片を一括した。2450から2470までは口縁部破片で「蓮華文」をもつもの。2471～2474は半隆起線に沿って上下に楔状に刺突を施文し、その間が無文帯となるものである。2489や2490は半隆起線で施文ということで本群とした。2491と2492は隆帯上に矢羽根状の刻みを施すもので、爪形とは違う様相を呈する。7群か。2493は縄圧痕を口縁にもつ。類例などから本群に置く。

7群 6群に後続する北陸中期中葉の土器（第203図2184～2188・第204図2189～2190・第224図2507～第225図2526）

上山田式系の土器を一括した。渦巻き状の半隆起線を主体として半隆起線が密接する。半隆起線間に三叉文を配するものもある。玉抱き三叉文も見られる。

2184は台付き土器か。頸部・胴部に三叉文を施す。2185は口縁内面に玉抱き三叉文をもつ装飾性の強い土器。2187・2188は眼鏡状把手をもつ波状口縁の土器。2188は半隆起線上に刻みを施す。2186は隆帯による渦巻が斜行している。2189・2190は浅鉢。ともに焼成堅緻。2190は内面に玉抱き三叉文を施すことから本群とした。

8群 6・7群以外の半隆起線で施文する土器（第204図2191・2192・第225図2527～2545）

2527～2529は口縁部に半隆起線のみが巡る浅鉢。焼成は堅緻。2530は内面に粘土紐の貼り付けによって玉抱き三叉状の文様をもつことから本群に位置付けた。2533～2535は縄文地に半截竹管状工具による半隆起線でU字状または楕円形の施文をする。2536の地文は撚糸文。2541～2545の半隆起線は扁平である。2191は6群の渦巻文が崩れた様相を呈す。一部三叉状の文様が残る。胴部にクランク状の平行沈線を施す。地文は貝殻または櫛状工具による刺突文。2192も同様。7群に後続する時期のものと考えられる。

9群 口縁部の貼付隆帯間に櫛状工具又は貝殻によって連続刺突を施す浅鉢（第204図2193～2195・第226図2546～2552）

斎一性の強い浅鉢である。いずれも焼成はよい。北陸の古串田新式に比定される。

10群 9群以外の無文浅鉢（第204図2196～2200・第226図2553～2568）

2群・5群・6群・7群など北陸系土器形式との関連が想定される。2197・2198は口縁がやや内傾する。いずれも焼成堅緻。2567等は扁平な粘土紐を円形に貼り付ける。

11群 粘土紐による縱位の貼付隆帯を施す土器（第227図2572～2582）

頸部がくびれるキャリバー形の器形が主体と考えられる。西日本・東海系の土器。2572は多波状の口縁部をもち、貼付隆帯上を刻む。地文の一部に細密な条線を残す。2575から2578は同一個体と思われる。貼付隆帯間に細密な条線を充填する。2574は格子目状に粘土を貼り付ける。2579～2582については文様の詳細は不明だが、貼付隆帯ということで本群に置いた。

12群 11群以外の粘土紐を貼付するもの（第227図2583～2588・2592～2594）

13群 沈線によって重弧文を描くもの（第205図2205・第227図2589～2591）

2589～2591は同一個体と考えられる。

14群 摋糸文を地文とし、口縁が内湾するキャリバー型の土器（第205図2203～2204・2206・第227図2596～2599）

口唇部の形態は確認しうる範囲では内湾するもののみで、外反して立ち上がるものはない。2203は台形状の波状口縁をもつ。地文撋糸文に、押引き沈線による施文。2204は小波状口縁で口縁部と胴上部に沈線による波状文を描く。東海系の土器である。

15群 研磨された器面で口縁部文様帶に渦巻き文をもつ土器（第205図2207～2209・第227図2600～2603）

2207から2209は研磨された器面をもつ。2207・2208の口唇には沈線が巡る。2209は、本群を代表するキャリバー形土器である。2603は器面の研磨はないが撋糸文を地文とし、渦巻文を起点として弧線文を描く。14群に後続する東海系の土器である。

16群 ソーメン状の細い粘土紐を貼付する土器（第227図2604・2605）

2605の部位は不明であるが、口縁部以外である可能性も多い。東海系の土器である。

17群 隆帯脇を押し引き沈線で処理し、櫛形の区画や「B」字状隆帯が懸垂する土器（第206図2216～2219・第207図2222～2225・第222図2449・第227図2606～第228図2628）。

中部高地中期後葉Ⅰ期に相当すると考えられるもの。地文には、無文、撋糸文、条線、主に横位の平行沈線の4種類があり、地文によって細分した。

a類 地文が無文のもの

- b 類 地文が縄文のもの
- c 類 地文が条線のもの
- d 類 地文に横位の平行沈線を密接に充填するもの

a 類の2216と2217は頸部に無文帯をもつ。胴上部には櫛形文を配置する。2216は口縁部無文、口縁部下部に対称形の櫛形文を配する。隆帯脇には押引きはないが、半隆起線が引かれる。2217は口縁部に継位の貼付隆帯を施し、「ねじり棒」状の粘土を配置する。第207図の2226は胴部に櫛形文をもつ。口縁部にベン先状の刺突を施す波状口縁の土器で、頸部は無文。

b 類の2609は口縁部に押引き沈線を施文。胴部に縄文。2626は胴部に櫛形文。
 c 類の2218は、Y字状の刻んだ隆帯が垂下する。2219は口縁部無文でB字状の隆帯が垂下する。2222も同様に垂下する隆帯をもつ。胴部中央に横位の縄文帯を有す。2628は釣手土器の釣手部と思われる。沈線の雰囲気から本群とした。内面にはススが付着している。
 d 類の2223・2224は共に膨らむ胴部。2610～2612は口縁部無文帯の下に平行沈線を充填する。

18群 いわゆる「渦巻つなぎ弧文」や「腕骨文」をもち、頸部がくびれる深鉢を主体とする土器群
 (第207図2227～2230・第208図2232～2236・第228図2630～2635)

台付土器や「バケツ」状に口縁が開く深鉢等もある。地文は、平行沈線を綾杉状に充填するものや縄文、撚糸文、沈線文、条線文のものがある。中部高地中期後葉Ⅱ期に相当するもの。
 2227は、地文条線で渦巻状隆帯を起点とした区画内に連弧状の沈線を施す。2230は台付土器。口縁部下に無文部をもつ。隆帯脇には円形の小刺突を施す。柄状把手を有す。隆帯でいわゆる「剣先文」を描き、綾杉状に沈線を充填している。2232の頸部下の地文様は平行沈線の充填である。2234・2235の胴部地文は細い条線文。

19群 18群に後続し、文様・地文は18群の形骸化傾向を示すもの (第207図2231・第208図2237・
 第209図2242～2247・第228図2630～2635)

横位沈線、放射状沈線などを多用するものもある。「腕骨文」が崩れ、器形は頸部がくびれるものが多くなり、胴部径が口縁部径より大きい樽形の深鉢が主体となる。口縁部に無文帯をもつ土器は18群から継続する。中部高地中期後葉Ⅲ期に相当するもの。

2237は装饰性の強い土器で突起部をもつ。頸部には交互刺突を施す。胴部文様は、隆帯に沿う放射状の沈線である。2242の研磨された口縁部には沈線による渦巻文。胴部には隆帯による渦巻文。隆帯脇は丁寧に調整される。継位の蛇行隆帯をもつ。

20群 リボン状突帯をもつ粗文の土器 (第205図2202・第206図2220・2221・第209図2248～2250)
 やや幅広の粘土紐を貼付し、指頭などで押圧して「リボン」状の隆帯を巡らせる深鉢。地文は縄文や条線文等である。2202は復元できた胴部が膨らむ深鉢である。口縁部は無文で、頸部にリボン状突帯を巡らせる。胴部は撚糸文を地文として、半隆起線で独特の曲線文を描く。隆帯脇は沈線を引く。隆帯は扁平。2221は口縁部に細い綾沈線を引く。2248から2250は口縁部無文。いずれも中・小型の土器である。

21群 隆蒂の渦巻き文等を沈線に置き換えたもの（第229図2636～2648）

2637は半截竹管文。2643～2648は詳細不明。

22群 口縁部に渦巻き文を配しそれを起点として横位の区画を形成するもの（第209図2251～2253・第230図2659～2666）

沈線の幅は広く研磨される。加曾利E3式系に比定されるだろう。口縁内面に幅広の沈線が巡るものと、そうでないものがある。本群の口縁部文様は23群にも踏襲されているものがある。

23群 口縁部文様に刺突や沈線を多用し、口縁が外反して開く器形の土器（第210図2254～2267・第211図2268～2275）

口縁部の文様は、「の」字状渦巻文、幅広沈線で描くもの、刺突・短沈線列を施すもの等がある。胴部は筒状となるもの、胴下半で膨らむもの、頸部でくびれる台付き土器などがある。主にその器形によって以下のように細分する。いずれも中型や小型の土器が主体である。口縁内面に幅広の沈線が巡るものとそうでないものがある。

a類 平口縁で口縁が開き、胴部径より口縁径が大きくなるもの（2254～2257）

b類 波状口縁で口縁が開き、胴部径より口縁径が大きくなるもので、胴下部が緩やかに膨らむ（2261など）

c類 波状口縁で口縁が開き、胴部径より口縁径が大きくなるもの（2268など）

d類 波状口縁の台付土器を一括（2269など）

e類 その他の器形の土器（2273など）

a類では、いずれも内面に幅広の沈線が施される。

b類の2261は、口縁部に刺突列が巡る。内面に沈線はない。2262は、「の」字状の隆蒂を口縁に施す。2263・2275は頸部の傾きから胴部が膨らむ器形と判断した。2264等は沈線で逆「U」字状の区画を連続する。

c類の胴部は本群b類のように膨らまない。2258は双波状。胴部に「U」字状の沈線文を連続する。2259・2260はクランク状の幅広沈線を描く。胴下部は逆「U」字状の区画をもつ。本群b類の2263も逆「U」字状の施文をもつことなどから本群b類と本群c類にはいくつかの共通性が見られる。本群b類同様内面に幅広沈線を巡らせるものとそうでないものがある。2268は、口縁部に「U」字状の沈線を描き、胴部に蛇行するクランク状の沈線を施している。2272も同様に胴部にクランク状の文様をもつ。口縁は双波状で横状把手を4単位配する。平面形は方形を呈す。

d類の2269と2270は口縁部に綫の短沈線を巡らせる。2269には刺突列があるが、2270にはない。2270の波状部は台形である。2271は双波状口縁で細かな刻みをもつ。おそらく台付き土器と思われる。

e類の2273の胴部は筒状になるか。蛇行沈線が垂下する。2274は口縁部に短沈線列を配すことから本群とした。把手が一对あり、その外面には矢羽根状の文様を描く。24群か。

23群の破片資料（第230図2667～2675・第231図～第234図2747）

破片資料で器形の詳細が不明であるので、一括して記述する。2667～2671は波状口縁頂部に幅広の沈線を巡らせる。第230図2672～2675、第231図は口縁部に短沈線列または刺突列を巡らせる。2700・

2701は同一個体。頸部がくびれる形態から台付き土器の可能性もある。2697～2699も同一個体。同様に台付き土器か。口唇部に沈線を巡らせる。2702も同様である。第232図・第233図には口縁内面に沈線を巡らせるものを一括した。2703・2704・2706は22群か。2719・2720は内面に横長楕円区画を描く。口縁外面は第210図2266・2267と共通する。2724・2725・2729等は頸部がくびれる器形のもの。2733は口縁外面に楕円区画をもつ。24群か。2734・2735は口唇に沈線が巡る。2736は内面に楕円区画をもつことから本類とした。2737～2742は波状口縁頂部で貝殻または櫛状工具による刺突を施す。2741は縄文。串田新式系。2743・2744は頸部がくびれる器形の胴部。

24群 矢羽根状の沈線文を多用するもの（第212図～第215図2305）

文様の配列に斎一性がある。器形によって以下のように分類する。

- a 類 2282に代表される頸部がくびれ胴部が膨らむ深鉢。器壁が厚い大型のものが多い。
- b 類 2279に代表される口縁が開き胴部が膨らむ器形のもの
- c 類 2296のような口縁が開く器形のもの
- d 類 2293のような口縁が開き波状口縁のもの
- e 類 2303の壺
- f 類 その他

文様は口縁部下部や胴部に縦長や横長の楕円区画を設け、その中に矢羽根状の沈線文を描く。口縁部は無文となるものが多い。区画は隆帯によるものと沈線によるものがある。隆帯上に刺突があるものとのないものがある。沈線の太さに差がある。施文具による差なのか時期的な要素が加わっているか分からぬ。

a 類の2282は胴上部に横長の楕円区画を配し、胴下部に向かって縦長の楕円区画を配す。区画内には矢羽根状沈線文を描く。胴上部の隆帯には刺突がある。楕円区画内には矢羽根状沈線文を充填しない無文部もある。頸部には、突起状の沈線文がある。2288も同様。2289は区画の形態が方形状になる。大きな区画内の矢羽根状沈線文は縦沈線の中央に置かれる。2283・2290・2292は本類の底部である。

b 類の2279は底部まで復元できた個体。沈線は本群 a 類に比べ幅広である。縦長の区画内に矢羽根状沈線文を描き、隆帯上に刺突を施す。2281は、無文の区画を横位に配す。23類と共通性がある。

c 類の2284から2286は口縁部に沈線による楕円区画をもつ。2286の沈線は細い。2287は、地文条線のみであるが一応本類に置いた。2296と2297はよく似ている。口縁に無文帶をもち、隆帯で半円状の区画を配し、その中に縦沈線と矢羽根状沈線文を充填する。胴部は縄文である。2298は、口縁部に方形区画をもち、その内部に縦沈線と矢羽根状沈線文を配す。頸部に横長の楕円区画を配し内部は無文。隆帯には刺突がある。胴部には、連弧文が描かれるのが特徴的である。地文は条線。2299は、矢羽根条沈線文をもたないが方形区画をもち、口縁が開く形態と言うことで本類とした。2300や2301の沈線は細い。2301は隆帯をもたない。沈線だけで施文する。2302は小突起を持つ。

d 類の2293は本群 c 類の文様配列に似るが隆帯上に刺突をもたない。2294は、縦長の楕円区画内に矢羽根状沈線文を描く。2295は双波状で平面形が方形状になる。

e 類の2303は唯一復元できた壺形の土器である。胎土は灰白色である。本群 a 類から d 類の文様配列と同様である。頸部には突起状の沈線文が描かれる。

d類の2304は浅鉢か。2305は釣手土器。内面にスス痕が認められる。矢羽根状沈線を描くことから本類とした。

24群の破片資料（第234図2748～2751・第235図～237図2823）

2751は楕円区画をもつことから本群とした。2753から2772までは口縁部に沈線で横位の楕円区画を描くもの。矢羽根沈線を伴わないものもあるか。口縁が聞く本群c類が想定できる。2801は浅鉢か。2784は本群b類のような幅広の沈線を施す。2803は、2281のような胴部の膨らむものか。2808～2818の沈線は細い。隆帯上に刺突のあるものとないものがある。

25群 中期の無文土器（第216図・第237図2824・2825）

地文は、縄文・条線文・撚糸文等がある。2319は撚糸文である。2317と2318は同様の器形で口縁部は無文、胴部は条線となる。胴部はあまり膨らまず頸部から短く聞く。2315は頸部から聞く口縁をもち、口縁部にわずかな無文部をもつ。2311・2312・2314は23群の器形か。

26群 底部・その他の中期土器（第215図2306・2307等）

底部の破片および上記の分類にあてはまらない他の土器を一括する。中期の土器で、分類が困難なものもここに含めた。第205図2201は抽象文風の文様を口縁に展開し、孔のある波頂部をもつ。2210の底部は隆帯上に刻みをもち、2カ所の孔がある。第215図2306・2307の底部圧痕は、特殊な編み方の製品を用いたものか。荒城神社遺跡に類例あり（野村ほか1994）。第226図2569～2571は研磨された幅広の沈線文。第229図2642は23群か。2649～2651は細線による連弧状の文様。2652・2653は同一個体。2654・2655は18群または19群か。第230図2656・2657も18群または19群か。2658は半陸起線。

27群 有孔鍔付土器等（第217～218図2335）

2320は、復元できた個体である。一对の橋状把手をもつ。胴部は算盤珠状を呈する。橋状把手と胴部に粘土紐を蛇行させて貼付した隆帯をもつ。他は無文である。鍔の直上に孔を開ける。2321は同一個体。鍔直下には半截竹管による半陸起線が見られる。器面はよく研磨されている。2329は、2320のような器形のものか。幅広の粘土紐を貼付している。2326から2328は鍔下部に蛇行させた粘土紐を貼付する。2328は鍔直下に僅かに縄文が確認できる。2323は本遺跡出土の有孔鍔付土器の中で唯一鍔に孔の開けられたものである。2330は同一個体。胴部には地文縄文を磨消して文様を描く。2320外面には、僅かに赤色顔料が残っている。2321等は内面までよく研磨され黒色のおそらく漆が塗られている。2331は、鍔も孔も確認できないが、内面に赤色顔料が残されていることや器面が大変良く研磨されていることや類例などから有孔鍔付土器と判断した。地文は撚糸文。半截竹管による平行沈線によって大柄な渦巻き状文様を描きその内部を磨消している。

2332と2333は孔を持たない。2333は幅広の沈線を施す。2334は同一個体である。内外面に赤色顔料の痕跡が確認できる。有孔鍔付土器の系譜を引くものと考えられる。胴部に突起を付け片面に刺突をする。

2335は孔も鍔も持たない。眼鏡状の把手を4単位配す。把手間には沈線で「錨」状の文様を描いている。復元できたのは頸部までで、そこから口縁部が立ち上がる器形となるか。

28群 赤色顔料によって塗彩されているもの（第218図2336～第219図2361）

2336はその半截竹管文の様相から北陸系土器でも古い時期のものか。内面には鮮明に赤色顔料が残る。内面は黒色で漆を定着材として使用している可能性が高い。2337も同様に北陸系の浅鉢。内面に赤色顔料が明瞭に残る。2338は内外面に残っている。2338～2341、2342・2344・2345はいずれも浅鉢と想定できる。2350は底部。内面に赤色顔料が残る。2359は外面に僅かに顔料が残る。2360の内面にも赤色顔料が確認できる。

29群 口縁部から頸部にかけて外傾もしくは外反し、胴部が膨らむ深鉢（第238・239～244図）

a類 隆起線で施文するもの（第243～244図）

a 1類 波状口縁の口縁部に1～2本の横位の弧状隆起線文がみられるもの（2955・2956）

a 2類 口縁内面にも隆起線が巡るもの。SX3に多く、b類の口縁を含む可能性あり。

a 3類 隆起線の一部に刻みを有し、胴部は曲線文。

a 4類 口縁に沿って1～2本の隆起線が巡るもの（2958・2959）

a 5類 頸部に渦巻文がみられるもの（2960）

b類 隆起線文と沈線文を組み合わせて文様を構成するもの（2826・2936～2954）

c類 胴部の全面に縱位の文様をもつもの

c 1類 隆起線で施文するもの（2828・2829・2831）

c 2類 沈線で施文するもの

c 3類 隆起線間に沈線文のみられるもの（2827・2835）

d類 磨消縄文の土器（2907）

e類 沈線で施文するもの（2832）

e 1類 口縁から頸部に文様帯のあるもの（2833・2854～2857）

e 2類 縱位の文様展開がみられるもの（2839）

a類で復元できたものは、SX3出土の1287と1294の2点である。ほとんどが破片資料で類例も少ない。その器形や文様展開から本群b類やc類と関連が深いと考えられる。2955の口縁部破片では、波頂部から垂下するU字状隆起線文の両脇に2本の弧状隆起線を配している。2956では、波頂部から垂下する短隆起線の端部にボタン状の貼付文。2960はSX3出土の1294（本群a 3類）とよく似た胎土と焼成の土器である。

b類の2826は7F区IV層出土。外反する口縁部は無文で、頸部に細かい刺突文。横位の波状隆起線に接して垂下隆起線。頸部および胴部の隆起線間に細沈線文。2937も7F区出土の薄手の大型破片。口縁部内外に横位隆起線。表面にスス付着。隆起線間に細沈線文。

c 1類の2828は岡上復元の土器で、8G区IV層出土。頸部に横位の波状隆起線。膨らむ胴部には縦位の蛇行隆起線文。表裏にスス付着。2829は7F区IV層出土。口縁部は無文で、頸部を巡る弧状の隆起線に接して胴部全面に垂下隆起線。底部は網代压痕（2本超え2本潜り1本送り）。2831も7F区IV層出土。頸部に刺突列。2本の横位隆起線下方は蛇行隆起線と多条の垂下隆起線。c 2類の2832は7F区IV層出土。頸部に4条の横位波状沈線。沈線間に刺突列。胴部は多条の垂下沈線文。c 3類の2827は8F区出土。2829の胴部文様と同様の展開を示すが、隆起線間に中央に細沈線が垂下。2835は7F区出土

で、器厚4~5mmの薄手の胴下部。最下部に横走隆起線。垂下隆起線間は斜位の細沈線文。底部は網代圧痕（2本超え2本潜り1本送り）。

e 1類の2833は7F区IV層出土。口縁部から頭部にかけて2本の横位波状沈線。胴部はR L繩文。e 2類の2839は8G区IV層を中心に出土。やや肥厚した口縁部の下方に1本の横走沈線。胴部文様は、逆U字状の沈線区画内に葉脈状の沈線文。

30群 口縁部は内彎または屈曲し、括れた頭部に膨らむ胴部をもつ深鉢（第241・245・246図）

a 類 隆起線で施文するもの（3027・3028）

b 類 沈線で施文するもの（2858~2869・3046・3047）

a 類の3027は8G区IV層出土。内彎する口縁部に隆起線による曲線文。頭部には2本の隆起線が垂下。3028は7F区IV層出土。内彎する口縁部に弧状の隆起線文。文様帶の下端部が突出する形態は34群 h 類に近似。b 類の復元個体はS X3出土の1286・1308。

31群 椎形の深鉢（第245・246図）

a 類 隆起線で施文するもの（第245図）

a 1類 口縁部に1~3本の隆起線が巡り、以下継位の文様展開となるもの

a 2類 2本単位の隆起線で縱方向に文様が展開するもの（2997・2999・3023）

a 3類 隆起線の一部に押圧を伴うもの（2996）

a 4類 口縁部に山並状の突起を伴うもの（3011・3012）

b 類 沈線で施文するもの（3035~3045）

a 1類の典型はS X3出土の1385、2997 c 1類の胴部文様に類似。a 2類の2997は8H区IV層出土。口縁部に2本単位の隆起線による半円文。以下継位の文様展開。S X3出土の1381では口辺部に1本の隆起線が巡る。a 3類の2996は8E区IV層出土。中央の継位隆起線の上端部にボタン状の貼付文。a 4類の3011・3012は、口縁部に粘土紐による横位のねじり棒状の装飾を有する。いわゆる山並状突起は、34群の土器等に多くみられる装飾技法である。b 類の3043は8G区IV層出土。口縁部を3本の沈線が巡り、以下継位の沈線文。懸垂文を斜位およびX字状に連絡する斜行文や沈線間に刺突列。

32群 壺形土器（第238・239・241・244図）

a 類 隆起線で施文するもの（2834・2840・2849・2983）

b 類 沈線で施文するもの（2838・2853）

c 類 低隆帯で施文するもの

a 類の2834は8H区IV層出土で、S X3出土の小破片を含む。胴部に隆起線による重弧文。文様の中央左上方はループ状に閉じている。2840も8H区出土。横位の隆起線下方は、継位の隆起線文。

b 類の2838は6E区IV a 層出土。胴部文様は称名寺式のJ字状文。器面はよく磨かれている。口縁部に末端刺突の横位沈線、口縁の内側は蓋受状で、穿孔部は1カ所を確認。上方に袋状に盛り上がる4単位の突出部には、口縁部と連結する8字状の橋状把手がつく。2853は7I区IV層出土。口縁部に沈線による曲線文。瓢形注口土器の口縁部か。c 類はS X3出土の2個体（1289・1290）。

33群 縦方向の文様展開を主とする深鉢（第242・244・245・250図）

a類 隆起線で施文するもの（2986～2990・3029・3030）

b類 沈線で施文するもの

b1類 地文が無文のもの（2890～2899・3244～3246）

b2類 地文が縄文のもの（2900）

a類の2890～2990は縦位の隆起線文をもつ口縁部破片。3029・3030は口唇に刺突列、口辺部に横位隆起線がみられる。b1類の2890・2891・2893～2895は同一個体。8G区IV層出土の2892は、口縁部に弧状の横位隆帯を配し、波頂部には円形の押圧痕。頸部以下は2本単位の縦位の沈線文。b2類の2900も8G区IV層出土。口縁部にU字状の沈線文と2本単位の斜沈線。地文はR L縄文。

34群 肥厚または内彎した口縁部に文様帶をもつ深鉢（第239・240・247～250図）

a類 内外に肥厚した口縁端部に文様帶をもつもの

b類 幅広の縁帶部の主文様で分類（第247・248図）

b1類 主文様が渦巻文（2843・3057～3080）

b2類 主文様が同心円文（3081）

b3類 主文様が重弧文（2850・3082～3097）

b4類 主文様が入字状文（3098～3101）

b5類 主文様が短沈線文（3102～3104）

b6類 主文様が押圧痕（3105～3109）

c類 幅広の縁帶部の従文様で分類（第248図）

c1類 従文様が枠状区画文（3110～3116）

c2類 従文様の区画文に横位沈線（3117～3125）

c3類 従文様の区画内に刺突列（3126～3130）

c4類 従文様が2本の横位沈線ないし区画文（3131～3137）

c5類 従文様が3本以上の横位沈線ないし区画内に沈線（3138～3143）

c6類 従文様の横位沈線間に刺突列（3144～3149）

c7類 従文様が2本の横位沈線間に縦位の短沈線（3150）

c8類 従文様の横位沈線の下に刺突列（3151）

c9類 縁帶部の上下に有刻隆帯（2844・3152～3154）

d類 縁帶部に1本単位の横位沈線を巡らすもの（第248・249図）

d1類 端部に刻みまたは刺突のあるもの（3155～3157）

d2類 主文様が刺突または押圧痕（3158～3161）

d3類 主文様が縦位の弧状沈線文（3162～3170）

d4類 主文様が渦巻文（3173）

d5類 主文様が同心円文

d6類 主文様が横位の重弧文（3171・3172）

d7類 主文様が縦位ないし斜位の短沈線文（3174～3180）

- d 8類 従文様が横位の1本沈線（3181～3186）
- e 類 肥厚した縁帯部は縄文施文で頸部に文様をもつもの（3187～3189）
- f 類 肥厚した縁帯部に繰り返しの文様をもつもの

 - f 1類 横位の重弧文の繰り返し（3190～3193）
 - f 2類 縁帯部に矢羽根状の沈線文（3194）
 - f 3類 緩位または斜位の短沈線が巡るもの（3195・3196）

- g 類 内彎する縁帯部に文様帯をもつもの（3197～3202）
- h 類 肥厚または内彎する縁帯部の下端が外側に突出するもの（3203～3210）
- i 類 口縁部内面に文様帯をもつもの（3211～3217）
- j 類 本群土器の頸部または胴部破片と考えられるもの（3218～3243）

後期前葉の縁帯文系の土器を一括する。復元個体はS X3に多い。口縁部の破片は多いが、有文の頸胴部破片は意外に少ない。b 1類の2843は7G区IV層出土。縁帯部の渦巻沈線文の両脇は、棒状の沈線文。頸部は無文。3059～3061は橋状把手の形跡を残す。b 3類の2850は7G区IV層出土。縁帯部の弧状沈線文の両脇は、沈線区画内に横位沈線。胴部地文はL R 縄文。c 9類の2844は8 I 区IV層他出土。主文様は方形の区画文。縁帯部から胴部にねじり棒状の橋状把手。把手下方は円形の小突起と沈線による重弧文。無文の頸部下方は横位の有刻隆帯。胴部はR L 縄文。g 類の3198は8G区IV層出土。内彎ぎみの縁帯部の渦巻沈線文両脇に2本の横位沈線。頸部には、隆起線による曲線文。3199は7G区出土。内彎ぎみの縁帯部および橋状把手の上に隆起線による曲線文。h 類の3203～3210は隆帯と沈線により施文。復元個体はS X3出土の1306。

- 35群 外傾する口縁部から頸部に文様が集中する深鉢（第241・242・245・251・252図）
- a 類 隆起線で施文するもの（3031～3034・3333・3334）
 - b 類 丸い刻み（押圧状）の隆帯で施文するもの（3288・3289・3291）
 - c 類 沈線で施文するもの（2903～2906・2910～2912）
 - d 類 連続刺突文のあるもの（2870～2879）
 - e 類 Z字状文等を含む横位の文様展開のみられるもの（第252図）
 - e 1類 有刻隆帯で施文するもの（3294～3299・3301～3303・3305～3330）
 - e 2類 無文の隆帯あるいは有刻隆帯と無文隆帯で施文するもの（3300・3304・3332・3340）
 - e 3類 沈線で施文するもの（3342）
- c 類の主体は三角形連続刺突文をもつ氣屋式土器。30群の2864・2867にも三角形連続刺突文あり。e 類の大半は小破片。e 3類の典型はS B41出土の871。

36群 口縁部がしままたはT字状に屈曲する深鉢（第251図）

- a 類 比較的狭い口縁部のもの（3247～3255）
- b 類 主文様に渦巻文やS字状文をもち、その間を隆帯でつなぐもの（3256・3277・3278）
- c 類 沈線で施文するもの（3257～3267・3270～3276）
- d 類 横位の波状隆帯等がみられるもの（3279～3286）

a～c類の良好な資料はSB7・SB8・SB33等より出土している。d類の3281は6I区IV層出土。屈曲した口縁部に横位の波状隆帯文。

37群 底部から直線的に口縁部へと至る朝顔状の器形の深鉢

a類 磨消繩文の土器

b類 隆帯で施文するもの。その交点に円形刺突がみられる。

遺構外出土の破片は少ない。a類の典型はSX3出土1312。b類の代表はSK92出土の1047。

38群 鉢形土器（第238～242・246・254図）

a類 隆起線や隆帯で施文するもの（2836・3399）

b類 沈線で施文するもの（2837・2841・2842・2880～2887・3049・3050・3055）

c類 磨消繩文の土器（2848・2851・2852・2888・2889・2914～2928・2930）

a類の2836は7F区IV層出土。口縁部に横走隆起線。横位の弧状隆起線は2本単位が基本で、起点の一部にボタン状貼付文。弧状隆起線は橋状把手につながる。器面はよく磨かれている。29群の土器と同段階の鉢形土器か。3399は36群d類3281とよく似た文様展開の隆帯をもつ。c類の2837は7G区IV層出土。口縁部の8単位の小突起上に円形の押圧痕。口縁端部に横走沈線。胴部文様は棒状の沈線文か。2841は7H区IV層出土。口縁部の横走沈線の下方は縱位の沈線文。2842は6F区IV層出土。口縁部の横位沈線の下方に沈線による重弧文6単位。一ヵ所に貫通孔。胴部の横位沈線から上方の地文はRL繩文。2882は8G区IV層出土。口縁部の内外に末端刺突の沈線文。堀之内1古式段階の鉢形土器に類似。c類の2848は8G区IV層出土。SB9出土238とSK92出土1040は同一個体。口縁部端部に刺突を伴う円形の小突起と横位沈線。波頂部内面に円形刺突と横位沈線文。波頂部下方に橋状把手の痕跡。頭部は無文。胴部文様は沈線間にRL繩文を充填。2851は8G区出土。口唇に浅い横位の沈線。文様帶はRL繩文を充填する3本単位の横位沈線文を渦巻文が連結。2852は8D区IV層出土。器形はボール形か。胴上部の横位帯繩文の上方は、RL繩文を充填した蛇行沈線と斜位の沈線。7F区出土の2888と8G区出土の2889は同一個体。沈線間にRL繩文を充填。

39群 加曾利B式段階の土器（第254図3391～3395）

a類 外削ぎ状の口縁直下に横帯文等のみられる深鉢

b類 内面施文の浅鉢

SB9・SB33周辺・SX2等で出土。遺構外出土のものは少ない。

40群 注口土器（第240・253図）

a類 環状または連環状の把手をもつもの（2846・2847・3343～3346）

b類 扁平で弓状に反る把手をもつもの（3347～3550・3352・3361）

c類 磨消繩文の注口土器（3351・3354・3355・3358）

d類 渦巻状把手をもつもの

e類 加曾利B式段階の注口土器（3359・3360）

f類 注口部の破片（3362～3375）

注口土器の出土数は、遺構出土分を含めて40個体以上である。a類の2846は7G区IV層出土の口縁部破片とS B33 P16出土の把手（659）が接合し図上復元したもの。口縁部に一部末端刺突の2本の横位沈線。把手の周間に継位の弧状沈線文。2847は7G区IV層出土。口縁部を1本の沈線が巡る。胴部文様は沈線による4単位の継位対向弧文。それをつなぐように下方に横位の弧状沈線文。把手および注口部は欠損。胴下部の穿孔は、廃棄儀礼に伴うものか。

b類の3348は8G区IV層出土。S X3出土1599と同一個体で、第140図に図上復元。口縁部と把手部には沈線による曲線文。注口部の箇脇にそれぞれ2本の隆起線文。9G区出土の把手3361と3362の注口部は同一個体。c類の3358は8G区IV層出土。沈線間にR L繩文を充填。d類はS X3出土の1584。e類の典型はS K24出土の第115図945。f類の注口部破片は遺構出土分を含めると22個である。3376は8G区IV層出土の土製蓋。表面は沈線による曲線文。裏面は渦巻沈線文。

41群 ミニチュア土器（第254図 3400～3404）

3400は8G区出土。口縁部のU字状の沈線間に円形の刺突。胴部は垂下沈線と渦巻沈線文。3401は7I区出土。口縁部に横走沈線。胴部は垂下沈線間に横位沈線。底部に円形の刺突痕。3402～3404は8G区出土。3403は胴部に斜位の細沈線文。3404の胴部には斜位の浅い平行沈線。調整痕か。

42群 台付土器

a類 隆起線で施文するもの

b類 その他の台付土器

a類は29群の土器との関連が考えられ、S X3を中心に出土（第132図）。

43群 その他の後期土器（第254図 3384・3405等）

後期の土器と考えられるその他の土器を一括。遺構出土の土器で小破片のため分類不能なものもここに含めた。3384は7F区IV層出土。土器につく環状の突起部か。鮮やかな朱色の塗彩痕が残る。3405は7F区出土の口縁部破片。隆起と沈線で施文。特異な器形の土器である。

44群 無文系の土器（第255・256図）

a類 地文が繩文で口縁部に無文帯をもつ深鉢

a1類 幅の狭い無文部がやや肥厚するもの（3412）

a2類 幅広の無文部が外傾または外反するもの（3413～3417）

a3類 口縁部の無文帯に1本の横位隆起線が巡るもの

b類 肥厚した縁部をもつ深鉢

c類 その他の無文系深鉢（3407・3410・3411）

d類 無文の鉢形土器（3408）

a1類は中期末の土器と考えられる。a3類については、口縁部の隆起線以外はほぼa2類と同形態であるので本群に含めた。b類の復元個体はS X3出土の1658～1664。

45群 晩期の土器（第254図3396～3398）

3396は7G区IVa層出土。口縁端部に2条の連続刺突文。器面内外の調整痕や胎土等から晩期の土器と推定。3397は7E区出土。波状口縁の深鉢で安行3c式に比定か。沈線文と列点文で施文。7H区出土の3398は浮線文系の土器の口縁部破片。

第4節 土偶・土製品

土偶

120点の土偶破片が出土し、そのうち107点を図示した。そのほとんどは、西側斜面「捨て場」からの出土である。出土状況などからその使用法等がうかがえるものはなかったが、「捨て場」での出土量の多さはその使用方法等を示唆しているのかもしれない。頭部、胴部、脚部、腕部などの部分破片が多く完形品と呼べるものはないが、一部全体像が推測できるものもある。破片数は丹生川村の西田遺跡を超えて、飛驒地方の発掘調査で出土した土偶としては最多であろう。

土器の文様や施文方法が土偶にも使用される。特に、24群土器に対応する土偶は、今回の発掘調査でその様相が次第に明らかになってきたといえる。土器同様に当方が東西文化の接点であることにについては、本遺跡出土の多様な土偶のあり方が物語っている。同時に、交流の中から当地域独自の個性が開花していることを、これらの土偶の中からも読み取ることができる。なお、赤色顔料の付着が確認できたものについては、その都度記した。以下分類しながら記述する。

I群 沈線で曲線文様を描き、胴部はぶ厚い。脚部は一本足となる。(第257・258図)

沈線は大きく2種類あり、幅3mm程度の比較的太いものと1mm程の細沈線のものである。胴部には正中線が描かれる。腕は横に短く開く。臀部が突出するいわゆる「でっちらり」タイプのものがある。3418は、黒色を呈しその間に赤色顔料の痕跡が認められる。漆等を使用して赤色塗彩されていたものと思われる。右腕はSB33P4、左腕はSB33下層よりそれぞれ出土し、7H区IV層出土の胸部破片3点と接合した。3419は頭部。頭頂部は窪む。背面は髪型の表現か。3420は半截竹管文で描かれ、本群の中では異系統のものか。3422は臀部から脚部に至る部分で臀部がやや突出気味である。粘土芯が観察できる。3421から3427は細沈線で曲線文様を描く小型の胴部。2430の腕部は翼状で上向きである。3431から3438は脚部。3431から3437は1本足のタイプである。頭部や胴部と同様の沈線で施文する。3438は1本足ではあるが2本足を意識した形態となる。赤色顔料痕あり。3431は芯材の抜け痕が認められる。

II群 板状の胴部。沈線による曲線文様を施すもの。(第259図3439・3441・3444・3447)

正中線を持つ。3439は正中線を持ち、曲線的な脇腹文様（いわゆる「プラ文」）を持つ。頭部との切断面から「ソケット」状の接合形態か。3431は背中に沈線で「藤手文」を描く。3441・3444には、沈線内に赤色顔料が残る。

III群 板状の胴部。脇文様に類似性のあるもの。(第260図)

比較的小型の胴部が多い。脇文様はII群やIV群のものとの関連が考えられる。腕部は3453のように「ばんざい」形となる可能性が高い。3453は楕円区画文を持つ。脚部は破断面から開いて2本足となることが予想される。表裏の沈線内に赤色顔料痕。3455も同形態。背中に凹線が縱走する。3454・3456・3457は脇文様内に矢羽根文様を充填。3459・3460は沈線で方形区画を描く。3458は文様が確認できないが腰部が反り気味である。

IV群 頭部に貫通孔を持つ板状土偶 (第262図・第263図3463~3466・3468・第264図3469~3473・第259図3449・3450)

第262図3462に代表されるものを一括した。胴部形態は不明でも、3462の頭部が貫通孔を持つことから貫通孔のある頭部は本群に置いた。

3462は、頭部と胴部が接合した土偶。頭部に貫通孔を持つ。胴部表裏に「藤手文」を施す。眉と鼻部分を隆帯で描く。頭部は矢羽根状沈線文と刺突で表現される。髪型の表現か。頭部は胴部に対し上向きである。肩から首・頭部にかけて3本の沈線が引かれる。胴部表裏の左右には方形区画状の沈線文を持つ。この文様形態はIII群の脇文様に系譜が求められるものかもしれないが詳細は不明。3462の土偶の特徴をもとに共通要素を持ったものを本群に置いた。

第263図3463は粘土紐を撲るようにして頭部を形成する。髪型を表したものか。3462同様、眉と鼻を隆帯で表現。首には肩からの沈線が僅かにうかがえる。3464はその胎土から3463の胴部と思われる。方形区画状文様がある。3468も3462と共に通する文様を持つ。3468の胸部の様相から3462も同様に「ばんざい」形となると思われる。3468の残存する腕部には貫通した孔と、その下に未完通の孔痕2カ所確認でき注目される。孔痕は、表裏両面にあり双方から開けようとしたと考えられる。3465・3466・3469から3473の頭部は全て貫通孔を持つ。3465・3469・3472・3473には肩から首への沈線文が確認できる。3465・3469は首からの沈線は確認できないが、後頭部の沈線文には共通した雰囲気がうかがえる。3465・3469の切断面は「ソケット状」接合か。3469は3463と同様に粘土紐を撲るような頭部。3470は顔の部分表現がない。3472も鼻のみが表現される。首部の沈線内に赤色顔料が残る。

なお、この板状の土偶の脚部形態は類例などからO脚形となるタイプが想定される。第259図3449・3450は腰部分。3468の腰部分と共に通する。

V群 そのほかの板状土偶 (第259図3440・3442~3446・3448・3451・3452)

IIIまたはIV群に含まれると思われるもの。文様が不明なものを一括した。3440は3430と同様の翼状の形態。3452は胴部が不明。3445・3446は細沈線で施文。

VI群 矢羽根状沈線文を持つ立像土偶 (第261図3461・第265図3480・3481・3482)

3461を代表とする。矢羽根状沈線文の施文形態等から後述する脚部などにも本群のものと思われる破片がいくつかある。脚部では隆帯で区画し、その内側を矢羽根状沈線で充填する。隆帯上には刺突列。腰部は第263図3468にも共通し、IV群板状土偶との関連性が注目される。胴部は板状ではない。3480は腰部隆帯上に刺突が見られる。24群土器の様相に類似。3481・3482も腰部か。3481は7K P200

出土である。

V群 脚部（第264図3474～第266図）

形態・文様によって以下のように細分する。

- a類 2本足ではあるが短足で1本足の様相を残しているもの（3474～3476）
- b類 脚の形態は不明だが縦沈線が施されるもの（3477～3479・3488・3490・3491・3496）
- c類 矢羽根状沈線文をもつもの（3483～3487・3489・3493・3495）

VI群の脚部に相当すると考えられる。本群b類も類似のタイプかもしれない。3483はSK61より、3486はSB25よりそれぞれ出土した。3489には分割塊接合面が見られる。

- d類 足のつま先が外側を向くもの（3492～3494）

3492は3489と類似する細沈線が脚部に観察される。断面三角形状の貼付隆帯が特徴的で類似する土器文様は29群にある。3493は本群c類の文様と同じであるが、形態から本群に置いた。つま先の方向で形態差が想定できるかは不明。3494は無文である。

- e類 その他の脚部（3497～3501）

3497は本群b類またはc・d類に置くべきものか。3466の胎土に類似。3498～3501は無文である。後期の土偶の脚部と思われる。

Ⅵ群 腕部（第267図・第268図3415～3522）

板状土偶のものと思われるものが主体である。先端部が尖る形態のものが多い。翼状になるものもある。3511～3514には梢円区画が施される。24群の土器文様と共に通する。3506や3507の細沈線は3489のものと共に通する雰囲気を持つ。3507はSB38の覆土最上層より出土した。3522は腕部が不明。

Ⅷ群 その他（第263図3467・第268図35236・3524）

いずれも頭部を想定して図示した。3467は破損している。内部は空洞。3523や3524については、当初土器突起を想定していたが、類似するもの見あたらずやむなく本群に位置づけたものである。3523は押し引き沈線文を持つ。両者は首部に相当する箇所に類似する沈線を持つことや円形刺突を持つことが共通する。

土製品（第269図）

3525から3528は「有孔土製品」である。貫通孔がある。3525はSB10の覆土中より出土したものである。3527の孔は貫通が確認できない。平面形は、梢円形または隅丸方形を呈す。3525・3526・3528は渦巻きまたは同心円状の沈線に沿って刺突を施す。3529は「三角柱形土製品」と考えられる破片。1面は無文。

3531・3532は「タカラガイ形土製品」である。同土製品については、本遺跡の出土例が全国で6例目である（徳田2000）。3531は胎土色灰白色。縦に細い沈線を施し、細沈線で刻む。貫通孔を持つ。沈線を施す面は扁平。孔に擦痕は確認できない。類例などからタカラガイを模したものと考えられる。

第5節 遺構外出土の石器

遺構外及び包含層から出土した石器類の総数は15,057点である。器種別内訳として剥片石器は、石鏃890点、石錐251点、両極石器164点、石匙14点、スクレイパー 86点、異形石器5点、R F 142点、U F 211点、石核167点など1,930点を数えた。石材は下呂石888点、チャート750点、黒曜石237点、玉髓38点、頁岩4点、石英3点、鉄石英2点、安山岩3点、粘板岩2点、凝灰岩1点、片岩1点、緑色片岩1点である。フレーク類は11,718点(51,098 g)が出土した。石材は、下呂石4,723点(14,730 g)、チャート4,586点(2,3140 g)、黒曜石1,683点(2,480 g)、玉髓477点(1,200 g)、その他の石材249点(9,548 g)である。これ以外の石器として石錐53点、横刃形石器35点、打製石斧843点、磨製石斧182点、磨石類232点、石皿26点、砥石10点、石製品28点が出土したが、石材については器種別に記述する。

石鏃 (第270・271図 3534~3627)

石鏃は欠損品を含め890点が出土している。石材の内訳は下呂石514点、チャート209点、黒曜石155点、玉髓8点、石英1点、頁岩1点、その他2点である。完形品は312点であった。欠損品は578点を数えた。欠損品を部位別にみると、先端部欠損が135点(15.2%)、脚部欠損が364点(40.9%)、両方を欠損した石鏃は68点(7.6%)、その他が11点である。分類は尖頭部と基部の形状で分けた。

尖頭部

1類 先端が鋭角なもの

2類 1類と同じく鋭角な尖頭部を持ち、

全長が全幅の2倍以上のもの

3類 鈍角な尖頭部を持つもの

4類 先端が鋭角で側縁部に膨らみのあるもの

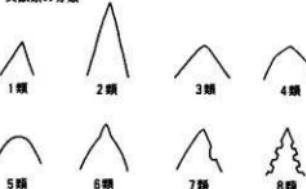
5類 先端が尖らず、丸いカーブを描くもの

6類 先端が小さく尖り出しているもの

7類 側縁部に抉りがあるもの

8類 側縁部が鋸歯状のもの

尖頭部の分類



基部

A類 基部の中央部がU字型に抉られるもの

B類 基部の凹状の抉りが浅いもの

C類 基部が凹状のもの

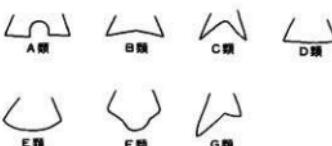
D類 基部が直線状になるもの

E類 基部が丸みを帯びるもの

F類 基部に茎を持つもの

G類 脚部が片方のみか極端に短いもの

基部の分類



第36図 石鏃の分類

石錐（第272・273図 3628～3668）

石錐は欠損品を含め251点が出土している。石材の内訳は下呂石82点、チャート126点、黒曜石30点、玉髓10点、頁岩1点、鉄石英2点である。形状と錐部・頭部の様子から次のように分類した。



第37図 石錐の分類

1A類	全体が棒状で両端が尖るもの	11点
1B類	全体が棒状で錐部が一端のみに作られるもの	13点
2A類	剥片の一端に長い錐部やつまみ状の頭部を持ち、全面に調整が施されたもの	16点
2B類	剥片の一端に長い錐部を持ち、頭部は剥片の形状を残すもの	46点
3A類	錐部が短くつまみ状の頭部を持ち、全面に加工が施されたもの	6点
3B類	錐部は短く、頭部は剥片の形状を残すもの	21点
4A類	錐部と頭部の区分が不明瞭で、両面もしくは片面の全体に調整が施されたもの	25点
4B類	錐部と頭部の区分が不明瞭で、錐部に調整が施されたもの	79点
5類	棒状あるいは三角形状の剥片の先端に微弱な調整を加えて使用したもの	26点
6類	全体が菱形で両端が尖るもの	7点

クサビ形石器（第273図 3669～3686）

向かい合った二刃ないし四刃の側辺部に剥離痕やつぶれが認められる石器をクサビ形石器とした。総数は164点である。石材の内訳は下呂石97点（59.1%）、チャート52点（31.7%）、黒曜石4点（2.4%）、玉髓9点（5.5%）、片岩1点、泥岩1点である。剥離痕のある部位と形状により3つに分類した。

1類	縦長で縦に一对の剥離痕が見られるもの	27点
2類	1類以外で1対の剥離痕が見られるもの	101点
3類	2対以上の複合的な剥離痕が見られるもの	36点

石匙（第274図 3687～3694）

石匙は14点が出土した。石材の内訳は下呂石5点、チャート5点、黒曜石1点、緑色片岩1点、片岩1点、頁岩1点である。縦型石匙は6点、横型石匙4点、欠損して不明なものが4点である。

第8表 スクレイパーの分類別出土点数

スクレイパー（第274図 3695～3706）

剥片の側辺に連続的な調整を施した石器をスクレイパーとした。総数は86点である。石材の内訳はチャート62点（72.1%）、下呂石13点（15.1%）、黒曜石8点（9.3%）、玉髓1点、頁岩2点である。

	A類	B類	C類	D類	合計
1類	22	6	40	5	73
2類	7	3	3	0	13
合計	29	9	43	5	86

刃部の作出方法により次のように分類した。

刃部の角度

1類 刃部に連続的な調整を施した石器 2類 刃部を急角度に調整した石器

刃部の調整

A類 片面のみに加工が施されたもの

C類 両面加工が施されたもの

B類 片面加工と両面加工が施されたもの

D類 刃部の全周に加工が施されたもの

異形石器（第275図 3707～3710）

欠損のため一部分ではあるが形状の異質なものを異形石器とした。出土数は5点で、石材は全てチャートである。

R F・U F（第275図 3711～3716）

剥片の側辺に二次加工として連続した剥離調整を施したものを作成した。総数は142点である。石材の内訳はチャート90点、下呂石35点、黒曜石14点、玉髓2点、凝灰岩1点である。また、剥片の側辺部に微細な剥離や不規則な剥離など使用痕のある剥片を作成した。その総数は211点で、石材の内訳はチャート119点、下呂石71点、黒曜石12点、玉髓9点である。

第9表 石核に残る打痕数

石核（第275図 3717～3721）

石核は167点が出土した。石材の内訳は下呂石73点（43.7%）、チャート67点（40.1%）、黒曜石18点（10.7%）、玉髓9点（5.4%）である。

また、石材に残っていた打痕の数は第9表の通りである。

打痕	点数	打痕	点数
1	24	6	10
2	39	7	6
3	37	8	3
4	34	9	2
5	12	10	0

石錘（第276図 3722～3745）

石錘は53点が出土している。石材の内訳は粘板岩22点、凝灰岩13点、砂岩5点、泥岩1点、緑色片岩1点、その他11点である。分類は切目石錘・有溝石錘を1類、疊石錘を2類と分け、1類が33点と2類が20点であった。

石製品（第276・277図 3746～3763）

石製品には石棒・石刀・石剣のほか石飾りなどがある。石棒は13点、石刀は2点、石剣は3点が出土したが全て破片である。石材は泥岩6点、粘板岩6点、片岩5点、緑色岩1点である。3760はミニチュアの石棒である。また、石飾りは10点が出土している。そのうち孔のあるものが4点で、他は孔はないが形状や擦痕で石製品とした。石材は滑石3点、泥岩3点、蛇紋岩4点である。

砥石（第277図 3764～3766）

砥石は10点が出土している。石材は全て砂岩である。

横刃形石器（第277図 3767～3776）

横刃形石器は35点が出土している。石材は凝灰岩17点、砂岩10点、玄武岩4点、濃飛流紋岩3点、ディサイト1点である。製品の最も軽いものは10g、最も重いものは194gである。20~80gの製品が77.1%を占めている。

打製石斧 (第278図 3777~3792)

打製石斧の総数は欠損品を含め843点が出土している。欠損品は517点である。

磨製石斧 (第279図 3793~3814)

磨製石斧は欠損品を含め総数で182点が出土している。頭部を欠損するものが36点、刃部を欠損するものが61点、両方を欠損するものが23点、その他が62点である。石材の内訳は蛇紋岩134点(73.6%)、砂岩17点(9.3%)、凝灰岩7点、粘板岩5点、泥岩1点、翡翠1点、その他17点である。形状と大きさにより次のように分類した。

第10表 磨製石斧の分類別出土点数

形状	大きさ
1類 台形	A類 大型 (12cm以上)
2類 短骨形	B類 中型 (6~12cm)
3類 乳棒状	C類 小型 (6cm未満)
4類 脊張り形	

	A類	B類	C類	不明	合計
1類	11	46	10	7	74
2類	14	19	8	1	42
3類	0	3	0	1	4
4類	3	5	3	2	13
5類	1	8	2	38	49
合計	29	81	23	49	182

磨石類 (第280・281図 3815~3833・3836)

この石器は、窪みや擦り面・敲打痕などの複数の使用痕がみられるものが多く、機能も多様であると考えるため凹石や磨石、叩き石を磨石類とした。磨石類の総数は、欠損品を含め232点が出土している。石材は砂岩110点(47.4%)、凝灰岩87点(41.8%)、花崗岩30点(12.9%)、粘板岩1点、不明4点である。欠損した磨石類は90点(38.8%)を数える。平面形と断面形によって分類する。

平面形

- 1類 平面形が円形のもの
- 2類 平面形が梢円形のもの
- 3類 平面形が方形のもの
- 4類 平面形が三角形のもの
- 1~4類は断面形を3つに細分した

- A類 断面が円形のもの
- B類 断面が梢円形のもの
- C類 断面が方形のもの

- 5類 角柱状や円柱状の自然縫を用いたもので、断面は多角形のもの

第11表 磨石類の分類別出土点数

	A類	B類	C類	欠損	合計
1類	6	23	0	0	29
2類	8	81	14	8	111
3類	0	0	10	0	10
4類	2	16	3	4	25
5類		20		1	21
不明	1	8	3	24	36
合計					232

石皿 (第281図 3834・3835・3837・3838)

石皿は、26点出土している。ほぼ完形のものが1点あるが、あとは全て欠損している。また、側面に刻文を施した石皿は3点である。石材は、凝灰岩19点(73%) 安山岩5点(19%) 砂岩2点である。

第6節 自然遺物

渡辺 誠

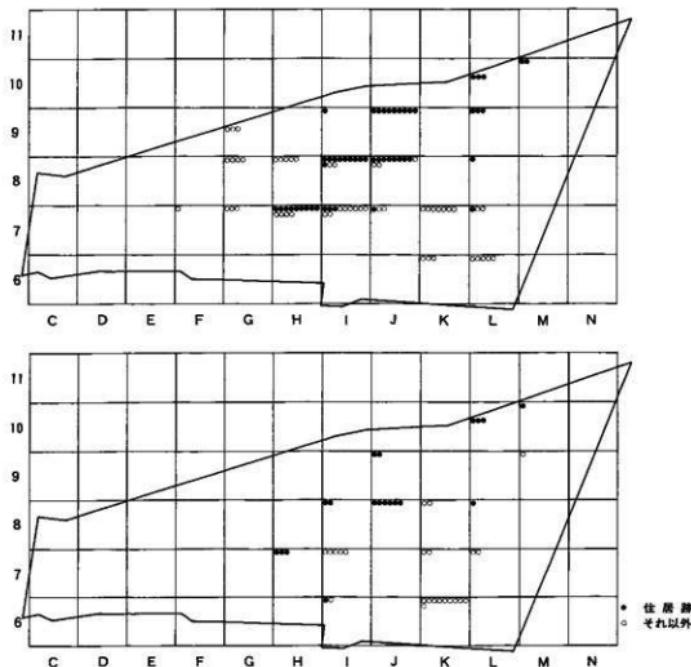
(1) 資料の概要

岐阜県文化財保護センターより調査の機会を与えられた自然遺物は、同県大野郡丹生川村岩垣内遺跡より1998年に発掘されたものである。資料には動物遺体と植物遺体が含まれ、第12・13表に示すように動物遺体は102件、植物遺体は46件である。

動物遺体はいずれも焼けた細片であり、種・部位の判明するものはきわめて少ない。しかし、その中には4点の骨角製品が含まれていて、骨角製品出土の少ない飛驒地方においては貴重な資料である。

遺跡の主体となる時期は縄文中期後半から後期中葉であり、自然遺物の時期も同様と考えられる。

遺跡の構成は、住居跡と広場の東半と捨て場の西半とに分かれるが、その境界はほぼH列とI列との間であり、植物遺体は後者の地区からは出土していない（第38図）。



第38図 動物遺体（上）と植物遺体（下）の分布図

第12表 動物遺体一覧表

第13表 植物遺体一覧表

No	出土場所	遺物番号	時期	オニグルミ	クリ	コナラ属	トチノキ	木炭
1	SB2	SK1	-27	後期前	○			
2	SB5	6028	中期後	○				
3	SB5		-24	中期後	○			
4	SB5	P5	-2	中期後	○			
5	SB8	P1	-1	後期前	○			
6	SB9		-21	後期前	○			
7	SB9	6020	後期中	○				
8	SB9	6022	後期中	○				
9	SB9	6023	後期中	○				
10	SB9	7213	後期中	○				
11	SB10		-34	中期後	○			
12	SB15	P1	-1	中期後	○			
13	SB23	P2	-4	後期前			○	
14	SB24	P4	-3	後期前	○			
15	SB26		-18	中期後			○	
16	SB28	SK	-9	後期前	○		○	
17	SB32	SK1	-2	後期前		○	○	
18	SB33	P8	9887	後期前		○		
19	SB33	P8	9888	後期前		○		
20	SB33	P1	-1	後期前	○			
21	SB34	P6	-2	中期後			○	
22	SB34		-20	中期後	○			
23	SX2		-22	後期中	○			
24	SK22 (6K)		-1	後期前			○	
25	SK28 (8K)		-1	後期前	○			
26	SK36 (6K)		-7	後期前		○	○	
27	SK37 (6K)		-6	後期前			○	
28	SK41 (6K)		-7	後期前	○			
29	SK43 (6K)		-5	後期前		○	○	
30	SK52 (7K)		-8	後期中	○		○	
31	SK53 (6K)		-3	不明		○		
32	SK55 (7K)		-4	後期前	○			
33	SK57 (6K)		-2	後期前		○	○	
34	SK58 (6K)		-2	後期前		○	○	
35	SK62 (9M)		-1	後期前			○	
36	SK64 (7L)		-10	後期前	○			
37	SK92 (7I)		-37	後期前	○		○	
38	SK101 (7I)		-17	後期前	○		○	
39	SK106 (SB36)		-3	後期前		○		
40	SK114 (7I)		-11	後期前	○			
41	SK118 (SB27)		-12	後期前	○			
42	6IP25		-3	後期前	○			
43	6KP26		-1	不明		○		
44	6KP52		-1	不明		○		
45	6KP55		-1	不明		○	○	
46	7KP36		-1	不明		○		

第14表 植物遺体種別一覧表

種	No	出土地点	遺物番号	時期	重量(g)	回収番号
オニグルミ	2	SB5	6028	中期後	1.07	2-1
オニグルミ	3	SB5		中期後	2.72	同2
オニグルミ	4	SB5	P5	-2	中期後	0.25
オニグルミ	11	SB10		-34	中期後	0.31
オニグルミ	22	SB34		-20	中期後	0.34
クリ	1	SB2	SK1	-27	後期前	0.17
クリ	5	SB8	P1	-1	後期前	1.59
クリ	6	SB9		-21	後期前	0.19
クリ	14	SB24	P4	-3	後期前	0.22
クリ	16	SB28	SK	-9	後期前	0.31
クリ	28	SK41 (6K)		-7	後期前	0.85
クリ	32	SK55 (7K)		-4	後期前	0.16
クリ	36	SK64 (7L)		-10	後期前	0.18
クリ	40	SK114 (7I)		-11	後期前	0.36
クリ	41	SK118 (SB27)		-12	後期前	0.27
クリ	42	6IP25		-3	後期前	1.43
クリ	7	SB9		6020	後期中	1.66
クリ	8	SB9		6022	後期中	0.45
クリ	9	SB9		6023	後期中	1.06
クリ	10	SB9		7213	後期中	0.64
クリ	23	SX2		22	後期中	0.59
計					14.82	
タケ	12	SB15	P1	-1	中期後	0.52
タケ	20	SB33	P1	-1	後期前	0.22
タケ	25	SK28	8K	-1	後期前	0.24
タケ	37	SK92 (7I)		-37	後期前	10.85
タケ	38	SK101 (7I)		-17	後期前	12.45
タケ	30	SK52 (7K)		-8	後期中	0.42
計					24.70	
コナラ属	17	SB32	SK1	-2	後期前	0.30
コナラ属	18	SB33	P8	9887	後期前	0.24
コナラ属	19	SB33	P8	9888	後期前	0.28
コナラ属	39	SK106 (SB36)		-3	後期前	0.81
計					1.63	
トチノキ	16	SB28	SK	-2	後期前	1.42
トチノキ	17	SB32	SK1	-7	後期前	0.71
トチノキ	26	SK36 (6K)	-6	後期前	10.41	
トチノキ	27	SK37 (6K)	-5	後期前	1.76	
トチノキ	29	SK43 (6K)	-2	後期前	16.18	
トチノキ	33	SK57 (6K)	-2	後期前	3.94	
トチノキ	34	SK58 (6K)	-3	後期前	2.00	
トチノキ	31	SK53 (6K)	-1	不明	1.75	
トチノキ	43	6KP26		-1	不明	0.96
トチノキ	44	6KP52		-1	不明	5.41
トチノキ	45	6KP55		-1	不明	9.24
トチノキ	46	7KP36		-1	不明	0.49
計					54.27	

(2) 骨角製品 (第15表・図版1-1~4)

4点出土した。このうち3点は、鹿角(1)または種不明の管状骨(2・3)をタテに裂いて平滑にし、骨針状に加工されている。しかし、頭部を欠き確定できない。いずれも第31号住居跡(SB31)より出土しているが、このうち2と3は材質が同じでサイズも類似しており、同一個体である可能性がある。住居の時期は中期末である。

4は断面が半円形を呈し、形態を異にしている。種不明の管状骨で作られている。時期は不詳である。

第15表 骨角製品一覧表

	No	出土地点	遺物番号	時期	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	図版番号
1	28	SB31	10902	中期後	鹿角	(10.4)	1.2	0.6	1-1
2	28	SB31	10902	中期後	管状骨	(6.6)	0.9	0.5	同2
3	29	SB31	10904	中期後	管状骨	(4.5)	0.9	0.4	同3
4	100	7J	一括	-	管状骨	(2.4)	1.0	0.5	同4

(3) 動物遺体 (第12・16表・図版1-5~17)

判明した動物遺体は、次の哺乳類2種である。種・部位は不明でも、その他の貝類・魚類・鳥類などを示唆するものはまったくみられなかった。

1. イノシシ *Sus scrofa leucomystax* Temmink

2. ホンシュウジカ *Servus nippon nippon* Temmink

それらの部位は、第16表に示すとおりである。

第16表 動物遺体種別一覧表

種名	No	出土地点	遺物番号	時期	部位	図版番号
イノシシ	27	SB31	10901	中期後	右下顎骨・M ₁ 付近	1-5
	47	SB41 (SX1)	104	後期前	中足骨遠位端	同6
	51	SX3	一括	後期前	中足骨遠位端	同7
	9	SB9	5278	後期中	右下顎骨・P ₃ 付近	同8
	60	SK54 (7K)	-4	-	下顎骨前部・左I ₁ 付近	同9
	60	SK54 (7K)	-4	-	顎骨・M ₂ 付近	同10
	60	SK54 (7K)	-4	-	M齒冠	同11
	87	8H (IV)	13702	-	左尺骨近位端	同12
	102	6I	一括	-	下顎骨前部・左右I ₁ 付近	同13
シカ	45	SB40	一括	中期後	指節骨	-
	66	SK118 (SB27)	-13	後期前	右橈骨遠位端	同14
	52	SX3	11330	後期前	中手または中足骨遠位端	同15
	33	SB32 (P2)	-4	後期前	左距骨	同16
	91	8G (IV)	6690	-	左距骨	同17

(4) 植物遺体の種類（第13・14・17表・図版2）

判明した植物遺体は、次の4種の種子類である。

1. くるみ科オニグルミ *Juglans mandshurica* subsp. *Sieboldiana* MAXIM.
2. ぶな科クリ *Castanea crenata* Sieb et Zucc.
3. ぶな科コナラ属 *Quercus* sp.
4. とちのき科トチノキ *Aesculus trubinata* Blume

それらの数量は第14表に示すとおりである。貯蔵穴などの特別な出土状態はみられなかった。

4種のうちドングリ類であるコナラ属のみは、西南日本の照葉樹林帯にも種を異にして分布するが、東北日本の落葉広葉樹林帯の代表的な樹木であり、縄文時代の大変な食料資源であった。クリは甘みがありすぐ食べることができ、縄文早期より食されている。これに対しオニグルミは、一定期間乾燥させる必要があるが、旧石器時代後期より食されている。

ドングリ類の大部分、特に東北日本を主に分布する種類（クヌギ・ナラ類など）は、アク抜きをしないと食べられない。そして、近年の研究では縄文草創期より食されているのであり、そのアク抜きのために縄文土器が発達したと考えられるようになった。

また、トチの実はアク抜きはドングリ類より難しく、その技術が習得されて食用化できるようになつたのは縄文中期からである。以後現代に至るまで、程度の差こそあれ重要なデンブン源であった。飛驒地方においても、トチモチなどの郷土食として、その伝統が今日まで伝わっている。

それらの数量は、第14表に示すとおりである。またクリのサイズは、第17表に示すとおりで、特に大きくなはない。貯蔵穴からなどの特記すべき出土状態を示す例はない。

第17表 クリ計測値一覧表

	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
SK101 1	1.59	1.80	1.24	0.74
同 2	1.30	1.84	1.02	1.25
同 3	1.52	1.32	0.80	0.44
同 4	1.35	1.59	0.81	0.60
同 5	1.46	1.76	0.97	0.83
同 6	1.26	1.43	0.93	0.64
同 7	1.32	1.56	0.68	0.65
SK92	1.70	1.75	1.01	1.32
平均	1.44	1.63	0.93	0.81

(5) おわりに

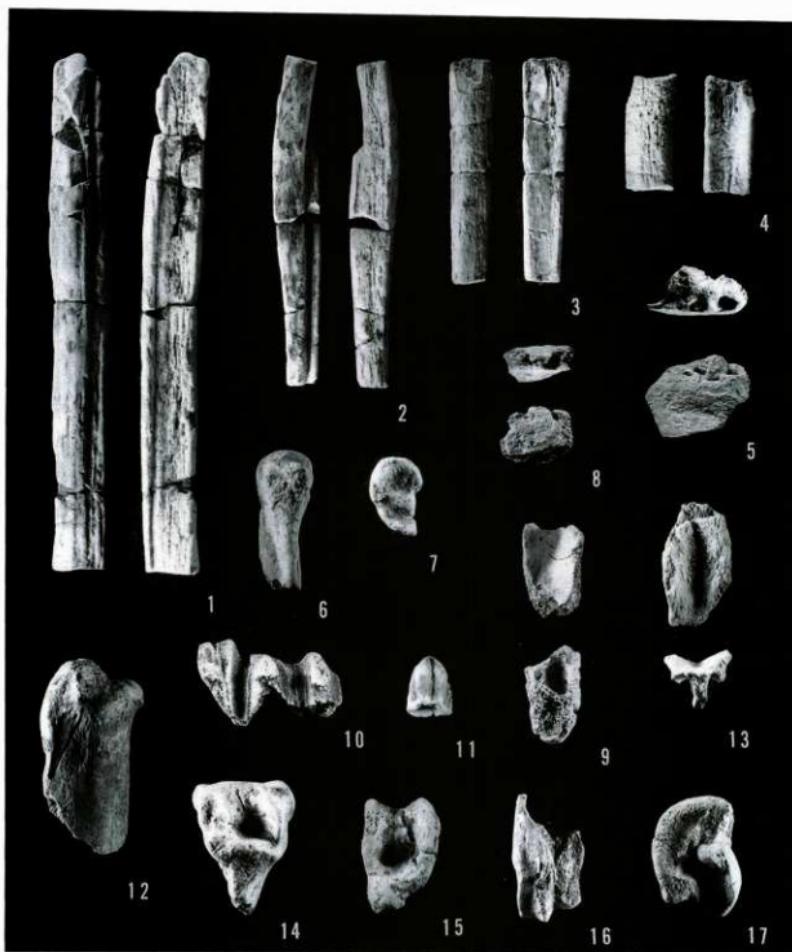
以上の植物遺体は、縄文時代の重要な食料資源であった。特にトチやドングリ類は主食的な位置を占めていたし、クリやオニグルミもそれに準じる位置を占めていたのである。数量は少ないが、アク抜きなどの加工・調理に関連する遺構・遺物との関係を検討する上の重要な資料である。

また被焼した動物遺体は、食料としてばかりでなく、犠牲としての可能性も考慮しておく必要がある。はじめに記した空間的な分布状態の違いなどの問題は、今後さらに検討を深めていく必要があると考えられる。

謝 辞

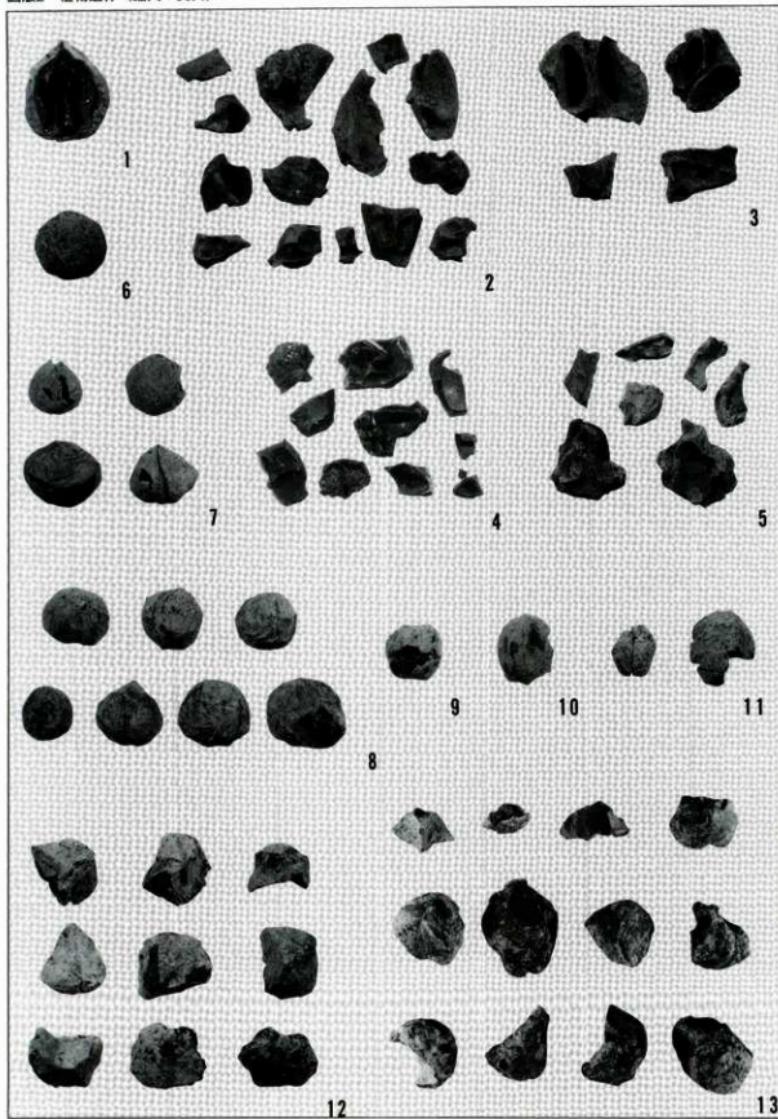
最後に、調査の機会を与えられ種々ご教示下さった岐阜県文化財保護センターの伊藤秀雄・上原真昭氏、および資料整理にご協力下さった名古屋大学文学部大学院学生の長田友也君に対し、末尾ながら明記して深謝の意を表する次第である。

図版1 骨角製品・動物遺体（縮尺：実大）



1~4:骨角製品、5~13:イノシシ、14~17:シカ（部位などは第16表参照）

図版2 植物遺体（縮尺：実大）



1~5: オニグルミ核、6~8: クリ子葉、9~11: コナラ属子葉、12・13: トチ子葉（出土地区などは第14表参照）

第4章 自然科学分析

放射性炭素年代測定

山形 秀樹 (パレオ・ラボ)

1. 放射性炭素年代測定について

試料は、アルカリ・酸処理を施して不純物を除去し、炭化処理をした後リチウムと混合して反応管内に入れ、真空ポンプで引きながら800°Cまで加熱して炭化リチウム（カーバイド）を生成後、加水分解によりアセチレンを生成した。

測定は、約一ヶ月放置した後、精製したアセチレンを比例計数管（400cc）を用いて、 β^- 線を計数して年代値を算出した。その結果は下記に示す。なお、年代値の算出には ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5,570年を使用した。また、付記した年代誤差は、計数値の標準偏差 σ に基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。試料の β^- 線計数率と自然計数率との差が 2σ 以下の時は、 3σ に相当する年代を下限の年代値として表示し、試料の β^- 線計数率と現在の標準炭素（Modern standard carbon）の計数率との差が 2σ 以下の時は、Modernと表示し、 $^{14}\text{C} (\text{Sample}) / ^{14}\text{C} (\text{Modern})$ の値を付記し、 $^{14}\text{C} (\text{Sample}) / ^{14}\text{C} (\text{Modern}) < 1$ であれば、yrBPの値を付記する。

曆年代の補正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された ^{14}C 年代値（yrBP）に対し、過去の宇宙線強度の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動および半減期の違い（ ^{14}C の半減期5,730±30年）を補正して、より正確な年代を求めるものであり、具体的には年代既知の樹木年輪の ^{14}C 年代の詳細な測定値を用いて補正曲線を作成し、これを用いて曆年代を算出する。補正曆年代の算出にCALIB3.0 [Stuiver and Reimer, 1993 : IBM-PC用 : Reference (Stuiver & Pearson, 1993)]を使用した。なお、交点年代値は ^{14}C 年代値に相当する補正曲線上の年代値であり、 1σ 年代幅は ^{14}C 年代誤差に相当する補正曲線上の年代範囲を示す。年代を検討する場合は、68%の確率で 1σ 年代幅に示すいずれかの年代になる。曆年代の補正は約一万年前からAD1,950年までが有効であり、該当しないものについては補正曆年代を***またはModernと表示する。また、AD1,955*はModernを意味する。

2. 放射性炭素年代測定結果（第18表）

測定No.	試 料	^{14}C 年代値	補正曆年代	
			交点年代値	BC 2,910年
PLD-421	炭化材（クリ） IG SB5 炉	$4,300 \pm 110$ yrBP (BC 2,350年)	1σ 年代幅	BC 3,030 to 2,870
				BC 2,800 to 2,780
				BC 2,720 to 2,710
PLD-422	炭化材 IG SB9 T 6489	$3,430 \pm 100$ yrBP (BC 1,480年)	交点年代値	BC 1,740 / 1,710 / 1,700年
			1σ 年代幅	BC 1,880 to 1,610
PLD-423	炭化材 IG 8HIV T 6674	$5,500 \pm 120$ yrBP (BC 3,550年)	交点年代値	BC 4,350年
			1σ 年代幅	BC 4,460 to 4,240

引用文献

Stuiver, M. and Reimer, P.J. (1993) Extended ^{14}C database and revised CALIB3.0 ^{14}C Age Calibration Program.

土器表面付着赤色顔料の蛍光X線分析

藤根 久 (パレオ・ラボ)

1. 試料と方法

岩垣内遺跡では、赤色顔料が付着した縄文時代中期の有孔鍔付土器や後期の双耳壺等が出土した。ここでは、この赤色顔料の成分を調べるため、蛍光X線分析計を用いて定性分析した。

試料は、SB16から出土した土器（遺物No3948 第55図144）とSX3から出土した土器（遺物No4933 第129図1290）である。測定用試料は、土器表面にセロハンテープを接着し、赤色顔料を剥離した。

分析装置は、セイコー電子工業(株)製卓上型蛍光X線分析計SEA-2001Lである。X線発生部の管球はロジウム (Rh) ターゲット、ベリリウム (Be) 窓、X線検出器はSi (Li) 半導体検出器である。測定条件は、測定時間300秒、照射径10mm、電流 $8\mu\text{A}$ 、電圧50kV、試料室内は真空である。

結果は、各赤色顔料の蛍光X線スペクトル図を示し、各ピークのX線名称を示した。

2. 分析結果

第39図および第40図に各付着赤色顔料の蛍光X線スペクトルを示す。なお、ロジウム (Rh) のピークは、X線管球ターゲットに由来するピークであり、赤色顔料とは関係がない。いずれの赤色顔料も、主要元素としてアルミニウム (Al)、ケイ素 (Si)、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe) が検出され、特に鉄のピークは高い。また、微量に含まれる元素としてリン (P) やイオウ (S) が検出され、クロム (Cr) や銅 (Cu) あるいは亜鉛 (Zn) の各ピークも見られた。

3. 赤色顔料について

中期土器および後期土器の表面に付着した赤色顔料は、鉄 (Fe) のピークが高く検出され、水銀 (Hg) のピークが検出されることから、これら赤色顔料は鉄 (酸化鉄) からなるベンガラである。

従来、赤色顔料の種類として、水銀朱 (HgS)、ベンガラ (Fe2O3など)、鉛丹 (Pb3O4) などが知られている（たとえば、市毛, 1984）。水銀朱は、主成分が硫化第二水銀 (HgS) からなる辰砂 (Cinnabar) から磨り潰して作られる。

ベンガラは、赤色の由来となる主成分元素が鉄 (Fe) であるものを総称している。天然には、赤鉄鉱などの鉄鉱石やいわゆる赤土などを原料とする。あるいは、鉄分が多い土壤や褐鉄鉱、硫化鉄（磁硫鉄鉱: FeS、黄鉄鉱: FeS2）などを焼いたりするなど、種々の製法が考えられる（本田, 1995、北野, 1994など）。また、最近では、漆器下地の赤色顔料中に珪藻化石が含まれることから、沼沢地などの酸化鉄からなる赤色物を利用していたことが推定されている（岡田, 1997）。

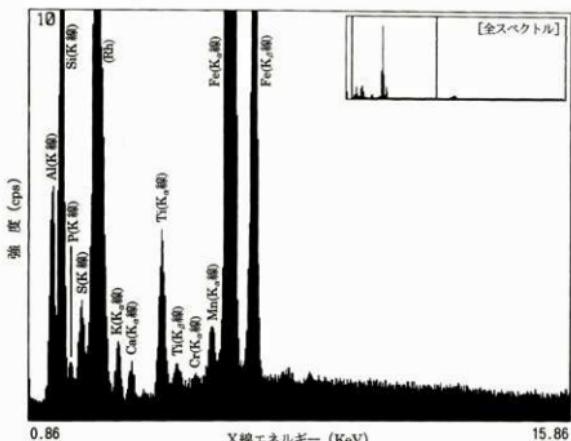
ここで検討した赤色顔料中にはイオウ (S) が明瞭に検出されていることから、硫化鉄起源と推定される。

引用文献

本田光子 (1995) 「古墳時代の赤色顔料」『考古学と自然科学』 31・32、63-79.

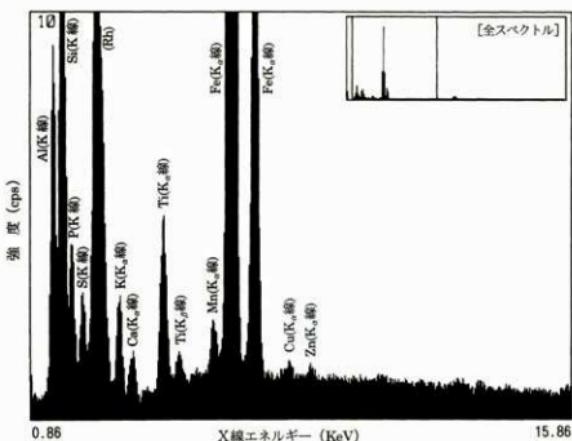
市毛 熊 (1984) 『増補 朱の考古学』 第2版 考古学選書12 (雄山閣出版) 324p.

- 北野信彦 (1994) 「近世出土漆器資料の保存処理に関する問題点Ⅱ—文献史料からみた赤色系漆に使用するベンガラの製法について—」『古文化財の科学』39、93-102。
- 岡田文男 (1997) 「パイプ状ベンガラ粒子の復元」『第14回大会研究発表要旨集』(日本文化財科学会) 38-39。



〔元素記号〕 Al:アルミニウム, Si:シリカ, P:リン, S:硫黄, K:カリウム, Ca:カルシウム, Ti:チタン, Cr:クロム, Mn:マンガン, Fe:鉄, (Rh):ロジウム(X線管球カーネットから)

第39図 岩垣内遺跡出土中期土器 (S B 16-3948) 付着赤色顔料の蛍光X線スペクトル図



〔元素記号〕 Al:アルミニウム, Si:シリカ, P:リン, S:硫黄, K:カリウム, Ca:カルシウム, Ti:チタン, Mn:マンガン, Fe:鉄, Cu:銅, Zn:亜鉛, (Rh):ロジウム(X線管球カーネットから)

第40図 岩垣内遺跡出土後期土器 (S X 3-4933) 付着赤色顔料の蛍光X線スペクトル図

岩垣内遺跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

1. はじめに

当遺跡は丹生川村板殿に所在し山間部の谷筋に位置し、縄文時代の集落跡が発掘された。ここでは考古遺物から縄文時代中期後葉と後期中葉の住居跡から出土した炭化材と、縄文時代中期以前と推定される焼土跡から出土した炭化材の樹種を報告する。当地域では縄文時代から人々が暮らしていたことは知られていたが、どのような木材を利用して生活していたか、その様子を知る手がかりとなる樹種同定調査の機会は少なかった。そこで、当遺跡から出土した試料は小さな破片が多くどのような目的で使われていたものか不明なものが多いとはいえ生活の場に身近にあったものであり、当地域の資料蓄積の一助としてまず樹種を明らかにする目的で同定を行った。

当遺跡では標高910mの谷奥部の平坦部で縄文時代中期から後期の集落跡が検出された。また、西側斜面には「捨て場」があり、様々な遺物が出土している。ここでは、縄文時代中期後葉（SB34・SB5・SB13）と後期中葉（SB9）の住居跡から採取した炭化材の樹種を明らかにした。また西側斜面「捨て場」のさらに下層から見つかった焼土跡は層厚が約20cmもあり、20m以上にわたり帯状に分布していた。焼土跡の広範囲から出土した炭化材についても樹種同定を行った。

2. 炭化材樹種同定の方法

アカガシ亜属・コナラ節・クヌギ節・クリは横断面の管孔配列が特徴的であり、実体顕微鏡下の観察で同定可能であるが、それ以外の分類群については3方向の破断面（横断面・接線断面・放射断面）を走査電子顕微鏡で観察し同定を決定している。また上記の分類群であっても、年輪幅の狭いぬか目や逆に年輪幅の広い試料などは実体顕微鏡下では誤同定の恐れがあるので、このような試料については走査電子顕微鏡で確認した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大ささに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製 JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。

3. 結果

同定結果の一覧を第19表に示した。以下に遺構ごとの同定結果を記す。

縄文時代中期後葉の住居跡SB34から出土した炭化材はクリ・コナラ節・サクラ属であった。同じく中期後葉の住居跡SB5の2地点とピット（P3）から採取された炭化材はすべてクリであり、炉から採取された炭化材からはクリとウコギ属が検出されいずれも直径2cm以下の細枝であった。中期後葉の住居跡SB13から出土した炭化材はカエデ属であった。焼土跡の68地点から採取された炭化材は7387番がケヤキで、あとはすべてコナラ属の根材であった。ケヤキの炭化材は断面が約1.7cmの破片であったのに対し、コナラ属の根材は直径0.5~3cmの丸木状のものがほとんどである。コナラ属の根と同定した炭化材のはほとんどは硬く、実体顕微鏡で横断面を見ると細胞が融合しておりタールを流したように黒光していることから、高熱を長時間にわたり被熱していたと想像される。なお根材とした根柢は、組織学的にはコナラ属の幹・枝材の中心部には星型の髓があり（これは炭化材でも認められる）が根材には髓が形成されない点や年輪界が不明瞭であり中心部が偏在しているなどの点から、外

形的にはやや偏平であったり真っ直ぐではなくねじれやうねりが見られることから根材と判断した。

以下に同定された分類群の材組織の観察結果を記載する。

1) ヒノキ属 *Chamaecyparis* ヒノキ科 図版3 1a.-1c. (6490)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部の量は非常に少ない。分野壁孔の輪郭は丸く、孔口は斜めに傾いた梢円形に開いており、ヒノキ型であることが観察された。ヒノキまたはサワラと思われるが識別できなかった。

ヒノキ属は本州の福島県以南・四国・九州の山中のやや乾燥した尾根や岩上に生育するヒノキと、ヒノキより分布域は狭く東北南部から中部地方の沢沿いの岩上に生育するサワラがある。材は耐朽性・切削性・割裂性にすぐれる。

2) コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus* subgen. *Prinus* ブナ科 図版3 2a.-2c. (SB34南)

年輪の始めに大型の管孔が配列し除々に径を減じ、晩材部では薄壁・角形で小型の管孔が火炎状・放射方向に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は單一、内腔にチロースがある。放射組織は単列のものと幅の広い集合放射組織があり、道管との壁孔は交互状や柵状である。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木で、カシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。材は加工はややにくく乾燥すると集合放射組織の部分から割れや狂いが出やすい欠点がある。

3) コナラ属 根材 *Quercus* root ブナ科 図版3 3a.-3b. (7369) 4. (7359)

大型から中型の管孔が密に分布する中に小型や非常に小型の管孔が点在しており、試料によっては放射状に配列しているもの見られた。年輪界は不明、集合放射組織がある。道管の壁孔は交互状、穿孔は單一、内腔にはチロースがある。道管と放射組織との壁孔は、大きくて交互状や柵状である。中心部に髓は無い。

4) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版4 5a.-5c. (7287)

年輪の始めに中型の管孔が隣接して配列し除々に径を減じてゆき、晩材部では極めて小型の管孔が火炎状に配列し、柔組織が接線状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は單一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。材は加工はやや困難であるが狂いは少なく粘りがあり耐朽性にすぐれている。

5) ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版4 6a.-6c. (7387)

年輪の始めに大型の管孔が1~2層配列し、晩材部は小型の管孔が多数集合して接線状・斜状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は單一、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、1~5細胞幅の紡錘形、上下端や縁に結晶細胞があり、道管との壁孔は交互状である。

ケヤキは暖帯下部から温帯の山中や川岸に生育する落葉高木である。材質は堅い。

6) サクラ属 *Prunus* バラ科 図版4 7a.-7c. (SB34東)

小型の管孔が年輪の始めにやや密に分布し、その後は放射方向・接線方向・斜状に複合し分布している散孔材。道管の壁孔は対列状または交互状、穿孔は單一、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織はほぼ同性、約5細胞幅、道管との壁孔は小型で密在する。

サクラ属は暖帯から温帯の山地に生育する落葉広葉樹林の代表的な属であり多くの種がある。材は粘り気があり強く、保存性も高い。

7) カエデ属 *Acer* カエデ科 図版5 8a.-8c. (7289)

小型の管孔が単独または2~3個が放射方向に複合して散在し年輪界はやや不明瞭な散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織は同性、1~4細胞幅、道管との壁孔は交互状に整然と配置し孔口はやや大きい。

カエデ属は日本全土の暖帯から温帯の山地や谷間に生育し、落葉広葉樹林の主要構成樹であり、約26種があり多くの変種が知られている。材は堅く緻密で割れにくく、保存性は中程度である。

8) ウコギ属 *Acanthopanax spinosus* ウコギ科 図版5 1a.-3c. (SB5)

小型の管孔が複合して接線状や斜状に配列し、年輪界は不明瞭な散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織は異性、主に5細胞幅の紡錘形、細胞高が高い炭化材もあり、道管との壁孔は大きく交互状配列である。

ウコギ属は暖帯から温帯の山中に生育する落葉低木で、北海道から本州に普通に生育するヤマウコギ、北海道以南の浅山に分布するケヤマウコギ、近畿地方以西に分布するオカウコギなどがある。コシアブラは高木となり北海道以南の山地に普通でその材は年輪の始めにやや大型の管孔が間隔をあけてあることから他のウコギ類とは区別される。

4. まとめ

住居跡からはクリ・コナラ節・ヒノキ属・カエデ属・ウコギ属・サクラ属が検出された。クリは全国的に縄文時代の住居跡から必ずといってよいほど出土する。当遺跡においてもクリは検討した4軒の住居跡のうち3軒から検出され、SB5の炉跡からはウコギ属と共に出土した。縄文時代では、全国的にクリが建築材ばかりではなく燃料材としても利用されていたことが知られているが、標高の高い当遺跡においても同様な樹種利用がなされていたことが明らかになった。

焼土跡から出土した炭化材はケヤキの1点を除きすべてコナラ属の根材であったことから、この付近にコナラ属の木が生育していたと考えられる。そしてどの根も非常に良く焼けていることから、何らかの原因で広がった火の勢いは非常に強かったと予想される。

当遺跡から検出された分類群はすべて当遺跡の周辺に広がる冷温帯落葉広葉樹林の主要な構成種であり、有用材としても知られた樹種を含む分類群であった。縄文時代においてもこれらの樹木を周辺から伐採して利用していたことが判る。当遺跡の周辺に分布するたのもと遺跡の縄文時代後期~晩期の遺構から出土した木材もクリが多く、ほかにカツラそしてケヤキとトチノキの根材が出土し、針葉樹ではヒノキ属・サワラ・ヒノキ科が出土し、ヒノキ属の材は被熱していた(植田1998)。たのもと遺跡から出土した樹種構成と当遺跡の結果を比較すると、広葉樹材はクリが多く針葉樹材はヒノキ属が検出されている点が共通しており、当地域山間部遺跡の特徴のように思える。

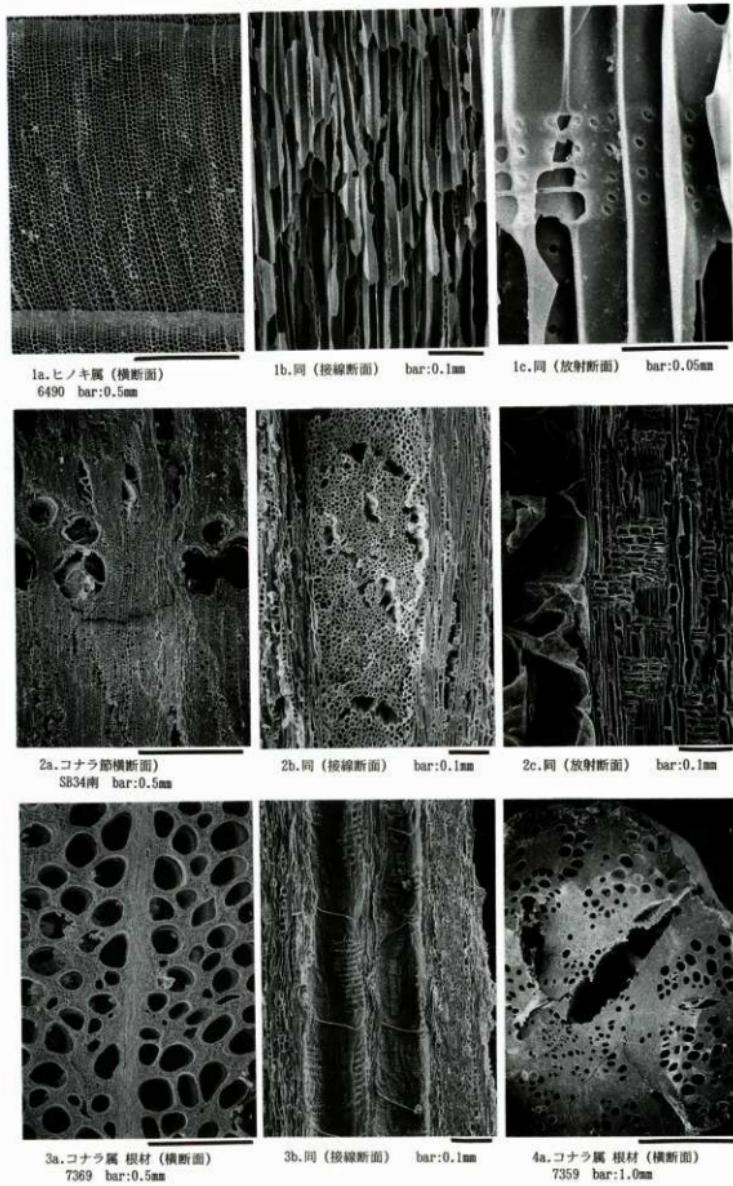
引用文献

植田弥生(1998)「たのもと遺跡の樹種同定」「たのもと遺跡」103-105 図版34-36 (岐阜県文化財保護センター調査報告書第46集)

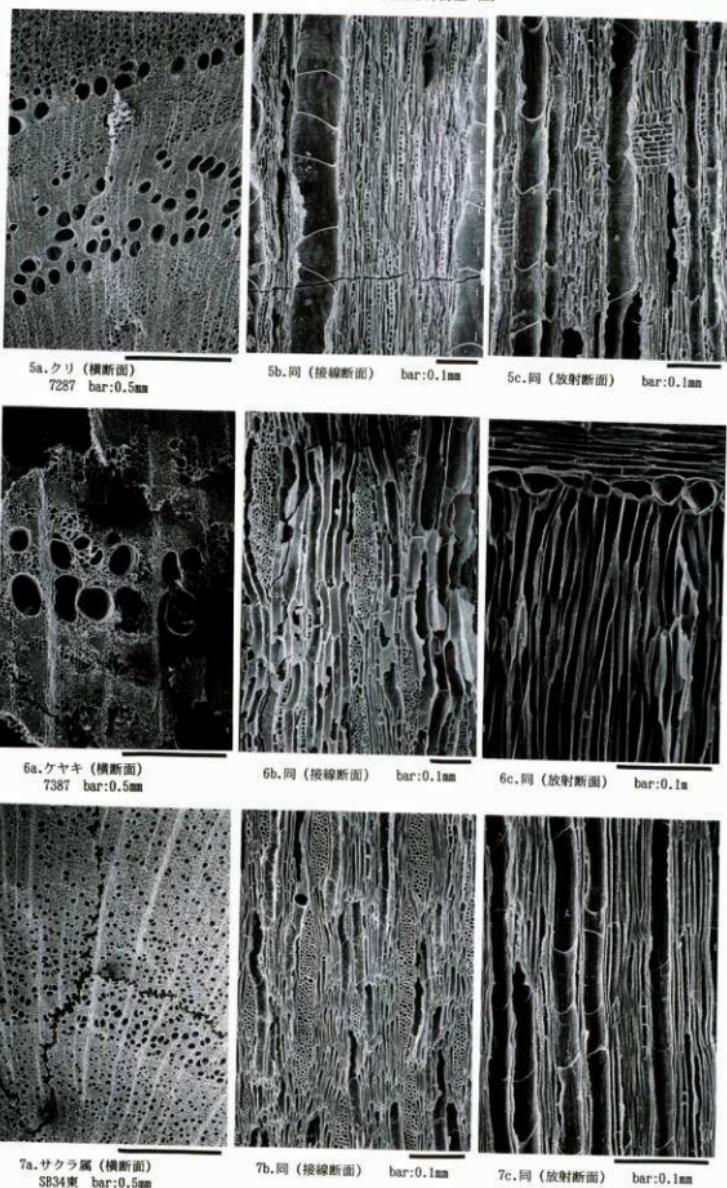
第19表 岩垣内遺跡出土炭化材樹種同定結果

遺跡	地区	層位	堆積番号	樹種	備考
S-B5	P3		7286	クリ	
S-B5			7287	クリ	ø2.5cm 13年齢
S-B5	左		クリ	ø1~2cm 蔵枝	ø1.5cm 蔵枝
S-B5	右		ウコギ属	ø1.5cm 蔵枝	ø1~2cm 蔵枝
S-B9			6489	ヒノキ属	ø1.5cm 蔵枝
S-B9			6490	ヒノキ属	ø7cm 以上の破片
S-B13			7289	カエデ属	小破片複数
S-B34	中央			クリ	
S-B34	東			クリ	小破片複数
S-B34	東			サクラ属	ø0.8cm 蔵枝
S-B34	南			クリ	
S-B34	南			コナラ属	
地上林		SH	6849	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	6900	コナラ属	ø2.3cm
地上林		SH	6972	コナラ属	ø4cm
地上林		SH	6423	コナラ属	ø4cm 分岐部分
地上林		SH	6425	コナラ属	ø2cm
地上林		SH	6674	コナラ属	ø2ø2.5cm
地上林		SH	6675	コナラ属	ø2cm
地上林		SH	6850	コナラ属	
地上林		SH	7068	コナラ属	ø2cm
地上林		SH	7169	コナラ属	ø3cm
地上林		SH	7178	コナラ属	ø2.6cm以上
地上林		SH	7259	コナラ属	ø1.6cm
地上林		SH	7260	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7261	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7268	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7269	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7270	コナラ属	ø0.5cm
地上林		SH	7271	コナラ属	ø1.8cm
地上林		SH	7272	コナラ属	
地上林		SH	7273	コナラ属	
地上林		SH	7274	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7275	コナラ属	ø2.5cm
地上林		SH	7276	コナラ属	ø1.7cm
地上林		SH	7277	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7278	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7279	コナラ属	ø3.8cm
地上林		SH	7280	コナラ属	
地上林		SH	7281	コナラ属	ø2cm
地上林		SH	7282	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7283	コナラ属	ø3cm
地上林		SH	7284	コナラ属	ø3.5cm
地上林		SH	7285	コナラ属	
地上林		SH	7286	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7287	コナラ属	ø2cm
地上林		SH	7288	コナラ属	ø1.7cm
地上林		SH	7289	コナラ属	ø2cm
地上林		SH	7290	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7291	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7292	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7293	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7294	コナラ属	ø1.2cm
地上林		SH	7295	コナラ属	ø1.2cm
地上林		SH	7296	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7297	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7298	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7299	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7300	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7301	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7274	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7302	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7303	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7304	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7305	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7306	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7307	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7308	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7309	コナラ属	ø2.3cm
地上林		SH	7310	コナラ属	ø3cm
地上林		SH	7311	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7312	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7313	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7314	コナラ属	ø1.2cm
地上林		SH	7315	コナラ属	ø1.2cm
地上林		SH	7316	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7317	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7318	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7319	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7320	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7321	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7322	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7323	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7324	コナラ属	ø1.2cm
地上林		SH	7325	コナラ属	ø1.2cm
地上林		SH	7326	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7327	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7328	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7329	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7330	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7331	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7332	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7333	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7334	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7335	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7336	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7337	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7338	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7339	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7340	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7341	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7342	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7343	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7344	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7345	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7346	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7347	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7348	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7349	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7350	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7351	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7352	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7353	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7354	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7355	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7356	コナラ属	ø1.3cm
地上林		SH	7357	コナラ属	ø2cm
地上林		SH	7358	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7359	コナラ属	ø3cm
地上林		SH	7360	コナラ属	ø3.5cm
地上林		SH	7361	コナラ属	
地上林		SH	7362	コナラ属	
地上林		SH	7363	コナラ属	
地上林		SH	7364	コナラ属	
地上林		SH	7365	コナラ属	
地上林		SH	7366	コナラ属	
地上林		SH	7367	コナラ属	
地上林		SH	7368	コナラ属	
地上林		SH	7369	コナラ属	
地上林		SH	7370	コナラ属	
地上林		SH	7371	コナラ属	
地上林		SH	7372	コナラ属	
地上林		SH	7373	コナラ属	
地上林		SH	7374	コナラ属	
地上林		SH	7375	コナラ属	
地上林		SH	7376	コナラ属	
地上林		SH	7377	コナラ属	
地上林		SH	7378	コナラ属	
地上林		SH	7379	コナラ属	
地上林		SH	7380	コナラ属	
地上林		SH	7381	コナラ属	
地上林		SH	7382	コナラ属	
地上林		SH	7383	コナラ属	
地上林		SH	7384	コナラ属	
地上林		SH	7385	コナラ属	
地上林		SH	7386	コナラ属	
地上林		SH	7387	ケヤキ	放射半径1.7cm破片複数
地上林		SH	7388	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7461	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7462	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7463	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7464	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7465	コナラ属	ø0.5cm
地上林		SH	7466	コナラ属	ø1cm
地上林		SH	7467	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7706	コナラ属	ø1.8cm
地上林		SH	7707	コナラ属	ø1.5cm
地上林		SH	7708	コナラ属	ø0.8cm
地上林		SH	8161	コナラ属	ø0.5cm
地上林		SH	8162	コナラ属	ø0.5cm
地上林		SH	8163	コナラ属	ø0.5cm
地上林		SH	8169	コナラ属	ø0.5cm

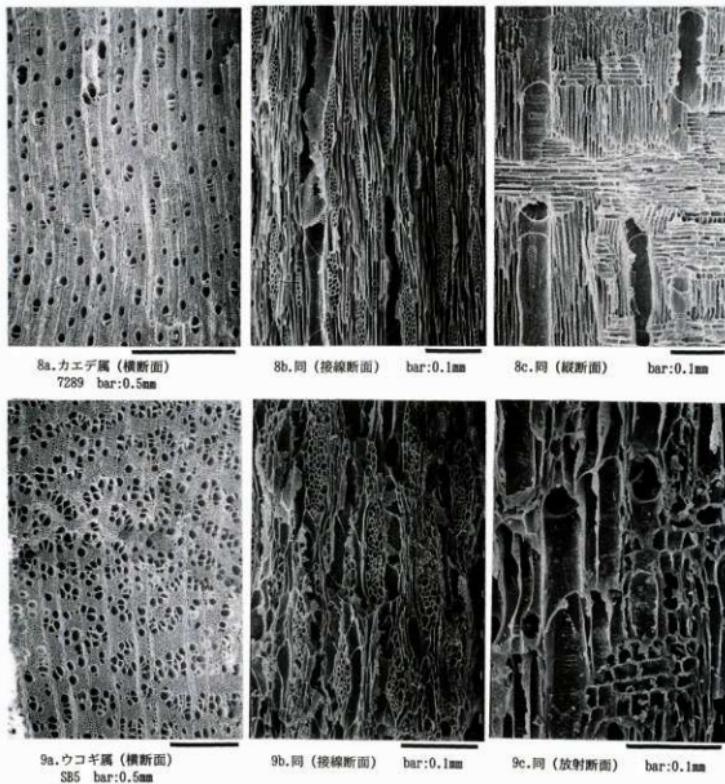
図版3 岩塙内遺跡出土炭化材樹種(1)



図版4 岩塙内遺跡出土炭化材樹種 (2)



図版5 岩垣内遺跡出土炭化材樹種 (3)



第5章 まとめ

第1節 繩文土器について

今回の岩垣内遺跡の発掘調査では、縄文中期から後期にかけての住居跡や土坑等を多数検出した。さらに「捨て場」として利用された斜面を広範囲にわたって調査し、非常に多くの出土遺物を得ることができた点が注目される。特に破片数で26万点を超える縄文土器については、その資料的価値は計り知れないものがある。資料が膨大なため、十分な整理はできていないが、ここで第3章第3節で記述した土器分類の位置付けについて簡単に述べると共に、今回の調査の主体といえる中期後葉から後期前半にかけての縄文土器の変遷について考えてみたい。

1群土器は前期の土器である。遺構外出土の7点中、6点は西区の斜面出土である。a類は早期から続いた纏維土器群の最終形式である黒浜式に比定される。b類は諸磯式系と考えられる。

2群から7群は中期前葉から中期中葉の土器である。西区斜面の第IVc層を中心に出土し、東区の住居跡の覆土等からも少量出土している。それぞれ折衷様式や在地性の強い土器は少ないといえる。

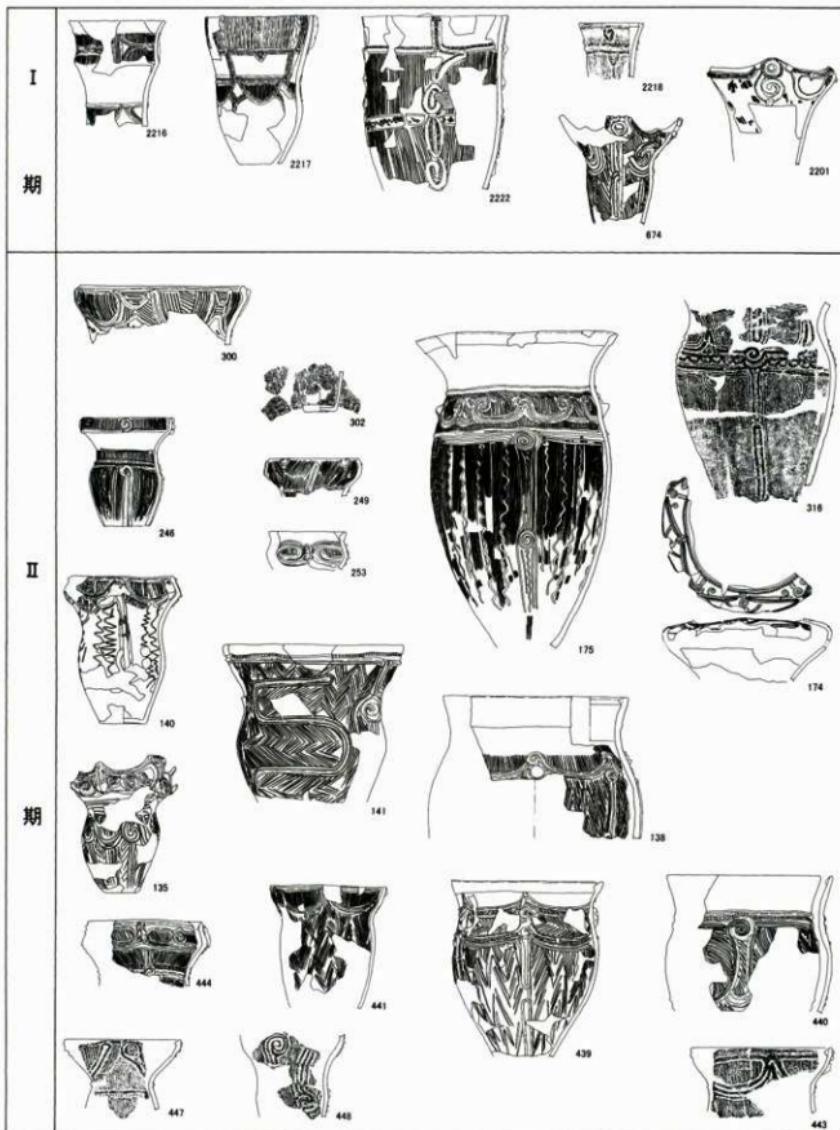
中期後葉の土器は東区の住居跡を中心にまとめて出土している。また、西区の「捨て場」からも相当数出土している。住居跡出土の縄文土器と西区斜面出土の縄文土器との接合関係が確認できたものは少ないが、SB6出土の釣手土器（第54図137）の同一破片（遺物番号2743）は8G区より出土している。8群から25群の大半が中期後葉の土器である。4期に分けてその変遷を後述するが、諸型式の折衷と考えられる土器や在地性の強い土器および境界線上の土器が多く、詳細な分類については今後の課題とする点も多い。

後期初頭の土器については過渡期であるということで中期末～後期初頭として扱われることが多い。SX3やTF区を中心に出土した29群の土器は、この時期を想定した土器群である。当地方ではこれまで出土例の少なかった重要な土器を多く含んでいる。後期前葉の土器は「捨て場」遺構のSX3を中心西区斜面からまとめて出土し、東区の住居跡や土坑群からも多く出土している。初頭から前葉までの後期前半については相次いで重要な遺跡の調査がなされ、その土器分類についても各地で細分化が進んでいるのが現状である。流れに逆らうようであるが、今回の発掘資料についてはその多種多様な折衷様式や在地性および過渡期的要素等について明確な判断を下せないものが多いので、本報告書のまとめでは後期前半を3期に大別しその変遷を扱うことにする。前述の29群を含む44群までが後期前半の土器である。45群の無文系の土器についても、その大半は後期前半の土器に位置付けた。

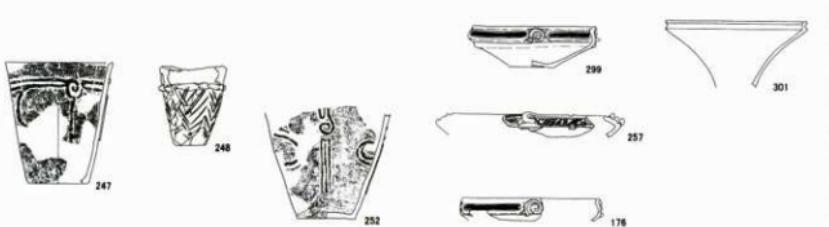
なお、39群は後期中葉の土器である。Ⅶ期としたSB9やSX2から出土したものが主体である。また、今回の発掘調査で確認できた晩期の土器は少なかった（45群）。

次に岩垣内遺跡出土の中後葉から後期前半にかけての縄文土器の変遷について簡単にまとめてみたい。第41～43図は、今回の発掘調査で確認された遺構出土の土器を中心にして、中期後葉の第I期をI期、後期前半の第I期をV期としてⅦ期までの変遷を辿ろうとした図である。

I期は井戸尻Ⅲ式期から曾利Ⅰ式期の段階で、長野編年の第I期に相当する。中部高地系の17群の土器は西側斜面のG列IVc層を中心にややまとめて出土している（2216～2218・2222）。485はSB

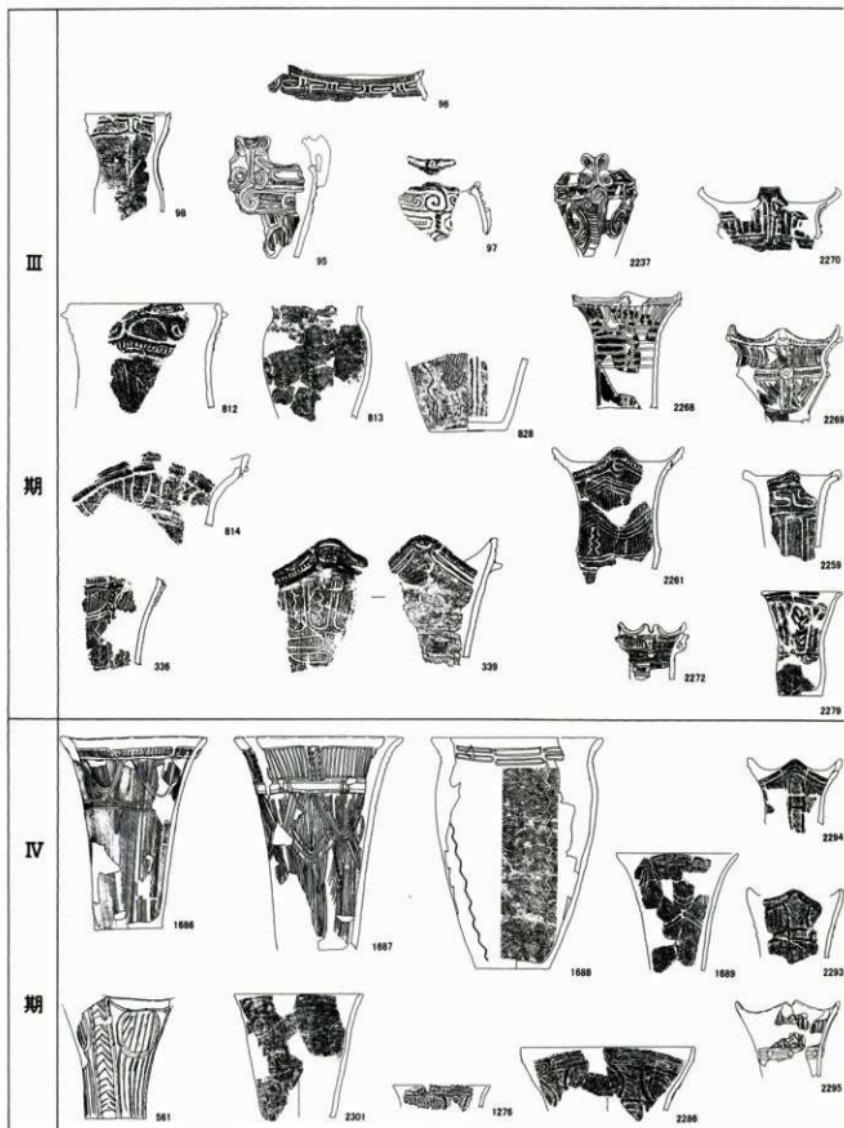


第41図 岩塙内遺跡出土織文土器変遷図（1）

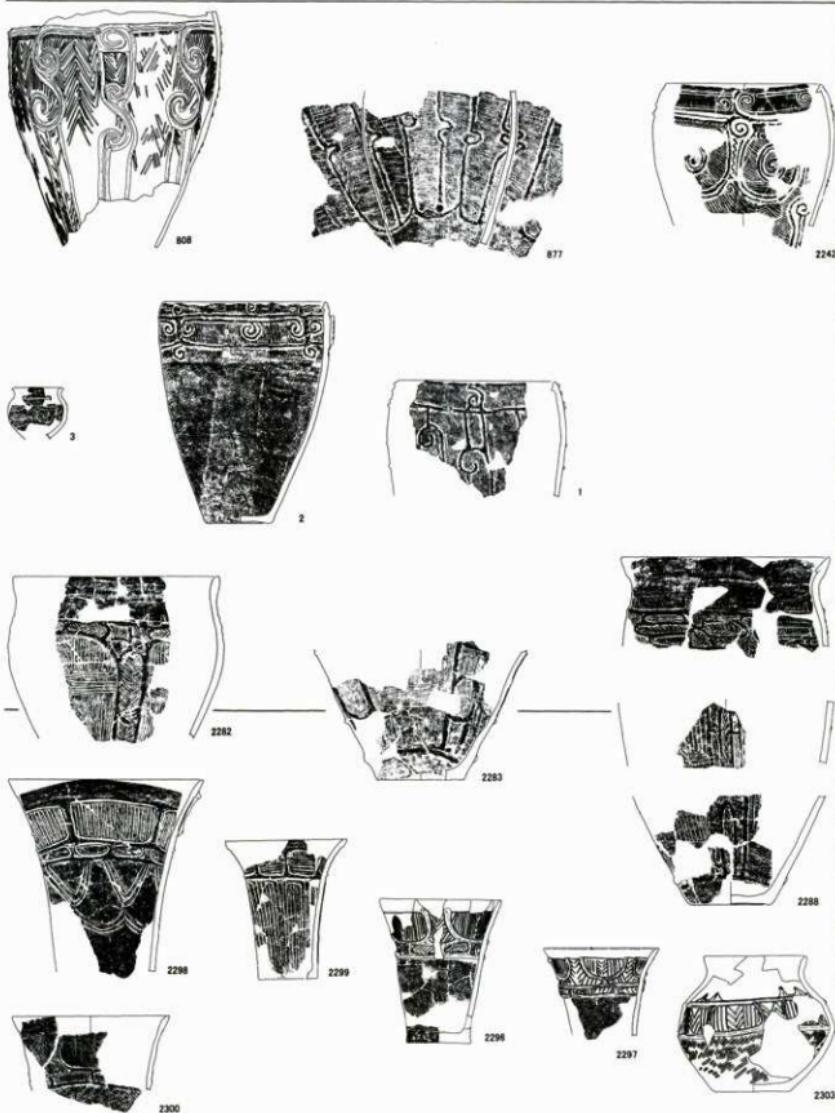


【中期後葉1】

(縮尺1/10)

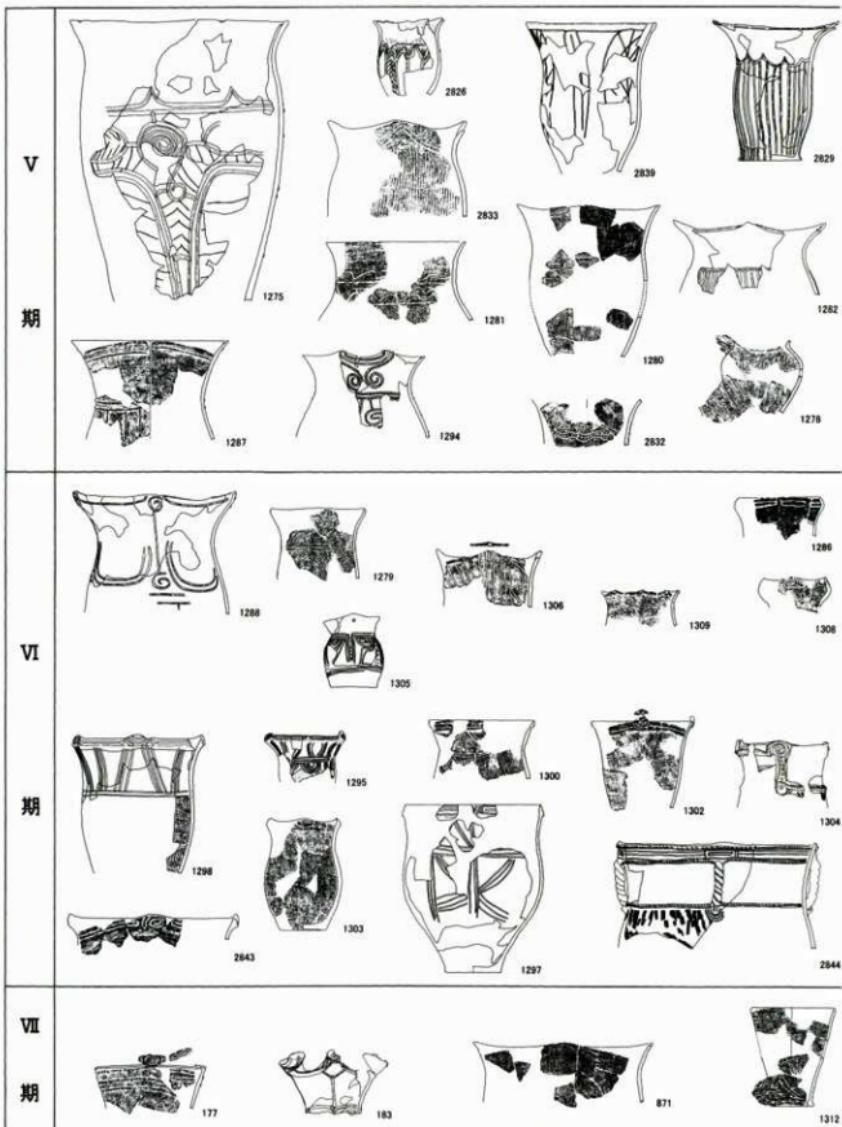


第42図 岩塙内遺跡出土繩文土器変遷図（2）

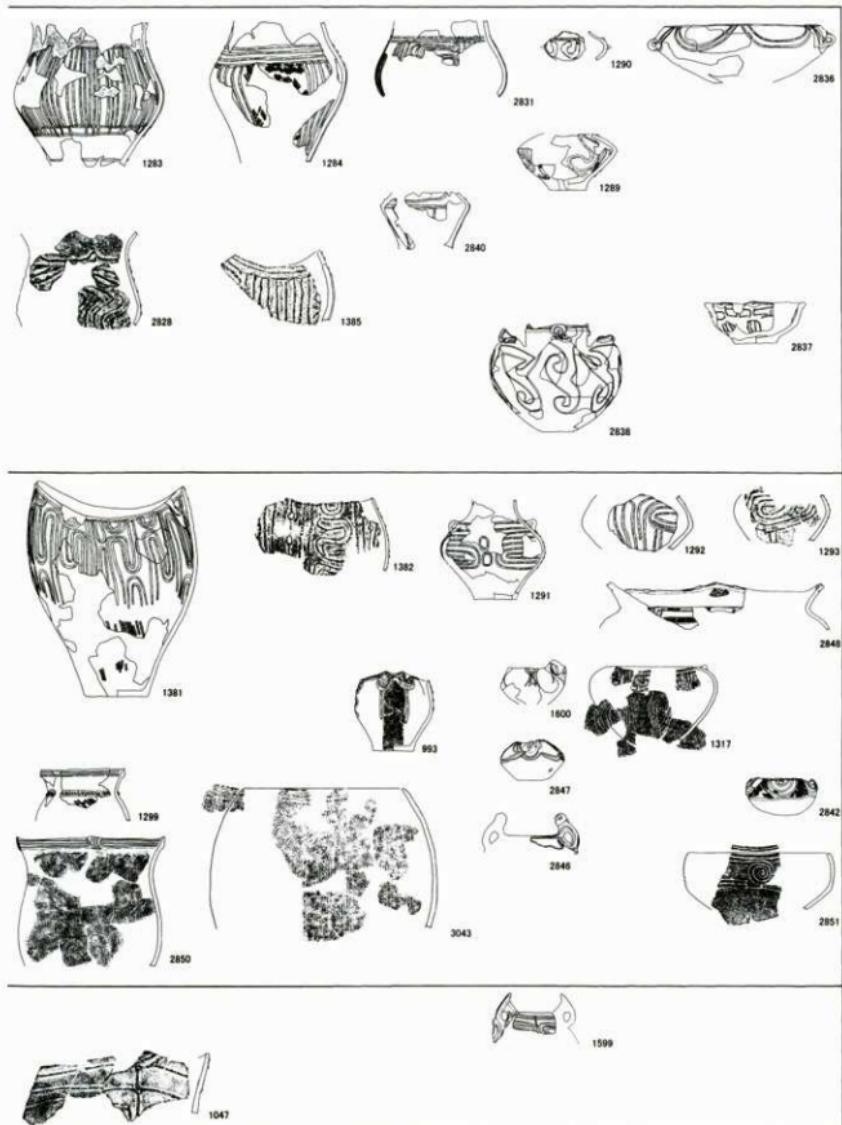


【中期後葉2】

(縮尺1/10、336・339・814は約1/8)



第43図 岩塙内遺跡出土繩文土器実測図(3)



【後期前半】

(縮尺 1/10、1047・1385・2842 は約 1/8)

27の炉内より出土した土器である。口縁部の形態は不明であるが、壇内遺跡第32号住居跡出土の圧痕突帯を有し縄文地文の上に隆帯と半隆起線でS字文を描く土器に類似している（田中ほか1991）。分類は8群で、曾利Ⅰ式期のものと考えられる。なお、SB27の床面からは、口縁部に半隆起線による文様帯をもつ北陸系の486の浅鉢が出土している。SB33出土の674についても施文形態等から同段階のものと推定した。SB35出土の口縁部に有刻隆帯をもつ深鉢726および無文の浅鉢728等についても、17群土器との共伴関係等から近い時期のものと考えられる。

Ⅱ期は4期区分の唐草文系土器編年でⅡ期の時期に該当する。SB10床面出土の300はⅠ期のいわゆる重弧文（波状隆帯文）土器の流れを汲む土器と考えられる。同一床面からは半截竹管状工具で曲線文を描く302の深鉢胴部や、9群の浅鉢299および台付土器301等が出土している。246はSB10の床面に近い覆土中より出土した小型の深鉢である。頸部に無文帯を有している。図示したSB10出土のその他の土器については、大半が吹上パターンと考えられる覆土出土の土器である。247・248等の「バケツ」状に口縁が開く器形の深鉢の存在も注目される。地文燃糸文のSB12の埋甕316も、波状の隆帯をもつ古いタイプの深鉢と考えられる。SB17出土の土器群の中にはSB10と同様に9群の浅鉢176が含まれている。SB17の埋甕175は唐草文系Ⅱ期の段階の地文条線文系大型深鉢である。同一床面より15群の174が出土している。東海編年の中富Ⅲ～Ⅳ式に相当する土器である。その埋土上層のSB16およびSB6出土の土器もSB17に近接した時期の土器と考えられる。頸部が括れる器形のSB16出土の深鉢141は、隆帯による腕骨文と蛇行文をもち綾杉状の沈線文を充填している。SB6出土の138は渦巻つなぎ弧文による頸部文様帯がSB17の埋甕175に似るが、胴部は綾杉状の沈線文である。SB16出土の140は口縁部の弧状の隆帯区画下端に半月状の隆帯文をもつ在地色の強い深鉢である。SB6出土の135は装飾の施された口縁部文様帯の下方に無文帯を有し、胴部文様は半隆起線による曲線文である。

これらの土器に後続するのがSB26炉内出土土器を中心とした土器である。殿村遺跡第4段階（青沼ほか1987）に相当すると考えられる。439～441の深鉢と442の台付土器が同一炉内出土の一括資料である。SB26覆土出土の452・453等も共通する器形の深鉢である。隆帯区画をもつ文様帯の下方に隆帯による腕骨文と大柄渦巻文を施す縄文地文のSB42埋甕878は境界域の土器と推定した。

Ⅲ期は唐草文系土器のⅢ期および加曾利E3式期の段階である。唐草文系の樽形の深鉢はSB39埋甕808、遺構外出土2242、SB1埋甕2、SB1出土1などである。唐草文系の土器編年では、殿村遺跡第6段階から第10段階に相当する。SB5出土95は殿村遺跡第7段階の資料に類似している。96～98はSB5覆土出土の共伴土器で、96は北陸系である。SB40出土812～814・828やSB15出土336・339等が後続する時期のものと考えられ、23群の土器が主体となる。Ⅱ期18群の土器の復元例は住居跡内出土が大半で西側斜面出土のものが少ないので対し、23群土器およびそれ以後の土器では西側「捨て場」出土の復元例が多いのは、廃棄形態の相違によるものとも考えられる。Ⅲ期は重複遺構が多く、19群・21群・22群・23群の相互の関係については不明な点が多い。

Ⅳ期は中期の最終段階である。SX4出土の土器群（1686～1689）の様相は、中野山越遺跡13号住居（曾利Ⅲ～Ⅳ）と類似している（戸田ほか1993）。SX4出土1687類似の串田新式（沈線文系）土器にSX4出土1697と同様の曾利Ⅳ式期の伊那谷系結節縄文土器が共伴した例が報告されている。この時期が主体と考えられる24群土器にはやや幅があるようでもある。特に問題となるのは、2282・2283・

2288等の24群 a類である。同類の類例としては、垣内遺跡では8号住居跡床面出土の土器と2点の屋外埋甕が曾利Ⅲ式並行で報告されている（田中ほか1991）。一方、堂之上遺跡5号住居跡出土の胴部片については、大杉谷式系葉脈状文を持ち曾利Ⅳ～V式に並行と報告されている（戸田1997）。本遺跡では、遺構からのまとまった出土が確認できず位置付けの難しい一群である。堂之上遺跡では岩垣内遺跡24群土器を12軒の住居跡で確認することができる。その大半は複式炉をもつ中期末の住居跡である。特に、堂之上遺跡16号住居跡・19号住居跡・20号住居跡・29号住居跡・34号住居跡等に24群 c類と類似の土器が目立つ。これらの土器と加曾利E4式土器や前田・岩崎野式系土器との共伴が確認されており、さらに櫛歯条線文の粗製土器を全く伴わない住居の様相が指摘されている。岩垣内遺跡のS X4出土の1687は24群と同様の区画文様帯をもつが、その胴部地文は条線文である。櫛歯条線文系の土器が主体のS X4からは、胴部地文が縄文の24群 c類土器の出土は皆無であった。24群 c類に地文条線文系の土器が先行する図式が想定される。なお、24群土器については、口縁形態以外に隆帯や沈線の相違等によってさらに細分が可能である。

V期は中期末から後期初頭に相当する。境界域の土器群として気になるのは、23群 c類中の口縁部に沈線の区画文をもつ2286・S X3出土1276などの土器である。S X3出土1275に代表される29群 b類の土器の位置付けも問題である。これまで荒城神社遺跡（野村・本永ほか1994）等で破片資料が報告されてきたが、復元資料は今回が初見である。文様構成等については24群土器との関連が考えられるが、断面三角形状の隆起線文¹⁾や細沈線文などの施文形態は独特である。この点は29群 c類とした岩崎野式の土器に接点を見ることがある。29群 a類は、同群 c類に似るが在地色の強い土器と判断した一群である。S X3出土の1287は外反口縁の内外に隆起線が巡り、頸部は無文で胴部に間隔の広い継位隆起線文をもつ。a 1類の口縁部の弧状隆起線については類例は見当たらない。加曾利E4式等との関連を探る必要があるが、この地方の隆起線文系土器の祖形となる可能性を秘めている。一方、S X3出土の1278は称名寺II式の深鉢で、遺構外出土の壺形土器2838と共に当地方初見の資料である。V期の類例としては断片的ではあるが垣内遺跡12号住居跡・19号住居跡などが考えられる。

VI期は後期前葉の前半段階である。30群の隆起線文深鉢1288の胴部文様は29群 a類の1287や1294と共通である。31群のS X3出土1381の胴部文様は、称名寺式土器の文様構成を引き継ぐ継位懸垂文と考えられる。31群の樽形の深鉢については、文様構成等から時期幅があると推定した。S X3出土の壺形土器1291は、たのもと遺跡IV期第2群の土器に類似している（上原1998）。隆起線施文の深鉢の推移については、大まかには外反口縁から内彎口縁、さらにL字状口縁といった流れが想定される。破片資料のため全体像は不明であるが、遺構外出土の3027・3198等は推移の鍵を握る重要な資料と考えられる。なお、出土量はそれほど多くはないが33群とした継位沈線文系の土器の大半は、堀之内I式期の土器と考えられる。後続するS X3を中心に出土した多くの縁帶文土器については、中野山越遺跡4号住居跡や垣内遺跡7号住居跡等に類例を見ることができる。

VII期は後期前葉の後半段階に相当する。37群の1312は堀之内I式比定の深鉢である。35群 e類や36群の土器を主体とするS B7・S B8・S B41の様相は垣内遺跡33号住居跡に類似している。

- 1) 隆線の両脇をナデにより断面三角形に仕上げる施文については、微隆起線文、突線文、細隆線文等様々に表現されている。本報告書ではV期からVI期の土器については隆起線文という表現で統一した。なお、VII期の土器については隆起線系のものと隆帯によるのものが混在し、隆帯という表現を主に用いてる。

第2節 遺構の変遷について

今回の発掘調査で確認された最古の資料はSK100出土の縄文時代草創期のものと考えられる珪質頁岩製のスクリーパー（第200図2137）である。該期の遺物はこの1点のみで、遺物包含層も未確認である。早期の土器は、隣接する西畠遺跡で表採されているが、本遺跡では未発見である。なお、早期の押型文土器に伴うことが多い鋸形鎌が3点出土している。北東区の住居跡覆土出土の2点（第154図1773、第160図1836）と、遺構外出土の第270図3534の1点である。前期の遺物は、数点の縄文土器片のみである。西区のIVc層下層の焼土跡（SF6~10）については前期の遺構である可能性がある。また、東側居住区の南端（現在は山林）部分は尾根の先端部で、前期の住居跡の立地条件に合致している。中期前半の遺物のみが出土した遺構は、半隆起線文の土器小片1点が出土したSK50（6J区）、第120図1130の縄文土器片が出土した7HP15、第122図1186の縄文土器片が出土した8JP10、第122図1205の縄文土器片が出土した7KP57等数例を数えるにすぎない。SB37については、その出土遺物から中期中葉に属すると推定されるが、大半を重複遺構によって削り取られており詳細は不明である。その遺物の出土状況から、居住区の平坦面には中期前半においても堅穴住居が建てられていたと考えられるが、後続する時期の度重なる住居の建替え等でその痕跡は消滅したと推測される。

第44図は、今回の岩垣内遺跡の発掘調査で確認された住居跡（SB）とSX2~4についてのⅠ期からⅢ期までの変遷を推定した図である。以下、各期の遺構の概要と出土石器等の傾向について述べ、まとめとしたい。

I期

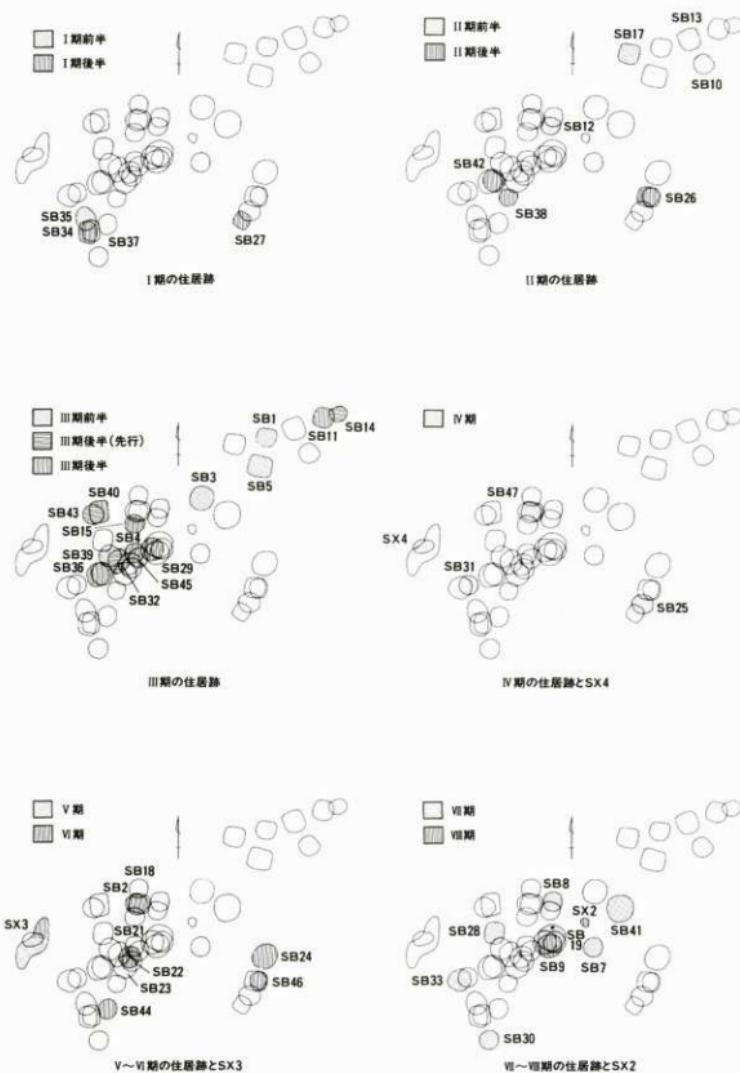
SB35が先行し、東側のSB27と西側のSB34はほぼ同時期と考えられる。なお、SB33の位置にもこの時期の住居跡が存在した可能性がある。SB34の出土石器で特徴的なものは、大型の石皿と石棒である。SB34出土の剥片石器およびフレーク類（括弧内）の石材別割合は、下呂石32%（40%）、チャート41%（38%）、黒曜石23%（5%）であった。

II期

北東区のSB10・SB13・SB17およびその南西に続くSB12がほぼ同時期と考えられる。SB38については、時期特定の鍵となる床面出土の土器は第101図790である。その所属時期の判断は難しいが、炉の形態や791等の土器はSB10に類似しているといえる。SB26が後続する時期で、SB42はさらに新しいと考えられる。SB10出土の剥片石器およびフレーク類（括弧内）の石材別割合は、下呂石35%（67%）、チャート56%（25%）、黒曜石8%（8%）であった。一方、SB6・16出土分を含むSB17出土の剥片石器およびフレーク類（括弧内）の石材別割合は、下呂石26%（42%）、チャート57%（31%）、黒曜石17%（26%）であった。両住居ともチャート製品の割合が高いといえる。石鎌は大型のものが目立った。

III期

北東区のSB1・SB5およびその南西のSB3・SB39が前半の時期のものと考えられる。唐草文系の埋甕を伴うSB3・SB39については先行またはⅡ期との境界域の時期の可能性がある。重複が著し



第44図 時期別住居跡変遷図

い西側の住居跡については、その出土土器等から大半が後半の時期のものと推定される（S B4・S B15・S B29・S B32・S B36・S B40・S B43・S B45）。S B5出土の剥片石器およびフレーク類（括弧内）の石材別割合は、下呂石10%（21%）、チャート48%（42%）、黒曜石41%（36%）であった。II期と同様にチャートの割合が高く、さらに黒曜石の利用も顕著である。

IV期

中期の終末期に相当する。S B25・S B31・S B47がほぼ同時期と考えられる。板状の石を用いる石窯炉の形態が共通している。この時期のものとして堂之上遺跡等で顕著な複式炉については、今回の調査では確認できなかった。特徴的な遺物としては、S B25の24群土器と共に土偶脚部（第265図3486）や、S B31炉跡周辺出土の骨角器（図版1）等がある。S X4については、これらの住居跡に先行する時期のものと推定した。S B31出土の剥片石器およびフレーク類（括弧内）の石材別割合は、下呂石53%（43%）、チャート40%（36%）、黒曜石0%（8%）、玉髓0%（11%）であった。

V期

後期初頭に相当する。住居跡については、この時期のものを特定することはできなかった。西側斜面の7F区を中心に29群土器がまとめて出土しているので、調査区域外の南西部に住居跡の残る可能性がある。S X3についても、同様に南西側に29群の土器が集中する傾向がみられた。

VI期

後期前葉の前半の時期である。S B2・S B18・S B21・S B22・S B24・S B44・S B46が該当する。S B23については、S B22に先行するこの時期の住居と推定した。造成時の削平や住居の重複のため部分的なものが大半で、住居の詳細等は不明な点が多い。炉跡については深いものが目立つ。また、東区の掘立柱建物跡はこの時期以降のものと推定される。S X3出土の剥片石器およびフレーク類（括弧内）の石材別割合は、下呂石47%（44%）、チャート42%（39%）、黒曜石4%（7%）、玉髓7%（6%）であった。V期の資料を含む数値であるが、後続する時期に比べて下呂石の割合は少ない。また、IV期頃から玉髓の利用が継続しているようである。石鎚や磨製石斧は小型のものが多い。なお、切目石錐や有溝石錐についてはこの時期の住居跡やS X3からの出土が目立つ。

VII期

後期前葉の後半の時期である。S B7・S B8・S B28・S B30・S B33・S B41が該当する。S B28からはV期およびVI期の土器が、S B33周辺からはVI期の土器がそれぞれ出土しているが、主体はVII期と判断した。大半の住居跡がVI期同様に部分的であるが、S B7・S B8の残存状況はやや良好であった。なお、東区の土坑群の大半はVI期からVII期のものと推定される。S B8出土の剥片石器およびフレーク類（括弧内）の石材別割合は、下呂石71%（81%）、チャート13%（14%）、黒曜石12%（4%）、玉髓4%（1%）であった。下呂石の割合が増加している。

VIII期

後期中葉に相当する。S B9とS X2が該当する。S B9出土の剥片石器およびフレーク類（括弧内）の石材別割合は、下呂石74%（74%）、チャート20%（15%）、黒曜石4%（9%）であった。さらに、S X2出土の剥片石器およびフレーク類（括弧内）の石材別割合は、下呂石92%（89%）、チャート4%（6%）、黒曜石0%（4%）であった。下呂石の利用割合はさらに増加している。

主要参考文献

- 青沼博之ほか 1987 「殿村遺跡」(山形村遺跡発掘調査報告書 第6集)
- 秋田県教育委員会 1998 「虫内I遺跡」
- 阿部芳郎・鶴田典昭ほか 1999 「村東山手遺跡」(上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書8)
- 池谷信之 1990 「網取・堀之内型注口土器」『縄文時代』第1号
- 石井 寛 1993 「堀之内1式土器群に関する問題」『牛ヶ谷遺跡・華藏台南遺跡』
- 石井 寛 1995 「原出口遺跡20号住居址出土土器群をめぐって」「川和向原遺跡・原出口遺跡」
- 泉 拓良 1981 「後期の土器 一近畿地方の土器ー」『縄文文化の研究』4
- 泉 拓良 1989 「縁帶文土器様式」『縄文土器大観』第4巻
- 岩田 崇 1999 「岐阜県北部宮川水系、高原川水系流域及びその周辺地域における有孔鈎付土器について」『美濃の考古学』第3号(美濃の考古学刊行会)
- 植田文雄 1996 「正楽寺遺跡」(能登川町埋蔵文化財調査報告書 第40集)
- 上原真昭 1998 「たのもと遺跡」(岐阜県文化財保護センター調査報告書 第46集)
- 大江 伸 下形 武 1958 「上宝村の先史時代」
- 大江 伸 1965 「飛驒の考古学 I 一益田川流域の縄文文化ー」
- 大江 伸 1987 「下田遺跡」(河合村教育委員会)
- 大參義一 1978 「東海地方西部における縄文時代後期前半の土器について」『名文論集LXXIV』
- 加藤三千雄ほか 1986 「真駒遺跡」(能登町教育委員会)
- 金子直行 1997 「戸崎前遺跡」(埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第187集)
- 菊池 真・小島秀彰ほか 1999 「豊沢貝塚 第2地点」(豊沢貝塚遺跡調査会)
- 狩野 瞳・酒井重洋 1991 「北陸自動車道遺跡調査報告 朝日町編6 境A遺跡」(富山県教育委員会)
- 狩野 瞳・神保孝造 1995 「東黒牧上野遺跡A地区」(富山県大山町教育委員会)
- 狩野 瞳ほか 1988 「花切遺跡発掘調査概要」(大山町教育委員会)
- 木下哲夫ほか 1985 「右近次郎遺跡II」(大野市文化財調査報告書 第3冊)
- 木下哲夫 1993 「気屋式以降(1)」「先史考古学研究」第4号
- 木下哲夫 1997 「福井県右近次郎遺跡の福田K2式土器と気屋式土器」「堅田直先生古希記念論文集」
- 清見村教育委員会 1983 「門端縄文遺跡発掘調査報告書」
- 工藤俊樹ほか 1987 「鳴鹿手島遺跡」(福井県埋蔵文化財調査報告書 第15集)
- 河野典夫ほか 1996 「杉原瑞穂遺跡発掘調査報告書」(宮川村教育委員会)
- 河野善映 1994 「青根上野田遺跡」(かながわ考古学財団調査報告書 2)
- 紅村 弘・増子康眞ほか 1978 「東海先史文化の諸段階 資料編II」
- 紅村 弘ほか 1974 「飛驒桜洞遺跡発掘調査報告書」(萩原町教育委員会)
- 紅村 弘ほか 1976 「門垣内遺跡」(坂下町教育委員会)
- 小島俊彰 1964 「高岡公園小竹蔵縄文遺跡」(高岡市文化財シリーズ 第3集)
- 小島俊彰 1974 「北陸の縄文時代中期の編年」「大境」第5号
- 小島俊彰 1988 「上山田・天神山式土器様式」「縄文土器大観」第3巻
- 小林康男 1990 「出尻土偶」「季刊考古学」第30号
- 境 雅仁ほか 1997 「市ノ沢团地遺跡」(市ノ沢团地遺跡調査団)
- 上嶋善治 1995 「岡前遺跡」(岐阜県文化財保護センター調査報告書 第20集)
- 上嶋善治 1997 「カクシクレ遺跡」(岐阜県文化財保護センター調査報告書 第32集)
- 上嶋善治 1998 「湯屋遺跡」(岐阜県文化財保護センター調査報告書 第42集)
- 鈴木徳雄 1992 「縄紋後期注口土器の成立 一形態変化と文様帶の問題ー」「縄文時代」第3号
- 鈴木徳雄 1993 「称名寺式の変化と中津式 一型式間交渉の一過程ー」「縄文時代」第4号
- 田中 彰ほか 1991 「垣内遺跡」(高山市埋蔵文化財調査報告書 第19号)
- 田中清文 1984 「伊那谷縄文中期後半土器編年への展開」「中部高地の考古学III」(長野県考古学会)
- 谷井 恵・細田 勝 1997 「水窪遺跡の研究」「研究紀要」第13号(埼玉県埋蔵文化財調査事業団)

- 田村陽一ほか 1997 「新徳寺遺跡」(三重県埋蔵文化財調査報告書123-3)
- 谷口和人・大石崇史ほか 1997 「西田遺跡」(岐阜県文化財保護センター調査報告書 第29集)
- 近野正幸ほか 1996 「宮ヶ瀬遺跡群Ⅱ」(かながわ考古学財団調査報告 10)
- 知多古文化研究会編 1997 「南知多の考古資料」(『南知多町誌 資料編6』抜粋)
- 千葉 豊 1989 「縁帶文土器の成立と展開」(『史林』第72巻第6号)
- 千葉 豊 1991 「病院構内の先史時代遺跡」(京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅳ)
- 寺内隆夫・唐木孝雄ほか 1986 「梨久保遺跡」(長野県岡谷市教育委員会 郷土の文化財15)
- 徳田由紀乃 2000 「縄文時代のタカラガイの普及についての予察」『考古学ジャーナル』No454
- 戸沢充則編 1994 「縄文時代研究事典」(東京堂出版)
- 戸田哲也 1993 「飛驒を中心とした縄文後期前半土器の様相」『先史考古学研究』第4号
- 戸田哲也ほか 1993 「中野山越遺跡発掘調査報告書」(古川町埋蔵文化財調査報告書 第3集)
- 戸田哲也 1997 「堂之上遺跡」(久々野町教育委員会)
- 「土偶とその情報」研究会編 1996 「中部高地をとりまく中期の土偶」(土偶シンポジウム4 長野大会)
- 「土偶とその情報」研究会編 1997 「西日本をとりまく土偶」(土偶シンポジウム6 奈良大会)
- 富山市教育委員会 1997 「史跡北代遺跡発掘調査概要」
- 長沢宏昌ほか 1996 「中谷遺跡」(山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第116集)
- 中島庄一ほか 1994 「栗林遺跡・七瀬遺跡」(長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 19)
- 中田良三ほか 1979 「中村遺跡」(中津川市教育委員会)
- 長野県編 1988 「長野県史 考古資料編」(長野県史刊行会)
- 奈良国立文化財研究所 1993 「能登縄文資料 山内清男考古資料6」(奈良国立文化財研究資料 第39冊)
- 西田泰民 1989 「堀之内・加曾利B式土器様式」『縄文土器大観』第4巻
- 西田泰民 1992 「縄文土瓶」『古代学研究所 研究紀要』第2号
- 丹生川村教育委員会 1979 「丹生川村史 資料編1」
- 野村宗作・本永義博ほか 1994 「荒城神社遺跡」(岐阜県文化財保護センター調査報告書 第16集)
- 平林 彰 1983 「中部高地における縄文後期初頭の土器群」『長野県考古学会誌』46号
- 平林 彰ほか 1993 「北陸遺跡」(長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 14)
- 穂積裕昌 1992 「縄文時代後期の壺形土器」『考古学と生活文化』(同志社大学考古学シリーズV)
- 細田 勝ほか 1989 「中三谷遺跡」(埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第76集)
- 増子康眞ほか 1973 「牧野小山遺跡」(美濃加茂市教育委員会)
- 増子康眞 1992 「宮田式土器細別(試論)」「どっこいし」第40号
- 増子康眞 1998 「東海地方西部地域の縄文中期後半土器編年再考」「古代人59」(名古屋考古学会)
- 松田真一 1983 「山添村広瀬遺跡発掘調査概報」「奈良県遺跡調査概報(第一冊) 1981年度」
- 南 久和ほか 1981 「金沢市笠舞遺跡」(金沢市教育委員会)
- 武藤貞昭ほか 1994 「戸入村平遺跡」(岐阜県文化財保護センター調査報告書 第11集)
- 武藤雄六・宮坂光昭ほか 1978 「曾利 第三、四、五次発掘調査報告書」(富士見町教育委員会)
- 森 秀典 1984 「北陸の縄文時代中期後葉「牟田新式」に関する編年試論」「大境」第8号
- 柳井 醉ほか 1977 「布尻遺跡緊急発掘調査概要」(大沢野町教育委員会)
- 山本正敏ほか 1990 「安居五百歩遺跡Ⅰ」(福野町教育委員会)
- 山下勝年ほか 1983 「林ノ峰貝塚Ⅰ」(南知多町文化財調査報告 第5集)
- 吉朝則富ほか 1988 「寺東遺跡・西保木(対岸)遺跡」(高山市埋蔵文化財調査報告書 第13号)
- 吉田英敏ほか 1994 「川合遺跡群」(可見市教育委員会)
- 吉田 稔 1995 「修理山遺跡」(埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第158集)
- 米澤義光 1989 「気屋式土器様式」『縄文土器大観』第4巻
- 米澤義光ほか 1996 「宇ノ気町気屋遺跡」(石川県河北郡宇ノ気町教育委員会)
- 米澤義光ほか 1997 「吉野谷の石器時代Ⅲ」(石川県石川郡吉野谷村教育委員会)
- 領塙正浩ほか 1992 「堀之内貝塚資料図譜」(市立市川考古博物館)

報告書抄録

ふりがな	いわがいといせき						
書名	岩垣内遺跡						
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書						
シリーズ番号	第63集						
編著者名	上原真昭 伊藤秀雄 上出巳吉 谷口陽一 下畠五夫 渡辺誠 藤根久 山形秀樹 植田弥生						
編集機関	財団法人 岐阜県文化財保護センター						
所在地	〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1 TEL 058-237-8550						
発行年月日	西暦2000年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
岩垣内遺跡	岐阜県大野郡 丹生川村板殿	市町村	遺跡番号	36° 10' 37"	137° 24' 32"	19980517 19981127 4000m ²	中山間地域活性化総合整備事業における事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
岩垣内遺跡	集落	縄文	堅穴住居跡45軒 捨て場遺構 土坑群 焼土跡群 ピット群	縄文土器 石器 石製品 土偶 土製品 動物遺体 植物遺体(クリ他)		縄文中期後葉から後期中葉が主体の撿点集落。 居住区の西側斜面より大量の遺物が出土。	

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第63集

岩 垣 内 遺 跡
(本文編)

2000年3月31日

編集・発行 財團法人 岐阜県文化財保護センター
岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 たけもとプロジェクト